

平成27年度の地域による学校支援活動事例集の発行に当たって

平成27年12月に中央教育審議会において取りまとめられた「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について(答申)」では、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく「地域学校協働活動」を推進するとともに、従来取り組んでいた学校支援活動等の活動を基盤に、「支援」から「連携・協働」へ、「個別の活動」から「総合化・ネットワーク化」を目指す新たな体制として、「地域学校協働本部」へ発展させていくことが必要とされています。

また、文部科学省では、上述の答申を含め、平成27年12月に中央教育審議会において取りまとめられた答申（「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～(答申)」)の具体的な実行プランである『「次世代の学校・地域」創生プラン』を策定し、平成28年1月25日に馳文部科学大臣から発表しました。同プランでは、地域と学校の連携・協働に向けた改革において、若者から高齢者まで活躍し、地域を創生する場として「地域学校協働本部」を全国的に整備することや、「地域学校協働活動」の推進、予算の充実に関する具体的な施策等について記載しています。

文部科学省としても、「次世代の学校・地域」の創生に向けて、本プランを着実に実行し、放課後子供教室や土曜日の教育活動等の取組を推進するとともに、保護者や地域の人々の力を学校運営に生かす「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を推進しています。

本事例集は、地域と学校の連携によるこれまでの取組のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められる活動として、平成27年度に文部科学大臣から表彰を受けた136の活動を広く紹介するために作成したものです。また、本事例集に加えて、「地域学校協働活動」の推進、「地域学校協働本部」の整備、コミュニティ・スクールの促進といった、上述の答申の提言内容に沿った活動に既に積極的に取り組んでいる事例を紹介した『地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集』も作成しております。

これらの事例集が、各々の取組のみならず、学校支援活動や放課後子供教室といった複数の取組を有機的に組み合わせた活動等の更なる推進や一層の活動内容の充実のために、御活用いただければ幸いです。

なお、本事例を含むこれまでの表彰事例及び『地域と学校の連携・協働の推進に向けた参考事例集』に掲載されている事例については、文部科学省ウェブサイト「学校と地域でつくる学びの未来」(<http://manabi-mirai.mext.go.jp/>)を御覧ください。

最後に、本事例集の作成に当たりまして、表彰団体や都道府県、市町村等関係者の皆様方の多大な御協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。

平成28年4月

文部科学省

生涯学習政策局社会教育課長 西井 知紀

初等中等教育局参事官 塩崎 正晴

目 次

●はじめに]

●「地域による学校支援活動」事例

No.	都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分				こんな活動です！	ページ	
				土曜	本部	放課後	CS			
1	北海道	網走市	網走市放課後子ども教室推進事業 「遊村（アソビレッジ）あばしり」			○		子供たちの居場所 「遊べるまちのプレイステーション【遊村あばしり】」	7	
2		幌延町	放課後子ども教室「おひさま子育て会」			○		幼・小・中一体型の放課後子ども教室	8	
3		登別市	登別市学校支援地域本部事業			○		コーディネーターを中心に地域ボランティアの協力による様々な学校支援活動	9	
4	青森県	横浜町	有畑小学校支援事業		○	○		地域の宝である子供を学校・家庭・地域が一体となって育てる活動	10	
5		外ヶ浜町	外ヶ浜町放課後子どもプラン運営委員会 (蟹っ子教室実行委員会)			○		充実したサポート体制！ 子供たちが安心安全に過ごせる空間作り	11	
6		弘前市	船沢中学校学校支援地域本部 (船沢中学校「おやじの会」)			○		ねぶた絵制作・運行を核に地域ぐるみで子供たちを見守り育てる学校支援	12	
7	岩手県	北上市	はばたき子ども広場			○		子供も大人も 学びあい みんなで育つ はばたき子ども広場	13	
8		田野畑村	田野畑村学校支援地域本部	○	○			村づくりは人づくり 人づくりは教育か ～地域教育コーディネーターを核に～	14	
9		野田村	野田村学校支援地域本部			○		震災を財産にするために ～学校と地域の「つながり」を未来へ～	15	
10	宮城県	仙台市	東四郎丸小学校学校支援地域本部 (アーチ*かにっこ)			○		地域の復興に向けて、子供の生きる力・親力を築く学校と地域の連携事業！	16	
11			子ども教室「住吉だいっ子」			○		学校・地域・家庭が協力して、地域の子供を育てる環境づくりを推進	17	
12			亘理町	亘理町子育てサポーター らびっと			○		明日の親となる中学生を対象とした子育て理解	18
13			女川町	女川町食生活改善推進委員会			○		地場産品を活用した調理指導による食生活改善・向上及び郷土愛を育む取組	19
14	秋田県	にかほ市	にかほ市放課後子ども教室・ にかほ市わくわく土曜教室	○		○		「こんなことやってみたい！」を地域全体で「勢い」良く	20	
15		東成瀬村	放課後子ども教室仙人郷「虎の穴」			○		地域で育てる『なるせっ子』 みんなでつくる楽しい放課後	21	
16		三種町	金岡小学校学校支援地域本部			○		地域に応援され、地域に元気を届ける金岡小の活力！	22	
17	山形県	村山市	そでさき元気っ子	○				「自然体験&だしがや楽校&創作劇」で、袖崎が大好きで心豊かな子を育成	23	
18		川西町	玉庭地区学校支援地域本部			○		子供の生きぬく力を育む、学習支援・図書ボランティア活動	24	
19		戸沢村	戸沢小学校放課後子ども教室			○		地域で育む社会力 ～子供と大人がかかわり合う体験活動・通学合宿の実践～	25	
20	福島県	田村市	田村市学校支援地域本部 滝根地域教育協議会			○	○	地域で支える学校支援活動『たきねっ子応援隊！！』	26	
21		相馬市	さくら子ども教室	○	○	○		『みんな仲よし さくらっ子！』地域で子供の放課後支援	27	
22		南会津町	げんき山クラブ			○		畑での栽培や収穫したものを販売するなど、様々な体験を重視した活動	28	
23	茨城県	筑西市	協和特別支援学校どんぐりクラブ			○		多くの人に温かく見守られ、子供一人一人に笑顔が見られる活動	29	
24	栃木県	鹿沼市	涵養くらぶ			○		今年もやりま～す！！「涵養くらぶ」恒例の夏休み体験講座『サマーキッズ』	30	
25		栃木市	皆川アシストネット推進本部事業			○		地域と学校との連携・協力により、教育の充実や地域の絆づくりを図る活動	31	
26		佐野市	多田っ子広場子ども教室			○		子供の体験や学びを支える地域ぐるみ活動	32	
27	群馬県	川場村	川場村子ども教室	○		○		「川場の子どもは川場の宝」をスローガンに、地域の人が支える子供教室	33	
28		伊勢崎市	北小学校コミュニティ・スクール学校運営協議会			○	○	街が学校、学校が街 ～「生きる力」を育むコミュニティ・スクールの取組～	34	
29	埼玉県	さいたま市	馬宮東小学校チャレンジスクール			○	○	「地元のみなさん、いつもありがとう」長く愛される学校支援活動	35	
30			本町E-N A			○	○	本町E-NAのルールを守って、みんなで仲良く楽しい学び	36	
31		深谷市	豊里小「学校・家庭・地域運営協議会」				○	学校はもちろん、家庭や地域も元気にする「学校・家庭・地域運営協議会」	37	
32		上里町	上里町立七本木小学校学校応援団			○		学校と地域・保護者との連携を深め、児童のやる気を伸ばす学校支援活動	38	
33		新座市	新座っ子ぱわーあっぷくらぶ	○				子供たちの休日の学習・体験活動の場 市内全小学校等で38クラブ開設中！	39	

【活動区分】 土曜：土曜日の教育活動に活動 本部：学校支援地域本部における活動 放課後：放課後子供教室における活動 CS：コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に基づいた活動

No.	都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分				こんな活動です！	ページ
				土曜	本部	放課後	CS		
34	千葉	船橋市	船橋市三山中学校区学校支援地域本部		○			地域・保護者・学校の連携を通して、「みんなで育てよう三山の子」	40
35		佐倉市	白銀っ子サタデースクール	○				地域の皆さんから楽しく学ぶ「白銀っ子サタデースクール」	41
36		野田市	福田中学校区学校支援地域本部		○			地域の自然環境を生かした学習に取り組む福田地区の取組	42
37		鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市立中部小学校支援地域本部		○			中部小学校を支える、学習(家庭科)・環境・図書・登下校の4活動	43
38	東京都	杉並区	天沼小学校支援本部"あままワンダラーズ"	○	○	○	○	インクルーシブな次世代を目指したダイナミックな活動	44
39		三鷹市	三鷹中央学園コミュニティ・スクール委員会				○	防災教育、地域安全の充実に向けて～防災授業の企画・実施・評価で協働～	45
40		板橋区	常盤台小学校学校支援地域本部 チーム常盤台		○			子供たちのために！先生方が描く授業や活動をより豊かにするようサポート	46
41		調布市	若葉小学校学校支援地域本部		○			地域・保護者は学校と「共に」子供たちを育てていく応援団	47
42		小平市	小平八小コミュニティ・スクール &きらきらランド		○	○	○	地域とともに豊かな心を育てる 八小CS &きらきら☆ランド	48
43		神奈川県	横浜市	ひぐみ共育くらぶ		○		○	学び合い 高め合い まちとともにあゆむ ひぐみっ子
44	菊名小学校放課後キッズクラブ				○			地域が支えるプログラムによる子供たちが楽しみや喜びをわかちあえる関係づくり	50
45	座間市		座間中学校地域交流協議会		○			年間を通じた、学校の下支えとなる支援活動	51
46	新潟県	新潟市	山潟小学校学校支援地域本部		○	○		学びの拠点としての学校づくり ～ボランティアが運営する学習塾もやっています！～	52
47		亀田西小学校学校支援地域本部		○				地域文化とのかかわりをとおして、亀田の未来を築く 子を育てる活動	53
48		上越市	春日小学校		○		○	地域とともに教育活動を創り上げる活動	54
49		五泉市	のびのび学習教室「寺子屋」事業			○		地域の教育力を生かして、子供たちの健やかな成長を 目指す寺子屋事業の実践	55
50	富山県	魚津市	加積子ども教室			○		地域の子供は地域で見守る、みんなで参加 「寺子屋教室」	56
51		砺波市	庄川子どもわくわく教室			○		地域の4公民館が連携し、手作り教材で考える力を育てる 放課後子ども教室	57
52	石川県	金沢市	北鳴中学校支援地域本部		○			地域の様々な年代の方との関わりにより、地域ぐるみで 生徒を見守り育む活動	58
53		加賀市	三木っ子いきいき塾	○				地域を元気に楽しくさせる「いきいき塾」	59
54		小松市	かすかみ自然学校	○				中海の自然を知り、郷土愛を育む	60
55		かほく市	高松第4土曜 WAKUWAKU 教室	○				第4土曜日に、ワクワクしたい人「この指、とーまれ！」	61
56	山梨県	昭和町	押原小学校運営協議会		○		○	地域とともに歩むコミュニティ・スクールの創造	62
57		市川三郷町	市川三郷町放課後子ども教室 ～たのしい教室～			○		たのしい放課後 たのしい教室！ ～地域住民との交流と多彩な体験活動をとおして～	63
58		韮崎市	韮崎市立穂坂小学校放課後子ども教室			○		「学び」「遊び」「地域交流」 子供たちの安心・安全な放課後の居場所づくり	64
59	長野県	野沢温泉村	野沢温泉学園地域支援センター		○			ふるさとを心に刻み心を世界に拓く保小中一貫の学園 教育を支援する村の応援団	65
60		飯島町	七久保小学校学校運営協議会				○	地域の諸団体と連携することで、子供も地域も輝く コミュニティ・スクール	66
61		天龍村	龍っ子クラブ			○		子供の興味・関心・好奇心、そして想像力を育てる！	67
62	岐阜県	岐阜市	徹明小学校学校運営協議会				○	てつめいDiary 宿泊体験(防災訓練・肝試し・租税教室 で思い出作り)	68
63		笠松町	笠松町「笠松っ子を育てる会」		○			地域が主役 地域が先生 「夢が育つ学校」	69
64	静岡県	三島市	錦田中学校支援地域本部		○			子供たちのため学校と地域の橋渡し 地域ぐるみの キャリア教育の実現！	70
65		富士宮市	富士根南中学校 学校支援地域本部 輝南会		○			地域の方々为学校で輝く！『輝南会』は中学校、生徒の 応援団！	71

No.	都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分				こんな活動です！	ページ
				土曜	本部	放課後	CS		
66	愛知県	名古屋市	豊田小学校トワイライトスクール			○		友達や地域の方とふれあいを通して「コミュニケーション力を育てる」を重点に活動	72
67			富士見台小学校トワイライトルーム			○		「すべての子供たちの笑顔のために」 —よりよいトワイライトを目指して—	73
68		豊田市	浄水北小学校支援地域本部	○	○	○		子供たちのために、できることを・できるときに地域ぐるみで実践	74
69		津島市	神守中学校支援地域本部 「豆ボラ神守」	○	○			学校に笑顔を！家庭に安心を！地域に活力を！ 三者をつなぐ「豆ボラ神守」	75
70		扶桑町	扶桑町柏森放課後子ども広場			○		低学年児童の放課後の居場所づくり。地域住民との温かいふれあいと共に！	76
71		あま市	甚目寺南小学校放課後子ども教室			○		児童がのびのびと遊び、体験できる居場所を目指して活動	77
72		三重県	四日市市	八郷小学校学校運営協議会				○	地域・家庭・学校が連携し、地域・家庭の教育力を生かした教育活動の推進
73	津市		明っ子いきいき支援の会		○			保護者・地域・学校が一体となって子供を育む活動 ～支援の会とともに～	79
74	亀山市		放課後子ども教室いきいきキッズ応援団 SEKI			○		子供たちがいきいきと育っていくよう応援する放課後子供教室！	80
75	滋賀県	湖南市	石部小学校学校運営協議会	○	○		○	「石部の町を支え、その未来を切り拓く力を！！」 ～地域人材による学習支援	81
76		長浜市	小谷小学校学校運営協議会		○		○	地域に作られた学校応援団 【地域ぐるみで学校を支援する体制づくり】	82
77	京都府	京都市	中京もえぎ幼稚園学校運営協議会				○	“ほんまもの体験”を通し、子供と大人が共に輝き育ちあうことを目指して	83
78			竹の里小学校放課後まなび教室			○		地域のでまなびを支援 ～自学自習の習慣や基本的な学力の定着を図る～	84
79		向日市	向日市学校支援地域本部事業 西ノ岡中学校実行委員会		○			学生による「放課後塾」と図書ボランティアによる「おはなしコンサート」	85
80		福知山市	惇明わんぱく村	○				“子どもは惇明の宝” ～地域のふれあいの中でのびのび大きく育てほしい～	86
81	大阪府	大阪市	鶴見小学校・みどり小学校・焼野小学校「いきいき」活動			○		地域が育てる「いきいき」活動の実現	87
82			依羅小学校「いきいき」活動			○		安全・安心で元気な活動	88
83		島本町	島本町学校支援「ゆめ本部」		○			団塊の世代が今、小・中学校へ。育てます、子供らの学ぶ意欲を！	89
84		吹田市	東佐井寺小学校区 太陽の広場			○		遊び・学び・体験の場で、子供も大人も笑顔あふれるコミュニティ！	90
85		阪南市	阪南市立飯の峯中学校区地域教育協議会「りんくる桃の木台」		○			「みんなつながる えがおのわ～障がいのある子どもない子もつながりあえる仲間になろう～」	91
86	兵庫県	宝塚市	宝塚市学校支援地域本部事業		○			「たからつか学校応援団」 ～できることを、できるときに、できることから～	92
87		加西市	北条小学校学校支援地域本部		○			ふるさとの歴史を伝える天使	93
88		洲本市	鮎原小学校学校支援地域本部		○			世代を超え、ふるさと鮎原の絆をつなぐ伝統芸能「だんじり唄」	94
89	奈良県	奈良市	富雄第三中学校区地域教育協議会		○			「幼小中連携教育を地域とともに、そして街づくり」 ～交流～	95
90		大和高田市	高田西中コミュニティ		○			～咲かせよう！人権の花～ 地域と協働—「育もう思いやりの心」	96
91		香芝市	香芝東中コミュニティ協議会		○			地域での中学生が活躍する場づくりや校内での地域コミュニティサークル	97
92	和歌山県	由良町	由良町共育コミュニティ推進本部		○			学校支援活動を核とした地域と学校の連携強化による教育力向上	98
93		那智勝浦町	宇子支会 (宇久井地域の子どもを支援する会)		○			「宇久井の子どもは、宇久井で育てよう！ 宇久井の子どもの安全は、宇久井で守ろう！」	99
94	鳥取県	南部町	南部中学校地域協働学校運営協議会				○	校内研究と運営協議会の組織を連動させ、豊かな学びと育ちを実現！	100
95		境港市	境港地区小学生対象スクールプロジェクト・中高連携学力向上プロジェクト	○				境港の小中学生が地元の高校で学び、楽しみ、学力を高め、地元を見直す活動	101
96	島根県	浜田市	浜田第一中学校区学校支援地域本部		○	○		進化していく学校支援と放課後支援	102
97		益田市	豊川地区つろうて子育て推進協議会	○	○	○	○	子供を中心に誰もが「ほっ」とできる心豊かなふるさとづくり！	103

【活動区分】 土曜：土曜日の教育活動に活動 本部：学校支援地域本部における活動 放課後：放課後子供教室における活動 CS：コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に基づいた活動

No.	都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分				こんな活動です！	ページ
				土曜	本部	放課後	CS		
98	岡山県	赤磐市	山陽子どもアイランド	○	○			地域ぐるみのi(愛)が「学ぶ」「つなぐ」「拡げる」子供たちの未来	104
99		勝央町	勝央町土曜日教育支援事業 ～英語で遊ぼう！しょうおうキッズ・冒険遊び場づくり～	○				外遊びで育む！「子供の生きる力」と「地域の子育てコミュニティ」	105
100		笠岡市	大島地区学校支援地域本部		○			『子供は大島の宝』『大島でござ』を中心に地域全体で子供を育てる！	106
101	広島県	廿日市市	平良小学校区学校支援地域本部		○			広がる支援活動！平良っ子応援団！	107
102		尾道市	長江放課後子ども教室			○		“全員参加”の放課後子ども教室！	108
103	山口県	岩国市	由宇地域協育ネット		○	○	○	地域ぐるみの支援で育つ幼保・小・中の子供たち～由宇地域協育ネット～	109
104		山口市	興進教育会				○	地域と学校が連携し、ウィン・ウィンからトータル・ウィンへ	110
105		田布施町	東田布施小学校 PTCA プロジェクト			○		「地域の子供は地域で育てる」～協働を通じた未来志向の地域づくり	111
106	徳島県	北島町	北島わくわくキッズスクール			○		伝統文化や近代文化に接し、地域住民とふれあう活動	112
107		美波町	伊座利校学校運営協議会				○	「学校の灯を消すな！」 地域全体で学校教育を支え、青少年を育成する活動	113
108		上勝町	アララギ学習会		○			学校・家庭・地域が連携し、子供の未来を創造する学習支援	114
109	香川県	東かがわ市	三本松小学校支援地域本部		○			学校常駐のコーディネーターが中心となり運営する、学校支援活動	115
110	愛媛県	松山市	味生子どもふれあい教室			○		たくましく思いやりのある子に育てよう！	116
111		鬼北町	日吉小・中学校区学校支援地域本部		○		○	地域とともにある学校づくり～愛され信頼される学校づくり～	117
112		今治市	大西放課後子ども教室			○		地域で育む子育て子育ての輪	118
113		久万高原町	面河小学校支援地域本部		○			地域で育てる面河の子供！	119
114	高知県	土佐市	高岡第二小学校支援地域本部		○	○		山の手の絆ーみんなで支える学校 みんなで育てる子供ー	120
115		室戸市	吉良川放課後子ども教室			○		地域で育てる未来の吉良っ子！！	121
116	福岡県	久留米市	浮島小学校支援地域本部	○	○			地域の自然・文化にふれ合い、ふるさと浮島を誇りに思う心を育む田圃学習	122
117		春日市	春日西中学校学校運営協議会	○	○	○	○	西中コミュニティ協議会、サポート本部による協働、支援活動の一体的推進	123
118		宇美町	いきいきいのっこ子ども教室	○				地域の教育力で、楽しく、安全に成長する子供たち	124
119		苅田町	馬場小学校応援協議会		○			地域みんなが馬場っ子応援団！～学習支援・環境整備・見守り活動を通して～	125
120	長崎県	佐世保市	柚木小放課後子ども教室			○		地域のよさにふれて、遊んで、交わって、みんなで共育する体験教室！	126
121		佐世保市	庵浦っ子共育委員会（学校支援会議）		○			庵浦っ子七つの笑顔で心を支える「庵浦っ子共育委員会」	127
122		佐世保市	あたごきっず	○				チャレンジ&レベルアップで子供の可能性を拓く「あたごきっず」	128
123	熊本県	産山村	産山村学校運営協議会	○	○	○	○	「我ら学校応援隊」を基本コンセプトに地域で創る学校教育支援活動	129
124		阿蘇市	内牧小学校学校支援地域本部	○	○	○	○	地域体験活動「地域の人、自然、ものとふれあおう」	130
125		八代市	郡築小学校放課後子ども教室			○		子供たちが地域の一員として成長していく教室	131
126	大分県	玖珠町	玖珠中学校目標協働達成会議				○	地域・家庭・学校が目標を共有して協働する取組を実践中	132
127		国東市	国見中学校区放課後チャレンジ教室	○	○	○		芸術を愛する大人に囲まれて 感性磨く チャレンジ教室	133
128		豊後高田市	田染小学校学校運営協議会		○		○	「子どもが元気！ 学校が元気！ 地域が元気！」をスローガンに活動	134

No.	都道府県名	市区町村名	活動名	活動区分				こんな活動です！	ページ
				土曜	本部	放課後	CS		
129	宮崎県	都城市	西岳小学校運営協議会				○	学校と地域がともに元気！笑顔とやる気があふれたコミュニティ・スクール	135
130		国富町	木脇中学校区学校支援地域本部		○			地域からのボランティア参加で学校も、子供も、地域も元気になる学校支援	136
131		延岡市	北方学園学校支援地域本部		○			地域で共育！新しい学校づくりで生き生き地域！	137
132	鹿児島県	鹿児島市	学校支援ボランティア事業		○			地域がはぐくむ学校支援活動	138
133		曾於市	財部北校区学校応援団地域本部		○			児童と一緒にドキドキわくわく授業	139
134	沖縄県	浦添市	みやぎっ子教室			○		子供たちの安心と夢づくり！ ～子供たちの可能性を広げる子ども教室～	140
135		南城市	南城市玉城地区学校支援地域本部 (ミントウンの会)		○			地域の子供は地域で育てる、学び育てる「地域の力」	141
136		うるま市	平敷屋小学校地域本部		○			伝統文化継承と特色ある地域人材活用	142

【活動区分】土曜：土曜日の教育活動に活動 本部：学校支援地域本部における活動 放課後：放課後子供教室における活動 CS：コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）に基づいた活動

参 考 資 料

優れた「地域社会による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰要項 …………… 144

子供たちの居場所 「遊べるまちのプレイステーション【遊村あばしり】」

北海道網走市

活動名

網走市放課後子ども教室推進事業
「遊村（アソビレッジ）あばしり」による活動

関係する学校

市内全小学校（9校）

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		4人	10人	409日	有	有	無	有
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
		体育館、音楽練習室、アトリエ、集会室 など				18年度	連携なし	
		指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・平成17年度に実行委員会が組織され、18年度から本格的に始まった取組は10年目を迎えた。5教室・延べ実施回数282回・延べ参加者数2,092名で始まった取組は、現在では市内で9教室・延べ実施回数409回・延べ参加者数約4,500名が取り組む。
- ・網走市が主体となって国の補助事業の一部を実行委員会に委託し、実行委員会組織内の市民団体が実施している。
- ・子供たちが放課後や週末を安全で安心して活動できる場「子供の居場所」を市内小学校区に開設し、それぞれの団体の個性を生かしたプログラムを用意して、体験・交流活動を提供している。
- ・現在、放課後子供教室は「遊村（アソビレッジ）あばしり」の愛称で市民に親しまれている。

特徴

【特徴的な活動内容】

活動は多様。①体育が苦手な子のための体育教室では楽しみながら体育に挑戦。②ジュニア合唱団 オホーツクKIDSコールでは合唱と音楽遊び。③トランポリンあそびでは空中で宙返りやジャンプ④スナックゴルフではプラスチック製クラブでゴルフ。⑤キックベースボールでは野球に似たルールで足で遊ぶ。⑥アート体験では様々な絵を書いたり工作をする。

メニュー例「大きな絵に落書きをしよう」「ワイヤーで遊ぼう」「フィンガーペインティング」「コマで遊ぼう」「CDケースをアートしよう」「石をアートしよう」「光のアート」「ボディペイントで遊ぼう」「造形遊び」「ペットボトルをアートしよう」「絵を描こう」「共同制作」「絵本を作ろう」

⑦元学校教諭の団体では、水泳、竹馬、身体運動、なわとび、ゲーム、書道、学習（テキスト活用、英会話、読み聞かせ等）

【実施に当たっての工夫】

①毎月実施団体の代表であるコーディネーターが一堂に集まり企画会議を行うことで、情報共有と課題解決がされている。
②地域にある施設や団体独自の施設を有効に活用し、特色ある様々なプログラムが提供されている。これにより、子供たちの様々な活動のニーズに対応している。
③以前より障がいのある子供たちを受け入れている団体が実施していることから、子供たちは区別なく同じ空間で活動を行っている。また、スタッフの大人も子供たちを見守りながらしっかり活動をサポートしている。これにより、子供たちの多様な経験の場づくりに貢献している。
④前期（5月初旬～9月）と後期（10月～2月末）に分けて実施している。これにより、子供たちの多様な興味関心に応えている。

事業を実施して

- ・地域の大人が、子供たちとの交流を通して生活の潤いや生きがいができた。
- ・安心・安全な居場所を提供することで、子供たちが楽しんで活動することができた。
- ・それぞれの団体が個性を生かした学習・体験プログラムを実施し、放課後や週末に安全で安心な居場所を提供することができた。

その他

【企業・NPOとの連携】 特定非営利活動法人 オホーツクスポーツクラブ、特定非営利活動法人 アートユニオン・オコック

【学習支援活動】 団体名「こどもみらい」（元学校教諭で構成される団体）が学校の宿題を支援したり、市販の学習教材を活用して学習支援をしたりしている。

・実行委員会は年2回開催し、企画会議は11回開催している。
市内全ての小学生を対象に事業を実施していること及び平成26年度では市内で9教室・延べ実施回数409回・延べ参加者数約4,500名となり、10年間で活動が定着してきている。

・実行委員会組織の構成は委員長は市内コミュニティーセンター運営協議会から選出、副委員長は網走市小中学校校長会から推薦された校長並びに網走市役所福祉部子育て支援課長並びに網走市教育委員会社会教育部社会教育課長が担い、理事は実際に受皿となる団体4団体の代表が担い、幹事には理事の団体からの実務者4名からなり、監査は外部と内部から1名ずつからなり、事務局は教育委員会社会教育部社会教育課生涯学習係員3名からなる。



オホーツクスポーツクラブ トランポリンあそび



アートユニオンオコック 大きな絵に落書きをしよう

幼・小・中一体型の放課後子ども教室

北海道幌延町

活動名

放課後子ども教室「おひさま子育て会」

関係する学校

問寒別小中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の実績）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	6人	48日	有	無	無	無
放課後子供教室	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	ホール ほか				15年度	連携なし		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

■活動のきっかけ

地域に小学生の放課後の居場所がない、という課題があり、保護者から「子供たちの遊びの幅を広げるために、小学生の居場所が欲しい」という要望があり、平成15年4月に「おひさま子育て会」を開設した。もともと、保育所入所前の親子を対象にした居場所づくりを行っており、乳幼児の親子の居場所づくり事業を拡大することで事業が円滑にスタートした。そのため、午前中は乳幼児のみ、午後から幼児と小学生が対象となっており、幅広い年齢層の子供たちの交流の場となっている。

■場 所：町民会館を拠点に公園や学校も活用。

■活動日・回数：毎週木曜日を基本に、年48回の開催。

■参加者登録：小学生7名（全校児童）、乳幼児13名

■スタッフ登録：地域の大人11名、中学生8名

■内 容：子供たちの見守りと自由遊びを中心に実施。屋内では、オセロや将棋、折り紙、工作、絵本の読み聞かせ、紙芝居など。屋外では、公園遊具遊びや鬼ごっこ、球技など。その他、季節の各種イベントや水泳教室など。

■特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・各種イベントを開催し子供たちが地域の大人たちと交流する機会を提供している。
- ・町民文化祭に参加し地域に子供たちの活動をPRしている。
- ・保育所の空きスペースを活用し、保育所児童と乳幼児、保護者同士の交流を促している。
- ・夏休み期間中に講師を招き、水泳教室を開催。（8年目）
- ・小学生も参加するだけでなく、小さい子供たちを見守るなど活動への意識に変化が生まれ、参加していた小学生が中学生になると、ボランティアスタッフとして協力。
⇒小学生の学習支援や遊びのルール等をわかりやすく教えている。
- ・小学生のほかに乳幼児の親子も参加している。
⇒午前中は乳幼児とその保護者を対象に、午後から小学生も対象に実施。乳幼児の親たちが子育てについて交流する貴重な場（機会）となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・乳幼児が保育所に入所、幼児が小学校に入学してもなじみやすいように、各施設を定期的に活用して実施している。
- ・地域の大人たちや青年組織と連携し、イベント事業を実施している。
- ・中学校と連携し、中学生がボランティアとして参加できるよう活動時間を調整している。また、中学校の教員にも活動の様子を見ていただいている。
- ・乳幼児の子を持つ親に運営を補助してもらいながら、次代の運営者を養成している。

■事業を実施して

- ・子供たちの家が遠く離れているため、放課後遊ぶことが難しかったが、この取組を通して、子供たちの遊び場ができ、放課後の活動が充実した。
- ・幼児だった子供が小学生になっても継続して参加し、中学生になりボランティアスタッフとして活動に協力してくれていることに、子供たちの成長を地域で感じる。
- ・人口は少ないが、住宅地が散在しているため、容易に親同士が交流できない。乳幼児の親たちが子育てについて交流する貴重な場（機会）となっている。
- ・保育所を活用することで幼児が保育所へ入所した後も、スムーズに環境になじむことができている。

■その他

少子化を背景とした小学校・中学校の統廃合が進み、管内の町村には、中学校1校、小学校のうち中心校が1校と遠隔地に数校が設置されている状況にある。当該事業は、遠隔地の小学校区で行われている取組であるため、地域に居住する少人数の小学生を対象に事業を実施することや、事業を運営する支援者の確保が大変困難な状況にある。また、遠隔地であるからこそ、放課後の子供の居場所が学校と自宅に限られるような環境に陥りやすく、他の地域においても課題となっている。

当該事業では、小学生と幅広い年齢層の住民が1つの居場所を共有し、各年齢層の学習ニーズに応じた活動を提供しており、他町村の遠隔地における放課後子ども教室の在り方のモデルとなる取組である。



トナカイを借りたクリスマス会



ボランティアの中学生と遊ぶ子供たち

コーディネーターを中心に地域ボランティアの協力による 様々な学校支援活動

北海道登別市

活動名

登別市学校支援地域本部

関係する学校

市内全小中学校区（13校）

※ H26年度の実績（補助の有無についてはH27年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	5人	99人	20年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

平成20年度に登別市学校支援地域本部実行委員会を立ち上げ、ボランティア組織などで活発に活動している西陵中学校区をモデル校区として行い、事業の担い手である、コーディネーターを各中学校区に1名配置するとともに、学校の教育活動などの支援について協議する場として、平成23年度に「地域教育協議会」を設置するなど、教職員の負担軽減や学校現場の更なる充実、未来を担う子供たちを健やかに育むため、学校・家庭・地域の連携協力の下、各中学校区の実情に応じた取組を展開している。

特徴

【特徴的な活動内容】

市内小学校低学年を対象にした、地域の高齢者と交流を深める世代間交流事業を行う昔遊びなどを通して、地域の高齢者との交流を深めている。各中学校区での活動は、幌別中学校区では「ふれあい農園」や「音楽を聴く会」、鷺別中学校区では「昔の遊び体験」や「もちつき」、緑陽中学校区では「川遊び」や「スポーツチャンバラ」、西陵中学校区では「親子ふれあいまつり」、登別中では「さけの採卵体験」や「史跡めぐり」など、様々な活動を実施している。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターの役割分担や担当などを明確化し、研修会へ積極的に参加し、学校支援地域本部事業の取組の向上を図っている。各校区のコーディネーターが地域ボランティアを発掘することで、登録者数は年々増加している。

事業を実施して

地域全体で学校を支援することにより、教員が子供と向き合う時間の確保や、地域住民の知識・経験や生涯学習等の成果を発揮できる場の充実、さらには、地域と学校の連携協力が図られていると捉えている。

具体的な例として、富岸小学校や登別小学校で実施した「さけの稚魚の放流体験」では、地域のボランティアが率先して、富岸川や登別川の河川敷地内の草刈りを行い、児童の安全面に配慮していただくなど、学校への支援の充実や地域教育力の向上が図られている。

その他

小学生を対象に、こまやけん玉、竹割りなどの昔遊びを地域の方が先生になって学ぶ「世代間交流」や勉強の基礎基本を学ぶ「学びサポート」、長期休暇中に地域の方が講師となって勉強する「夏休み子ども塾」「冬休み子ども塾」を実施している。

平成22年度から、市内の中学校区（全小中学校）が学校支援地域本部事業を実施していること、コーディネーター研修会への積極的な参加やボランティアの協力を得ながら、新たな活動に取り組み続けている。

現在、実行委員会の組織は、実行委員長（教員経験者）、事務局長（幌別中学校区の代表）、監事2名（西陵中学校区の代表、緑陽中学校区の代表）、会計（教頭会の代表）の役員を置き、役員を含め委員は13名及びコーディネーター5名で構成されている。



田植の様子



花壇整備

地域の宝である子供を 学校・家庭・地域が一体となって育てる活動

青森県横浜町

活動名

有畑小学校支援事業による活動

関係する学校

有畑小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	2人	20人	20年度	無	有	無	有	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	2人	20人	53日	有	無	無	無	
実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携		
体育館、特別活動室					19年度	一体型		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

<学校支援地域本部>

- ・平成20年度に、学区内3地区の町内会会長を含むボランティアを中心としたメンバーで構成する学校支援地域本部協議会を設置。
- ・勤務時間内に、学校側と学校支援ボランティアの打合せ時間を確保することが難しいため、コーディネーターを中心に「ういず みい」カード（支援依頼書）を活用する工夫を取り入れ、子供たちと活動。
- ・JA指導員と老人クラブの協力の下に花壇整備。
- ・有畑母親クラブの協力で、本の補修や新刊整理。
- ・教員のニーズに合わせたボランティアによる学習支援。
- ・町外有識者を招へいしての講演会。
- ・町内の事業者と協力した校外学習の企画。

<放課後子供教室>

- ・平成19年度から、福祉部局と連携し、放課後子どもプランを実施。平成27年度からは、放課後子ども総合プランを推進。
- ・コーディネーターを中心に「出前教室」や体験学習（茶道教室や昔遊び等の文化的な活動、タグラグビー等の軽スポーツ）を実施。
- ・「読み聞かせグループ たんぼぼ」を中心に読み聞かせや、英語絵本を通じた英語に触れる機会の提供。

特徴

【特徴的な活動内容】

<学校支援地域本部>

有畑芸能保存会による伝統文化の継承と地域事業者との連携による校外学習の充実、体験型学習の実施など、事業者、学校、行政、そしてボランティアの連携が図られる活動を例年行っている。また、ボランティアの発案からバトン指導が始まり、バトンクラブが作られ運動会等で発表したこともあった。

<放課後子供教室>

「出前教室」で各学校へ出向き、「読み聞かせグループ たんぼぼ」による多様な絵本の読み聞かせを行っている。従来の絵本のほか大型絵本、英訳絵本を使用し、教育委員会所蔵の書籍のみならず、教育サポーターが持参する絵本も使用する等、多岐にわたっている。茶道教室や昔遊びなど、現代の子供たちにとってなじみが薄い活動を経験することで、文化に触れる機会を提供する貴重な時間となっている。近年、実施内容の改善を図り、軽スポーツや環境学習といった分野への取組も行うようになってきている。

【実施に当たっての工夫】

<学校支援地域本部>

コーディネーターが学校からの支援依頼書の依頼内容を基に登録者をマッチングし、連絡及び調整の上、花壇整備や学習支援等の教育支援活動を展開している。

学校とコーディネーター等との話し合いは、定期的な情報交換会のほかにも日常的に行われている。

学校図書整備では、親子で活動し、校外学習の引率や花壇整備などは、地域のボランティアにお願いするなど、ボランティアの配置を工夫している。体験型学習が例年重複しないような取組を心がけ、地域事業者の理解を得ながら支援内容を計画している。

このような活動を継続することにより、地域全体に笑顔が増え、相互のつながりや地域の教育力が向上してきた。

<放課後子供教室>

コーディネーターが教育サポーターのメンバーや学校側と調整を行い、適宜、担当課へ連絡する流れとなっている。

また、教育サポーターやコーディネーターが気づいたら意見を述べ合える風土づくりも大切にしている。

事業を実施して

<学校支援地域本部>

実際にボランティア活動をすることにより、保護者や地域の方が学校支援ボランティアに対して理解を示すようになった。社会科見学では、体験活動時に安全面への配慮が十分にでき、教員もしっかり指導できるようになった。また、活動の様子を掲載したお便りを発行することにより、ボランティア活動についての地域への周知だけでなく、次のボランティア活動への意欲づけにもつながっている。

<放課後子供教室>

放課後という時間を通じて、従来の学習支援はもとより、地域の文化の伝承や絵本の読み聞かせ、そして保護者以外の大人（教育サポーターやコーディネーター等）と会話する中で、社会性を育むと同時に、参集する児童が変わる環境にありながらも、学年を超えて友達意識を習得できるようになってきた。

その他

<学校支援地域本部>

校内花壇の整備、菜の花工房での菜種まき・菜種油の搾油工場見学、校内畑におけるじゃがいも・さつまいもの栽培・収穫、ホタテ加工工場（マルト鳥山商店）の見学、及び地場産品を使った手作りお菓子の体験などを実施している。家庭科のミシンがけの補助、社会科見学時の引率、児童が本の紹介の仕方を競う読書甲子園の審査等、学習支援にも積極的に取り組んでいる。



じゃがいも植え



神楽の伝承

充実したサポート体制！ 子供たちが安心安全に過ごせる空間作り

青森県外ヶ浜町

活動名

外ヶ浜町放課後子どもプラン運営委員会
(蟹っ子教室実行委員会)による活動

関係する学校

蟹田小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	21人	26日	有	無	無	無
放課後子供教室	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	学童教室				19年度	連携なし		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- 外ヶ浜町の放課後子ども教室は平成19年度に開始となり、今年で既に9年目に入っている。放課後児童クラブの設置はないものの、平成22年度からは、町独自の事業として『学童教室』を開催し、放課後子ども教室とのコラボレーションを実現させ、全てのプログラムを合同で行っており、保護者から大きな支持を得ている。
- 平成26年4月にはその保護者のみなさんと地域住民の方々を中心にして、学童教室を支援する『サポートの会』が組織され、放課後子ども教室のコーディネーターや学童教室スタッフらと一体となった活動に取り組み大きな成果をあげている。

特徴

【特徴的な活動内容】

○各体験教室

屋内だけにとどまらず、積極的に屋外へ出て、町内外のレジャー資源等を活用して、普段できない様々な体験活動を行っている。(例：しじみ採り体験：五所川原市十三湖、ボーリング大会：青森市内等)。

○工作・ものづくり教室

単に“作らせる”のではなく目的を持たせて制作活動をさせ、さらに「町民文化祭」や「公民館まつり」において、作品を展示する場を設定している。多くの町民の方々に作品を見てもらい喜んでもらうことにより、もの作りの楽しさや達成感を得ることにつながっている。

【実施に当たっての工夫】

○学校との連携

年間2回開催している放課後子どもプラン運営委員会には、外ヶ浜町で放課後子ども教室を開設している三つの小学校の教頭が委員として参加するなど、子ども教室の運営に当たって、学校との連携が円滑に行われるように進めている。

○スタッフの連携

プログラムについては、子ども教室のコーディネーター及び学童教室のスタッフが、運営委員会で学校側の意見を参考にして、子供たちの実態や時期等を考慮した上で合議によって決定している。

○多彩なプログラム

参加する子供たちだけではなく、大人であるスタッフやボランティアの方々も楽しめるような多彩なプログラムを構築し、子供同士、あるいは子供と大人、大人同士の交流もできるように工夫が図られている。



十三湖でのしじみ採り体験

事業を実施して

○参加する子供たちが、スタッフだけでなく多くの地域住民ボランティアと接することにより、子供たちは様々な体験ができ、地域住民は地域ぐるみで事業展開する力が増してきた。

○少子化により児童数は減少する一方だが、子ども教室に参加する児童はむしろ増えている。各家庭での放課後対策の必要性が強く感じられる。今後も、子供たちと保護者のために魅力あるプログラムを展開していきたい。

○中央公民館を主会場とすることにより、中央公民館が町民にとって一層親しみやすい場所となり、同会場で行われる各種行事への来館者増につながり、活性化が図られた。

その他

平成27年度からは、町内にある他の二つの子ども教室（平館：やませっ子教室、三厩：三厩子ども教室）とのコラボレーション事業も展開しており、町内全域の放課後対策の連携・情報交換にも力を入れている。



町民文化祭の展出に向けて「北海道新幹線のジオラマ作り」

ねぶた絵制作・運行を核に地域ぐるみで子供たちを見守り育てる学校支援

青森県弘前市

活動名

船沢中学校学校支援地域本部
(船沢中学校「おやじの会」)

関係する学校

船沢中学校

※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)

活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	1人	9人	25年度	無	有	無	企業・NPO との連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成24年度に「おやじの会」が発足し、必要に応じて学校支援活動が行われてきたが、平成25年度から船沢中学校学校支援地域本部（船沢中学校「おやじの会」）を設立して組織的・計画的に学校支援活動が行われるようになった。日常的に教職員との連絡を図り、校内の環境整備や学校行事の補助など、学校側の要望を踏まえた学校支援が行われている。また、地域の公民館と学校が日常的に連絡を取り合い、一体となった活動を推進し、準備等についておやじの会に協力を要請する流れとなっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ねぶた絵制作、町内ねぶた運行及び市のねぶた合同運行への参加
地元のねぶた絵師の協力の下、全校生徒でねぶた絵制作を行った。また、地域の有志会の協力を得て、ねぶた囃子の練習等に取り組み、文化祭では町内ねぶた運行を実施した。学校を挙げて、9年連続で市のねぶた合同運行へ参加している。
- 文化祭等の支援
文化祭において「おやじの会」による食堂運営を毎年行っている。また、学校の要請に応じて、運動会等の行事時にも、巡視見守り活動を実施、生徒の安心安全の確保に努めている。

【実施に当たっての工夫】

- 学校が実施する地域の伝統文化を題材にした体験型の行事を支援することで、地域の大人が参画することができるとともに、生徒の体験を豊かなものに行っている。
- コーディネーターが学校と連絡調整を行い連携を図ることで、スムーズな運営ができるようにしている。

事業を実施して

- 地域の人材、資源を活用しての学習を通じて、生徒の地域理解を深め、地域のよさを再確認することにつながり、郷土愛の精神を養うことができた。
- 生徒と地域の方々とのふれあう機会が増えたことで、コミュニケーション力を高めることができ、地域の一員としての自覚が出てきた。
- これまでに実施したボランティア活動の中で、保護者や地域の方々実際に学校で活動することにより、学校内の実情を理解していただく足がかりになっている。

その他

- ねぶた絵制作に当たっては、地元のねぶた絵師の協力を頂くとともに、ねぶた運行に当たっては、地域の有志会の協力を仰いでいる。



ねぶた運行



文化祭支援（おやじ食堂）

子供も大人も 学びあい みんなで育つ はばたき子ども広場

岩手県北上市

活動名

はばたき子ども広場による活動

関係する学校

黒沢尻西小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	19人	67日	無	有	無	有
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	余裕教室、体育館、アッセンブリホール			19年度	連携型		
	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

北上市立黒沢尻西小学校区では、平成8年から黒沢尻西公民館が中心となって小学校の空き教室を活用し、高齢者との世代間交流を行う「余裕教室活用事業」を実施した。その後、子供の居場所づくりに対して高い関心を持つ同地域内において、黒沢尻西地区自治協議会が「はばたき子ども広場」を立ち上げ、平成19年度から放課後子供教室推進事業を開始した。

「はばたき子ども広場」は、月曜日、水曜日及び土曜日の週3回の活動を基本として開催している。

月曜日と水曜日は黒沢尻西小学校の余裕教室や体育館等を活動場所とし、学習（宿題などの）指導やNPO法人（フォルダ）の指導による運動遊びなど1・2年生を対象とした放課後の安全・安心な居場所を確保している。土曜日（月に1～2回）は、黒沢尻西地区交流センターを拠点に全学年を対象として多彩な体験学習（ボウリング、陶芸、親子料理教室、農業体験など）を行っている。

実施に当たっては、地域団体や地域ボランティア等の多大な協力を得ており、地域ぐるみで子供の居場所づくりを支える仕組みが構築されている。

特徴

【特徴的な活動内容】

月曜日と水曜日は、宿題などの勉強をし、その後に自由遊びやレクリエーション、ニュースポーツ等の遊び・交流活動を中心に行っている。土曜日は1年生から6年生までを対象として多くの体験活動を行っている。年度によっても異なるが、グラウンドゴルフ、豆腐づくり、茶わん作り、お茶会、消防体験、キャップハンディ体験などを実施してきた。また、毎年、地域の大人から謡曲を学び、市民芸術祭や地区の文化祭で発表するなど伝統文化を大切にしながら地域一丸となった学習活動を行っている。地域の大人から子供へ伝統文化や作法・礼儀を継承する場にもなっている。

【実施に当たっての工夫】

「はばたき子ども広場」の運営に当たっては、地域の人々や様々な組織・団体（老人クラブ、レクリエーション協会、体育関係団体、女性団体、健全育成会、社会教育団体、民生委員団体、小学校PTA、ボランティア協議会、NPO法人など）と積極的に連携をしながら進めている。

そして、地域の個人ボランティアが安全管理員や学習アドバイザーとして協力している。地域人材を活用し、地域ぐるみで事業を運営することによって、子供と大人の交流や子供の居場所づくりを通じた地域づくりへとつなげることも意図している。

事業を実施して

地域の協力を得て運営を進めてきたことから子供同士の交流の場とすることに加え、子供と大人との交流が促進されるとともに、子供の居場所づくりという目標に向かって地域住民や各種組織・団体相互の絆が強化されてきている。

また、活動の様子や児童の声を掲載した機関紙「はばたきだより」を学校・家庭・地域へ配布して情報提供したことにより、更に保護者や地域社会からの理解が得られ、体験活動や関連事業への参加者が多くなった。



開校式。
活動を支えるたくさんの地域ボランティアの紹介の様子。



平日は学校の余暇教室で勉強をしてから遊ぶ。
わからないところは、地域の人々が教えてくれる。

村づくりは人づくり 人づくりは教育から ～地域教育コーディネーターを核に～

岩手県田野畑村

活動名

田野畑村学校支援地域本部

関係する学校

田野畑小学校・田野畑中学校

※ H26年度の実績（補助の有無については H27年度 の状況）

活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動	1人	5人	24年度	有	有	有	有
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	6人	48人	20年度	有	無	無	有
基本データ	放課後子供教室	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
			実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
			指定日		委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

「村づくりは人づくり、人づくりは教育から」

本村では、このテーマのもと、昭和40年代から「教育立村」という構想を掲げ、人材育成に取り組んできた。しかし、地域ぐるみで子供を育てるといふ村の気風に揺るぎはないものの、少子化・高齢化・過疎化が進む中で、いかにして「地域ぐるみの子育て」を具現化するのか、そしてまた「住民自らの学習成果を生かす場」について更なる拡充・創出の在り方が課題となっていた。そのような中、平成20年度に学校支援地域本部事業を採択し、これを地域ぐるみで子供の教育を推進する契機と位置付けるとともに、住民の学習成果を生かす場の一つと捉え、今日まで本事業を継続している。また、平成22年4月の小学校統合（6小学校を1小学校へ）、平成23年3月の東日本大震災津波による甚大な被害など、地域コミュニティを揺るがす出来事があったが、本事業を地域コミュニティ再生の手掛かりとし、地域住民の一層の協働を目指しながら事業展開している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 学習（体験学習等）支援・・・農業体験や豆腐作り、家庭科等の実習におけるゲストティーチャーや連携事業所等との連絡調整
- 郷土芸能等の伝承活動支援・・・練習日の設定や練習会場の手配、保存団体との連絡調整、披露の場の確保等による広報活動・意欲喚起（※菅窪鹿踊、甲地剣舞、大宮神楽、弥五兵衛太鼓、島越よさこいソーラン等村内各地区の郷土芸能等の保存・伝承活動）
- 環境整備支援・・・学校図書館整備、花壇整備等、学校側の要望に対応するためのボランティアとの連絡調整
- 中学生の学習支援・・・学習アドバイザー（塾講師）による学習指導の企画運営
- 学校行事支援・・・事前準備及び運営支援

【実施に当たっての工夫】

- 旧小学校区の6地区と学校のパイプ役として、それぞれの地区の住民から1名を地域教育コーディネーターとして配置している。
- 6名の地域教育コーディネーターの中から、学校支援窓口担当コーディネーターを設け、学校との連絡調整を行っている。
- 村内外の事業所・個人事業主（商店・福祉施設・宿泊施設・漁師等）やNPOと連携し、多様な支援を行う手立てを取っている。
- 広く村民の活動となるよう、登録ボランティア以外にも随時活動の支援者を募ったり、村内事業所等に協力を仰いだりしている。
- 中学生の学習支援を土曜日に設定し、土曜学習と位置付けている。
- 土曜学習の会場を中学校近隣に設け、参加しやすいよう配慮している。

事業を実施して

- 小学校の統合により、旧6小学校区で行われていた地域独自の活動について存続が危ぶまれていたが、それぞれの地域を把握している地域教育コーディネーターを配置したことにより、地域の人脈と特性を生かしながら、地域住民が存続を希望する活動について継続することができた。
- 村内各地区の郷土芸能を伝承する仕組みの構築や人材の育成を行うことができた。
- 地域住民の知識や経験、特技等を生かした学校支援活動を通して、住民が自らの学習成果を生かす場とするとともに、住民と学校・児童生徒、及び住民間の交流の促進につなげることができた。
- 延べ600人を超えるボランティアが活動に参加するなど村民に根付いた活動となってきた。
- 本事業を展開する中で、「村づくりは人づくり」をもとに協働を働きかけたことにより、村民の意識の高揚を図ることができた。



郷土芸能披露・保存会との共演（菅窪雷神社祭り）



豆腐作り体験
※「大豆から豆腐まで」～地域の方に学ぶ体験活動～

その他

- 中学生の学習支援事業において、学習アドバイザーを盛岡市を拠点とする「トライアングルカンパニー」（学習塾）に依頼している。学習アドバイザーの指導による学習の場を定期的に提供することにより、生徒の学力向上を目指している。
- パソコンを活用した学習を取り入れ、生徒の興味関心を喚起しながら、ICTのスキルの獲得にもつなげている。
- NPO法人「桜onプロジェクト」、「体験村・たのはた」等と連携し、植樹やウニ取り等の体験活動を実施している。

震災を財産にするために ～学校と地域の「つながり」を未来へ～

岩手県野田村

活動名

野田村学校支援地域本部

関係する学校

野田小学校・野田中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
土曜日の 教育活動							
学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア 登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	2人	123人	22年度	有	無	無	無
放課後 子供教室	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成22年7月に「野田小学校区学校支援地域本部」として小学校のみの活動からスタート。平成24年度には野田中学校も加え、「野田村学校支援地域本部」として、小中学校に各1名コーディネーターを配置。その間、東日本大震災津波により大きな被害を受けたが、地域は「学校は村の光」、学校は「野田村を元気にする」という意識で活動しており、震災後のボランティア登録者数、参加者の延べ人数は年々増加している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 調べ学習や読書の推進を図るため、読書ボランティア団体の協力を得て、図書館運営の補助や定期的読み聞かせ活動を実施している。
- 誰でも都合のいい時間に参加できるように毎週木曜日を「ひかりの日」とし、老人クラブ連合会などと連携しながら校庭の草取りや花植えなどの環境整備を行っている。
- 調理実習補助、農作業体験、着付け指導など地域住民と児童・生徒が直接ふれ合う授業支援に力を入れている。
- 日常の登下校指導に加え、非常時の登下校や行事開催中の見守り、交通安全教室の補助等児童生徒の安心安全な環境づくりを行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ボランティア活動を「図書」「環境整備」「授業支援」「安全指導」の4つのカテゴリーに分け、地域住民に活動内容を分かりやすく提示している。
- コーディネーターを学校の職員室に配置し、担任から直接依頼を受け、「欲しいときにすぐ」の支援ができる体制にしている。
- ボランティア通信を村内全戸で回覧。また、ボランティア登録者には「口コミでの協力」を依頼し、住民同士のつながりができるようにしている。
- 児童・生徒を含め、多くの人に活動の様子を知ってもらうため、職員玄関前に予定・報告、児童・生徒のボランティア宛の手紙等を掲示している。
- 年2回野田村地域教育協議会で有識者からの外部評価を導入し、事業の改善に生かしている。また、行政、社会福祉協議会、各種団体と協力体制を構築し、学校に過度な負担がかからないように事業を進めている。

事業を実施して

- 体験活動の充実や授業におけるよりきめ細やかな指導につながっており、学校の教育活動全般で効果があがっている。特に、地域住民とより多くふれ合うことが「コミュニケーション能力の向上」や「規範意識の醸成」につながっている。また、「本村の被災状況と復興の様子」を伝える住民の生の声自体が学びとなり、防災教育やキャリア教育に生かされている。
- 震災以降も「ボランティア登録者数」「活動したボランティアの延べ人数」「活動実施回数」は年々増加している。「学校や子供たちのためにできることをやりたい」という住民の思いに加え、これまでに培った知識や技術を子供たちのために活用できる場として認知されてきている。
- 住民同士で声を掛け合っ楽しみながら参加するボランティアが増え、アンケート等で「前より学校が身近になった」、「子や孫が学校にいらなくても気軽に来られる」といった声があがるなど、住民同士の結びつきを強める役割を果たしている。また、被災者として支援を受けた住民が、「自分も何かしたい」と考え、学校でボランティア活動をしたり、児童・生徒が「地域のために何ができるか」を考えるなど復興の視点でも効果をあげている。



「子供たちとすると自然と笑顔になる」(学習支援)

その他

【実施に当たっての工夫】

- ボランティア活動を「図書」「環境整備」「授業支援」「安全指導」の4つのカテゴリーに分け、地域住民に活動内容を分かりやすく提示している。
- コーディネーターを学校の職員室に配置し、担任から直接依頼を受け、「欲しいときにすぐ」の支援ができる体制にしている。
- ボランティア通信を村内全戸で回覧。また、ボランティア登録者には「口コミでの協力」を依頼し、住民同士のつながりができるようにしている。
- 児童・生徒を含め、多くの人に活動の様子を知ってもらうため、職員玄関前に予定・報告、児童・生徒のボランティア宛の手紙等を掲示している。
- 年2回野田村地域教育協議会で有識者からの外部評価を導入し、事業の改善に生かしている。また、行政、社会福祉協議会、各種団体と協力体制を構築し、学校に過度な負担がかからないように事業を進めている。



5年間のボランティア総延べ人数は、本村人口の4割以上

地域の復興に向けて、 子供の生きる力・親力を築く学校と地域の連携事業！

宮城県仙台市

活動名

東四郎丸小学校学校支援地域本部
(アーチ*かにっこ)

関係する学校

東四郎丸小学校

※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	0人	125人	22年度	有	有	無	有
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

平成22年度に、「東四郎丸小学校学校支援地域本部（アーチ*かにっこ）」として、本部事業がスタートし、今年度で6年目を迎える。

「東中田復興プロジェクト」と題して、隣接した3つの小学校のスーパーバイザーと学校が連携して「かにっこ和太鼓隊」を結成し、子供の生きる力・親力を築くとともに、被災地となり、元気を失った地域の震災からの復興に取り組んでいるところである。3つの小学校から集まった子供たちや中学生、保護者、PTA、教員、スーパーバイザー延べ500人がつながって地域の人たちに元気を与え、地域の活性化につながっている。親子で参加している家族も増え、地域の人たちや保護者と子供の触れ合いの輪が広がり、新たな学校と地域の連携の形を作っている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・生活・学習サポーター5名/給食サポーター3名/米・野菜サポーター2名
- ・学級懇談会の見守り(社会学級の方たち担当5名)
- ・夏休み・冬休み勉強会(TFJ・東北福祉大学学生担当。児童180名・学生ボランティア20名)
- ・東中田復興プロジェクト(袋原中学校区学びのコミュニティ事業。学校の児童と保護者、教員、地域の方たちで和太鼓プロジェクト。登録70名。活動日12回 発表日7回(四郎丸小フェスティバル・東四郎丸小ふれあいバザー・かにっこ村の秋まつり・東中田市民まつり・仙台ワークキャンプ・太白区網取物語・国連防災世界会議チーム東中田っ子～命を守る～のオープニング)・韓国大学生との交流(かにっこ和太鼓隊25名)
- ・キャリア教育の補助5年生「さば飯づくり」PTA20名・遊びの達人1名)

【実施に当たっての工夫】

- ・東中田復興プロジェクト…袋原中学校区の小学校3校のスーパーバイザーと学校が連携して「かにっこ和太鼓隊」を結成。3つの小学校から集まった子ども、中学生、保護者、PTA、教員、スーパーバイザー延べ500人がつながって地域イベントや国連防災会議等にも参加している。
- ・親子で防災・減災学習プログラム…「仙台発そなえゲーム」を教員防災研修として行い、地域で災害に対する意識を高めることができた。

事業を実施して

- ・周辺の小学校3校の小学校の連携により、地域同士、親子・保護者同士の絆が生まれ、地域で子供を育てるという意識がしっかり根づいている。
- ・地域防災についても「そなえゲーム」の実践などにより、心の準備や防災の重要性などがしっかり住民に理解されており、学校の防災訓練でもその研修を活かした迅速な訓練が実施できている。

その他

- ・東四郎丸児童館の指定管理者のNPO法人「にこにこの家」等と連携しながら、学校行事や地域での催物等で幅広いつながりを見い出した。
- ・学習支援については、放課後、夏季・冬季休業の時間を活用し、補習的な取組を地域住民が中心となって行った。



かにっこ和太鼓隊の様子



親子で防災・減災プログラム

学校・地域・家庭が協力して、 地域の子供を育てる環境づくりを推進

宮城県仙台市

活動名

子ども教室「住吉だいっ子」による活動

関係する学校

住吉台小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		5人	17人	77日	有	無	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		仙台市立住吉台小学校			16年度	一体型		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	
コミュニティスクール								

活動の概要・経緯

平成16年度から仙台市「地域子ども教室」推進事業として実施、19年度から仙台市放課後子ども教室モデル事業として活動を継続してきた。平成21年度から仙台市放課後子ども教室事業の委託を受け、平成27年度に12年目を迎える。

週2回の活動のほか、その他休日や夏季休業中に活動を行っている。平成26年度は開設77日、延べ1,279人の児童が活動に参加し、延べ413人のコーディネーター・安全指導員が運営にあたった。

学校・地域・家庭が協力して子供を育てる環境づくりを推進することを目的に、開設当初から体制づくりを進めてきた。多方面からの協力を得ながら、安全で安心な「子どもの居場所」づくりを行うとともに、様々な体験や交流を通して地域のネットワークづくりを目指している。特に太鼓の活動は地域の行事と密着しており、子ども教室を卒業した中高生もメンバーとして活動を継続している。

また、隣接する住吉台中学校の学校支援地域本部事業との連携が進んでおり、中学校の教員や中学生がスタッフとして活躍する取組も行っている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・太鼓を通した子どもの健全育成と地域の交流（毎週土曜日（年間約40回）実施）
- ・わくわくタイム（学校や地域との連携で実施。年間約35回実施）の開催
- ・年に1回親子ウォークラリーの開催

【実施に当たっての工夫】

- ・毎回内容を工夫し、子供の興味関心を引き付けるイベントを開催している。
- ・様々な地域団体との連携に努め、子供たち同士だけでなく、多世代間や地域間交流を推進している。
- ・イベント開催時は、登録児童だけでなく、児童センター登録児童を含め、校内全児童を対象に募集をしている。

事業を実施して

- ・様々な地域団体と連携しながら事業を実施することにより、安全で安心な「子どもの居場所」づくりを進めるとともに、大人にとっても楽しい居場所となっている。
- ・地域で子供を育てるネットワークづくりを意識した取組は、仙台市放課後子ども教室全体の発展に貢献している。
- ・本教室のコーディネーターを中心に新しい組織（住吉だい鼓、読み聞かせ、学校支援地域本部）が生まれているものもあり、地域における人間関係の広がりや深まりが出てきている。

その他

「地域の子供は地域で守ろう」を合い言葉に、今後もより多くの方々に関わってもらえるよう、様々な意見を取り入れながら事業内容を工夫していきたい。



親子ウォークラリーの一場面



住吉だい鼓

明日の親となる中学生を対象とした子育て理解

宮城県亶理町

活動名

亶理町子育てサポーターらびっとによる活動

関係する学校

亶理中学校・荒浜中学校・吉田中学校・逢隈中学校

※ H26年度の実績（補助の有無についてはH27年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	21人	16年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- 少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、ほとんどの親が自分の子供を産んで初めて乳幼児に触れるといった状況にあるため、中学校期に健全な父性・母性意識を培う体験が必要との理由から開始した思春期保健体験事業「明日の親となる中学生を対象とした子育て理解講座」において、保育体験に向けた幼児との関わり方の学習支援を継続して実施している。
- 平成16年度に荒浜中学校で始まり、平成23年度には吉田中学校、平成24年度には亶理中学校、平成26年度には逢隈中学校と広がっていき、現在は町内全ての中学校において学習支援を提供している。
- 学校と連携した豊かな教育活動が安定的・継続的に展開されるよう、町主催の養成講座を開催し人材発掘に努めるとともに、県主催の養成講座等への参加や定例会を開催し、サポーターの資質向上にも努めている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 生涯学習課、福祉課、各中学校が主催の事業である。
- 幼児との関わり方についての学習支援を、地域の家庭教育支援活動や、サポーター自身の子育て経験を生かして行うことで、より地域の状況を踏まえた指導ができるとともに、相談できる大人が地域にいるということを生徒たちに伝えることができる。

【実施に当たっての工夫】

- 生涯学習課がコーディネーターとなり福祉課と各中学校との連携を密にすることにより、各校のニーズに応えた内容を計画するとともに、プログラムの変更や改善をスムーズに行えるようにしている。
- プログラムを効果的に行うことができるよう、事前学習においては町の保健師が入る部分と子育てサポーターが入る部分の組立てなど学習の流れを吟味している。
- 子育てサポーターが幼児の好む遊びを紹介し、それを生徒も体験することで、生徒が初めて幼児と関わることに對しての不安を解消できるようにしている。
- 生涯学習課、福祉課、各中学校それぞれの反省をフィードバックし、次年度の活動に生かしている。

事業を実施して

- 机上の学習だけではなく、実際に体験することで、生徒たちの学習に関する興味・関心が高まり学びが深まった。
- 保育体験では、事前学習をふまえたふれあい遊びやよく工夫された手作りおもちゃを使い、生徒が幼児と生き生きとふれあう姿が見られた。また、生徒の反省からも、この活動を通して子供についての理解が深まったとの声がたくさん寄せられた。

その他

本事業を開始して10年が経過したが、町の少子化等は更に進んでいる。生徒にとって身になる活動を提供するため、今後も学校・地域・福祉との連携を密にし、継続していきたい。



明日の親となる中学生を対象とした子育て理解講座



明日の親となる中学生を対象とした子育て理解講座

地場産品を活用した調理指導による食生活改善・向上及び郷土愛を育む取組

宮城県女川町

活動名

女川町食生活改善推進委員会による活動

関係する学校

女川小学校・女川中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	20人	10年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- 平成8年度から始まった、学校教育支援事業である「潮活動(女川中学校の総合的な学習の時間)」において、平成10年度から現在まで「美味しんぼ倶楽部」という講座を担当し、本町の地場産品を活用した調理の指導をしている。平成27年度は年間5回指導を行った。
- 平成23年度からは、本町協働教育連絡協議会の構成団体として任を担い、「学校講師派遣事業」において、小学校高学年児童の家庭科調理実習時の調理指導及び調理補助を担当するなど、協働教育事業に積極的な関わりをもちながら本町の協働教育プラットフォーム事業の推進を図ってきた。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 本町の地場産品を用いた調理の指導を通して、食生活の改善・向上及び地域への愛着形成を図るなどの取組を積み重ねてきた。
- 「さんまのおろし方」などの技術的な指導を始め、食に関する知識を身に付けさせるための「銀鮭についての食育講義」を実施するなど、本町の「食育推進計画」に沿った重要な活動も展開している。

【実施に当たっての工夫】

- 学校側の「授業のねらい」や「活動の流れ」を確認すべく『事前打合せ会』を設け、話し合いを経た上で実施するなど、協働で子供たちの学びを支えることを大切にしている。この打合せにより、調理活動が円滑に展開され、子供たちの学習内容を深めることにつながっている。
- 季節による地場産品の特質を生かした調理活動とするため、本町の保健センター所属管理栄養士の協力を得ながらメニューを考案し、地場産品の活用だけでなく、地域のおさを子供たちに感じさせるように配慮している。

事業を実施して

- 学校教育活動の「主体的・自主的に学ぶ、実践する・交流する」ことを食生活改善推進員が支援することにより、学社融合体制の推進及び社会教育の現場で生徒との交流を図ることができた。
- 食生活改善推進員と教員が「活動のねらい」を共有して指導するなど、しっかりと手をつなぐことにより、子供たちの調理技術の向上及び先人がもつ知恵を、実践を通して身に付けさせるとともに、学習内容の質を高めることができた。
- 調理活動の実施により、子供たち自身の食生活を見直す機会とするとともに、「女川の食」への愛着をもたせることができた。

その他

- 平成14年度から平成27年度現在まで、地域活動支援事業である「まなびっこ」において、小学生を対象とした調理講座を担当し、食生活を深く見つめる機会を提供してきた。多いときには年間10回程度実施した実績がある。
- 「まなびっこ」に参加した児童は、中学校での「潮活動」で『美味しんぼクラブ』に所属することが多く、9年間の長きにわたって食生活改善推進員と関わる子供たちも見られる。そのため、学校外でも気軽に声を掛け合ったりすることにもつながっている。



女川中学校「潮活動」の『美味しんぼクラブ』での指導の様子



女川小学校「家庭科調理実習」の試食時の交流の様子

秋田県にかほ市

活動名

にかほ市放課後子ども教室・
にかほ市わくわく土曜教室

関係する学校

平沢小学校・院内小学校・小出小学校・金浦小学校・象潟小学校・上浜小学校・上郷小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		3人	23人	26年度	有	無	無	無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		5人	115人	20年度	有	有	無	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
			3人	29人	34日	有	無	無
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
		研修室・体育館				19年度	連携型	
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数
		平成 27 年 4 月 27 日				23人	183人	10学級

活動の概要・経緯

- ・子供の要望から内容を構成している「放課後子ども教室」を平成19年度から開催している。コーディネーターが児童に体験させたい内容で構成している「わくわく土曜教室」を平成26年度から実施している。
- ・教室の運営方針や事業計画について、年3回実施される放課後子どもプラン推進運営委員会において協議・決定している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・講師として生涯学習奨励員、スポーツ推進委員、食生活改善推進委員、高齢者学級参加者、県立仁賀高等学校生等に依頼し、地域の教育力を活用した地域の特色のあるプログラムと、子供たちのニーズに対応したプログラムを展開している。
- ・にかほ市民文化祭で各教室の活動を展示・発表し、成果を披露している。
- ・冬季休業中に各教室で「子どものつどい」を児童クラブと共催し、昔遊びや食育等の活動を通し、児童間の交流を図っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・定期的に小学校長、事業担当者、コーディネーターが協議する場を設け、子供の実態把握や育てたい子供の姿等の共通理解を図っている。
- ・各公民館と学校に、事業のお知らせと活動終了後の広報紙を掲示し、地域住民、子供たち、保護者に対して事業の周知を図っている。
- ・放課後子どもプラン推進運営委員会は、学校教育関係者、児童福祉関係者、社会教育関係者、地域住民代表で構成されており、各関係者の連携を深めながら事業を展開することで、子供たちを支えるネットワークの形成も図っている。

事業を実施して

- ・子供たちは地域の大人とのかかわりでコミュニケーション能力を高め、社会性を養うことにつながっている。また、やってみたいことが実現される喜びを実感できるので、活動に積極的になってきている。地域の方々に支えられ見守られ、心が安定してきている様子が見られる。
- ・講師と子供たちの異世代交流が図られるとともに、地域全体で子供を育む環境づくりにつながっている。

その他

- ・高校生による指導の機会を設け、若年層の地域リーダーの育成にもつなげている。



①茶道のお稽古（高校生による指導）



②いろいろスポーツ



③フライングディスク教室



④和みアート

秋田県東成瀬村

活動名

放課後子ども教室仙人郷「虎の穴」

関係する学校

東成瀬小学校・東成瀬中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）					
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	171人	20年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	30人	182日	有	有	無	無
実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
なるせ児童館及び村内					19年度	一体型	
指定日					委員数	児童生徒数	学級数
コミュニティスクール							

活動の概要・経緯

- ・地域で育てる「なるせっ子」をキーワードに、平成19年度から実施している。子育て支援チーム会議において行事内容を検討し、平日放課後の教室のほか、年間25回程度の体験活動イベント（修行編）を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・老人クラブ連合会や地区の団体及び学校・地域との連携を密にし、人々と関わりを持つ共催事業を実施している。
- ・たごない歩け歩け大会（田子内自治会） ・縄文時代体験教室（老人クラブ連合会） ・絵本カバーを利用したうちわ作り（図書館）
- ・子どもスキー教室（村スキークラブ） ・お茶会（村茶道同好会）

【実施に当たっての工夫】

- ・放課後子ども教室と児童クラブを一体型で実施している。共催で事業を行うことにより、児童同士の交流も深まり、事業内容も充実してきた。
- ・事業内容や予定表を小学校に定期的に掲載し、事業を周知している。子供たちの意見や感想をのせ、活動の様子を小学校に伝えることで保護者が事業に興味を示し、参加人数の確保につながっている。

事業を実施して

- ・関係団体の大人と子供との世代間交流が増加し、地域と住民が触れあえる機会が多くなった。
- ・住民相互のふれあいにより、地域が活性化している。

その他

- ・社会福祉法人管理の「なるせっ子ネット」と共通ホームページを活用し、情報発信の一元化を図っている。



縄文体験教室（土器づくり）



スキー教室

地域に応援され、地域に元気を届ける金岡小の活力！

秋田県三種町

活動名

金岡小学校
学校支援地域本部

関係する学校

金岡小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	1人	25人	21年度	無	有	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	コミュニティスクール	指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・当該学校区では、昭和53年に同窓会が結成され、以来40年近く小学校を支える組織として機能してきた。
- ・学校支援地域本部事業が平成21年度から始まり、地域コーディネーターを中心に地域ボランティアが農園活動、学習環境整備、登校見守り活動、正課クラブ活動指導などの学校支援活動を続けてきた。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・なかよし農園活動では、畝立てから苗植え、収穫、収穫祭まで、コーディネーターと児童と一緒に計画づくりをしている。
- ・学習環境整備では、庭木せん定作業やプール清掃をPTAと共同で実施している。
- ・登校見守り活動では、毎月1週間の歩こう週間での見守り活動を実施している。
- ・正課クラブでは、茶道、生け花等のほか、特産品であるブルーベリーの収穫活動など、地域の特色を生かした活動を実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ・ふるさと農園活動では、地域コーディネーターは、早い時期から学校支援に関わる人材への周知に努め、多数参加できるように配慮している。
- ・学習環境整備は、学校支援ボランティアと保護者との事前の調整と反省の場を設け、計画的に実施している。
- ・正課クラブでは、児童の希望調査をもとに、広く指導者を集められるよう、同窓会からの情報も参考にしながら講師選定をしている。

事業を実施して

- ・地域の人々と触れ合う機会が増えたことによって、児童は地域の一員であることが自覚できるようになった。地域に元気を与えたいと考えようになり、学校行事への招待や一人暮らしの老人へのお手紙、アルミ缶・ペットボトル回収で得た車いすの寄贈などの実践につながった。

その他

- ・学校支援ボランティアと同窓会の有志で結成した読み聞かせグループが、学校の読書活動支援として月1回のペースで読み聞かせ活動を行うようになり、児童の読書活動推進に寄与している。

地域に応援される金岡小



なかよし農園活動

地域に元気を届ける金岡小



マラソン・なべっこ会への招待



学習発表会への招待



正課クラブ活動指導



学習環境整備



ふれあい焼き芋会への招待



「自然体験&だがしや楽校&創作劇」で、袖崎が大好きで心豊かな子を育成

山形県村山市

活動名

そでさき元気っ子による活動

関係する学校

袖崎小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 15人	開始年度 14年度	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 0人	開始年度 27年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 15人	年間開催日数 19日	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
		実施場所 袖崎小学校、地域市民センター、地域の各フィールド など					開始年度 19年度	連携型 放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- 平成14年度から学校週5日制に対応する事業として「地域の子供は地域で育てる」を合い言葉にスタート。地域の教育力活性化のために地域の大人が指導者となり土曜日の教育活動に当たり、地域の活動団体やPTA・育成会、地域市民センター（公民館部会）などからなる実行委員会を組織して各事業を行ってきた。
- 平成18年度からは参加者の中から「中学生協力員」が誕生し、大人と一緒にスタッフとして活動している。
- 平成20年度からは、小学生の一部（公募）が広報スタッフとなり「元気っ子新聞」を年1回編集発行している。
- 「袖崎が大好きな子」を育てるため、豊かな自然や地域文化を存分に活用したプログラムになるよう工夫を凝らすなどし、活動を通じて子供たちが自らの地域を再発見できるよう配慮している。
- 子供の社会力を育成するため、地元の創作劇集団「洗心座」と連携し大人と一緒に創作劇を作り上げたり、山形が発祥とされる「だがしや楽校」で対面販売などを経験したりして、考える力やコミュニケーション力、表現力が養われるような活動を実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 1) 「洗心座」の創作劇に大人と一緒に取り組み、セリフを考えたり小道具を工夫したりしながら、表現力、コミュニケーション力の育成を行っている。
 - 2) 地域の自然・文化・歴史などを大切に、地域の先生による川の水生生物調査や星の観察、地域のマイナスイメージになりがちな雪を遊びに十分に取り入れるなど、この地域でないと体験できない、地域に愛着がわく活動内容を多く取り入れている。
 - 3) 子供たちの社会力や考える力を引き出すため、「だがしや楽校」を様々な形式で年に2～3回開催し、コミュニケーション力アップに役立てている。
- ※連携企業・NPO・・・社会福祉法人千宏会、NPO法人雪室研究会、村山スキークラブ、村山ファミリー劇場、創作劇集団「洗心座」

【実施に当たっての工夫】

- 1) 指導者側からの一方的な考えだけではなく参加者からの意見も聞きながら内容を企画し、1か月に2回程度と無理のない回数で実施している。
- 2) 小学生広報スタッフやかつての参加者だった中学生、高校生、大学生が中学生協力員やボランティアスタッフの一員として参加することで、将来の教室担い手育成や身近な地域の居場所づくりにつながっている。
- 3) 地域に活動を周知するため、学校の協力を得ながら「小学生広報スタッフ」を募集し、広報紙『元気っ子新聞』（年1回発行）を編集している。
- 4) 会場設定を一か所に限定せず、地域のあらゆる場所をフィールドとし、その活動にふさわしい場所で行うなど、飽きないような工夫をしている。
- 5) 実行委員会独自のプログラムのみならず、他の団体の事業と共催するなど、運営の負担軽減も兼ねて連携・協力を積極的に行っている。
- 6) 学校休業日（月曜日等）にも事業を開催するなど、放課後児童クラブ「洗心児童クラブ」との連携を図っている。

事業を実施して

地域への愛着を大きく育てつつ、自分に自信を持たせながら子供たちに居場所を提供している。また、地域の教育財産（地域資源）を存分に生かすための様々な工夫を盛り込み、子供たちの五感を最大限に活用して取り組めるよう配慮している。

今の子供たちに求められている「社会力」を育む場となっており、地域の先生（指導者）との交流や創作劇活動、「だがしや楽校」での経験を通して「生きる力」としての「コミュニケーション力」や「表現力」が確実に身につけてきている。

次世代育成に関心のある地域の力強い味方（スタッフ）の協力もあり、「袖崎大好き」で「心豊かな子」が多く育っている。



だがしや楽校



自然満喫体験

子供の生きぬく力を育む、 学習支援・図書ボランティア活動

山形県川西町

活動名

玉庭地区学校支援地域本部

関係する学校

玉庭小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）							
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	学校支援地域本部	2人	33人	20年度	有	有	無	企業・NPOとの連携	
	放課後子供教室	1人	12人	年間開催日数	230日	有	有	無	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携			
		川西町立玉庭小学校			21年度	連携なし			
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数		
		平成26年5月1日			14人	33人	4学級		

活動の概要・経緯

玉庭地区では、平成20年度に文部科学省の委託事業である「学校支援地域本部事業」への取組を開始し、今年度で8年目を迎えている。学校と地域のパイプ役としての「地域コーディネーター」が2名配置され、学校側のニーズを的確に把握しコーディネートするとともに、玉庭地区交流センターと連携し地域住民のニーズも踏まえた事業を展開している。玉庭地区は自然環境に恵まれた中山間地の農村集落である。世帯数282戸で小学校の児童数は33名である。当地区には、教員を退職した方や専門的知識・技能を持っている地域住民が多く、本事業が始まる前から「玉庭の子供は、おらほ（自分たち）で育てる」という気運が高く、地域住民と一体となった教育活動を展開していた。ただ、学習環境の一層の整備の必要性やクマの出没問題における見守り活動の強化、小規模校ゆへの教職員の不足も近年課題になっていた。そのような中、本事業がスタートして、学校中心に行ってきた地域との連携活動を地域コーディネーターが中心に再構築し、地域のボランティアを募り、地域住民の専門的知識・技能を生かして各活動が有機的に機能するようになってきた。平成26年5月にコミュニティ・スクールの指定を受け、本事業のコーディネーターも学校運営協議会の委員となり、地域の支援により学校の教育活動をより豊かなものにするための活動を推進している。

特徴

【特徴的な活動内容】

専門的知識・技能を持つ地域住民の「伝えたい」「教えたい」という願いと、学校側の「専門的な授業を行いたい」というニーズをマッチングさせた「学習支援活動」が特徴である。退職教員5名に依頼をし、通年で算数の指導、外国語活動（英語）や音楽の授業の支援を行っている。また、児童に豊かな体験をさせることは、学力向上の基礎を養うとともに豊かな情操を育むことになるため、食農教育や道徳教育でボランティアティーチャーの授業を行っている。近年は、「稲作（一反）・畑作（里芋・ねぎなど）」の食農活動、花の栽培（ダリヤ）、「和太鼓」の伝承活動に力を入れている。図書ボランティアを定期的に実施することによって、蔵書整理や図書選定を効果的に行い、利用しやすい図書館づくりを行っている。また、読み聞かせボランティアによる読み聞かせや、民話の語りも行っている。「玉庭あんしん隊」の安全見守りは、交通事故や不審者から児童を守る活動として発足し、年間を通して活動している。近年、クマが出没していることから、その安全対策として「玉庭あんしん隊」の役割が大きくなっている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターが校長をはじめとして教職員とコミュニケーションを図り、学習支援におけるニーズの把握に努めている。また、地区の交流センターに通い、ボランティア活動を求めている人材等の情報を収集している。さらに支援する授業のねらいを踏まえて、「どの時間に」「どんな支援」をしていくかを担任と詳細な打合せを行うとともに、授業者・ボランティアの声を聞き、成果や課題を次の学校支援活動に生かすようにしている。

事業を実施して

- ・学校の教育活動が多岐にわたり教職員の多忙化が著しい中、「図書ボランティア」や「環境整備ボランティア」の存在は大きい。日常的に教職員が学習指導・生徒指導に専念できる環境を整えてくれている。
- ・教職員は地域に支えられているという安心感の中で教育活動を展開している。
- ・児童にとって、専門的な知識技能をもとにした学習支援を受けられることは豊かな体験、学力の基礎づくりにつながり、地域の方々の生きがいともなっている。
- ・小規模校という特性を生かして、地区の交流センターと全面的に連携し、コーディネーターを中心に学校を核とした地域づくりの一端を本事業が担っている。



複式指導の学習支援



音楽の学習支援

地域で育む社会力 ～子供と大人が関わり合う体験活動・通学合宿の実践～

山形県戸沢村

活動名

戸沢小学校放課後子ども教室

関係する学校

戸沢小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	180人	25年度	有	無	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	20人	222日	有	有	無	無
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	戸沢小学校図書室、各地区公民館（12）など			14年度	連携型		
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

平成25年度より、学校統合により4つの小学校から1小学校となったが、放課後子どもプラン運営委員会（地域と学校づくり推進会議）において十分な協議と情報交換を行い、基本方針の統一認識を図りながら活動を進めてきた。

平日は、子供たちの放課後の安全・安心な居場所づくりとして、読み聞かせを行ったり、自主学習・工作等をしたりする環境を整えている。休日等は、地域の方々の協力を得ながら、自然体験や文化伝承活動、通学合宿等の様々な体験型の活動プログラムを展開している。子供同士、地域の方々との交流を通し、子供と保護者、そして地域住民の「社会力」を育むことをねらいとしている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・運営委員会を小・中学校、保護者、地域共育（きょういく）活動団体、放課後児童クラブ、学校支援地域本部事業の幅広い関係者等で組織し、放課後の活動プログラムの企画・成果の検証や各団体との連携の在り方等について協議を行っている。
- ・平成14年度から各地区で行われている「戸沢流通学合宿」の一部を子供教室の体験プログラムとして位置付けており、地区ごとに実行委員会を組織し、地域の特徴を生かし、子供たちが主体的に取り組めるプログラムづくりに努めている。また、地区住民あげて通学合宿をサポートしていく体制を継続することで、村民あげて子供たちを育てていこうとする気運が高まるとともに、子供と大人のかかわり合いにより人との結びつきを強め、郷土を愛する心の育成につながっている。
- ・学校統合後の子供教室の運営に当たっては、学校側の要望を取り入れ、スクールバスやプール開放の待ち時間を活用した活動に配慮している。

【実施に当たっての工夫】

- ・各地区の通学合宿実行委員会事務局や学校支援地域本部の地域コーディネーターと連携を図りながら実施している。
- ・中学生や高校生ボランティアにも協力を呼びかけ、地域の教育力を生かした通学合宿の実施により、様々な方が関わり合う機会としている。
- ・地域共育活動団体による休日等の自然体験や文化伝承活動等、活動プログラムの充実を図っている。

事業を実施して

- ・地区や婦人会、老人クラブの事業として通学合宿を位置付け、地域主導の活動へ移行したことで「地域の子供たちは地域ぐるみで育てる」意識が高まっている。
- ・異学年、お年寄り、中学生や高校生等との交流の和を広げることができた。人と人との結びつきを強め、郷土を愛する心が育ってきた。
- ・関係者間の連携を図ることで、子供の成長を多方面から見守ることができ、学校、地域におけるそれぞれの子供の姿について情報共有することができた。「元気をもらった」という地域の方々の声が多数あり、村全体の活性化を図ることができた。



夕食会



もらい湯

地域で支える学校支援活動『たきねっ子応援隊！！』

福島県田村市

活動名

田村市学校支援地域本部
滝根地域教育協議会

関係する学校

滝根中学校・滝根小学校・菅谷小学校・
広瀬小学校・滝根幼稚園

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	57人	23年度	有	無	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	39人	173日	有	無	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	教室等				19年度	連携なし	
指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

本市では中学校区を単位としてコーディネーターを設置し、各学校の要望に応じたボランティアを派遣している。滝根地域においては、平成23年度より小中学校を支援対象に事業を開始し、平成26年度からは幼稚園への支援も開始した。東日本大震災の被害により菅谷小学校の校舎が使用できなくなったが、ボランティアの理解と協力により仮校舎で学校支援活動が継続されている。

＜平成26年度実績＞年間活動回数：640回、年間活動人数：延べ701人

- 中学校：部活動支援（ソフトボール、バレーボール、剣道）
- 小学校：学校行事支援（PTA懇談会時の児童見守り、民話語り）、環境整備（植栽せん定作業）、図書支援（貸出し補助・図書整理、読み聞かせ）、学習支援（体験活動）
- 幼稚園：園行事支援（クリスマス会）

特徴

- ・仮校舎へ通学する子供たちの下校のスクールバスが出発するまでの時間に、「放課後子ども教室（めだかの学校）」との連携により、ボランティア団体が読み聞かせを実施している。また、昼休みに学校図書の貸出しや整理の補助に入り、子供たちと地域の方とのふれあいの時間としている。
- ・伝統文化の継承を目的にお正月飾り作りを行っているほか、毎月1回「民話の日」を設定し、語りべによる民話語りを実施している。
- ・幼稚園への支援も行っているほか、広報誌を地区の全世帯に配付することで事業の周知を図っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・放課後子ども教室の指導員や、読み聞かせ団体の代表を務めるなど、自ら積極的に地域教育活動を行っている方をコーディネーターとした。
- ・ボランティアの募集については、幅広い人材を確保するため、国際交流協会やシルバー人材センターなどの各種団体へ協力を依頼した。
- ・地域住民の力を生かすため、伝統文化の伝承を取り入れ、地域住民と子供たちとのコミュニケーションの場としている。
- ・実施中学校区ごとに地域教育協議会を設置し、公民館が主体となって会議を運営し、地域に密着した活動内容の検討を行っている。

事業を実施して

- ・先生方にとっては、地域住民の学校への理解が深まった、ボランティアのもつ専門性を生かすことにより、子供たちの学習意欲・興味・関心が高まった、民話語りなど地域に密着した内容の授業を展開できた、といった成果があった。
- ・地域住民にとっては、自らの経験などを子供たちに還元できた、社会活動への参加の場が増えた、といった成果があった。
- ・子供たちにとっては、地域に関する学びを深めたり、地域の方との交流をとおして思いやりの心などを育んだりすることができた、といった成果があった。

その他

- ・学校と保護者、地域住民の互いの活動に対する理解を促進させるため、PTAや自治会などの地域団体と連携し、授業参観等を通じて保護者や地域住民に学校における子供たちの活動の様子を知ってもらい、学校・家庭・地域の相互理解の足掛かりとする。
- ・ボランティア登録者の充実に向けて、自分自身や自分の子供がその学校を卒業した「卒業生」・「元保護者」の立場の方などを対象に、気軽にボランティアに参加して子供たちと接することの喜びや重要性を実感してもらい、学校支援ボランティアへの登録につなげていく。
- ・コーディネーター同士の情報共有や質の向上のために、情報交換や研修会への参加等を通じてコーディネーターの育成を進める。



絵本の読み聞かせ



しめ縄づくり

『みんな仲良し さくらっ子!』 地域で子供の放課後支援

福島県相馬市

活動名

さくら子ども教室

関係する学校

桜丘小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動	1人	30人	26年度	有	無	無	無
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	1人	120人	20年度	有	無	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
教室、多目的室、校庭、体育館、LVMH子どもアート・メゾン					16年度	連携なし	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

【活動場所】

平日：相馬市立桜丘小学校 土曜日：LVMH子どもアート・メゾン（社会教育施設）

【活動の概要】

- 活動時間は、火・水・木曜日が14：00～16：00 土曜日が、9：00～12：00。
- 15：00までは宿題の時間として学習している。
- 教室、多目的ホール、体育館の好きなところで活動し、それぞれの場所に、スタッフが配置されている。
- 早退するときは、事前に保護者より「下校届（早退届）」を提出してもらう。
- けがをした際は、保健室で対応。保護者、学校、(状況により)病院、教育委員会への連絡体制マニュアルが整備されている。
- 下校時は、縦割り班区ごとに整列し、目当てを全員で復唱後、あいさつをして下校。

【活動の経緯】

- 平成16年度から、児童の放課後の居場所づくりとして活動を始める。
- 平成23年3月11日の東日本大震災の日は、15：00～閉校式の予定であったが14：46に地震に遭い、活動スタッフ及び教師・上学年児童とともに避難し、保護者の迎えを待った。
- 平成23年度は、「活動を継続してほしい」という保護者の要望もあり、震災後も休むことなく活動を続けている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 桜丘小学校を会場とした、毎週3日（火・水・木）の活動に加え、「LVMH子どもアート・メゾン」で第1・第3土曜日に活動をしている。「LVMH子どもアート・メゾン」では、「昔の遊び」や「読み聞かせ」、「季節の飾りづくり」「絵手紙教室」等を実施している。
- 「LVMH子どもアート・メゾン」での活動を中心に、「保護者参観日」を設定し、子供たちの活動を見ていただくとともに、一緒に活動することにより親子のきずなを強める機会としている。
- 震災発生時が「さくら子ども教室」の活動中であったことを教訓に、毎年避難訓練を実施し、避難経路の確認や避難の仕方を練習するとともに消防団に入っているスタッフによる「紙芝居」等を行っている。
- 「開校式」「閉校式」には、保護者も出席し、教室の活動目的や内容、運営方法等についての説明を聞く機会を確保している。

【実施に当たっての工夫】

- 定期的なイベントや季節のイベントを開催し、活動に変化を与え、マンネリ化しないようにしている。
- 保護者による参観や児童との活動とおして親子のきずなを強めるとともに、スタッフと保護者との連携及び情報の共有化を図っている。
- 運営スタッフ及び地域のボランティアにより活動している。また、若いスタッフも多く、活動内容や方法について意見を出し合いながら充実した活動をしている。
- 各曜日でリーダーを決め、定期的に「リーダー会議」を行うことにより、同一步調で教室の運営に当たるとともに、各曜日の情報交換を行い児童や児童間の交友関係について共通した理解を図っている。

事業を実施して

- 学校での生活においては、学級や学年を単位とした活動が多いが、「さくら子ども教室」では、1～3年生が一緒に活動するため、学年を超えた交流があり、年上の児童が年下の児童の面倒を見るような効果が得られた。
- 学校と地域が一体となって子供の放課後活動の支援をすることで、「地域の子供は地域で育てる」という意識が地域の方々や活動ボランティアに改めて認識されている。
- スタッフの中には、「絵手紙教室」や「手話教室」等の修了生もおり、「さくら子ども教室」の活動の講師を務めている。また、「主任児童委員」や「民生委員」もあり、子供教室での活動が学校での支援にも生かされている。

その他

- スタッフは、「子供たちが安心・安全で楽しく活動ができること」、「豊かな体験や経験ができること」、「学校と地域、保護者が連携して充実した活動を展開すること」を目標に、「さくら子ども教室」の運営に当たっている。



LVMH子どもアート・メゾンでの「絵手紙教室」



縦割りの班区ごとに整列 集団での下校

畑での栽培や収穫したものを販売するなど、 様々な体験を重視した活動

福島県南会津町

活動名

げんき山クラブによる活動

関係する学校

南郷小学校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	20人	72日	有	無	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	南郷総合センター				16年度	連携型	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

【活動場所】 南郷総合センター

【活動の概要】

- 活動回数は月、水、木の週3回。
- 活動内容としては、畑での活動（種まきから収穫、収穫したものの販売、調理体験）を主に実施。
- その他、工作・科学遊び（月1回学童と合同で実施）、おやつ作り、季節の行事（七夕、クリスマス会等）、読み聞かせ会、川遊びなどを実施。
- クラブ員は1～6年生までが在籍。上級生が下級生をリードして活動を行う環境を確立。

【活動の経緯】

- 地域の方との交流や自然の中での体験活動を通して自分の住んでいる地域を知り、好きになってほしいという願いのもと、平成24年度(統合年)より開設。
- 統合前は南郷第一小学校区で「てんぐ山クラブ」、南郷第二小学校区で「たけの山クラブ」が平成16年度より活動を開始。換算すると今年で12年目。

【その他】

- 安全管理員及び指導員への研修会を町で年2回開催。
- 年に2・3回コーディネーターと指導員による話し合いを実施。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 小学校1年から6年生までの全ての子供を対象に、地域の方々の参画を得た様々な活動の実施。
- 畑での栽培活動など自然の中で体験する活動を重視。
- 自然や地域の良さを感じさせながら郷土愛の育成を目指す活動。
- 勉強やスポーツ、文化芸術活動の機会の提供により、子供の心が豊かに育まれる環境づくりの推進。

【実施に当たっての工夫】

- 児童が安全、安心に参加できるような「安全マニュアル」の作成と活用。
- 帰宅の方法やお迎えの時間等を確認できる出席カードの活用。
- カバンや荷物を整理しやすくする環境作り。

事業を実施して

- 地域の方々の特技を生かして、各家庭ではなかなかできない体験活動を実施することにより、子供たちの心を豊かにしている。
- 大人から高齢者まで、様々な年代の方との交流が子供たちに良い影響を与え、情操教育に役立っている。
- 同級生ばかりでなく低学年から高学年まで、異なる年齢が集まって活動することにより、思いやりや協力して活動する大切さを理解することができている。

その他

- 地域のボランティアの方々にたくさん協力してもらって地域に根ざした活動を積極的に展開している。(畑の活動、読み聞かせ、川遊び等)



元気に活動する子供たち



児童クラブの子供たちと一緒にスライム遊び

多くの人に温かく見守られ、 子供一人一人に笑顔が見られる活動

茨城県筑西市

活動名

協和特別支援学校
どんぐりクラブによる活動

関係する学校

協和特別支援学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	14人	9日	有	無	無	無	
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	校内プレイルーム 等				20年度	連携なし		
指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
特別支援学校在籍の児童・生徒にも様々な体験活動の機会を提供することを目的として、その保護者が中心スタッフとなり、平成20年度より活動を行っている。専門的技術をもつ市民講師から工作などを教わったり、実生活に役立つ調理実習を行ったりするなど、工夫ある体験活動を実施している。地域の方からもスタッフを募集し、配慮を必要とする児童・生徒一人一人を見守る体制をつくることで、安全への配慮も図っている。参加児童・生徒を募集するための説明会は、PTA総会で学校が主体となって行ったり、活動に際しての引渡しは担任の先生が活動場所まで引率したりするなど、学校とも連携して活動している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 市民講師による様々な体験活動（バルーンアート、折り紙、吹き矢、バドミントン、トルペイント、レジンのキーホルダー作りなど）
- 高校生会OBによるレクリエーション
- 保護者が中心となって行う生活訓練を兼ねた調理教室やお楽しみ会

【実施に当たっての工夫】

- 活動の最初の時間は、みんなで「おやつ」を食べながらいろいろな話をするので、和やかな雰囲気の中で活動を始められるようにしている。
- 参加児童・生徒の個に応じ、できるだけ自分の力で取り組むことができるよう活動内容を工夫するなど、きめ細かい配慮を行っている。
- 児童・生徒それぞれに担当するスタッフを決めることで、安全への配慮を図っている。

事業を実施して

ふだんの学校生活ではできない体験ができるので、どの子供も楽しく活動している。個に応じた配慮を行い、できるだけ自分の力で活動できるようにしているので、年々子供の成長を見ることができ、保護者はもちろんだが、継続して担当するスタッフも自分の子供のように目を細めて見守っている。また、小学部1年生から高等部3年生までの異年齢集団で活動を行うため、高学年の子供があいさつをしたり低学年の面倒を見たりするなど、リーダーシップを発揮する場面も多い。子供も大人も笑顔が多い活動となっている。

その他

以前は月2回、放課後子供教室を実施していた年度もあったが、保護者の迎えの関係（特別支援学校なので広範囲からの通学となっていることから、活動終了時には迎えに来ることができない保護者もいる）や参加児童・生徒の生活リズムの確立なども考慮し、現在は月1回の活動となっている。その分内容の充実にも努めており、スタッフも研修会に参加して工作の技術や特別支援にかかわる注意点を学ぶなど、意欲にあふれている。



平成二十七年最初集合写真



市民講師によるバルーンアート

今年もやりま～す!! “涵養くらぶ”恒例の夏休み体験講座 『サマーキッズ』

栃木県鹿沼市

活動名

涵養くらぶによる活動

関係する学校

石川小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

各支援委員会の活動は、各支援委員会の代表と先生方が参加する、学社融合推進委員会において計画、反省が行われ、組織的な運営が進められてきた。現在はその名称を「涵養くらぶ推進会議」と改めて開催している。「支援委員会」も、「支援サークル」という言い方になっている。涵養くらぶの代表者は、涵養くらぶの活動経験者が務めている。支援サークルは現在14サークルに増え、登録人数は118名となっている。年間4回の涵養くらぶ推進会議を実施して、14の支援サークルが計画的な学校支援活動を展開している。また、各支援サークルにも代表者がおり、学校との調整役となっている。なお、石川小では「ボランティア」を「支援員」と呼んでいる。

特 徴

【特徴的な活動内容】

国語科の物語文に合わせて、影絵や馬頭琴の演奏者を呼んだり、生活科の町探検の引率支援や体育のスポーツテストを支援したりと、年間20回を超える授業等の支援活動を行っている。

夏休みは涵養くらぶ主催の「サマーキッズ」という夏期講座を開催している。講座内容は、夏野菜を使った調理、ウクレレの演奏とフラダンス、おもしろ科学教室、季節のお花を生ける、お茶を楽しむといった活動で、延べ100名前後の児童が参加している。

【実施に当たっての工夫】

支援員はそれぞれ仕事を持ちながら活動しているので、できるだけ見通しを持って支援できるようにしている。また、支援していただいた後もやりっぱなしではなく、子供たちからの感想を支援員に伝えるよう心がけている。支援員には保護者の先輩として、人とのつながり、生涯学習をする姿勢、価値観を学べるような交流の場を持てるようにしている。

事業を実施して

【こでまりサークル】〈生け花〉支援員の感想

「10数年前から石川小で活動している。当時から日本伝統文化クラブがあり、クラブ活動の時には華道や茶道を指導してきた。一人一人の子供が楽しく取り組んでくれ、学校でこのような活動ができるのは子供たちだけでなく、関わっている自分を含めた大人たちにとっても大変すばらしいと思う。」

また、一緒に活動している支援員も、みな意欲的で積極的に子供たちに関わりたく活動している。

その他

3年生の毛筆の時間には「楽書サークル」の書道家と数名の支援員が講師をしている。特に最初の学習では、今後の基礎になる大切な“とめ”や“はね”などの基本点画を重点的に学習させている。



【こでまりサークル】〈生け花〉日本のすばらしい文化を楽しむ



【すこやかアリスサークル】〈調理〉おからケーキ & しらたきの焼きそば

地域と学校との連携・協力により、教育の充実や地域のきずなづくりを図る活動（地域の力で育み・創造する、子供の未来と地域のきずな）

栃木県栃木市

活動名

皆川アシストネット推進本部事業

関係する学校

皆川城東小学校・皆川中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯

栃木市では、学校・家庭・地域の連携・協力を組織的に発展させ、より効果的に学校支援や地域の絆づくり等を図る教育システムとして、とちぎ未来アシストネットを、平成24年4月より、本格的にスタートさせた。

これを受け、皆川地域においても、地域アシストネット推進本部を公民館におき、同時に小・中学校長2名、公民館長、地域コーディネーター2名、地域住民の代表5名、計10名による地域教育協議会を設置、年2回の協議会を開催し、地域のアシストネットに係る事業効果、課題の抽出及び今後の方針について検討を行っている。

現在、地域コーディネーターの働きかけにより、学習支援、環境整備などに、地域の方がボランティアとして学校支援を行っているが、中学生による地域行事の手伝い等、学校から地域への社会貢献活動により地域の方とふれあう機会が増え、とちぎ未来アシストネットのねらいの一つでもある地域のきずなづくりにもつながっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域アシストネット本部を社会教育施設である公民館に置くことで、自治会や育成会を始め地域で活動する様々な団体が協働して、学校における教育活動の支援に取り組み、地域の一体化につながっている。この活動の推進により、学校と家庭・地域の結びつきが強まり、子育てに関わる地域住民同士の絆を深め、活力あるまちづくりができています。皆川地域アシストネット本部では、定期的な会議以外にも学校の教職員や地域の方々との連絡を密にとっており、子供たちと地域の大人が交流するボランティア感謝会や子供会行事等に多くの参加者が集まる等の成果をあげている。

【実施に当たっての工夫】

毎月発行する公民館だよりに、地域のアシストネット事業の活動状況を掲載するとともに、公民館のロビーに活動の様子を写真入りで紹介するコーナーを設けている。とちぎ未来アシストネットの地域への継続した啓発により、地域の方への周知と新規ボランティアの発掘に取り組むとともに、地域教育協議会の地域コーディネーターと公民館や各学校の地域連携教員とは、常時、連携・協力を行い、良好な関係を築いている。

また、学校のニーズと地域ボランティアの意向とのミスマッチがないよう、コーディネーター依頼書を活用し、地域コーディネーターが調整を図っていることから、スムーズで充実した活動へとつながっている。

事業を実施して

地域の教育力を活用することで、地域と学校が双方向で連携できるようになり、互いの理解が深まることで、地域のきずなづくりへとつながった。

小学校では、「実習等の授業で、時間を有効に使うことができ、有意義な実習ができると同時に、教員も一人一人の活動の様子を的確に把握することが可能となった」、また、中学校では、「学校支援ボランティアが入ることにより、生徒たちの活動の幅が広がり、様々な学校行事や部活動がより有意義になった」との感想が寄せられた。

その他

特別支援学校の地域連携教員が地域アシストネット本部へ相談依頼をしたことにより、これまでの小学校・中学校と地域の交流だけでなく、地域にある特別支援学校と地域の交流が始まった。平成27年10月には、特別支援学校小学部の授業に地域のボランティア11名が学習支援として参加をし、交流を深めることで、地域ぐるみの教育を通したきずなづくりが一層推進された。



校外学習にて地元の方にれんげの首飾りや冠の作り方を教わる



授業前の朝の時間を利用した中学生への本の読み聞かせ

子供の体験や学びを支える地域ぐるみ活動

栃木県佐野市

活動名

多田っ子広場子ども教室

関係する学校

多田小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	19人	29日	有	無	無	無
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
図書室、校庭、余裕教室				19年度	連携なし		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

地域子供教室として開始された土曜日の体験活動に加え、1年生が上学年と下校できるように待機している時間の活動も始める。主に土曜日の体験活動は、多田っ子広場実行委員会が中心となり、昔の遊び、カップラーメン杯ドッジボール大会、フライングディスク大会、郷土料理耳うどん作り等を行っている。待機時間の活動は、主に民生児童委員が中心に組織され、読み聞かせや宿題、オセロゲーム、お手玉、あやとりなど、児童は自由な時間を過ごす。また稲作体験、ジャガイモやサツマイモの植えつけ収穫、区内にある推定樹齢700年のこぶけやきまでの散策、石灰会社での地質の勉強など学校の要望を受け学年に応じた活動を行う。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・多田っ子広場実行委員会は、公民館長や公民館主事、町会長、PTA、育成会、老人会、駐在所など様々な団体に組織化されている。地域に開かれた学校、地域の中にある特色ある学校という観点で、小学校を拠点にし、地域にある人材を発掘・活用し、児童に体験活動などを行うほか、地域ぐるみで児童の安全安心な居場所をつくっている。
- ・体験活動と待機型の活動に関わるボランティアを別々に組織することで、児童に関わる大人の負担を軽減している。

【実施に当たっての工夫】

- ・小学校との連携を密にすることで、小学校の要望を受けた総合的学習の補助的な機能を果たす活動を行っている。
- ・活動がない日でも、ボランティアが自由に小学校に来ることができるよう、小学校側での受け入れ態勢をしっかりと作っている。
- ・公民館、育成会、PTA、待機型子供教室など、それぞれに役割を持たせ実施することで、他人任せにしない体制を作っている。

事業を実施して

- ・地域全体で小学校を支えることで、放課後子供教室の時以外でも、地域の方が常に学校行事に招待され参加し、児童と顔見知りになることができる。誰がどこに住んでいるのか、兄弟姉妹は何年生にいるのか、など長くボランティアとして関わっているとわかるようになる。
- ・小規模校のメリットを生かし、十数人の1年生の待機型放課後子供教室では、児童の自由な時間や気持ちを大切にしている。どんな小さな「できた！」でも、児童の目線にたって褒めたりと一人一人を細やかに見ることができる。

その他

- ・地域に住む方の発掘を行うことで、地域で活動する方が増えていくだけでなく、地域の歴史や自然、伝統など継承していくことができる。
- ・放課後子供教室に関わる大人が地域参加をすることにより、子供の成長の見守りや安心安全な居場所を提供する機能だけでなく、保護者、町会役員、公民館関係者などそれぞれの役割にこだわることなく大人同士が同じ目標をもって活動することができる。

郷土料理
「耳うどん作り」



待機型放課後子供教室



「川場の子どもは川場の宝」をスローガンに、地域の人々が支援する子供教室

群馬県川場村

活動名

川場村子ども教室

関係する学校

川場小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 17人	開始年度 19年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 60人	年間開催日数 20日	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
		実施場所 川場村立川場小学校					開始年度 19年度	放課後児童クラブとの連携 一体型
コミュニティスクール	指定日		委員数		児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯

- ・平成19年に地域の各種機関・団体と幅広く連携して、支援ボランティアの協力を得て、子供教室がスタートした。子供たちの安心・安全で楽しい居場所づくり、また地域の人々の知識や学びを生かして子供たちに伝えることを目的に活動が行われ、現在に至っている。
- ・川場村子ども教室は、放課後子供教室「月曜遊び場」と週末体験活動「おもいっきり探検隊」という二つの活動を実施している。「月曜遊び場」は、教育活動推進員やサポーターが子供たちと一緒に活動したり、見守ったりしている。「おもいっきり探検隊」は、平成26年に土曜日の教育支援体制等構築事業へ移行して、地域の人たちが指導者となり、週末の2～3時間程度、子供たちに様々なスポーツや文化体験等を提供している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「月曜遊び場」は、子供たちの自由遊びが中心で、教育活動サポーターが子供たちの中に入って一緒に活動したり、安全のため見守ったりしている。活動場所は、「学校支援センター室」、「体育館」、「校庭」の3か所である。また、学童クラブと連携し、学童クラブの指導員も教育活動サポーターとともに活動に参加している。学童クラブと子供教室の一体的な取組は、開始当初から行われており円滑に運営できている。
- ・「おもいっきり探検隊」は、教育委員会事務局の社会教育主事がコーディネーターとなり、地域の方と連携しながら体験教室を開催している。指導者は、文化協会に加入している団体やスポーツ推進委員、婦人会、老人クラブなど多種多様な人たちで、1回の活動につき、平均4～5人が協力してくれている。また、地域の施設を使ったり、昔から伝わる伝統文化を扱ったりする内容も取り入れている。

【実施に当たっての工夫】

- ・「川場村ふれあい学習推進協議会」を年2回開催し、1回目は5月に活動計画を基にしながら協働体制の方向性を確認し、2回目は2月に活動報告を行い、課題等を次年度へ生かしている。また、保護者や子供たちの子供教室への参画意識をもたせるためにアンケート調査を行い、意見を聞きながら計画づくりに役立てている。
- ・年度当初に学校と行政の子供教室担当者が打合せをして指導方針を共通理解し、学校と子供教室が同歩調で子供を育てる環境づくりに努めている。連携する学校側の意見を十分に反映して運営が行われている。
- ・学期ごとに学校、教育活動推進員、教育活動サポーター、学童クラブ指導員、行政の子供教室担当者が情報交換会を開き、子供たちの様子を伝えたり、学校からの要望などを聞いたりしながら、子供たちが楽しく安全に活動できるように体制を整備している。

事業を実施して

- ・学校は、地域の協力者や子供教室の関係者と情報交換の機会を多くもつことで、よりよい信頼関係を築いている。そのため、学校の要望に応じて子供たちのために協力しようという学校支援ボランティアが年々増加している。
- ・子供教室を通して、高学年の子供が低学年の面倒をみたり、男女関係なく活動したりするなど異学年同士の交流が多く見られる。また、わがままを我慢したり、小さい子を優先したりするルールを活動の中で身に付けることで規範意識が育ってきている。
- ・地域に伝わる体験活動や地域の人と関わる機会によって、子供たちは郷土を大切に思う気持ちが育っている。
- ・青少年育成推進員が週末体験教室「おもいっきり探検隊」の指導者として協力するなど、子供を核とした支援体制が広がりを見せ、地域の教育力が向上している。



週末体験「おもいっきり探検隊」 日本の楽器にふれてみよう



週末体験「おもいっきり探検隊」 グラウンドゴルフをしよう

街が学校、学校が街 ～「生きる力」を育むコミュニティ・スクールの取組～

群馬県伊勢崎市

活動名

北小学校コミュニティ・
スクール学校運営協議会

関係する学校

北小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	10人	232人	19年度	無	無	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	38人	31日	有	有	無	無
コミュニティ・スクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	会議室・体育館・広場など				23年度	連携型	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数
	平成20年4月1日				12人	467人	19学級

活動の概要・経緯

北小学校は、平成18年度に文科省コミュニティスクール調査研究校の指定を受け研究に取り組み、平成20年度に正式に学校運営委員会を設置してコミュニティ・スクールとなった。「街が学校、学校が街」を合い言葉に、「地域とともにある学校づくり」の推進を図ってきた。学校運営協議会は、基本方針として「会議室から教室へ」「授業参観から授業参加へ」を掲げ、常に児童の様子を身近に感じながら協議し学校運営に生かしている。特に、開かれた学校づくりとして学校支援ボランティアの活用に重点を置いて取り組んでいる。学校支援ボランティアの活用（平成26年度）については、読み聞かせ、放課後を活用した学習指導、生活科におけるまち探検の補助、体育のプール指導等、延べ8560人以上のボランティアが参加した。また、平成23年度から放課後に子供たちの安心・安全な居場所を設け、地域の方の参画を得て実施する放課後子供教室も行っている。毎回、前半は算数のプリント学習、後半は体験活動（シャボン玉で遊ぼう、紙飛行機を折るとぼそう等）と、子供たちにとって有意義な学び・体験・交流などの活動を実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学校運営協議会の活動…本校の学校運営協議会は学校支援ボランティアの活用に重点を置いている。学校運営協議会委員が授業を参観したり、講師として授業に参加したりすることによって、学校や児童の様子を直接感じながら取組の成果を把握し、学校改善に生かしている。このように学校現場と学校運営協議会の距離を縮めていくことで、「地域とともにある学校づくり」を推進している。
- ・学校支援地域本部の活動…子供たちの「ほっと」（安心）を支え、「もっと」（意欲）に応え、「はっと」（発見）を引き出すという考え方を基盤に下校時安全パトロール、学習支援活動、学校行事支援等を行っている。また、いせさきまつりパレードのマーチングや地域めぐり等、児童が地域に出て行き、交流する活動にも積極的に取り組んでいる。
- ・安心・安全な居場所作り「放課後子供教室」…3年生を対象として、週1回1時間実施している。地域の方、保護者などで構成する指導員と大学生ボランティアで運営している。前半は「学習タイム」として算数のプリント学習、後半は遊びや文化にかかわる活動（シャボン玉で遊ぼう、紙飛行機を折るとぼそう等）を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校運営協議委員は校内を参観したり、特別講師として授業に参加したりするなど、児童との触れ合いを大事にしながら、協議を進めている。
- ・学校支援ボランティアの活用のために、活動の内容ごとにボランティアリーダーと担当職員を配置し、メールを活用して連絡・調整を行っている。
- ・「ボランティアルーム」が常時設置されており、ボランティアの方々の相談や待機に使われている。また、「ボランティアコーナー」の設置や情報交換会の開催、学校支援ボランティア広報誌「がくぼ」の発行等を通じ、活動の様子を発信し、理解と協力を得られるようにしている。
- ・学校と地域が相互交流できる場として、学校公開日「オープンデー」を活用し、学校支援ボランティアが入る授業の成果や課題について意見を出すようにしている。

事業を実施して

- ・学校運営協議会の活動を通して、①地域の教育力を生かした教育課程づくり、②子供と地域住民の交流を生かした学校づくり、③地域の意向を生かした学校運営の推進等が成果として上がっている。
- ・学校支援ボランティアの協力を得ることによって、授業の質の向上や安心・安全な学校づくりに大いに役立っている。また、児童が地域に出向く活動も行っているので地域と学校のつながりが深まっている。
- ・放課後子供教室は、保護者の目が届きにくい放課後の時間に、地域とともに子供たちを守り育てていくためのよい活動となっており、児童からは「前の日から明日が楽しみ」、保護者からは「家でやらせられない遊びや貴重な体験ができる」などの声が聞かれた。

その他

- ・学校支援地域本部では、学習支援ボランティアが図工や家庭科の実習や校外学習における体験学習をサポートしている。
- ・放課後子供教室では、前半の30分間に学校と連携し、学習進度に応じた算数の補習（プリント学習）を実施している。



学校運営協議会委員による授業



プールボランティアによる水泳安全指導

「地元のみなさん、いつもありがとう」 長く愛される学校支援活動

埼玉県さいたま市

活動名

馬宮東小学校
チャレンジスクールによる活動

関係する学校

馬宮東小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	245人	21年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	14人	24日	有	無	無	無
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
特別教室、校庭等					21年度	連携型	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

卒業生が大勢地域におり、住民同士や学校との結び付きが強く、様々な学校支援が続けられている。平成17年から業間休みに児童と遊んでもらう「遊馬学校」がスタートし、全児童が将棋・昔遊び・卓球・絵手紙などを自由に学んだり遊んだりできる憩いの場となっている。また、平成21年には、遊馬学校ボランティア・自治会・PTA・民生児童委員などの協力のもと、地域の伝統や人材・自然を大切にしたい内容で、土曜・放課後チャレンジスクールが開始された。業間の活動とチャレンジスクールは、まとめて140年前にお寺で始まった学校『遊馬学校』という愛称で親しまれている。SSN（スクールサポートネットワーク・学校支援地域本部）では、更に読書活動ボランティア・おやじの会・育成会・安全防犯ボランティアなど、継続的に充実した活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

土曜チャレンジスクール（地域未来塾）は、自主学習・テーマ活動・自由遊びの時間割で3時間の活動をしている。テーマは、実行委員会では毎年検討され、地域の方の力を活用し、地域の伝統・施設・自然の活用を吟味している。おはやし保存会が講師のおはやし、老人会とのグラウンドゴルフ交流、高城寺での座禅、さくらそう保存会が講師の株分け植付け、用水路でのザリガニ釣りなど地元の方たちと深く関わって活動し、興味のある子は、地域の中で活動を広げていくこともねらいである。業間遊馬学校では、(月) 囲碁将棋、(火) 昔遊び・読み聞かせ、(水) 卓球、(木) 絵手紙と毎日違った講座で子供達の楽しみやふれあいの場となっている。10年以上も続き、講師の方々は、どんな悪天候でも来てくださり、画材や遊び道具の準備や後片付けなどの奉仕もしてくださり、子供達に愛情をたっぷりそそいでくれている。

【実施に当たっての工夫】

チャレンジスクールの教室コーディネーターは、当初から継続しており、リーダーとしての役割が大きく、地域主体という方針を貫き、地域のつながりを密にとるよう心掛けている。また、実行委員会や各回の前後に必ず打合せを実施し、意見交流を図っている。そのため、地域の新たな人材や活動場所を知ることができ、ねらいも共有している。児童の興味・関心を高める備品として、図書・辞書・知育遊び・室内遊びや外遊び道具がそろっている。ぬり絵、漫画・都道府県・日本語トレーニング・脳トレパズルの用紙も自由に使っている。業間遊馬学校でも講座ごとに活動が終わった後に茶話会をもち、情報交換や連絡を合っている。年度末には、全体の講師連絡会をもち、給食の会食や児童からのプレゼントで感謝の気持ちを伝えている。チャレンジスクールだよりと遊馬学校だよりを発行し、家庭・職員・スタッフ・ボランティアに配布し、周知している。

事業を実施して

家庭や授業ではできない様々な活動で、地域のことを学んだり体験したりしている。そして、いろいろな方々との会話や遊びふれあいが児童の心を潤している。さらに、業間遊馬学校とチャレンジスクール以外にも読書ボランティアのステージ発表・おやじの会のお泊まり会と餅つき会・育成会のふれあいコンサート・PTAバザーと各団体が奮起して活動している。恵まれた校内施設や地域環境と献身的なボランティアの方々のおかげで、良い伝統が続き、各活動が子供たちの暮らしに根付いていて、大きな楽しみとなっている。

その他

学校施設利用や先生方の理解を得て、温かな活動がスムーズに行われている。5・6年生のふれあい委員会は、業間遊馬学校の準備や活動の手伝いを常時活動しており、公民館利用のお年寄りを招待し、一緒に給食を食べながら交流する「菜の花ふれあい会」を催している。SSNの関係者の多忙化や高齢化に対応できるよう、公民館へのお誘いや地域への情報伝達を行い、新しい人材の発掘にも力を入れている。



土曜チャレンジスクール 『座禅体験』



業間遊馬学校 『昔遊び』

本町E-NAのルールを守って、みんなで仲良く楽しい学び

埼玉県さいたま市

活動名

本町E-NAによる活動

関係する学校

与野本町小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	16人	21年度	有	有	有	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	42人	32日	有	有	有	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	会議室、体育館、校庭				21年度	一体型	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

平成21年度にさいたま市チャレンジスクールモデル校として、与野本町小学校チャレンジスクール実行委員会が組織され、放課後チャレンジスクールと土曜チャレンジスクールがスタートした。木曜日の放課後チャレンジスクールは宿題等の自主学習後、工作、スポーツ、自由遊び等を選択し、3か所に分かれて活動している。第1・3土曜日の土曜チャレンジスクールは自主学習と工作、スポーツ、自由遊び等を組み合わせて活動している。どちらも学習するだけでなく、スポーツやレクリエーション等を通じて、学年を超えた友達との関わりや社会のルールなどが学べる場となるように考えている。

チャレンジスクール名の「本町E-NA」は、EducationとNavigatorから、与野本町小学校のチャレンジスクールはいいなと思ってもらえるようにと名付けた。

特徴

【特徴的な活動内容】

放課後チャレンジスクールは木曜日の5時間目終了後に行われる。まず宿題をし、他に読書やおセロ、将棋等をしながら学習タイムが終わるのを待つ。その後、会議室での工作（プラバン、牛乳パック工作等）と昔遊び、校庭（竹馬、砂場遊び、サッカー）と体育館でのスポーツ、自由遊び等を自由に選択している。学習タイム終了時に宿題が残っていても、残すか続けるかは自主性に任せ、保護者には出席カードで宿題が済んでいるか知らせている。

土曜チャレンジスクールは40分間の自主学習と工作又は校庭でのスポーツ、自由遊びを選択している。学習に対しては、必要に応じて学習内容を出席カードに記入してもらい、声かけや手助けをする。

年間を通じて、工作は季節や行事に関連した物を作るよう心掛け、冬の牛乳パックでのミニマフラーや松ぼっくりのミニツリーは毎年好評だ。

【実施に当たっての工夫】

放課後も土曜も全学年を対象としていて、4月に継続確認と新規募集のお手紙を出し、新規希望者には保護者説明会を実施する。ただし、1年生は学校に慣れることを優先し、冬時間となる11月からの参加とし、10月に保護者説明会を実施している。

放課後に参加する児童は、当日の朝、出席カードを提出する。1～3年生は参加者名簿を担当の先生に渡し、1・2年生はスタッフが教室まで迎えに行き、参加し忘れを防いでいる。

当日の活動内容とはじまりとおわりの挨拶をする児童名を黒板に書き、関心を持たせている。



根強い人気の砂遊び

事業を実施して

参加する理由は様々だが、チャレンジスクールが楽しい、もっと参加したいという児童が大半を占めている。また、保護者の方からも是非参加させたいという言葉がたくさんもらった。

スタッフは我が子と接するように児童としっかり向き合い、悪いことをしたときはきちんと注意し、褒めるときは心から褒めている。学習も工作も遊びも自主性を尊重し、子供たちの自由な発想を伸ばすよう心掛けている。

その他

スクール開設当初より学校の積極的な協力があり、体育館での運動用具も自由に使用でき、他の活動用具の保管場所も確保できていた。年を追うごとに活動場所が増え、PC室や図書室の使用が可能なので、雨天時など臨機応変に対応できる。

今後は学生と保護者スタッフの補充とともに、活動内容を見直し、子供たちがより一層楽しめるスクールにしていきたい。



ゲームに夢中

学校はもちろん、家庭や地域も元気にする「学校・家庭・地域運営協議会」

埼玉県深谷市

活動名

豊里小「学校・家庭・地域運営協議会」

関係する学校

豊里小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日		委員数	児童生徒数	学級数		
				16人	195人	8学級		

地域に信頼され、地域に誇れる学校づくりを目指すためにも、これまで組織されていた学校評議員（5名）だけでなく、学校運営に関して幅広く意見を聞き、地域の声を生かしていこうと考え、「学校応援団」を発展させた「学校・家庭・地域運営協議会」を設置することとした。なお、学校評議員も3名重複している。

活動の概要・経緯

特徴

【特徴的な活動内容】

学校の教育活動等を支援してもらうだけでなく、学校が家庭や地域を元気にする取組を実施した。「知・徳・体」を観点として企画・立案し、「知」では、「日本漢字能力検定」の会場校として児童だけでなく、家庭や地域の方へも参加を呼びかけ、父母や祖母も参加した。「徳」では、「おじいちゃん・おばあちゃん1日学校体験」を実施し、児童になったつもりで道徳の授業を受けたり、給食を食べたりする体験をした。「体」では、「飯盒炊爨（はんごうすいさん）＆カレーパーティー」を実施し、自然体験の中で親睦を深めた。また、高学年児童で組織された鼓笛隊が地域の敬老会や産業祭などで活躍し、地域の方を元気づけている。

【実施に当たっての工夫】

家庭や地域の人々が学校の教育活動等を支援するために組織された「学校応援団」の中から代表者を選出し、「学校・家庭・地域運営協議会」を設置した。この運営協議会で出された意見を学校と学校応援団の各組織が共有し、運営協議会長が学校応援団コーディネーターを兼ねているため、新たに企画された活動毎に、学校応援団の各組織が互いに協力し合いながら実施することができるようにした。

事業を実施して

学校・家庭・地域運営協議会では、地域の方々の郷土愛や愛校心を改めて感じるような積極的な声が多く、その中でも、今も残る豊里小の鼓笛隊に誇りを感じていることや高齢者の活躍の場を求めていることなどの意見を伺うことができた。その声を反映し、敬老会や産業祭など鼓笛隊の活躍の場を地域に広げたり、高齢者に参加していただく活動を設けたりすることができた。また、家庭や地域に支援してもらうだけでなく、学校が家庭や地域を元気づける取組は好評で、家庭や地域の方々が学校へ足を運ぶ機会も多くなり、地域に誇れる学校づくりができるようになった。

その他

家庭や地域が学校の教育活動等を支援する「学校応援団」の取組も積極的であり、本の読み聞かせ、花植え、昔遊び、ねぎづくり、おはやし指導、安全パトロール等がある。

今後も、家庭や地域に信頼される学校を築いていくために、豊里小ブランド化計画を中心にして、地域の声を生かしながら、学校・家庭・地域の教育力の向上と教育活動の充実を図り、健全な児童の育成に努めていきたい。



豊里小ブランド化計画



おじいちゃん・おばあちゃん1日学校体験

学校と地域・保護者との連携を深め、児童のやる気を伸ばす学校支援活動

埼玉県上里町

活動名

上里町立七本木小学校学校応援団

関係する学校

七本木小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成20年度より、地域人材を積極的に授業をはじめ、児童が関わる諸活動に活用してきた。現在は、子供の学習意欲の向上を図ったり、授業の質を高めたりするために、4名のコーディネーターが中心となって、学校応援団と学校との調整を行い、連携を深めている。

特徴

【特徴的な活動内容】

4名のコーディネーターが学校の要望や学校応援団の活動状況を把握し、調整役を務めており、学校と応援団が計画的に活動を行っている。学校応援団による学習支援や安心・安全確保への支援、環境整備への支援、学校ファームへの支援などに特徴的な活動が見られる。学校の要望や応援団の活動状況を地域住民に周知してもらい、活動が計画的に実施できるよう、学校応援団会議で活動計画や内容の報告、情報交換を行ったり、学校応援団を紹介する集会を実施したり、学期に1回学校応援団通信を発行している。学校や地域の状況について理解が深まることで、実態に合った効果的な取組が行われるようになった。学校応援団の活動日も年間242日と充実している。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターと学校の担当者とのきめ細かい連携により、学校応援団会議が開催されコーディネーターを中心に学校応援団の活動が児童の実態に応じて計画的に実施されている。

事業を実施して

- ・学習に必要な支援が受けられることにより、子供の学習に対する意欲が高まった。教師が「地域人材」を授業で活用する良さを理解し、積極的に支援を受けることで授業の質的向上が図られた。
- ・多くの住民による登下校の見守り、声かけ活動に参加してもらうことで、児童の安心・安全な通学環境が確保されている。スクールガードを中心に安全安心への支援が行われてきたが、登録した方以外の地域の方も登下校時刻に合わせて見守りを行うなど、安全安心への支援が地域全体へ広がってきている。

その他

- ・図書ボランティアによる読み聞かせやゲストティーチャーによる活動の支援が行われている。昔の遊び（1年）や昔の様子についての話（3年）、のこぎり指導（4年）、ミシン指導（5・6年）、地域の踊り（上里音頭）の指導などが計画的に行われている。
- ・応援団新聞の作成の支援を行っている。また、子供たちへのパソコン操作技能などについても支援が行えるよう依頼をしている。



のこぎり指導
～4年生の図工の授業に4名のボランティアが来校し、丁寧に指導を行いました～



学校応援団感謝の会
～1～6年生が出し物を発表し、感謝の手紙を渡しました～

子供たちの休日の学習・体験活動の場 市内全小学校等で38クラブ開設中！

埼玉県新座市

活動名

新座っ子ぱわーあっぷくらぶによる活動

関係する学校

市内全小学校（17校）

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	201人	14年度	有	有	有	有	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール			指定日		委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

「新座っ子ぱわーあっぷくらぶ」は、完全学校週5日制が導入された平成14年度から、子供たちが休日に安全で安心して過ごせる居場所の提供を目的として、事業を開始した。市内の全17市立小学校の特別教室や体育館等を会場として、6月から翌年3月まで、原則として毎月第1・3土曜日の午前中を活動日として年間10数回の活動を実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学習、文化、スポーツ、体験活動等様々なジャンルのクラブを各小学校に1～4クラブ計38クラブ開設している。（平成27年度）
- ・多くのクラブで保護者にボランティアとしてクラブの活動に協力いただいている。

【実施に当たっての工夫】

事業開始当初は、地域によって参加できるクラブが限られていたが、現在では市内全域の希望するクラブに参加することを可能とした。また、一部のクラブでは、5歳以上の幼児も参加対象としている。

開設クラブの数や分野にできるだけ偏りが出ないように、また、学校の都合等を考慮し、継続的に活動するクラブでも年度によって開設する学校を変更することもある。

事業を実施して

参加児童を対象としたアンケートでは、「楽しかった」「まあまあ楽しかった」と回答した児童が9割を占めており、楽しかったと感じた主な理由は「ふだんできない遊びや活動ができるから」であったことから、事業の目的に沿った一定の成果が得られていると捉えている。

また、平成14年の事業開始当初から継続しているクラブもあり、長年にわたり開設いただいているクラブが多いことから、指導者のやりがいや楽しさといった満足度も高いと捉えている。

その他

【学習支援】 活動の概要・特徴：大和田小-算数博士/算数ドリルやゲーム・クイズ、

片山小-エジソン/科学の実験・ものづくり、

東野小-算数の天才くん/難しい算数の問題に挑戦、

新開小-漢字チャンピオン/漢字検定受験に向けた漢字プリント、

栗原小-漢字チャンピオン/漢字検定受験に向けた漢字プリント、

新座小-算数博士/算数プリントやゲーム・クイズ

【ICT】 活動の概要・特徴：東野小-パソコンくらぶ/パソコン操作の基本から学ぶ



東北小学校 書道くらぶ



八石小学校 日本舞踊

地域・保護者・学校の連携を通して、「みんなで育てよう三山の子」

千葉県船橋市

活動名

船橋市三山中学校区学校支援地域本部

関係する学校

三山中学校・三山小学校・三山東小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

(経緯)

地域全体で学校を支援していく体制づくりを推進し、教員や地域の大人が子供と向き合う時間を増やす「学校支援地域本部事業」を船橋市では三山中学校区（三山中、三山小、三山東小）で平成21年度から実施した。

学校・家庭及び地域住民相互の連携及び協力を行う当該学校支援地域本部は、地域の方々の見守りに加え、「環境整備」「学校行事支援」「そろばん指導」「読み聞かせ」や、登下校を見守る「スクールガード」にボランティアの方が登録され、各校で、また学校の枠を越え、地域全体で活動している。

(学校支援地域本部の活動)

- 定例会（ボランティア、コーディネーター、PTA、学校教職員が出席）を1～2か月に1回開催
- ボランティア紹介広報「三山のちから」（3校共通）を年3回発行
「ボランティア通信」を各校（三山中、三山小、三山東小）年2回発行
- 「みんなで育てよう三山の子」をテーマとした講演会やディスカッションを年1回開催
- そろばんの指導や読み聞かせを月2回実施
- 花壇の整備や田んぼ・畑づくりを時期に合わせて実施
- 施設等のペンキ塗りや、設備の整備を適宜実施
- 運動会等において、会場づくりや自転車誘導、パトロールなどを実施
- 街探検や、登下校時に子供たちの見守りを年間を通して実施
- 中学生とともに地域清掃を年2回実施

特徴

【特徴的な活動内容】

- 定例会の開催：学校支援地域本部の活動についての打合せや、各ボランティアグループの活動報告・情報交換、代表者同士の交流、学校行事（運動会における除草作業）等での他のグループへの応援依頼などを行う。
 - ボランティア紹介広報発行
「三山のちから」：学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみで学校を支援する学校支援地域本部の紹介をしている。
（年3回、保護者や中学校区の地域自治会、教職員に計2000部配布）
「ボランティア通信」：ボランティアと学校・児童生徒・保護者との挨拶など交流の促進を図るため、ボランティアの紹介や具体的な活動内容を紹介している。
同時にボランティアの募集を行っている。
（各校年2回、保護者や各小・中学校の地域自治会、教職員に計1500部配布）
 - 1000か所ミニ集会：学校支援地域本部の地域・保護者・学校の共催で企画運営され、「みんなで育てよう三山の子」をテーマとした講演会やディスカッションを、各ボランティアだけではなく、子供とかかわる様々な立場の方が一堂に会して直接交流を行っている。
 - 環境整備：花壇整備の際には中学生も参加して、花の植付けを行っている。また、稲刈りや田植の際には小学生への指導も行っている。
 - 学習支援：算数の教育としてそろばんの指導を小学校4年生に月2回実施している。「ばちばち先生」の名称で、大型そろばんやそろばん体操、人間そろばん等、たくさんの工夫でそろばんの楽しさ・基本を子供一人一人に寄り添って教えている。
- 【実施にあたっての工夫】**
- ボランティア通信の発行に当たっては、通信を作成しているボランティア等が、環境整備等の活動取材を行うとともに、活動している各ボランティアに聞き取りを行うなど、様々な支援・協力を得ている。
 - 学校支援地域本部の代表者や役員には、地域の状況を十分に知っている地域の方をお願いしている。
 - ボランティアは各々の特性を生かし、得意分野を中心に分担して活動している。



1000か所ミニ集会（講演 学校と地域の連携）

事業を実施して

- 定例会の開催や広報誌の発行により、ボランティア同士や、ボランティアとPTA、ボランティアと子供たち、学校とボランティアとの交流が行えている。また1000か所ミニ集会の実施により、地域の輪が広がった。
- 中学校区内の他校へのお手伝い等、ボランティア同士の協力により活動の輪が広がった。
- 学校支援のお礼に、中学生がボランティアとして「船橋をきれいにする日」などの地域清掃へ参加し、地域自治会から温かく受け入れられている。
- 地域の方から活動中のボランティアへ、ボランティアから生徒への声かけなど、地域の方の学校・ボランティア・子供たちへの関心が高まった。
以上のように、学校支援地域本部の実施により、学校・家庭・地域との連携が綿密に行えるとともに、地域の子供たちへの関心も高まった。

その他

地域と学校が連携し、地域の教育力で学校を支える仕組みづくりは、教師の労働負担を減らし学校の教育効果を高めていく上で不可欠となっており、三山中学校区をモデルとしつつ、船橋市内の学校支援地域本部の拡充を行っていく。



花壇整備（花の植付け）

地域の皆さんから楽しく学ぶ「白銀っ子サタデースクール」

千葉県佐倉市

活動名

白銀っ子サタデースクールによる活動

関係する学校

白銀小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 6人	子供の平均参加人数 280人	開始年度 18年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

- 活動の概要・経緯**
- ①本校は、平成16年に開校し、開校当初より、地域コミュニティスクールによる学校運営委員会を中心とした学校運営方式を取り入れている学校である。
 - ②学校運営委員会を中心に、地域教育計画推進委員会・学校評価委員会・学校環境整備委員会・国際理解教育推進委員会・学校開放委員会の5つを設置して、本校の教育活動に御支援を頂いている。
 - ③そのうち、学校開放委員会や地域教育計画推進委員会において、地域の教育力向上を推進する取組の協議や児童の休日の活動充実を図るための地域住民による企画運営事業を展開している。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ①地域教育計画推進委員会や学校開放委員会を中心に、地域や休日の充実した過ごし方について協議し、その企画・運営を進めている。
- ②学校運営委員会において、学校の経営方針及び教育活動について報告し、御理解を得るとともに、御助言を頂き運営に反映させている。
- ③白銀っ子サタデースクールは、地域の方々の得意分野を生かした文化的講座を中心に開設している。具体的には、手工芸、茶道、なぎなた、囲碁、マジック、英語、科学分野等を中心に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

- ①白銀っ子サタデースクール実施に当たり、地域の方々に講座募集を毎年している。学校行事と日程調整をして、毎学期、児童に募集をしている。児童が多く講座を受講できるよう、時間ができるだけ重ならないように工夫している。実際に複数の講座に参加する児童もいる。また、児童の生涯学習という面と地域の方々にお世話になっているという感謝の気持ちを忘れないよう指導している。
- ②年間2回「学校運営委員会だより」を発行し、広報・周知活動にも取り組んでいる。
- ③各委員会には、管理職及び学校職員が毎回会議に参加し、学校との連携を密に取っている。

事業を実施して

白銀っ子サタデースクール実施により、地域の方々によりよい関係づくりが図られている。また、生涯学習の視点にたつて、子供たちなりの趣味の世界、活動の幅が広がっている。手工芸教室では、作った作品を学校の文化祭に展示するなど学習の成果を披露する場もあり、意欲付けにもなっている。

その他

白銀っ子サタデースクールの延長として、サマースクールを毎年実施している。サマースクールは、夏休みに2週間程度の期間に10講座程度実施している。内容は、白銀っ子サタデースクールとは違った内容の講座も実施している。募集方法、児童への周知は、白銀っ子サタデースクールと同様である。



白銀っ子サタデースクール（囲碁）の様子



白銀っ子サタデースクール（科学）の様子

地域の自然環境を生かした学習に取り組む福田地区の取組

千葉県野田市

活動名

福田中学校区学校支援地域本部

関係する学校

福田中学校・福田第一小学校・福田第二小学校・二ツ塚小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	5人	147人	20年度	有	有	無	有
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

平成20年度より、野田市内全中学校への地域のルームの設置に伴い福田中学校に本部を置き、福田第一小学校、福田第二小学校、二ツ塚小学校の4校で、地域の人材による学校支援の充実を図っている。設置当初より、豊かな自然環境や隣接する公民館といった地域の利点を活用した支援活動を実施している。福田中学校区学校支援地域本部では「地域の特性」として、「コウノトリの里」をはじめとした豊かな自然環境と学習施設をもつ。また、公民館が隣接しているという利点を生かして、公民館と連携して地域人材を学校に呼び込んでいる。

特に、豊かな自然環境を生かした「自然観察会(フィールドワーク)」が充実しており、四季を通じた自然の変化を生徒が観察することで、自然に対する興味関心を高め、生涯学習の基礎を築いている。また、講師として、専門家を多数招へいすることで充実した学習ができるように配慮している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・福田中学校の学区には、関東初の放鳥を目指す、「コウノトリの里」があるが、そこで毎年2年生がフィールドワークに取り組んでいる。年間にフィールドワークを4回、事前学習を3回行っている。講師には、近隣の高校の先生や大学教授、ボランティア、市役所職員が協力して行っている。こういった外部講師と学校との連絡調整、ブログなどをとおしての広報活動に、学校支援地域本部が活躍している。
- ・隣接する福田公民館と連携して、小学生対象の「夏休み子どもの学び舎」への支援を行っている。
- ・図書館教育の支援を活発に行っている。図書の管理や、生徒による「自分の好きな本紹介」の会の運営の協力をしている。

【実施に当たっての工夫】

- 地域の特徴(コウノトリの里・隣接する公民館)を生かし、充実した教育活動の支援ができた。
- 地域ルームだよりの作成と、ブログによる情報発信を積極的に行っている。
- 活動を検証し、次年度に生かしている。
- 多くの外部講師と連携を取り、充実したフィールドワークになるよう取り組むとともに、教職員の負担軽減と、継続した教育活動を実践している。

事業を実施して

- ①意欲的に学ぶ生徒の育成(特に身の回りの自然に対して)に貢献できた。
- ②夏休みに、公民館での学習会や自然観察会に参加するなど地域の環境を活用できている。
- ③長期にわたる外部講師との連携により、児童生徒や職員に対して継続した支援ができています。

その他

(株)野田自然共生ファームの方から、「野田市の生態系保存の取り組み」について講演していただいている。

東京理科大学のボランティアによる、放課後の補習を実施している。



フィールドワークの様子



「夏休み子どもの学び舎」の様子

中部小学校を支える、 学習(家庭科)・環境・図書・登下校の4活動

千葉県鎌ヶ谷市

活動名

鎌ヶ谷市立中部小学校支援地域本部

関係する学校

中部小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成20年度より活動を開始し、現在5代目のコーディネーターが中心となって活動している。毎年、5・6年生の家庭科の授業支援(手縫い・ミシンの手伝い、「祭り寿司」作り)を行う「学習支援」、PTAの美化作業にあわせて、地域の方にもお手伝いいただく「美化」、図書室および絵本の部屋の環境整備や長期休み後の本の返却作業の手伝いを行う「図書」、PTAや推進隊とともに登下校の見守りを実施する「登下校」、の4分野で活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

学習支援では、地域の人材を活用して、千葉県の伝統食である「祭り寿司」作りを家庭科の調理実習で実施している。毎年、多くのお年寄りの経験と知恵が生かされることで、6年生の児童全員が太巻き「祭り寿司」を完成させることができている。図書ボランティアの活動では、図書室の環境整備から返却作業の手伝い、図書室を移動する際の本の移動まで、ボランティアの力で行うことができている。

【実施に当たっての工夫】

年度当初に、コーディネーターと学校職員(教頭、図書司書、家庭科専科など)が打合せを実施している。その上で、毎年5月下旬にボランティア会議を行って、コーディネーター、ボランティア、学校職員の顔合わせを行うとともに、学校としてのねらいや実施上の留意点などを、コーディネーターからボランティアに伝達・周知している。また、実績の蓄積、記録、ファイリングを行い、コーディネーターが変わっても継続して活動が行われるよう工夫している。

事業を実施して

・地域の人材が、学習環境の整備や学習の支援などに日常的に学校にかかわり、子供たちも地域の方から多くのことを学ぶことができている。特に、地域の高齢者の方からは、縫い物、「祭り寿司」作りなどを教わることで、日本の伝統的な文化に自然な形で触れ、興味・関心を高めるきっかけとなるとともに、感謝の気持ちも醸成されている。こうした充実した活動は、コーディネーターが間に入り適切な連携を行うことで、ボランティアと学校のそれぞれの担当をうまく結びつけ、円滑に運営されている。

その他

・中部小学校の「学習支援」は、国語や算数などの補習や学習会ではなく、地域の人材を活用しなければならないような、千葉の伝統食「祭り寿司」作りや縫い物の指導において実施している。また、図書ボランティアは、今年度よりICTを活用し、連絡メールシステムを活用して活動日時の連絡を行っている。(連絡文の例:「次回お知らせ」 図書ボランティアのみなさま 1学期の活動ありがとうございました。次回は9月2日(水)、3日(木)の2日連続です。両日とも10:00開始予定で、場所は図書室、内容は本の返却作業です。軍手やエプロンがあると便利です。よろしくお願いたします。)



美化活動の様子



「祭り寿司」作りの様子

インクルーシブな次世代を目指したダイナミックな活動

東京都杉並区

活動名

天沼小学校支援本部
"あまぬまワンダラーズ"

関係する学校

天沼小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		4人	100人	20年度	有	無	無	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		3人	80人	20年度	有	有	有	有
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		4人	40人	163日	有	有	無	無
			実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携	
			校庭、体育館、多目的室など			20年度	連携なし	
			指定日			委員数	児童生徒数	学級数
			平成 22 年 4 月 1 日			12人	533人	19学級

活動の概要・経緯
学校を取り巻く地域の人たちが、様々な知識、知見、知恵と経験を持ちよって連携し、天沼小学校の教育活動や学校運営をサポートする「地域の応援団」として、杉並区初めての統合新校にふさわしい学校支援本部が設立した。経営支援の「学校運営協議会」、運営支援・実働部隊としての「あまぬまワンダラーズ」（学校支援本部）という認識をもち、学校を目指す「インクルーシブな（多様な）次世代」を目指し、学校運営協議会とも密な連携を図り両輪となり、学校を全面支援している。活動は、「①子供の学習支援をする活動」「②学校運営を支援する活動」「③課外学習の運営」「④地域の力をつなぐ調整機能」の四つに大別される。

特徴

【特徴的な活動内容】

日本の伝統・文化理解教育…茶道・書道・華道・和楽器・百人一首を地域の専門指導者に協力いただき、礼儀作法も含め体験活動の実施
読書活動…学校司書と図書ボランティアによるお話し・読み聞かせ・図書室整備活動の他、小中連携による九年間の読書活動も実施
キャリア教育…地域の専門家、商店会、町会、サポーターの協力で、発達段階に応じて系統だてたキャリア教育の実施
土曜授業…月一回実施される教育課程としての土曜授業において「本物に触れる体験授業」をコーディネート

【実施に当たっての工夫】

- ① 年間指導計画に照らし合わせ当該学年と早い時期に相談。職員室内にボードを設け、取組内容の情報共有を図る。
- ② 子供たちが気持ちよく学習に臨み、学校生活が送れるよう、環境整備に努める。特に、図書整理に力を入れる。
- ③ 放課後活動、土曜日学校等に楽しく参加できるよう、また保護者の理解推進の観点からも、各活動の頭に「ハッピー」を付けて意識化を図る。
- ④ 地域の町会長会議に参加し連携強化を図るほか、「おやじの会」の活動を支援し、子供たちを通して、新しい地域連携を見据えている。

事業を実施して

【先生方から】よく管理職の先生から「天沼小学校の子供たちは幸せだ。」と言う言葉を聞く。季節行事のハロウィン、学校での宿泊「段ボールハウス」、流しソーメンの「天沼フェスタ」など、学校の教育活動では体験できないプログラムを通して、地域の方との関わり、地域に対する思いを強めている。

【保護者から】学校支援本部の活動に感謝を示すとともに、保護者の理解推進が進み、活動に協力するサポーターが増えつつある。

【地域から】明確に学校と地域をつなぐ組織であることを理解している。学校の先生方が異動しても関係性が持続できると思っている。

その他

◎「学習補助ーハッピースタディ、天沼夏季講座ー」

3年生以上の児童に、毎週火曜日の放課後と夏休みの6日間、個別学習（プリント学習）を行い、学校支援本部の担当者が丸付けを行う。当校の卒業生や近隣の都立学校生徒も丸付けや個別指導の応援に当たるなど、若者を含めて担い手のすそ野を広げている。

◎「ユニバーサルデザイン体験授業」

学校支援本部がコーディネートし、日立製作所の方を招いて授業を行っている。クイズを交えたユニバーサルデザインの説明を聞いた後、グループワークで、ユニバーサルデザインのテレビリモコンを考えた。

◎「地域安全マップ作り」

東京青年会議所に依頼し、地域安全マップづくりの必要な理由や「入りやすく見えにくい危険な場所」を探すことなどを教え、フィールドワークを実施。その後、児童がまず校内で発表し、次には地域安全マップに関するフォーラムで発表を行った。

◎「ICT活用の推進」

ICT活用の推進への支援として、ゲストティーチャークのコーディネートや、タブレット端末上でアンケート集計を行えるフォーム作りを行った。



キャリア教育「六年 茶道（野点）」



土曜日学校「ハッピーハロウィン」

防災教育、地域安全の充実に向けて ～防災授業の企画・実施・評価で協働～

東京都三鷹市

活動名

三鷹中央学園
コミュニティ・スクール委員会による活動

関係する学校

第四中学校・第三小学校・第七小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日		委員数	児童生徒数	学級数			
	平成 20 年 9 月 10 日		23 人	1248 人	39 学級			

- 活動の概要・経緯**
- 3・11東日本大震災の教訓から、コミュニティ・スクール委員会が学校・地域と連携して「大人熟議」「子ども熟議」等を通して防災について真剣に議論を重ね平成24年度に初の防災授業を中3に向けて実施した。
 - 具体的な活動として、地域防災テキスト「カンガエル地域防災」の活用や、「学園研究会×CS委員会100人熟議」の実施、中学生による仮設トイレの組立て・解体、防災訓練への参加等がある。
 - 中学校から始まった参画型の防災授業を、小学校での実施へと発展させてきた。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 防災教育の趣旨や内容を検討するための「大人熟議」「子ども熟議」「学園研×CS委員会100人熟議」で学園とCS・地域の考えを十分に共有している。
- 中学校での授業を実施し、その反省を次の活動に生かすなど、常に点検と評価のサイクルを活用してきた。このことにより、中学校での実践が、小学校での防災授業へとつながり、小・中学校で体系的な防災教育を行っている。
- 地域防災テキスト「カンガエル地域防災」を活用した防災授業を、小・中学校の全学年で実施している。

【実施に当たっての工夫】

- 教育の計画については教員が中心となり、計画を充実させるために効果的な人材の選択・調整、実際の授業への支援等をCS委員が行うといった役割分担をすることで、協働の取組が実現した。
- 学園全体の計画である「パワーアップアクションプラン」に防災の観点を位置付けることにより、学校・子供・家庭・地域各々が取り組むべきことを明確にすることができた。

事業を実施して

- 学園研究会にCS委員が参加するという形をとった「100人熟議」では、教員とCS委員が混成で10グループに分かれ、「学園で取り組む防災教育—今、私たちにできることは—」をテーマに話し合った。CS委員が日頃余り接触がない教員と熟議を行ったことでお互いを知り、理解を深めることができた。特に中学校の先生方の防災に対する理解が深まり、強い協力体制をいただけたことが、この後の中学生への仮設トイレ組立て・解体の実技授業、市総合防災訓練への参加等、子供や地域の防災意識を高める取組につながった。教員とCS委員がそれぞれの立場を尊重し合い、自分たちのできることを役割分担しながら一つのことを成し遂げる、というまさに「協働」の実践となった。
- 小・中学校全学年での防災授業を実施したことは大きな成果であり、小・中学校の教育課程に明確に位置付けることができた。小学校では、「自助」「共助」を学ぶ仕組みができ、中学校においては、3年間の防災教育の系統性を検証することができた。

その他

- 本市では、各学園の活動を年間を通して評価・検証するシステムを確立しており、本事業についても、三鷹中央学園では、学園の評価・検証の中に位置付け、改善事項についても次年度に確実に具現化できるよう取り組んでいる。



学園の教員とコミュニティ・スクール委員での「100人熟議」



協働で実現した、小学校第三学年「地域安全マップを作ろう」

子供たちのために！先生方が描く授業や活動をより豊かにするようサポート

東京都板橋区

活動名

常盤台小学校学校支援地域本部
チーム常盤台

関係する学校

常盤台小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	3人	96人	23年度	有	有	無	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

子供たちのために！が大前提。教育のプロである先生方が描く授業や活動がより豊かなものになるように、必要な人材（ボランティア）を地域や提携団体、近隣大学などから探したり、協力団体を探したりして支援することが活動の基盤である。学校と強い信頼関係のあった3人が地域コーディネーターとなり、学校をあらゆる面からサポートしている。

活動の概要・経緯

特徴

【特徴的な活動内容】

本校の特徴的な教育活動の一つである4年生の「和の心」では、日本文化の講師を地域から探し、子供たちにすばらしい日本の伝統文化をその心から指導していただいている。空手・剣道・茶道・華道・柔道・和太鼓・和菓子・日本舞踊・なぎなた・和菓子・風呂敷・囲碁など、いずれの講師も熱心に子供たちに日本文化の良さを伝えている。大学生のボランティア団体からはすばらしい学生が授業サポートに来て、子供たちに寄り添う大切な存在になっている。年間100冊、1万ページを目標にしている読書では、図書ボランティアが図書の寄附を募り、図書室や絵本の部屋を整備し、記念のしおりを作成するなどして子供たちの読書への興味や意欲を高めている。

【実施に当たっての工夫】

学校の中心には先生方がいらっしや、その視線は常に子供たちにそそがれている。先生方を全面的にサポートするためにコミュニケーションを取りながら、考えを理解し活動している。地域と連携して必要な事柄や人材をすぐに探せるようアンテナを張っている。

事業を実施して

活動していく中で地域との連携がより強くなり、地域に愛される学校という面で、地域活性化にもつながる有意義な活動である。地域のみならず協力を惜みず喜んで協力していただき、子供たちの笑顔で元気になり、笑顔で帰っていく、笑顔があふれる活動である。また、地域外でも協力団体と連携して子供たちにより豊かな学びの場を提供できている。

その他

NPO法人日本教育再興連盟（ROJE）と提携して毎日異なる大学生が来校し授業のサポートをする。その存在は定着し、子供たちにとっても先生方にとっても大切な存在となっている。3年生の「工場見学」では、凸版印刷と連携して印刷の工程を見学する。その際にバスを利用して行くため、国際興業バスとも連携する。また、ベネッセの介護施設と連携して施設を訪問するが、子供たちも高齢者のみなさまも笑顔になる活動である。子供たちを笑顔にする、子供たちを豊かにする、子供たちに自信をもたせる、全ては子供たちのための活動である。



大学生ボランティアによる授業サポート



日本の伝統文化を学ぶ「和の心」風呂敷講座

地域・保護者は学校と「共に」子供たちを育てていく応援団

東京都調布市

活動名

若葉小学校学校支援地域本部

関係する学校

若葉小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	300人	24年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
			実施場所		開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

子供たちに「より豊かな体験の機会を与えること」を主なねらいとして始まり、現在は以下の4つの教育支援活動を実施している。

- 体験学習プロジェクト：「サマーチャレンジわかば」の実施、昔遊び体験・お茶会の実施
- 学習支援プロジェクト：保護者による読み聞かせの実施、「生活科見学」・「ミシン学習」・「調理実習」における学習支援、教科学習等のゲストティーチャー
- 環境整備・安全安心プロジェクト：「若葉の杜にホタルを飛ばそう」プロジェクト、畑の環境整備、体育館清掃、下校安全パトロール
- 小中連携プロジェクト：四つ葉学校防災協議会の開催・防災への取組、挨拶運動の実施、地域懇談会・小中合同研修会の開催、夏祭りでの小中合同演奏

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 【サマーチャレンジわかば】：地域の方・保護者を講師とした夏季休業中の体験学習講座。俳句、書道、お茶、生け花、浴衣着付けなどの伝統文化やスポーツ、お話会など。平成24年度から始まり平成27年度は7月下旬に5日間実施し、18種類延べ35講座、延べ426人の児童が参加した。
- 【若葉の杜にホタルを飛ばそう】：コンクリート池をホタルが生息する池に改造し、ホタルを飼育。毎年6月には「ホタル観賞会」を実施している。
- 【四つ葉学校防災協議会】：調布市立第四中学校、若葉学校地区協議会と連携し四つ葉学校防災協議会を立ち上げ、防災への取組を定期的実施。避難所運営マニュアルの作成・検証、防災座談会、防災訓練などを実施している。

【実施に当たっての工夫】

学校支援地域本部コーディネーターが地域の方や保護者を講師として活用することで、地域の教育力を発揮する場を設けるとともに地域のつながりの強化を図ることができている。地域人材の発掘にも役立っている。

事業を実施して

児童や学校の状況・ニーズ等をよく把握し、学校のよき理解者であり、地域に精通している者をコーディネーターとして配置したことにより、地域・保護者からの行き届いた支援を受けることができ、体験学習や学習支援の内容では、体験の幅が広がり専門的なことを学ぶ機会につながっている。また、学校を核とした地域のつながりの強化が図れている。教職員の地域行事への参加も増えた。学校は、地域に支えられ、一方で、地域に貢献するという双方向の関わり合いによって、「地域に根ざした学校」として開かれた存在になってきている。

その他

若葉小学校支援地域本部は学校からのニーズを学校支援地域本部コーディネーターが受け、地域の人材を適確に活用し運営されている。平成27年度で学校支援地域本部の立ち上げから4年目を迎え、学校支援地域本部と学校支援地域本部コーディネーターの認知度が高まり、教員・保護者・地域から必要不可欠な存在となっている。今後も「共に」子供たちを育てていく活動を継続し、さらなる推進を図っていく。



「若葉の杜にホタルを飛ばそう」（理科委員会にて）ホタルの飼育について聞こう。



「サマーチャレンジわかば」（浴衣着付け教室にて）浴衣を着て夏祭りに参加しよう。

東京都小平市

活動名

小平八小コミュニティ・スクール&きらきら☆ランドによる活動

関係する学校

小平第八小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	2人	100人	21年度	有	有	有	有
放課後子供教室	コーディネーター数	ボランティア登録数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	35人	249日	有	有	有	有	
コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携			
	余裕教室、校庭、体育館、図書室、公民館			19年度	一体型			
指定日					委員数	児童生徒数	学級数	
平成23年5月1日					14人	404人	12学級	

活動の概要・経緯

本校の放課後子ども教室は、平成16年度「地域子ども教室」としてスタートし、平成19年度からは「放課後子ども教室」となり、平成27年度は8割近くの児童が登録をしている。24教室年間400回以上活動している。小平地域教育サポート・ネット事業（学校支援地域本部事業）は、平成21年度から開始し、コーディネーターが中心となりボランティアなど地域人材の確保に当たっている。コミュニティ・スクールは、平成23年度に指定されてから現在2期5年目を迎えている。月に1回学校経営協議会を開き、子供たちのための話し合いがされている。3つの活動が連携して子供たちを支援している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・放課後子ども教室・・・「お琴」「英語教室」「陶芸教室」など。「はちの子教室」は、宿題を見てもらえる。
- ・学校経営協議会・・・委員14名。地域・PTA会長、中学校長、社会福祉協議会職員で構成。学校側から事務局として教員が4名参加。CS便りは、委員の中の広報部で作成、学校が修正・印刷・配布を分担。小平八小、小平三中、花小金井南中と青少年対策第八小地区委員会や公民館、児童館の予定を一緒に載せた「コミュニティ・カレンダー」を発行している。

【実施に当たっての工夫】

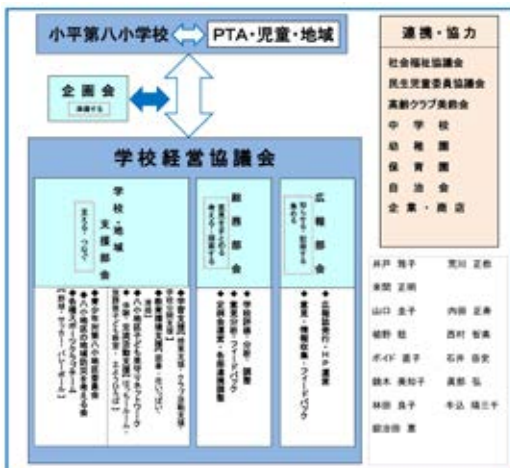
- ・放課後子ども教室・・・空き教室や体育館・校庭の場所の確保。保護者から安全管理のボランティアを募集。子供同士のトラブル等の際は、担任が子供の指導に当たることもある。
- ・学校経営協議会・・・CS便りを学校側が作っていたものを、協議会委員が作り、負担感を減らした。CS便りの年間予定を作成し、委員が記事の取材・原稿起こしを分担している。

事業を実施して

- ・学校と地域が一体となり、同じ目線で子供たちを育てることができている。コミュニティ・スクールであることの利点を、保護者・地域・教員が共有できるように研修会を開き確認している。少しずつ理解が広がっている。

その他

- ・学校経営方針にも、放課後子ども教室との補充・深化・統合・発展をうたい、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を目指している。
- ・ボランティアは、PTAと連携し「一人一役」を基本に全家庭に募集している。



学校経営協議会組織図



清掃ボランティア

神奈川県横浜市

活動名

ひぐみ共育くらぶによる活動

関係する学校

東汲沢小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 177人	開始年度 26年度	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 273人	開始年度 23年度	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日 平成23年10月3日			委員数 15人	児童生徒数 510人	学級数 21学級		

活動の概要・経緯

地域の教育力を生かした学校運営を展開していく上で、学校と地域をつなぐ役割を担い、学校運営に直接参加できる組織が必要であるという背景から、平成23年、学校運営協議会を設置。同年、既に活動していた「見守り活動」「昔遊び」「畑作業」「図書ボランティア」などの様々な活動を組織的・継続的に行うために、学校・地域コーディネーター2名（元PTA会長・元自治会長）を中心に「ひぐみ共育くらぶ」を立ち上げた。「ひぐみ共育くらぶ」と学校運営協議会が協力して、東汲沢小の教育活動を支援し、保護者・地域の学校への理解を深めている。学校・地域コーディネーター2名は、学校運営協議会に委員（有識者）として参加し、学校・PTA・自治会・町内会・学校支援ボランティアをつないでいる。学校の実情やニーズをよく知った学校・地域コーディネーターが学校運営協議会に参加することは、学校と地域住民が共に学校を運営していく上で大きな力となっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

■学習支援に関する活動

昔あそび支援・秋と遊ぼう（1年生）、学区探検活動支援（1～3年生）、消防署見学支援（4年生）、家庭科ミシン支援（5～6年生）、キャリア教育支援（職場体験）、AET（英語指導助手）のサポートを行う「YICA（横浜国際コミュニケーション活動）」支援、読み聞かせ支援、総合学習「戸塚ヒストリー」支援（6年生）

■学校環境に関する活動

花壇や樹木手入れ、学校設備補修支援、図書の整理・修繕・掲示などを学校司書と連携して行う図書室環境支援。椅子の脚につけるテニスボールの穴あけ。

■安全に関する活動

「登下校見守り活動」（毎日地域をあげて子供たちを見守っている）、校外学習引率支援、新1年生の生活支援等

■地域行事活動

「ひぐみ風の子餅つき体験と昔遊び」（ひぐみ共育クラブ主催、各町内会後援）12月の土曜日に、多くの子供たちが、地域の方々の指導のもと、様々な昔遊びを体験した。

「もの作り教室支援」（PTA、おやじの会、神奈川土建と連携）夏休みに体験教室開催、地区センターまつりへの参加、地域防災拠点訓練への参加、防災・防犯イベントへの参加等

【実施に当たっての工夫】

- (1)学校運営協議会、学校・地域コーディネーターの活発な相互連携により、学校への理解が深まった
- (2)地域交流室の校内設置により、学校・地域コーディネーターや地域のボランティア等が常駐できるようになった。
- (3)学校の教育方針・ニーズをくんだボランティア活動の実施により、学校の要望に沿った支援をしている。
- (4)ボランティア人材バンクや支援事業管理表のデータベース化により、地域年間行事の把握とスケジュール管理が可能となった。

事業を実施して

教職員や地域の方々の絶大な理解と協力により、地域交流室やデータベースの整備が実現した。作業の効率化により、学校から要請される学習支援事業を100%実施することができた。今後は学校からの要請にタイムリーに準備できるよう、教職員との連絡方法の改善と学校・地域コーディネーターの増員をしていく。また、3度目の開催となった「ひぐみ風の子餅つき体験と昔遊び」は平成26年度よりひぐみ共育くらぶが主催者となり、より多くの地域の方々に声をかけ発展させることができた。学校の教育方針に従い、ニーズを受けて、重点項目実施に必要な地域の方々の力を頂いた。地域の方々にも、子供たちと向き合いボランティア活動を楽しんでいただくことを再確認した。



昔遊び こま回し



風の子 餅つき体験

その他

(1)広報活動

学校・地域コーディネーターや、学校支援活動事業について、学校説明会、PTA総会、学校公開日等でその都度紹介している。「ひぐみ風の子餅つき体験と昔遊び」などの地域行事は、学校だより等で保護者や地域の方々に紹介している。また、「ひぐみ風の子餅つき体験と昔遊び」は教育委員会事務局が作成した冊子「学校と地域のよりよい連携をめざして」に掲載され、横浜市内全学校で紹介されている。

(2)学校との地域連携事業

東汲沢小創立40周年記念実行委員と学校・地域コーディネーターが連携協力している。

地域が支えるプログラムによる 子供たちが楽しみや喜びをわかちあえる関係づくり

神奈川県横浜市

活動名

菊名小学校放課後キッズクラブによる活動

関係する学校

菊名小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	82人	256日	有	無	無	無	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
キッズルーム等				20年度	一体型			
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

菊名小学校放課後キッズクラブは平成21年3月の開設以来、子供たちにとって安全・安心して過ごせる居場所であることと合わせて、家庭への支援としての位置づけや、異年齢の交流や地域の方との交流など「体験」を通じた「学び」を大切に活動を実施している。

地域交流、スポーツ体験、クラフト体験、国際理解、おでかけ活動体験など、年間を通じて様々な活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・防災体験：地域の消防団の方々を招き、消火体験や、救助に必要な知識や道具の使い方を学ぶ。
- ・布草履体験：地域のNPO法人の指導による親子での布草履づくり体験。
- ・けん玉体験：昔遊び体験の機会として、地域のけん玉協会の方々にお越しいただき、けん玉に触れ、検定にチャレンジ。
- ・カロム大会：近隣のキッズクラブと合同でカロム（ビリヤードに類似した盤上ゲーム）の大会を実施している。大会前には、キッズクラブでの予選会を開催し、学年を問わず一緒に楽しむ活動のひとつとなっている。
- ・打ち水大作戦：地域交流の一環として、地域で実施している打ち水大作戦へ参加している。
- ・クリスマス会：地域の方によるミニコンサートなどを開催。
- ・国際理解：外国の料理を作ってその国のことを学んだり、他国の方を招いての交流、市内の異文化交流施設へ出かけたりと、異文化にふれる機会を設ける。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域の方々との顔の見える関係作りを通じて、安心して過ごせる地域、もしもの時の防犯・防災につなげていけるよう取り組んでいる。
- ・お互いを認め合い、共に学び合いながら、成長し合える空間になるように活動を実施している。
- ・運営や活動に関してアンケートを実施するなど、参加者の声を大切にしている。
- ・放課後子ども総合プランの趣旨をふまえ、評議会を設置しているほか、日常の活動においても学校と緊密に連携している。



消防団の指導による防災体験

事業を実施して

- ・はじめは、自分のためにと参加してきた子供たちも、自分と友達のために、さらにはクラブに参加しているみんなのために行動ができるようになっていく。
- ・様々な体験を通して、子供たちが自分の考えや視野を広げるとともに、相手の気持ちに寄り添い、認め合うことも学んでいる。
- ・保護者の方々もボランティアとして参加してくださり、保護者の協力やキッズへの深い理解をいただいている。

その他

キッズクラブ運営に関わるスタッフは「おもいやり、おもてなしの心をもった対応」「誠実さ、公正で誠実な運営」「責任感、安全・安心そして快適さの提供」「尊敬心、大切な利用者のための事業・情報提供」を大切に、常に保護者や利用者の声に耳を傾け「キッズに来て良かった」「また利用したい」と言ってもらえるような運営を進めている。



地域の方とのクリスマス会

年間を通じた、学校の下支えとなる支援活動

神奈川県座間市

活動名

座間中学校地域交流協議会

関係する学校

座間中学校

活動区分		※ H26年度の実績（補助の有無についてはH27年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

平成8年の座間中学校50周年を機に、記念行事を執り行った役員が中心となり10年度に発足。25年には座間市の協働事業の認可を受けて、座間中学校の校庭の芝生化事業に取り組み、芝生を設置だけでなく、メンテナンスにも協力している。その他にも、校内の池の移設、樹木の手入れ、体育祭や卒業式・入学式前の環境や花壇の整備、市「大風祭り」への生徒参加の支援、夏季休業中の夏祭りの安全パトロールなど多岐にわたった活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】
年間を通して日常的に学校を支援しているので、多くの会員が生徒と顔の見える関係を築いている。また、地域と学校をつなぐパイプ役を果たすだけでなく、会員が学校に関わる地域の諸団体に所属しているので、関係団体相互をつなぐハブの役割も果たしている。全会員がボランティアによる活動を行っているのも特徴である。

【実施に当たっての工夫】
PTAのOBや青少年健全育成連絡協議会構成員や自治会など多くの支援者から構成されており、学校の要望に沿って学校の教育活動の支援に取り組んでいる。

事業を実施して

校地の芝生化により、生徒の憩いの場を提供し、また会員と生徒ボランティアとの協働により芝生の維持に努めているので、生徒にとっては本協議会が身近な存在となっている。行事前に環境整備を行うことで、学校を訪れた人からきれいな学校であると高い評価を頂いている。樹木や花壇にきれいな花が植えられているので、生徒や保護者だけでなく、地域住民も季節の花を楽しみにしている。

その他

事務局から季刊「地域交流だより」を発行しているので、下記アドレス座間市立座間中学校HP（下記URL）を是非御覧いただきたい。



芝刈り（環境整備）



花壇の整備（環境整備）

学びの拠点としての学校づくり ～ボランティアが運営する学習塾もやっています！～

新潟県新潟市

活動名

山潟小学校学校支援地域本部

関係する学校

山潟小学校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
学校支援地域本部	1人	68人	21年度	有	有	有	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	3人	89人	58日	有	有	有	有
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	体育館、家庭科室、グラウンド、図書館、視聴覚室、ボランティア室				16年度	連携なし	
	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

本事業に取り組み7年目。「子供が多くの人に見守られ、必要な支援で学習がより楽しくよく分かる学校」「保護者や地域住民が趣味・特技、興味・関心を生かし支援ができる学校」を目指し取組を拡大。

- 各教科・総合的な学習における日常のゲストティーチャーやボランティア参加（活動日数200日、年間のべ4,500人を超える実績）。
- 地域住民・保護者の学びの場として、「朗読会やブックトーク」「親だって英語！」等の講座を実施し、その成果をボランティアとして子供に還元。
- ボランティア事務局の運営等、主体的な組織体制を構築し、参加者に主体性をもたせつつ、持続を可能にする事業運営。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 1 ボランティアが主体となって子供とかかわり運営する学習支援 ～「山潟小学習塾」～
 - ・学習支援ボランティアがプリントの提供、学習の見守り、採点する活動。
 - ・児童は宿題とは別の自主学習として取り組み、保護者はボランティア協力。
- 2 学校に楽しい活動や居場所がほしいの放課後子供教室 ～山潟小ふれあいスクール～
 - ・水曜日の放課後、土曜日の午前に実施。
 - ・毎回楽しい手芸や工作を体験。特に土曜日の実施時は地域から物作りの専門家を招へいし、多数の子供が参加。
- 3 世代を超え地域住民が運営、交流するイベントの実施～文化の祭典「地域ふれあいフェスタ」～
 - ・秋の一日、取組の発表、物作り・遊びや餅つき大会等を実施。
 - ・子供や保護者・地域住民が共に活動し、交流する機会として定着。

【実施に当たっての工夫】

- 学校を拠点に各種連携を計画・発信していくために、学校内にボランティア事務局を設置し11人の事務局員が活動。
 - ・毎日、地域教育コーディネーターを核として6～7人の事務局員が役割分担しながら常駐。
 - ・SNSを利用した情報交換と茶話会、交流会をととしたネットワークづくり。
- 関係者が互いに有用感をもつ連携の推進
 - ・各専門学校の学生を中心に教材園の土作りや野菜の育て方、運動に関わる技術指導、クラブ活動補助等の活動。

事業を実施して

- 地域和学校として、子供をみんなで支えより良く育てようとする意識が醸成。
- ・学校教育ビジョンの課題解決に地域・保護者が関わりながら、共通理解のもと一貫した取組。
- ・小学校を卒業した中学生や高校生、大学生のボランティア増加に伴う世代交代の意識の醸成。
- ・ボランティアから「学校に来ていることの必要性や自身の学び、意識の向上につながっている。」「ボランティア活動は、続けていくことでたくさんの発見や喜び、充実感が味わえる。」との反応。

その他

- 個別に支援が必要な児童の学習・生活補助等のための学習支援ボランティア登録者が39人。
- 連携企業、NPO等：・第四銀行・鳥屋野潟漁業協同組合・視覚障害者福祉協会・新潟農業バイオ専門学校・新潟高度情報専門学校ほか
- 新潟高度情報専門学校教官によるICT教育支援（授業における機器活用支援、クラブ活動におけるプログラミング体験ほか）



保護者による読み聞かせ



大根づくり（専門学校と連携）

地域文化とのかかわりを通して、 亀田の未来を築く子を育てる活動

新潟県新潟市

活動名

亀田西小学校学校支援地域本部

関係する学校

亀田西小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

本事業に取り組んで5年目。「地域文化とのかかわりをとおして、亀田の未来を築く子を育てよう」をスローガンに掲げ、事業を開始。「地域の人・ものとかかわる活動なくしては地域への愛着は育たない。」「住んでいる地域のよさを肌で感じてこそ、地域を自慢に思う。」との理念の下、年間のべ3,200人を超えるボランティアの力を借り活動を推進。

- 1 地域文化と関わり、地域に誇りをもつ児童の育成
 - ・地域文化に関わる活動、地域風俗に関わる活動を通して、地域住民や諸団体との協働事業を推進。
- 2 日常的に地域に開かれた学校
 - ・登下校、授業中や休憩時間、放課後等、校内外のあらゆる場面で、常にボランティアが見守る体制を確立。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 1 地域文化と関わり、地域に誇りをもつ児童の育成 ～亀田の名産 藤五郎梅の利用～ ～伝統織物 亀田縞の保存～
 - ・地元特産の藤五郎梅を使った活動を梅農家の協力で実施。
 - ・地元の伝統織物「亀田縞」保存のため、日本固有種の綿の栽培を地元業者の協力で実施。
- 2 地域イベントへの参加を通じた地域愛の醸成 ～亀田祭り「岩万燈」の製作と「お囃子」「押し合い」への参加～
 - ・「岩万燈」を地元団体の協力で製作。お囃子をボランティアの指導で練習。「押し合い」をボランティアの見守りで体験。

【実施に当たっての工夫】

- 1 ボランティアと年1回の説明会（4月）、年数回の交流会(適宜)、年1回の反省会を実施し、学校とボランティアが情報を交換。
- 2 コーディネーターによるボランティア方法のレクチャーと成果の紹介による参加意欲の喚起。
- 3 ボランティアにとって見やすく分かりやすいボランティア通信の発行。
- 4 取組を保護者、地域住民に広く公開し、理解と協力を促す「ウェルカム参観日」を開催。

事業を実施して

- 地域文化と関わる活動、地域風俗にかかわる活動では、専門家の参画により充実感を覚える子供が増加。
- 活動後、ボランティアから「ボランティアに参加してその大変さを実感した。今後も参加したい。」など、満足感、自己有用感の高まりを実感。
- ウェルカム参観日の参加者から「地域のボランティアが子供たちの将来を考え、願いや思いをもって活動していただいていることを聞いてよかった。」「この活動は10年、20年過ぎたころに成果が出るのではないかな。子供が大人になった頃に地域のために活躍するのは間違いない。」など、今後の事業展開に期待を寄せる声が多数。

その他

- 学習支援：1、2年の国語、算数の授業で、学習補助支援を実施。また、特別に支援が必要な児童に支援を実施。
- 連携企業・NPO： ・亀田製菓 ・中宮機業 ・NPOジュニサポ ・NPOバル21 ・NPO亀田縞応援隊



3年生の梅干し作り体験



4年生の岩万燈披露

新潟県上越市

活動名

春日小学校

関係する学校

春日小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数
		平成 24 年 4 月 1 日				13 人	728 人	29 学級

活動の概要・経緯

- ・年2回（4・8月）、地域の代表である学校支援本部コーディネーター（地域ボランティア）及び学校運営協議会委員と教職員がカリキュラム検討会で今後の教育活動について検討する。
- ・隔週火曜日に5名の学校支援本部コーディネーター（地域ボランティア）が地域連携室に参集し、主に各学年の教科（生活科や社会科）や総合的な学習の時間についての依頼（人財、素材、引率等）に応じ、人財や素材の情報提供や引率日程調整をする。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・1年生へのヤギ小屋づくり
- ・2年生への畑の土づくりや畑づくり、成長過程への支援・アドバイス
- ・3・4年生の地域探検の人財派遣や引率
- ・5年生のコメ作りの講師

【実施に当たっての工夫】

- ・年度当初でのカリキュラム表の作成
- ・学期末のカリキュラムの振り返り
- ・隔週火曜日に来校する学校支援本部コーディネーターへの支援依頼がスムーズに行われるような日程調整や声掛け

事業を実施して

- ・学校職員が知らない地域の人財や素材を地域の方々から教えてもらったり、実際に講師となって児童に分かりやすく説明していただいたり、引率をしていただいたりしたおかげで、特に生活科や社会科の教科や総合的な学習の時間での学習が広がり、深まった。

その他

- ・学校を支援して下さる方々は、地域にはもっといらっしやると考える。人財バンクを作成し、整備を図るとともに、より多くの人財の発掘に努める。
- ・小中一貫教育を推進するために、春日小学校だけでなく、高志小学校や春日中学校とも同一歩調で活動が進められるように協働していく。



職員とのカリキュラム検討会



生活科支援（畑の畝づくり）

地域の教育力を生かして、 子供たちの健やかな成長を目指す寺子屋事業の実践

新潟県五泉市

活動名

のびのび学習教室「寺子屋」事業による活動

関係する学校

市内全小学校区（9校）

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	348人	163日	有	有	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		会議室、集会所、特別教室、体育館など			18年度	連携なし		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
コミュニティスクール								

活動の概要・経緯

- 平成18年度から五泉小学校と村松小学校を対象に寺子屋教室を開設。平成19年度は対象校を6校に増設。平成20年度から市内全小学校区で寺子屋を開設した。
- 市内在住の退職教員、主婦、僧侶、教員を志望する大学生等を指導者として、宿題を中心とした自主学習と体験活動の支援をしている。
- 実施期間は5月下旬から翌年3月上旬までで、祝祭日・学校の休業日を除く平日の放課後、週3回実施している。
- 開設当初は、市や地域の施設を学習会場としていたが、より安心で安全な居場所とするため、学校の空き教室への移設を進めている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 児童7名に対し1人の指導者を配置し、個に応じた支援を通して基礎学力の向上を図っている。
- 集団での遊びにも力を入れている。異学年間の交流を図ることにより、他を思いやる心やリーダーシップ・フォローシップを育みながら豊かな人間関係を醸成する場となるよう努めている。

【実施に当たっての工夫】

- 寺子屋事業開始前に保護者会を開催し、寺子屋教室の趣旨を理解していただくよう努めている。
- 指導者の資質の向上を図るために、学校教育課と連携しながら寺子屋指導者研修会を実施している。
- 寺子屋教室の問題点を解決するための指南書として、平成26年度に「寺子屋指導の手引」を作成した。寺子屋指導者研修会の際、指導者の教科書として活用している。
- 各寺子屋教室で工夫していることや困っていること等について情報交換をする場として、教室代表者会議を実施している。

事業を実施して

- アンケートでは「寺子屋ではいろいろな遊びをして、たくさんの友達や先生と貴重な時間を過ごさせてもらいました。」等、たくさんの感謝の言葉を頂いている。今後も、より子供たちの思いや願いが実現する寺子屋教室を目指す。
- 指導者は平均年齢60歳以上と高齢であるが、子供たちとともにいきいきと学習活動をしている。世代間交流の場としても意義あるものと思われる。

その他

- 市の事業と連携し、ごみの分別についての体験学習を実施する教室や、市内在住のマジックやバルーンアートの達人を招いて児童の参加意欲を高める教室等が見られる。今後も子供たちの健やかな成長を願い、指導者の創意を生かした活動を展開してほしい。



五泉南教室（集会所）



橋田教室（学校内）

地域の子供は地域で見守る、みんなで参加「寺子屋教室」

富山県魚津市

活動名

加積子ども教室

関係する学校

吉島小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	12人	38日	有	無	無	無	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	
研修室、和室、多目的ホール外				19年度	連携型			

- 活動の概要・経緯**
- ・毎週月曜日と木曜日に、放課後の子供たちの活動拠点の確保として、「寺子屋教室」を実施している。
 - ・活動には地域住民や近隣の高校ボランティア部の生徒、地区社会福祉協議会関係者等が、教育活動推進員や教育活動サポーターとして参加し、地域ぐるみで子供の放課後活動を支援している。
 - ・親子参加型の体験教室も行っており、七夕飾り・クリスマスリース作り、夏の映画上映会、編み物教室、和菓子作りなどを実施した。
 - ・「地域の子供は地域で見守る」という観点から、教室の活動を地域の大人たちがサポートしている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・寺子屋教室
夏休み期間に、社会福祉協議会(地区・市)の協力のもと「福祉体験教室」を開催し、手話の練習や手話コーラスなどを行ったり、市教育委員会学芸員による「勾玉づくり体験」を行ったりしている。
- ・親子参加型教室
土曜日を利用して、夏の映画上映会、七夕飾り・クリスマスリースづくりなど親子参加型の教室を実施してふれあいの場を提供している。

【実施に当たっての工夫】

- ・「寺子屋教室」の実施により、放課後児童クラブで活動できない児童にも活動場所を提供している。
- ・地域住民や地区組織、近隣の高校生が教育活動推進員や教育活動サポーターとなり、各々が得意分野の活動を指導している。
- ・「加積子ども教室サポート委員」を委嘱して子ども教室の在り方について協議したり、積極的に教育活動推進員や教育活動サポーターを務めたりすることで、地域を上げて子ども教室を支援する体制を構築している。

事業を実施して

- ・「寺子屋教室」では、地域の方々の協力体制のもと、子供に安全で安心な活動拠点を設けることができた。今後は活動のテーマごとに基礎編・応用編を作り、体系的な活動ができるように内容の充実を図る。
- ・放課後児童クラブとの連携型を実施することにより、クラブの子供たちもプログラムに参加することができ、よい体験ができています。

その他

- ・地域住民、近隣の高校生が教育活動推進員や教育活動サポーターとなることで、地域で見守り、育てる教室になっている。



寺子屋教室（福祉体験教室）の様子



親子参加型教室（勾玉づくり）の様子

地域の4公民館が連携し、手作り教材で考える力を育てる放課後子ども教室

富山県砺波市

活動名

庄川子どもわくわく教室

関係する学校

庄川小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の実績）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	15人	20日	有	有	無	無
実施場所	庄川小学校		開始年度	放課後児童クラブとの連携				
指 定 日	19年度		一体型					
委員数	児童生徒数		学級数					

活動の概要・経緯

- ・庄川小学校区の子供たちの放課後における安全で安心な居場所を設け、地域の方々の協力を得て、異年齢交流や世代間交流を行うことを目的としている。
- ・公民館事業を母体とするのではなく、独自事業として新たに実施するモデルケースとしてスタートした。
- ・活動は、国語・算数を中心とした問題解決的な学習、伝承文化教室（折り紙、読み聞かせ、昔遊び等）等、多様な活動を行っている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・地域の連携を強化するため、校区の4公民館から役員を出して運営委員会を組織し、より地域に根差した活動を実施している。
- ・学習活動では、1～3年生がグループになって協力し合い、自分たちの力で答えを導き出そうとする問題解決的な学習をしている。今の教育に必要な「考える力」を養うことができる教室である。
- ・伝承文化教室では、読み聞かせ、折り紙及び昔の遊びを通して、子供たちに昔のことを伝える。

【実施に当たっての工夫】

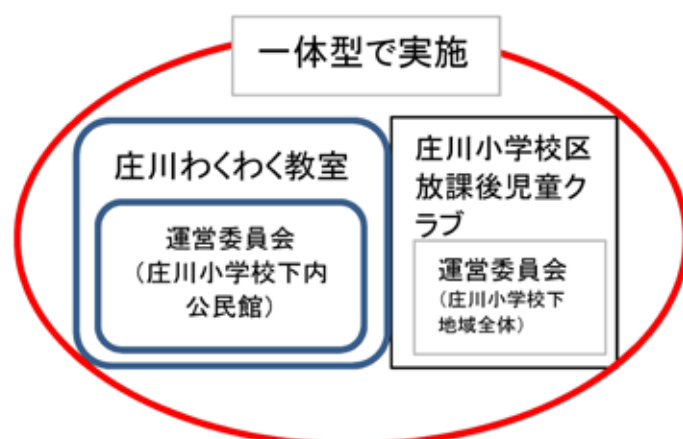
- ・学習活動では、推進員が毎回工夫を凝らした教材を作成し、かるたやゲームを通して、グループ間で競い合ったり協力し合ったりしている。また、童話の主人公、アニメのキャラクターを取り入れるなど、楽しく学べるようにしている。
- ・放課後児童クラブとの一体型の連携を進めることで、クラブの子供たちにも、問題解決的な学習の場を提供し、「考える力」を育てている。
- ・読み聞かせは、推進員が選んだ絵本、紙芝居で行い、子供たちは集中して聞いている。
- ・折り紙や工作は、季節やストーリー性のあるものを取り入れている。

事業を実施して

- ・手作り教材を使うため、子供たちが楽しみながら答えを導き出し、集中して学習することができる。また、根気よく教えていると最後はできるようになり、達成感を得ている。
- ・読み聞かせでは、子供たちが集中して聞きながら感受性豊かな心を育てている。
- ・折り紙や工作は、毎回全員が興味関心をもって取り組んでいる。
- ・放課後児童クラブの子供たちもプログラムに参加し、満足感を得ている。

その他

- ・国語と算数を1～3年生が一緒になって学ぶので、理解度に差があるが、グループになって協力し、答えを導き出したり競争したりと様々な形で、実施している。終了後、個別に宿題を見ることもある。



地域連携による放課後子ども教室



算数かるたの様子

地域の様々な年代の方との関わりにより、地域ぐるみで生徒を見守り育む活動

石川県金沢市

活動名

北鳴中学校支援地域本部

関係する学校

北鳴中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	94人	23年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・地域教育協議会（年2回開催）
- ・学校支援ボランティア活動は、学習支援（赤ちゃんふれあい授業、サマースクール）、環境整備、学校行事支援、部活動支援、安全指導等を行っている。
- ・活動5年目となり、地域の方がいろんな活動で学校に関わる機会がぐっと増えた。
- ・地域の親子や様々な年代の方々との触れ合いの中で、生徒は地域に対する愛着や親近感を強くすることができた。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・年3回環境整備活動を実施し、ボランティアの方々と校舎内外の環境整備を進めている。
- ・学習支援において、家庭科の授業で「赤ちゃんふれあい授業」を行い、地域の親子の協力を得て、9月～10月にかけて生徒が乳幼児と遊んだり、育児の話の聞いたりする機会を設けている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校ホームページや回覧板を利用して、活動ごとにボランティアの募集や活動報告を行っている。
- ・地域の子育てサロン（※1）や地区児童館のかんがる一教室（※2）に参加している親子に、赤ちゃんふれあい授業への参加協力を依頼している。
 - ※1 各地区社会福祉協議会で実施している、未就園児とその親が集まる場
 - ※2 各地区児童館で実施している、1～2歳の幼児とその親が集まる場

事業を実施して

- ・年ごとに活動内容も広がり、本校の学校運営全体から見ても、欠かせない事業となっている。
- ・地域の方は自分のできる分野、できる範囲で学校を支援してくださり、生徒たちは地域のおかげで学校がきれいに保たれたり、いろいろな活動や授業が行われたりしていると感じ取っていると思う。

その他

行事や活動を通して、生徒たちは地域の方と触れあう機会が増え、生徒の活動に幅が出て、教科書では学べない多くの体験ができた。



赤ちゃんふれあい授業



メタカの放流とゴミ拾い

地域を元気に楽しくさせる「いきいき塾」

石川県加賀市

活動名

三木っ子いきいき塾による活動

関係する学校

三木小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	4人	40人	21年度	有	無	無	無	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

三木っ子いきいき塾は、「地域の子供は地域が育てる」をテーマに掲げ、休日に子供たちが仲間や地域の方々と一緒になって有意義な活動ができるようにと、平成21年度から開催されている。地域の大人が自分の得意分野を生かした「まちの先生」となって教室を開いており、子供は年間を通じて1つの教室に通う。

- ◆活動日・時間◆ 毎月第2土曜日（教室によっては、第1土曜日、第3土曜日のものもある） 10:00～11:30
- ◆内容◆ 三木おもしろ探検隊、グランドゴルフ、たのしいイラスト、やきもの、習字、ペーパークイリング、土曜図書館、きり絵、たのしい三味線、親子エアロビ、抹茶教室、夏休みさわやか学習会（夏休みのみ）
- ◆参加者◆ 三木小学校の1～6年生の児童、三木保育園児童（土曜図書館のみ）
- ◆指導者◆ 「まちの先生」…趣味や特技を持った地域の大人が中心となっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「三木おもしろ探検隊」では、三木地区だけではなく加賀市全体の名所・旧跡を実際に訪れ、より深い郷土学習を行っている。
- ・「楽しい三味線」では、三味線の技術だけでなく、地域の民謡も伝えている。
- ・夏休み終盤に「さわやか学習会」を開催。生活リズムの改善を目指し、2学期の準備をさせている。

【実施に当たっての工夫】

- ・年間を通じて1つの活動を行うことで、子供が「まちの先生」や同じ教室の仲間と継続的な関係づくりをすることができる。
- ・「いきいき塾」は学校や家庭以外での子供の成長の場を提供している地域の活動であるが、安全管理面などで学校・家庭と連携をしている。また、保護者も参加する秋の文化展で活動の様子のパネル展示を行っているほか、参加した児童の感想や活動の様子などを小学校にも提供している。普段目にする事の無い子供の側面を見ることができ、保護者や教師が子供に対する視野を広げる機会となっている。
- ・安全確保のため、保護者に送迎を依頼している。また、緊急時の連絡網を整備し、8月にはスタッフや子供を対象とした防災・防犯避難訓練を行っている。

事業を実施して

- ・子供が普段ふれあう機会のない地域の大人と関わることにより人間関係が広がり、日頃から自然と挨拶をし合うようになるなど、地域の結びつきが強まった。
- ・参加している児童が、学校でも家庭でもない環境で異年齢との関わり方や自主性を身につける機会となっている。
- ・「いきいき塾」発足から7年目に入り、現在参加している児童が来年の活動について考えるなど、地域に定着してきている。

その他

- ・三木地区には児童クラブや児童センターがなく、地域の子供の活動は小学校の正面にある地区会館が中心となっており、「いきいき塾」には小学校全校児童（50名程度）のうち、半数以上が参加している。
- ・三木地区は郷土学習に力を入れている地域であり、地区会館が中心となって「三木っ子ふるさとカルタ」を作成している。毎年、子供たちが絵札を描き、「いきいき塾」の「発足会」や「ありがとうの会」ではカルタ大会を開催している。



三味線・民謡を学ぶ「楽しい三味線」



「ありがとうの会」での三木っ子ふるさとカルタ大会

中海の自然を知り、郷土愛を育む

石川県小松市

活動名

かすかみ自然学校による活動

関係する学校

中海小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	25人	26年度	有	無	無	無	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
 平成26年度は、連合町内会長、校下公民館長、育友会会長、老人会会長、小学校長、保育園長、民生委員からなる、かすかみ自然学校運営委員会を設置し、年間11回の土曜学習を実施した。中海小学校区は、山や川、多くの生物などの豊かな自然に恵まれており、直接自然に触れ合っという機会が減っている今の子供たちが、触る、味わうといった直接モノと触れる体験をすることで五感を鍛え、自己を成長させるとともに、地域の人と交わり、自分たちの住む地域の良さを知ることによって郷土愛を育むことを目的として本年度も引き続き活動している。

特徴

【特徴的な活動内容】

かすかみ川の水中生物を知ろう、秋の里山散策、小学校周辺の環境保全とネイチャー遊びといった、中海小学校区にある自然を生かした体験型学習を実施している。

【実施に当たっての工夫】

育友会や地域の人たちといった、地域の人材を活用した、活動を実施し、学校・家庭・地域が連携して土曜学習の充実を図った。

事業を実施して

地域の人たちの協力もあり、多くの児童が参加した。日常生活では、体験することができない活動のためか、最初はおっかな・びっくりの子供もいたが、段々と慣れ、笑顔で自然に触れていた。子供たちが地域の人たちに質問する姿から、学校・家庭・地域が連携した子供にとって有意義な土曜日の実現を実感した。

その他

これからも自然体験型学習を継続していくために、特定の人に過度の負担がかかることがないように、引き続き関係者の協力を得て活動を実施していきたい。



ほたる観察会（現地に行く前の講義の様子）



かすかみ川での水中生物観察

第4土曜日に、ワクワクしたい人「この指、と一まれ！」

石川県かほく市

活動名

高松第4土曜
WAKUWAKU 教室による活動

関係する学校

かほく市立高松小学校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）
土曜日の教育活動	コーディネーター数 1 人	子供の平均参加人数 40 人	開始年度 7 年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

学校週5日制が段階的に施行され、平成7年4月から土曜の休日が月2回になった。この休日を活用して、子供たちに豊かな経験をさせるため、学校とPTAの理解を得て、地域の有志が中心となって活動を始めた。第4土曜日の午前中、地域の風土を感じることでできる体験・活動を行っている。

〔活動日・活動時間〕

毎月第4土曜日（夏休みと冬休みを除く） 午前9時30分～11時30分（活動によって時間が一部変更となる場合がある）

〔活動場所〕

高松小学校の教室、体育館、グラウンド、学校周辺の市街地、大海川、河北潟周辺など

〔対象〕

高松小学校3～6年生で参加を希望する児童

特 徴

【特徴的な活動内容】

〔地域の風土に触れる体験〕

古くは金沢と能登を結ぶ能登街道（七尾街道）の宿場町として栄えた市街地のウォークラリー

〔自然に触れる体験〕

地域を流れる清流 大海川での鮎つり体験

野鳥の宝庫である市北部の河北潟でのバードウォッチング

〔スポーツ体験〕

ビーチボールバレー サイクリング グラウンドゴルフ ペタンク

〔室内での体験〕

たこづくり体験（たこあげ） クッキング体験

【実施に当たっての工夫】

活動に当たっては、子供たちが色々な面から自分の住む町への関心を深められるよう、文化・自然、スポーツ、人とのふれあいなど、できるだけ多くの分野での体験プログラムを実施している。また、活動グループには、高学年をチームリーダーとした縦割りグループを編成し、子供たちの社会性・協調性を育むよう努めている。

ウォークラリーでは、子供たち自身が安全・安心への意識を高めるため、コースの中で「子ども110番の家」を確認して回っている。この時には地元警察の協力で、パトカーや白バイの試乗体験なども行っている。

事業を実施して

子供たちは、ここでの体験を通じて、歴史薫る街角に立ち、また、川や湖沼に棲む魚や鳥達の生きる姿を目の当たりにして目を輝かせる。昔の子供たちには当たり前のことだが、時代が変わった現代では、子供たちだけで体験することは難しい。地域の大人の手助けが必要である。

地域の方々との出会いや、子供たち同士が学年を超えて交流できることも、ワクワクの秘訣である。初めて参加した子供たちはほとんど翌年で降も続けて参加している。

子供たちの笑顔に魅せられて、ワクワクボランティア暦が20年を超えるスタッフもいる。学校やPT、関係者の理解と協力、地域の温かい眼差しがこの活動を支えている。

その他

地域の方々を支えられ、これまで20年以上に渡って活動を続けることができた。これからも、地域の方々や子供たちと対話しながら、地道に取り組んでいければと考えている。



大海川での鮎つり体験



みんなでクッキング！

地域とともに歩むコミュニティ・スクールの創造——地域の「人・もの・こと」とつながり学び合う子どもたちの姿をめざして——

山梨県昭和町

活動名

押原小学校運営協議会

関係する学校

押原小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティ・スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		
	平成 26 年 5 月 1 日			15 人	289 人	14 学級		

活動の概要・経緯
 創立130年をこえる押原小学校は、旧村1校の地域住民に愛され、支えられてきている伝統と歴史ある学校である。地域とともに歩み、地域に根ざしたコミュニティ・スクールを目指し新たに歩み出した押原小学校は、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成とともに、押原小学校の教育課程のすべてをコミュニティ・スクールの視点・観点で見直し、地域に開かれた、信頼される学校として、ますます地域と連携・協力・協働した教育活動に努めている。押原小学校は、地域の中核的な存在として、ますます価値を高め、分離した町内の他校にもその成果を広めるべく活動を推進、展開している。

特徴

【特徴的な活動内容】

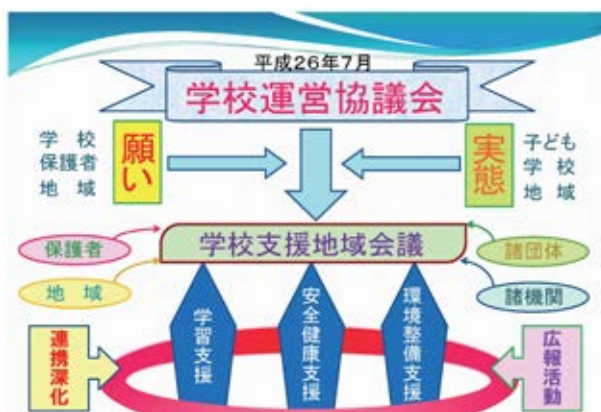
コミュニティ・スクールの第一歩として、町民や地域住民、保護者に押原小学校のことを、できるだけ知ってもらうことが大切であると考え、開かれた学校づくりを主眼に、積極的に学校の開放や発信する学校に努めている。地域住民や保護者には、「機会あるごとに、学校に「来て、見て、知って」の合い言葉を呼びかけている。「学校は敷居が高い」と思われがちである。我が子が卒業すると、全く関わりがなくなることも少なくない。学校がコミュニティ・スクールであると同時に、地域はスクール・コミュニティである。学校にとっても地域にとっても、互いにWIN・WIN、HAPPY・HAPPYの互恵的な関係を求めている。

【実施に当たっての工夫】

開かれた学校、発信する学校を目指し、授業参観、公開授業、学年行事、学校行事、児童会行事等の公開だけでなく、学校の情報を積極的に発信している。学校だより「コミュニティ・スクール通信おしほら」や各学年が発行する「CS通信」等のたよりも、保護者だけでなく、広く町民や地域住民に発信している。町広報誌や地域の回覧板等も活用している。また学校ホームページも日々更新している。コミュニティ・スクール導入促進事業として、学校見学会や保護者、地域住民のための給食試食会、地域の方々の作品を展示するスクールギャラリー、全校クリーン活動、落ち葉掃き集会など事業にも取り組んでいる。

事業を実施して

信頼される学校のためには、開かれた学校、発信する学校が必要不可欠である。地域に開かれ、地域とともに歩むコミュニティ・スクールとして歩み出した押原小学校への町民や地域住民、保護者の見方、考え方、関わり方も、確実によい方向へと変化してきている。コミュニティ・スクールの第一歩は、学校を知ってもらうことであると考え、学校に「来て、見て、知って」の姿勢が、町民や地域住民、保護者に安心感を与え、学校と地域の一体感が醸成され始めているようにも感じられる。「知ることは超（越）えることである」の言葉の通り、押原小学校をより知ることで、押原小学校のコミュニティ・スクール推進の観点である「熟議・協働・参画・互恵」が1つずつ形づくられている。



押原小学校学校運営協議会組織



蜂の放流活動

こんな活動です

たのしい放課後 たのしい教室！ ～地域住民との交流と多彩な体験活動を通して～

山梨県市川三郷町

活動名

市川三郷町放課後子ども教室
～たのしい教室～による活動

関係する学校

大塚小学校・上野小学校・市川小学校・
市川東小学校・市川南小学校・六郷小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	160人	90日	有	有	有	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	多目的ホール、パソコン室、和室				19年度	連携型	
	指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

目的

- ・放課後等における子供たちの安全で健やかな居場所づくりを推進する。
- ・地域の大人たちと地域の子供の交流を図り、地域で子供を育てる教育の場とする。
- ・子供たちにとって、縦の関係の中で学び楽しむ体験をする場とする。

内容

- ・木曜日を活動の基本日とし、放課後の時間帯（授業終了後から午後4時半まで）に体験活動を中心に行う。（夏休みは特別の日程とする）
- ・各地区の公民館主事が担当し、地域の方に安全指導員として協力を依頼する中で子供たちとの活動をリード及び支援していく。
- ・各講師及び学校との連絡調整はコーディネーターが行い、年間計画を作成する。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・コーディネーター、指導員の人脈を生かした、地域の方々が講師となって行う多彩な体験活動（茶道、粘土工作、英会話、書道、歌、花植え等）を行い、子供たちが興味関心を抱くような内容で毎回実施している。
- ・夏休み特別教室として、夏休みを利用したパソコン教室、太鼓教室、一日教室を行っている。
- ・コーディネーターを元教員にお願いしており、また安全指導員も地域の大人であるため、学校や児童クラブとの連絡調整に無理がなく、良く連携できている。

【実施に当たっての工夫】

- ・地域の方を講師に呼ぶことで経費を節約している。
- ・夏休みの一日教室は県内の工場や福祉施設等への見学など、毎年違った内容で行っている。
- ・学年だけでなく地域を含めた縦のつながりができるよう、安全指導員として地域の大人に参加をお願いしている。
- ・学校にはない「たのしいこと」が経験できるよう、コーディネーターが日々のプログラムを工夫している。

事業を実施して

平成19年度に開設され、児童や保護者たちの間でも定着している。
夏休みの特別教室が特に人気であり、毎年楽しみにしている児童が多い。
講師及び地域の方々の協力により、子供たちに様々な体験や学習をさせることができています。
本教室を実施していった結果、学校・家庭・地域のつながりが深くなり、本教室が単なる「たのしいこと」をする場ではなく、地域全体が関わって子供たちを育てていこうとする場であるという認識が広まっている。

その他

学習支援：町内小中学校のALTの先生に英会話教室をお願いしており、英語と体を使ったゲームでたのしく勉強している。
ICTの活用：地元企業のシステム部の方を講師として招き、パソコン教室を行っている。



夏休み特別教室 川下り体験



書道教室の様子

「学び」「遊び」「地域交流」 子供たちの安心・安全な放課後の居場所づくり

山梨県韮崎市

活動名

韮崎市立穂坂小学校放課後子ども教室

関係する学校

穂坂小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	46人	233日	有	有	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	韮崎市立穂坂小学校内 体育館ミーティング室				19年度	連携なし		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

穂坂小学校は、市内で唯一児童センター未設置学区であるため、国の放課後子どもプラン推進事業に基づき、平成19年度に穂坂小学校体育館を利用した放課後子ども教室を開設した。

放課後における子供たちの安全で健やかな居場所づくりを推進するとともに、地域の方々の参画を得て、学習支援やスポーツ、文化交流活動等を実施することにより、子供たちが地域との交流を深め、児童の健全育成を図ることを目的に取り組んでいる。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 通常の放課後活動として、学習（予習、復習、宿題等）、体育館や校庭での遊び、教室内での遊び（工作、手芸等創作的な遊びや伝承あそび等）、清掃等、時間を決めて行っている。
- 毎月1回、地域ボランティアによる読み聞かせ活動を行っている。
- 毎月4回程度、工作教室、折り紙教室、理科教室、ゲーム大会、DVD鑑賞、けん玉認定等を行っている。特に、工作教室、折り紙教室については、ペーパークラフトでクリスマス飾りを作ったり、絵馬を作ったり等、その月に合わせた季節感のある活動を取り入れた行事を実施している。
- 2か月に1回、「ピカピカキッズ」として、子供たちがいつも使っている教室・体育館・玄関・トイレの清掃活動を実施している。
- 年2～3回、ヒップホップダンス教室を開催している。その発表の場として、地域の文化祭へ参加し、地域の方から好評を得ている。
- 年1回、市教育委員会スポーツ振興担当主催のニュースポーツ教室に参加している。

【実施に当たっての工夫】

小学校の体育館内に教室を開設しているため、学校側とも連絡が取りやすい環境である。そのため、コーディネーターが中心となり、学校や放課後子ども教室で起こった子供の気になる様子等の情報は、お互いに共有できるよう連携を図ることで、より良い指導を目指している。また、体育館やグラウンドは毎日自由に使えるため、ゲーム大会やダンスの練習などに有効活用している。

事業を実施して

- 地域の団体やボランティアの協力を得て、子供たちの経験や体験活動の場が広がり、豊かな学びを得ている。
- また、異学年との交流活動を通して、あいさつをする・ルールを守る・思いやりの気持を持つ・感謝の気持ちを持つよう指導をし、協調性のある豊かな心の育成を目指し取り組んでいる。

その他

地域ボランティアや学校側の理解と協力が得られているため、スムーズに活動を行うことができている。今後も、地域との交流や学校との連携を大切にし、子供たちの安心・安全で楽しい居場所づくりを目指し取り組んでいきたい。



読み聞かせ



学習



ダンス



ゲーム大会

ふるさとを心に刻み心を世界に拓く 保小中一貫の学園教育を支援する村の応援団

長野県野沢温泉村

活動名

野沢温泉学園地域支援センターによる活動

関係する学校

野沢温泉小学校・野沢温泉中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の参加者数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の参加者数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- 平成25年度に、保小中一貫教育の野沢温泉学園が発足し、その教育活動を支援する野沢温泉学園地域支援センターを組織し、活動をスタートした。「学校教育の充実」「生涯学習社会の充実」「地域の教育力向上」を目指して、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいる。
- 学園の5つの重点（英語、スキー、ふるさと、交流・体験、ジョイント期）の実現に沿う分野を中心に組織し、学園の教育活動とつなげやすいものにしなが、村内の団体、機関、個人が登録・参加している。
- 主な活動として英語、スキー、ふるさと学習、交流体験活動に加えて、学習支援（読み聞かせ・クラブ活動、スポーツ、総合的な学習、理科、家庭科等）、地域支援（放課後子供教室、子育て広場等）、環境安全支援（環境整備、見守り隊等）を行っている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ①0～18歳までの子供の成長を見通して、学園の一貫教育によるたてのつながりと地域支援センターを中心とした横のつながりのある地域作りを行っている
- ②特色ある村の人材や資源を生かした支援活動をしている。スキースクールやスキークラブと連携してスキー技術の習得支援、温泉・道祖神祭りなど地域の文化や歴史をとりあげたり、伝統工芸であるあけび蔓細工や野沢菜漬け等の郷土料理を体験的に学んだりするふるさと学習支援、千葉県や東京都の小中学生、オーストリアサンクトアントン村との相互交流支援。また、学園内の保小中の交流支援を行っている。
- ③学園支援の様子や成果を学園日より等で広く早めに地域に伝えるようにしている。

【実施に当たっての工夫】

- ①コーディネーターを中心に、学園からの課題や要望と地域の方からの提案や願いをつなげていくようにしている。
- ②個人・団体・機関等の代表者と学園代表による運営委員会を設け、活動内容の確認、まとめ、次への課題等を検討している。
- ③小学校では全クラブ活動に地域講師が入るようにしている。中学校では職場体験等キャリア教育に深く関わるようにしている。
- ④子供だけでなく、先生たちにも地域を知ってもらおうという趣旨で、先生たちへのスキー講習や地域学習会を行っている。

事業を実施して

- 学園にも地域にも互いに有益な活動になっている。子供たちにとっては意欲関心が一層喚起され学習に深みが生まれ、地域活動に積極的に参加している。また、地域の方にとっては、村の子供とふれあう機会が増え、日常的に声をかけあう関係になったり生涯学習を生かす場になったりしている。
- 学校内でも外でも、子供たちや地域の方々があいさつするようになった。
- 地域への思いや願いを語り、子供たちに伝えたいこと、残したいことなどを実現する場が広がった。新たな人材発掘としての側面も持つようになった。
- 先生たちも、地域と関わることで、地域を知るようになった。学園（一貫教育）づくりのアイデアに広がり生まれた。

その他

- 株式会社野沢温泉…スキースキー場関係者やスキースクール講師による基礎スキー指導、スキー講義、キャリア教育としての講義や体験学習、交流学習支援
- NPO法人おせっ会…自然体験活動支援、理科学習支援、自然分野のクラブ活動講師
- 学習支援…体育のスキー指導、小学校の全クラブ活動、生活科・家庭科の郷土料理、中学校キャリア教育、理科の自然分野、家庭学習



共に楽しむ 園児と「ものづくり」の準備



伝える 小学校クラブ活動（つる細工）



語る スキー選手時代、仕事のやりがい、地域への思いを中学生に

地域の諸団体と連携することで、 子供も地域も輝くコミュニティ・スクール

長野県飯島町

活動名

七久保小学校学校運営協議会

関係する学校

七久保小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		
	平成 26 年 4 月 1 日			19 人	129 人	8 学級		

活動の概要・経緯

<概要>学校と地域が、「ふるさと七久保が大好きで、地域に愛着をもち、地域の『ひと・もの・こと』と進んでかかわる子供」「だれに対しても、元気に、笑顔で、大きな声で、さわやかにあいさつができる子供」に育てたいという願い(目標)を共有し、一体となって子供たちを育てるための活動を年間を通じて計画的に行っている。

<経緯>平成24年度、25年度に、文部科学省の補助を受けながら、コミュニティ・スクールの準備期間として研究を進め、平成26年4月町よりコミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会が設置され、活動が開始された。かねてより地域の諸団体が学校の教育活動に積極的に関わっていただいたので、その活動を継続して進め、新たな負担感が発生しないように活動を進めている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 地域の支援団体が単独で活動するのではなく、学校の教育方針のもと有機的につながり連携しながら、活動する。
 - ・子供たちの「自己表現・自己肯定感アップ」のため、育成会・PTA・学校が連携
 - ・「読書力アップ」のため、読み聞かせボランティア・学校が連携
 - ・子供たちの「コミュニケーション力アップ」のため、学校運営協議会と七久保区が連携 など
- 学級の中核的な活動において、地域の「ひと・もの・こと」とのつながることを位置づけた学習活動
 - ・6年総合的な学習の時間（まちおこし）と七久保区・地域づくり委員会との連携
 - ・5年総合的な学習の時間（福祉教育）と町社会福祉協議会・JA宅幼老所との連携など

【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会で学校の運営方針を理解していただき、共通理解をもとに運営方針に則した活動を行う。
- 進んで地域の行事に参加し、地域の方と活動の喜びを共有することを通して、子供たちに地域の方に支えられていることを意識させる。
- 校長が先頭に立ち、学校職員が常に地域の人と交流する機会をもち、情報交換して地域の方の協力をお願いする環境をつくる。
- 各学級の中核的な活動を地域の「ひと・もの・こと」とのつながりに求め、学習が即子供たちと地域につながるよう工夫する。

事業を実施して

- 地域の方が、今まで以上に学校の運営方針（あいさつ、登下校の安全等）にもとづいた積極的な関わりをしてくださるようになった。
- 地域の方が、子供たちと一緒に活動することに生きがいを感じ、喜んでいろいろな活動のアイデアを出してくださるようになった。また、学校職員と地域の方が、様々な活動を通して子供たちの成長や課題を確認し合い、共に成長の喜びを共有することができた。
- 尻込みをしていた学校職員も、地域の方の力を借りて活動することの良さを感じ、地域に進んで出かけていく姿を多く見かけるようになった。
- 子供たちも地域の方と関わることを通して、ふるさと「七久保」の良さを体感し、地域が大好きになってきている。

その他

- コミュニティ・スクールの活動を聞きつけて、子供たちのために自分も学校支援ボランティアとして活動したいと申し出る方が増え、有り難い。
- 子供たちが地域とつながり地域とのきずなを深める活動を、これからも大事にしていきたい。



育成会「こどもカーニバル」子供神輿で練り歩く



6年総合的な学習の時間 地域づくり委員会との連携「桜ウォーキング」

子供の興味・関心・好奇心、そして想像力を育てる！

長野県天龍村

活動名

龍っ子クラブによる活動

関係する学校

天龍小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	18人	37日	有	無	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	教室、体育館、天龍村なんでも館等				20年度	連携なし		
指定日					委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

子供の興味・関心・好奇心、そして想像力を育てることを目的に開催している。自主的な活動を基本とし、90分の学習を済ませた後、自由に遊んだり、運動等を行ったりしている。また、子供たちが主体となって活動できる行事や日帰り体験旅行等、ふだんの学校生活では体験できない企画を取り入れている。仕事をする母親たちからの相談をきっかけにスタートし、教室を開始した頃は、参加家庭の状況から、「居場所型」であったが、現在は振替休日と長期休業日中心で、内容も「体験重視型」に移行している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ①村の自然を生かした屋外活動（川遊び・学校キャンプ・村内めぐり等）や食育に関する活動（農作物栽培・みそ作り等）など、体験重視の活動を実施している。
- ②子供たちが主体となって活動できる行事（「こども夏まつり」・「龍の子フェスティバル」）を企画している。
- ③日帰り又は一泊の社会体験旅行を実施している。

【実施に当たっての工夫】

- ①子供たち個々の自主性を大切にするとともに、団体行動においては、それぞれの役割を自覚し、責任を果たすことを指導している。
- ②子供たちが計画・運営する「こども夏まつり」「龍の子フェスティバル」は、可能な限り子供たちの意見を尊重し、行動は一人一人に責任を持たせている。
- ③社会体験旅行は、牧場での酪農体験や盲導犬センターでの触れ合い体験等、村内では体験ができない活動を取り入れている。これは、活動の地理的制約を解消できるという利点がある。

事業を実施して

- 参加児童からは、「休日にも友達と遊べるし、他学年の友達とも遊べる」「初めて牛の世話や乳搾り、バター作りをした。最初は臭いと思ったけれど、いつの間にかそう感じなくて不思議だった」という声が寄せられている。子供教室が居場所というだけでなく、貴重な社会体験の場として機能している。
- 子供たち一人一人に責任を持たせ、お互いを認め合いながら活動をさせた結果、大きな行事を成功させることができ、自分たちで協力する・知恵を出し合う・助け合う、といった力が高まった。
- 保護者からは、「長い休みでも規則正しい生活ができるので有難い」「家族ではなかなか行けない所へ連れて行ってもらえ、子供からお土産話を聞くのが楽しみ」という声が寄せられている。登録者数は全校児童31名中27名で約87%と、子供教室の役割への期待は大きい。
- JA女性部や地域おこし協力隊など様々な団体から声を掛けていただくようになり、連携して活動するようになった。

その他

- これからも、子供たちの五感に働きかける体験活動を取り入れて、目的に沿った教室運営をする。このことにより、子供たちの自己肯定感が高まり、ひいては、天龍村への愛着心が高まることにつながれば幸いである。
- 言葉遣いや食事マナー、友達同士の接し方など、生活全般に関する活動ができるよう、家庭と連携しながら進めていく。



毎回 90 分の学習時間



龍の子フェスティバル

てつめいDiary宿泊体験 (防災訓練・肝試し・租税教室で思い出作り)

岐阜県岐阜市

活動名

徹明小学校学校運営協議会

関係する学校

徹明小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 27 年 4 月 1 日				9 人	102 人	6 学級	

活動の概要・経緯

- ・子ども会育成会を中心とした保護者と、公民館を中心とした地域住民（各種団体）が、共に知恵を出し合って一緒に協働しながら、宿泊を伴う体験イベントを企画・運営に当たった。防災訓練（避難所体験）、肝試し（夜の校舎巡り）、軽スポーツ、ラジオ体操、租税教室等を行い、1～6年生の児童が楽しく学び合った。
- ・公民館運営委員会の中で、コーディネーターでもある館長から企画の提案をし、各種団体に担当を割り振って具体的な計画・準備を進め、当日の進行も行った。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・防災教育（防災訓練）の一環として、災害時の避難所となる徹明小学校での宿泊を体験することで、非常変災時等の対応についての理解を深め、防災や減災への意識（関心や意欲）を高める活動を幾つも展開した。
- ・地域の各種団体の協力による「夏休みの思い出づくり」につながる活動に参加し、徹明地域の一員としての自覚や誇り、地域の方々への感謝の心を育むことにつながった。

【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターの公民館長が、子ども会育成会とともに企画して公民館運営委員会で提案され、14の各種団体がそれぞれの役割から実施可能な活動を分担して考え、総勢150名の地域住民が参画して児童の活動を支援しながら行われた。

事業を実施して

- ・防災訓練・避難所体験、学校での肝試しや宿泊体験、税金教室などは、夏休みにしかできない大変貴重な経験として心に残った。
- ・こんなイベントができたのは、徹明の地域の皆さんのおかげであることを知り、感謝の気持ちを忘れず、積極的に地域民体育祭や公民館文化祭などの地域活動に参加している。

その他

- ・青少年育成市民会議では、中学生を育てる機会としても考え、「肝試し」の準備や進进行を任せたり、「ラジオ体操」のリードをさせたりした。そのことによって、中学生が活躍して成長するとともに、小学生の身近な手本となった。



防災訓練の一環で、消防士の指導の下、防火服を着て放水体験をする児童の様子



床に敷き詰められた段ボールの上に占有スペースを確保し、「学校での宿泊」を初体験

岐阜県笠松町

活動名

笠松町「笠松っ子を育てる会」による活動

関係する学校

笠松小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 26 年 4 月 1 日				15 人	261 人	15 学級	

活動の概要・経緯
 笠松小学校は、長く道徳を研究しており、伝統文化の継承や地域とのつながりも深く、子供たちも地域行事に深く関わってきた。また、地域は、学校の「学力をつけたい」という願いのもと、学習に関わるボランティアに積極的に関わってきた。コーディネーターを中心に、PTAの各専門委員会とも連携しながら、「環境サポート部会」「学習サポート部会」「安全安心サポート部会」「ふれあいサポート部会」を立ち上げ、学校と関わりながら子供を育てている。

特徴

【特徴的な活動内容】

「笠松町道徳のまちづくり条例」による「道徳のまち笠松推進会議」、PTAの各専門委員会、町内会等、地域や家庭とのつながりを大切にしている。「笠松っ子を育てる会」が中心となり、積極的に学校と関わりながら、子供たちを支援していこうという願いのもと、「夢が育つ学校」づくりを進めている。

【実施に当たっての工夫】

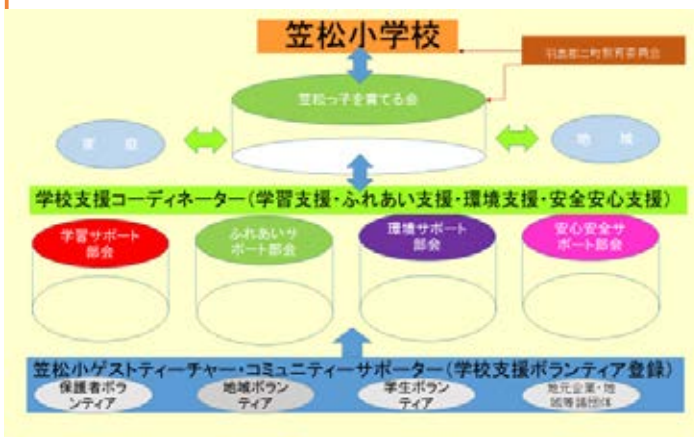
「笠松小コミュニティだより」の全戸配布や、町内会長会での報告・依頼など、情報の共有に努めている。コーディネーターは、郡の研修会に参加したり、独自に研修会を行ったりして、「どうしたら地域が学校を支援できるか」「地域は変わったか」を検証している。また、コーディネーターを中心に、各部会では、アイデアを生かした活動を進めている。

事業を実施して

地域の方々が、学校に対して「お手伝いをする」「協力する」という意識から、「こんな子供に育ってほしい」という願いのもと、自分たちでできることを考えたり、自らも研修に参加したりするなど、積極的な意識改革に取り組み始めている。

その他

「ふるさと笠松を誇りに、学力を付け、自信を持って夢の実現に向けて努力してほしい」という願いのもと、地域の人がゲストティーチャーとして子供たちに学習の楽しさを体験させたり、教職員とともに学力アップのための支援をしたりするなど、学習のサポートをしている。



笠松小コミュニティスクール組織図

登下校時挨拶見守りチームと裁縫・調理サポートチームの活動

子供たちのため学校と地域の橋渡し 地域ぐるみのキャリア教育の実現！

静岡県三島市

活動名

錦田中学校支援地域本部

関係する学校

錦田中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	100人	21年度	有	無	無	無	
放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
			実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール			指 定 日		委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

平成21年度に自治会・PTA・子供会・保護司・民生委員児童委員・公民館などの関係者で実行委員会が組織され、活動を開始した。学校からの要望事項を協議し、コーディネーター及び実行委員が地域の人々との橋渡し役を担い、協力を依頼している。三島市では、本学校支援地域本部の活動が評価され、本学校支援地域本部をモデルとして、全小中学校へ1校1本部体制による学校支援地域本部の立ち上げを予定している。

この事業を開始するに当たり、地域と連携したキャリア教育を展開したいとの学校の要望があったため、地域と連携したキャリア教育の実現を活動の中心に据えている。さらに、キャリア教育の支援にとどまらず、朝の読み聞かせ活動、学校内外の環境整備活動、あいさつ運動及び交通安全指導の地域ボランティアとの実施、配慮を要する生徒への学習支援活動等に取組を広げた。

地域全体が学校の状況を知り、学校に関わり支援することを通して、地域の中の学校を盛り立てていくと共に、地域の将来を担う子供たちの健全な成長を地域ぐるみで見守り、「地域の子どもは地域で育てる」意識の醸成を図ることを活動の目標としており、その成果が地域に浸透してきている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

○地域と連携したキャリア教育の実現

学区内での2年生職場体験学習実施のために実行委員会が事業所・店舗への依頼活動を行い、独自に学区内で34の事業所・店舗での職場体験学習の実現につなげている。また、1年生を対象にした職業講話を地域の職業人に依頼し、例年12名程の講師の参加につなげている。この結果、生徒が働くことの意義について学び、将来の職業生活の心構えをもつとともに、社会人としての生き方や望ましい職業観の基礎を身に付けるための大きな支援となっている。また、生徒が地域の大人との関わりをもつきっかけとなっており、これを機会に地域の大人が生徒を見守り声掛けをしていく地域づくりにもつながっている。

【実施に当たっての工夫】

○ボランティア団体との連携

生徒への朝の読み聞かせ活動の実施に当たり、市発行の「広報みしま」を視覚障害者に朗読、録音して届ける活動をしているボランティアグループ「やまなみ」に活動を依頼した。この結果、生徒には読み聞かせの効果が出るだけでなく、ボランティア活動への関心も高まる結果となっている。

○行動する実行委員会

実行委員会は、学校支援の方針等の企画、立案を行うことだけでなく、直接地域の人々への説明・依頼、ボランティアへの参加・活動状況確認等を行っている。その結果、コーディネーターにかかる負担を軽減するとともに、学校の教育活動への理解を深めた方のボランティア参加につながっている。



地域の職業人による職業講話

事業を実施して

コーディネーター及び実行委員が持つ幅広いネットワークを生かして、地域住民を学校支援活動につなげることによって、生徒の豊かな学びが実現されている。キャリア教育（職場体験学習の依頼・職業講話の講師依頼）では、地域住民の利を生かした支援を行うことによって、教員が生徒への指導に専念できる体制づくりが整えられ、負担軽減につながっている。また、学校支援ボランティアによる花壇整備、樹木せん定、学校設備修繕の活動により学校環境が良好に保たれている。

実行委員からは、改めて地域の人たちの生徒たちに対する熱意の深さに驚いたという感想があり、教師や保護者だけではできないことを地域と学校とが連携し、実行していくために活動していきたいとの思いを強めている。ボランティア参加者も生徒との関わりを楽しんでいる。

その他

「学校と生徒とともに歩むトライアングルサポート」をキャッチフレーズに、本学校支援地域本部とPTA活動と平成25年度に活動を開始した錦田中サポーターズクラブ（PTA及びOBの有志の会）の協力連携体制を確立させている。



地域ボランティアによる校庭の樹木せん定作業

こんな活動です

地域の方々が学校で輝く！ 『輝南会』は中学校、生徒の応援団！

静岡県富士宮市

活動名

富士根南中学校学校支援地域本部 輝南会

関係する学校

富士根南中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯

「正義」「自由」「努力」を校訓として、約700名の生徒が日々勉学に励んでいる。卒業生は15,000名を超え、富士宮市では最大の規模を誇る中学校である。保護者や地域の方々は教育に大変関心が高く、PTA活動や体育文化後援会の活動、同窓会等多くの理解者・協力者を得ながら家庭や地域と連携した教育活動を熱心に行ってきた。このように活躍する団体の活性化や現在の保護者が組織するPTAに協力する体制づくりを目指し、平成25年、学校支援本部を立ち上げた。「学校の負担にならない」「地域を育てる」「組織の活性化」「必要な時に必要なことだけ取り組む」を基本方針として、活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】「地域の方々が学校で輝く活動」、「中学生が地域で輝く活動」と大きく2つに分けられる。

○「地域の方々が学校で輝く」

PTCA奉仕作業として、地元の塗装会社と連携し130名が参加した校舎内のペンキ塗装、警友会（警察OB）による犯罪防止のための巡回、特別支援学級の生徒と一緒に行われた花壇づくり、地域の方が先生と協力して数学と英語の指導を行う学習支援（補習）、庭園の掃除や木材チップの活用等の活動を展開。

○「中学生が地域で輝く」

通学区ごと親子で協力した古紙回収、夏休み中、2年生全員が学習した地域の事業所でのキャリア体験、区民まつりや三世代交流ふれあいまつりへの参加等。

【実施に当たっての工夫】

「学校の負担にならない」「地域を育てる」「組織の活性化」「必要な時に必要なことだけ取り組む」といった基本方針を掲げた。そうした中コーディネーターの調整により広報や事業を展開していることで、誰にも負担にならず、良い成果を出すことができている。

事業を実施して

多くの地域でコミュニティの活性化が課題となっている中、学校支援地域本部という拠点を構えたことで、地域のつながりが生まれ、輪が広がった。また、学校の応援団に恩返ししたいという思いから、地域行事に積極的に参加する生徒が多くなった。特に三世代交流ふれあい祭りでは、地域と児童・幼児のパイプ役として活躍した生徒が多かった、という感想が聞かれた。

その他

地域コーディネーターの佐野英夫氏は、富士根南支部の支部長「区長会長」を務めた経験から、幅広い人脈をもっている。さらに、企業でマネジメントをしていた経験を生かし、事業の企画・運営力、行動力を発揮している。

- 「PTCA奉仕作業」…地域の方とPTA130名の協力で校舎内のペンキ塗装。
- 「地域防犯活動」…警友会（警察OB）が犯罪防止のために学校と地域を巡回。
- 「花壇づくり」…土づくり、肥料まき、花の植え替えを特別支援学級の生徒と一緒に。作業後は、特別支援学級の生徒がハンドベルの演奏を披露。
- 「庭園づくり」…庭園の掃除、木材チップで雑草と霜の対策。
- 「輝南祭体育の部の教護係」…循環器医者と看護師の保護者が養護教諭と協力。
- 「補習の学習支援」…地域の方が先生と協力して数学と英語の学習指導。



校舎内のペンキ塗りに130名参加 | PTAがカラーで地域の方々に感謝 | 地域の方と生徒の手で花壇づくり



警友会の3名が地域を巡回 | 保護者の医師と看護師が教護係 | シンボルとなる時計を地域の方が管理

地域の方々が学校で輝く！

- 「古紙回収」…通学区ごと親子で協力して、新聞紙・段ボールを回収。
- 「職場体験学習」…夏休み中に2年生全員が地域の事業所でキャリア体験。
- 「宮おどり大会」…伝統の扇の舞は南中オリジナル。緑色ののぼりが目印。PTAと体文の協力で給水もスムーズにできました。
- 「区民まつり」…中学生のお店と吹奏楽部の演奏で地域の大人と交流。全国大会へ出場した生徒の走り高跳びの演技も披露。
- 「富士根公民館まつり」…伝統文化研究部が、毎年「華の演奏」で参加。
- 「三世代交流ふれあいまつり」…司会進行と、お年寄りや幼児とゲームで交流。



PTAと体文が宮おどりで扇の舞 | 地域の事業所で職場体験学習 | 地域のまつりで中学生のお店



三世代交流まつりで地域と交流 | 公民館まつりで伝統文化部の演奏 | 区民まつりで吹奏楽部が演奏

中学生が地域で輝く！

友達や地域の方とふれあいを通して「コミュニケーション力を育てる」を重点に活動

愛知県名古屋市

活動名

豊田小学校
トワイライトスクールによる活動

関係する学校

豊田小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	47人	289日	有	無	無	無
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
		プレイルーム1、2（小学校内）				13年度	連携なし	
		指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・放課後子供教室として、年間を通じて平日と土曜を活動日としており、自由遊びや学びの活動、体験活動を通じた異学年交流、世代間交流の場としている。
- ・地域の事業ボランティア（教育活動推進員）の方により、民ようおどり・よさこいおどりなどの17の体験講座が開かれている。（26年度は、17講座、延べ159回の開催）
- ・土曜親子ふれあい事業「地域ふれあいサタデー」では、校内のビオトープをお借りして、親子で稲作体験（田植、稲刈り）の活動をしている。
- ・学区スポーツ推進委員の方とグラウンドゴルフを楽しんだり、学区子ども会の方とドッジボール、学区インディアカ部の方と親子でインディアカを楽しんだり、保護者・児童・地域の連携・学校の協力を得て、活発な交流活動となっている。
- ・これらの豊かな活動を通じて、子供たちの、自主性・社会性・創造性を育てている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

【民ようおどり、よさこいおどり】

・年間を通じて取り組む「民ようおどり」「よさこいおどり」の体験は、伝統文化に触れる良い機会となっている。回を重ねるごとに上手になる踊りは、9月に地域で行われる敬老会の場で披露し、世代間交流の機会にもつなげている。

【稲作体験】

・稲作体験として、学校内のビオトープを活用して、田植から稲刈りまでを親子で体験する機会を設けている。これらの稲作体験は、地域の方の指導のもとに行われ、都会に育つ子供たちにとっては、大変貴重な場となっている。さらには、親子の触れ合いを進めるとともに、自然や食べ物の大切さを考える機会にもなっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・トワイライトスクールは、全学年を対象とした事業であり、自由参加が基本である。安心安全な子供の居場所を作るだけでなく、様々な体験を通じて、子供の自主性、社会性、創造性などを育むことが重要となる。このため、自由遊びばかりでなく、学びの時間、体験活動の時間などで活動のメリハリをつけ、気持ちの切替えができる日課を設定している。また、体験活動の種類、回数の充実により、トワイライトスクールの魅力を高めることで、参加児童の興味関心を高めている。
- ・トワイライトスクールは、「地域の子供たちを地域で育てる」という視点も持っている。親子の交流だけでなく、地域の方との交流も進めており、地域の方と子供たちとの面識も深まることで、地域で自然とあいさつをする姿も見られるようになり、子供のコミュニケーション能力を育てることもつなげている。



親子で田植え

事業を実施して

地域の事業ボランティアの方による民舞おどりなど多種多様な体験講座、親子による稲作体験を通して、地域の方、親子、友達同士の交流が深まり、心優しい心配りのできる子供が着実に育っている。地域の敬老会で、「民ようおどり」の成果発表を行っているが、「楽しみにしている」、「若い頃を思い出す」などの感想が聞かれ、とても好評である。

その他

学校のビオトープを稲作に有効活用することは、物理的な条件のみならず、地域の指導者の存在が不可欠である。

名古屋市での取組は、施設設備の環境整備だけでなく、地域ボランティアという人的資源にも支えられた活動になっている。

そのような地域資源を有機的に結び付け、豊かな活動につなげていくのが、教職経験豊かな運営指導者（コーディネーター）の強みである。



よさこい踊り

「すべての子供たちの笑顔のために」 —よりよいトワイライトを目指して—

愛知県名古屋市

活動名

富士見台小学校
トワイライトルームによる活動

関係する学校

富士見台小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	68人	294日	有	有	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	プレイルーム1、2（小学校内）				14年度	一体型		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成14年5月29日、トワイライトスクール（放課後子供教室）として開設し、保護者のニーズ、地域の協力を得て、平成26年4月1日、一体型のトワイライトルームとなる。「すべての子供たちの笑顔のために」をキャッチフレーズに、地域の方々の支援・協力・理解のもと、みんな仲良く、楽しい富士見台小学校トワイライトルームを目指している。その実現に向け、運営指導者（コーディネーター）を始めスタッフ一同、地域ボランティアの協力を得ながら、子供一人一人に目を向け、「学力向上、人間性、感性、創造性、国際性」の育成を図っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

○トワイライトルーム文化祭

日頃行っている体験活動（講座）を発表し、保護者や地域の方々にトワイライトルームの活動を知ってもらうことをねらいに実施している。

○キッズ・ビクス（ダンスのトワイライトルームチーム）

毎週火曜日、水曜日の2回、地域の事業ボランティア（教育活動推進員）の方にダンスを教えてもらっている。キッズ・ビクスというダンスチームを結成し、地域の行事である盆踊り、文化祭、区民祭りに参加し、日頃の練習の成果を披露している。

【実施に当たっての工夫】

○トワイライトルーム文化祭の開催

日頃行っている体験活動（講座）を発表し、保護者や地域の方々にトワイライトルームの活動を知ってもらう場を設定している。

○児童の健康・安全への対応

- ①参加児童・保護者からの聞き取り等による配慮事項、食物アレルギー等の把握
- ②学校との連携（共通理解・情報交換）
- ③けがの対応
- ④地震・台風等

事業を実施して

学年の異なる子供たちが一緒になり、地域協力員（教育活動サポーター）や事業ボランティアなど地域の方々の協力を得て、「学力向上、人間性、感性、創造性、国際性」培う活動を通して、地域と学校と保護者のきずなが深まり、学校とはひと味違った子供たちの「笑顔」が見られるようになってきた。

その他

日々の活動の中に、平日は30分、長期休業中は、午前1時間、午後1時間の学習タイムを設定し、復習・予習を中心に、基礎学力の向上に努め、国語の漢字力、算数の計算力アップに取り組んでいる。

また、国際理解教育にも取り組み、「英語遊び」の講座のほか、「中国語で遊ぼう」「韓国語で遊ぼう」の講座を設定し、アジアの国々の理解を深めている。さらに、特別講座として、地元のゴスペルサークルの講師による「ゴスペルライブコンサート」や地元の郵便局職員の指導のもと「絵手紙を書こう」を実施している。



トワイライトルーム文化祭



キッズ・ビクスによるダンス披露

子供たちのために、できることを・できるときに 地域ぐるみで実践

愛知県豊田市

活動名

浄水北小学校支援地域本部

関係する学校

浄水北小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動	0人	72人	26年度	無	有	有	有
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	403人	26年度	有	有	有	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	12人	228日	有	無	無	無
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	メディアセンター（図書室・コンピュータ室）				26年度	連携型	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・平成26年、新設校として開校すると同時に、学校支援地域本部を設置し、保護者や地域のボランティアによる学校支援活動と、子供のための教育活動を行っている。
- ・校内に、地域支援室を設置し、配置した地域コーディネーターが学校と保護者・地域のパイプ役を担っている。
- ・保護者と地域の人々が、学校に気軽にかかわりをもつことができるように、「できることを・できるときに」の精神での、ボランティア活動を主体としている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ① 豊かな土曜日のための活動 ・土曜学習（体力づくり教室・「寺子屋」学習支援・各種講座・遊び場）
- ② 放課後の子供の居場所づくり ・授業後、学校内で学習・読書や遊びをして過ごすことができる。
- ③ 学校支援活動 ・ボランティアによる環境整備
- ④ 学校林整備と活用

【実施に当たっての工夫】

- ① 学校支援活動（通常のPTA活動を含む）を、全て「できることを・できるときに」行うボランティア活動とした。
- ② 学校施設を積極的に有効活用し、通常の教育活動以外に、放課後や土曜日に子供のための活動を取り入れた。

事業を実施して

- ・開かれた学校づくりが行われている。保護者アンケートでは「保護者との連携を図り、開かれた学校づくりを進めているか？」との質問に、「大変よくできている（51.6%）」「よくできている（41.3%）」との回答。
- ・地域ぐるみの教育が進められている。保護者アンケートは、「地域・学校・保護者が一体となって、地域と子供たち、そして学校をよりよいものにしていこうという気運が生まれてとても良いと思う。」との回答。

その他

企業・NPOとの連携（土曜：一般社団法人豊田青年会議所）（本部：一般社団法人豊田青年会議所）
 学習支援（土曜：高校生・大学生による学習支援）（本部：高校生・大学生による学習支援）
 ICT活用（土曜：電子黒板の活用）（本部：電子黒板の活用）



登校の見守りを終えて、地域支援室でくつろぎ、意見交換をするボランティア



ボランティアによる学校の花壇づくり

学校に笑顔を！家庭に安心を！地域に活力を！ 三者をつなぐ「豆ボラ神守」

愛知県津島市

活動名

神守中学校支援地域本部「豆ボラ神守」

関係する学校

神守中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業 NPO との連携
土曜日の教育活動	2人	20人	22年度	無	無	無	無
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業 NPO との連携
	2人	105人	22年度	有	無	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業 NPO との連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- ・学校の荒れを立て直す目的で、保護者以外の地域の方々を校内に招き入れるために、PTAとは異なる組織の必要が生じたことから、学校支援地域本部を設立した。その結果、生活安全ボランティアの意欲的な声掛けが生徒の心の支えとなり、徐々に心の安定につながった。
- ・平成22年10月に発足し、2名のコーディネーターを中心に、当初は80名ほどのボランティア登録があった。
- ・物的・人的環境整備を中心とする学校側のニーズにより、図書室の環境整備や、学校に花と緑をもたらす環境整備からスタートした。図書室の蔵書のバーコード化や図書室の飾り付け、本の貸出し支援などにより、生徒の読書量が大きく増加した。
- ・毎年130名を超すボランティアの登録による、学習・図書・環境・生活・不登校支援・外国人支援など10の分野での支援により、確実に地域の教育力の向上、活性化に寄与している。年間活動日数は延べ約360日、延べ人数は約1300人となっている。コーディネーターの活動は、年間150日以上、計400時間の活動で支えられている。
- ・県内の多くの関係団体とも連携し、人材の派遣や活動の情報交換など、活動の活性化に役立てている。
- ・平成26年度から、市内の他の中学校区にも地域支援本部設立のために指導、支援を行い、平成27年度には市内の中学校区に地域支援本部が設立された。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学校側のニーズにより、月曜日の放課後と土曜日の午前中に、希望する生徒を中心に、寺子屋（月テラ・ドテラ）と称し、年間各20～25回ほどの学習支援を実施している。不登校・発達障害・非行傾向の生徒なども参加し、大学生ボランティアとの交流から学習意欲が喚起され、大きな成果が出ている。
- ・生活安全支援では、津島少年補導員（5名）と連携し、月1回程度の校内巡回活動を実施している。校内で補導員と生徒が顔見知りになり、校外においてもコミュニケーションが取れることから、非行の抑止にもなっている。これらの活動に対し、愛知県警から表彰状を授与された。

【実施に当たっての工夫】

- ・2か月に1回、学校側のニーズの確認、情報の共有、運営上及び生徒指導上の問題点の話し合いの場として、本部長、コーディネーターを中心に豆ボラ神守実行委員会を開催し、多角的な視点から事業を運営している。
- ・年度始めと終わりに、それぞれの支援について学校側と連絡会を開催し、ボランティア・生徒・学校側の意見を聞き、可能なものはすぐに改善するなど、柔軟な運営を工夫している。

事業を実施して

- ・中学校の教育課題である「不登校生徒の増加」を食い止めることにつながった。平成20年頃まで毎年60名近い不登校生徒がいたが、全国平均以下に減少した。地域本部の目的である教職員の多忙化解消の一助になり、職員からも、精神的な授業改善や子供と関わる時間の増加による結果であると好評価を得ている。無償のボランティアに対する感謝の思いを教員本来の仕事である授業力向上に向け、「学びの授業」を全職員で推進している。
- ・学習ボランティアに参加する大学生は、ほとんどが教員志望者であり、退職教員とともに学校での学習支援を行うことで、教育実習以上の役割を果たしている。
- ・地域コミュニティからの中学生ボランティア募集依頼も毎回すぐに定員が埋まり、参加生徒もやりがいや充実感を実感している。生徒の自己有用感が高まると同時に、地域からも喜びの声や元気をもらったとお礼が届く。
- ・登録ボランティアも、元気な中学生との活動により意気が上がり、活動に創意工夫が施され、良好な交流が見られる。

その他

- ・神守中学校区内の3小学校にも、学校のニーズに応じてボランティアを派遣している。
- ・県内外からの見学や視察が多く、また、県内他地区へ地域本部活動の講演会やプレゼンテーションの依頼があり、活動の方法・運営・効果・課題などについて助言をしている。
- ・支援を受けたり、地域へボランティアに出かけたりした中学生が大学へ入学し、今後は学生ボランティアとして中学生を支援するなど、地域と学校をつなぐ活動を更に広げたい。
- ・徐々に世代交代をしながら、息の長い支援活動が継続できるような組織を運営していきたい。



豆ボラ神守のホームページ



ドテラ（土曜寺子屋）

低学年児童の放課後の居場所づくり。地域住民との温かいふれあいと共に！

愛知県扶桑町

活動名

扶桑町柏森放課後子ども広場による活動

関係する学校

柏森小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	39人	193日	有	有	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		余裕教室			20年度	連携なし		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- ・平成20年度から扶桑町柏森子ども広場として開設し、平成27年度で8年目を迎える。
- ・小学校1、2年生を対象に学校授業日の下校後から午後5時まで、子供たちの安全な居場所づくりのための活動を行っている。
- ・平成26年度は開設193日、延べ7,450人の児童が活動に参加し、延べ896人のコーディネーター・指導員が運営に当たった。ボランティアとして、地域住民・保護者・教員・大学生などが関わり、地域住民との温かいふれあいの場となっている。
- ・自主学習と室内外遊びのほかに、造形活動や読書活動、ミニ運動会等活動年間計画を立て、子供たちが様々な幅広い活動に取り組みるようにしている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・日本の四季や伝統行事を取り入れた「お楽しみ工作」や、命の大切さを確認し合う「お誕生日会」、チャレンジ精神を育てる「ミニ運動会」など、子供たちは創意工夫のある様々な企画を楽しんでいる。
- ・ボランティア企画は好評で、子供だけでなく保護者も参加を希望するほどである。

【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターは、子ども広場指導員に適宜指示・助言を行う他、月に2回、コーディネーターと指導員でミーティングを開催し、事業計画の策定、情報の共有、諸問題解決方法の検討などを行い、子ども広場事業を円滑に運営できるよう工夫している。
- ・参加受入手続の時点で、保護者に対し、日々の活動内容や子供の安全管理上必要なルールや約束事、お願い事について説明し、事業内容を周知している。
- ・子供のお迎え時には、指導員は帰りの挨拶とともに子供の様子を伝えることを心がけ、保護者とのコミュニケーションを図っている。
- ・指導の充実を図るため、曜日ごとの参加登録人数に応じて指導員を配置している。

事業を実施して

- ・入会当初は参加に消極的だった児童が、子ども広場での体験活動や人とのふれあいを重ねることによって友達もでき、楽しく参加できるようになることをはじめ、子供の成長を身近な大人として目の当たりにする日々、責任とともに大きな喜びを感じている。
- ・各児童が抱える個人的な悩みや児童間で起きるトラブルに向き合っていく中で、保護者との信頼関係が構築され、子供の成長を共に喜び合えたときはうれしさが倍増する。
- ・子ども広場の活動事業計画の立案、準備、実施を任される中で、指導員同士が切磋琢磨し、指導員間のチームワークが高まり、指導員のやりがいにつながっている。
- ・子ども広場を卒業した子供たちが来訪し、後輩の児童の活動を支援しているときに、この活動の意義を感じる。

その他

- ・町内で最初に開設された子ども広場で、創意・工夫の実績は町内にある他の子ども広場の模範となっている。
- ・広場活動の最初に設けた20分程度の自主学習時間に、子供全員が「宿題・ドリル学習・読書」に心を落ち着けて取り組む。過ごし方のルールは「一人で静かにできること」とし、学習内容は個人の選択に任せる。その間、指導員は個別の支援に当たる。
- ・障がいのある児童の参加に対しては指導員を加配して対応している。



開講式（テープカット）



ボランティアさん来訪（ミニ顔作り）

児童がのびのびと遊び、体験できる居場所を目指して活動

愛知県あま市

活動名

甚目寺南小学校放課後子ども教室

関係する学校

甚目寺南小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	13人	192日	有	無	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		余裕教室、校庭など			20年度	一体型		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	
コミュニティスクール								

活動の概要・経緯

- ・平成20年度に地域で最初に開設され、他教室の模範となっている。
- ・自主学習（宿題）、自由遊び（屋内・屋外）、工作、季節行事、体験活動などを主に実施している。
- ・スタッフはコーディネーターを始めとして4名で運営しており、プログラム内容によっては外部より適切な講師を招いている。
- ・プログラムに英会話を取り入れるなど、国際化社会への対応を考慮している。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・児童の安全面を第一に考え、工作やスポーツ、季節行事など、児童に対し、できるだけ多くの体験活動を継続的に提供できるよう工夫している。
- ・講師を招いての三味線や英会話といったプログラムを定期的実施しており、多くの児童が普段の遊びとは一味違った楽しさを求めて参加している。
- ・可能な限り、児童の自主性を尊重し、のびのびと遊び、体験できる居場所となるよう心がけている。
- ・プログラムによっては児童クラブと連携して活動できるよう調整している。
- ・児童の体調や子ども教室での出来事に細心の注意を払い、気になる点は保護者へ伝えるなど、密に連絡を取り合うよう心掛けている。

【実施に当たっての工夫】

- ・参加する際に必要な「参加カード」には保護者との通信欄を設け、児童に関して気になった点を記すなど、情報交換を密にしている。
- ・お迎え場所までスタッフが児童を連れて行き、保護者と直接話す時間が取れるよう心掛けている。
- ・自主的に学校の宿題を行う児童には、集中して取り組めるよう机と椅子を用意し、質問があれば答えるなどの細かい配慮をしている。

事業を実施して

- ・様々な性格や特徴を持った児童があり、年度始めは学校生活にも慣れていないため、指導員が児童の行動に対して注意する場面も多くなるが、靴やランドセルを綺麗にそろえられるようになったり、けんかの後で相手に謝ったりすることができるようになるといった児童の成長が見られるとうれしくなる。

その他

- ・異学年と遊ぶ中で、上級生・下級生共に精神的に成長できるような場所にしたい。



講師を招いての三味線体験



絵本の読み聞かせ

地域・家庭・学校が連携し、 地域・家庭の教育力を生かした教育活動の推進

三重県四日市市

活動名

八郷小学校学校運営協議会

関係する学校

八郷小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	指定日				委員数	児童生徒数	学級数
	平成 18 年 5 月 1 日				10 人	413 人	16 学級

活動の概要・経緯

- 組織・運営
 - ・学校運営協議会 年間7回開催
 - ・拡大委員会 年間3回開催
 - ・安全部会世話人会 年間2回開催
 - ・学校資料室運営委員会
- 活動状況
 - ・学習支援
 - ・クラブ支援
 - ・登下校見守り 等

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学校防災・防犯の取組
- ・学校資料室の充実
- ・子供を見守り、育てる活動
- ・ボランティアが活躍する教育活動

【実施に当たっての工夫】

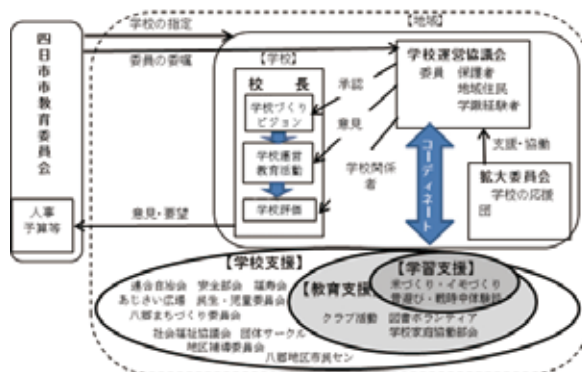
- ・子供たちへの指導・支援に係る専門分野・活動分野の代表を含む拡大委員会を設置した。
- ・拡大委員会を年3回開催し、学校から「学校づくりビジョンの推進」について説明を行うとともに、学校や子供たちの様子についての意見交換、各部会・団体の学校支援活動についての情報交換を行った。また、第1回委員会では、保護者や地域の声をより学校教育に反映させるために、学校から各学年の代表が参加し、支援していただきたい具体的活動についても要望を出した。

事業を実施して

- ・地域の人材を発掘し、教育活動に参画することで地域全体の活性化につながっている。
- ・地域全体で子供を育てようという取組は子供たちの中にも浸透し、「人へのあこがれ」「地域への愛情」を生み出している。
- ・欠席する児童は少なく、毎日元気に学校生活を送っている。

その他

- ・児童の安全安心はもちろん、授業の支援においても地域の方の協体制が確立してきている。「地域の中で、まだまだ人的にも物的にも教育に取り入れることのできるものがある。その発掘は、教育活動の充実のみならず、地域の活性化にもつながる」等の声を今後の学校教育に生かし、「地域とともに歩む学校づくり」をすすめていく。
- ・学校のホームページを活用して情報発信を行っている。



運営協議会組織図

保護者・地域・学校が一体となって子供を育む活動 ～支援の会とともに～

三重県津市

活動名

明っ子いきいき支援の会による活動

関係する学校

明小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の年間参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の年間参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

「明っ子いきいき支援の会」の活動は、平成22年度から発達に向けた準備打合せ会を行い、平成23年度から活動を開始した。今年で5年目になる。地域の方は、学校や子供たちに深い愛情を持っており、長く「地域の学校を大切にしていこう」という思いを持っている。その気持ちが形になったものが、「明っ子いきいき支援の会」である。

活動の概要・経緯

(1) 組織・運営について

ア 効果的な運営に向けた取組（地域の実情に応じた組織構成、幅広い関係者の参画等）

○明っ子いきいき支援の会

・支援本部（8名）

・事務局（学校長・教頭・教諭）

・各支援チーム（米作り、明の森、除草作業、花壇、修繕、学習支援、野菜作り、安心安全、図書館教育）

イ 学校関係者との連携協力の体制づくり

（連携する学校側の意見を十分に反映した運営等）

・4月定例会・・・支援本部とチームリーダーが、活動を検討する。

・5月総会・・・定例会の検討をもとにその内容を総会に諮り、各チームごとに具体的な活動内容を検討する。

・年2回（4月・11月）の定例会で、子供たちに「つきたい力・つけないといけない力」について話し合う。

・チーム会議を活動時などに随時開催し、各チームの活動の在り方について検討する。

特徴

【特徴的な活動内容】

・明っ子いきいき支援の会は、支援9チームが教育環境の整備・維持及び学習の支援を行っている。

・明っ子いきいき支援の会とPTA、6年生が懇談を行う。6年生は日頃の支援に対する感謝を伝え、支援の会の方は子供たちへの思いを語り、相互理解の機会としている。

【実施に当たっての工夫】

・児童の活動状況について、教職員が情報交換を積極的に行い、つながりのある指導に努めている。

・各チームが活動内容を交流し、より良い活動について検討する機会を設けている。

事業を実施して

・子供たちが自然の美しさに気付いたり、地域の方の交流が深まったりした。また、コミュニケーション能力の向上につながった。

・子供たちが食の大切さに気付いただけでなく、自分が育てた野菜を持ち帰ることで、家族との会話の促進につながった。

・教職員が地域とつながることができた。

・地域の方をゲストティーチャーとして招くことで、子供たちの自ら学ぶ意欲が高まった。

・図書館整備及び子供たちの読書意欲を高める企画により、子供たちの読書量が増えた。

・登下校の見守りをする中で、子供たちが地域の方に親しみを持ち、進んで挨拶をするようになった。

・支援をする地域の方が、子供たちと触れ合うことで、やりがいを感じる事ができた。

その他

・明っ子いきいき支援の会も参加している明地区子ども支援ネットワークにより、子供たちの支援につながるだけでなく、地域の方々どうしのつながりが深まった。

・「あ☆キラリンフェスティバル」にて、もちつきや合唱発表などを行い、日頃の支援に対する感謝の気持ちを表現する場を設けている。



あ☆キラリンフェスティバル



うちをしたシイタケのほだ木おこし

子供たちがいきいきと育っていくよう応援する 放課後子供教室！

三重県亀山市

活動名

放課後子ども教室いきいき
キッズ応援団SEKIによる活動

関係する学校

関小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	29人	130日	有	有	無	無	
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携			
	関児童館			16年度	連携型			
		指 定 日		委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯
完全学校週5日制の実施に伴い、地域で子供を育てる環境の充実、地域の教育力を活性化するために、子供たちが自由に集まれる居場所であり、集団の中で社会性を身につける機会が必要であったため、平成16年度にいきいきキッズ応援団SEKIが設立された。
平成19年度から放課後子ども教室いきいきキッズ応援団SEKIとして活動をしている。
いきいきキッズの活動特性として、同施設内で放課後子供教室と放課後児童クラブが実施していることから、市域で先駆けで共通プログラムを実施しており、市域の放課後子供教室の規範となっている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

小学校と連携して「田んぼづくり教室」を実施し、また保護者の協力を得ながら「きっぷを買って汽車に乗ろう」という社会体験プログラムを企画するなど、体験学習を中心とした活動を行っている。また、エアースプラネタリウムを使って専門的な星の観測を行っている。そして、「せきっこ教室」では、学校の宿題を通して学習支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターと教室の運営スタッフが中心となって、学校、民生委員児童委員、総合型地域スポーツクラブ等と連携しながら、子供の居場所づくりに取り組んでおり、特に児童クラブとの連携は、市内の他の小学校区の規範となります。

事業を実施して

学校週2日制に伴う子供の居場所づくり事業を発端に活動を始めた。学校生活と家庭生活ではない時間を子供たちが自由に有意義に過ごせたらとの思いと我々が子供の頃、広場などでお年寄りから遊びや決まり事、友達や地域とのつながりの大切さを学んだことを伝えている。このことを指導者全員が共通の認識として活動している。

その他

毎月行事計画書を学校を通じて全小学生に配布している。

せきっこ教室、アニメ鑑賞、読み聞かせ、料理教室、昔あそび、おもちゃランド、将棋、関宿カルタ、田んぼ作り教室、きっぷを買って汽車にのろう、星の観測など様々な講座教室をしている。



切符を買って汽車に乗ろう！



切符を買って汽車に乗ろう！

「石部の町を支え、その未来を切り拓く力を！！」 ～地域人材による学習支援

滋賀県湖南市

活動名

石部小学校学校運営協議会

関係する学校

石部小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 8人	開始年度 26年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 201人	開始年度 20年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
	平成 27 年 4 月 1 日					11人	364人	15学級

活動の概要・経緯
平成20年8月、学校支援地域本部「学校応援団」を立ち上げ、今日まで多くの地域の人材が学校教育に関わり子供たちを支援。平成26年、コミュニティ・スクールの指定を目指し、推進委員会を設置。平成27年4月1日、コミュニティ・スクールの指定を受ける。平成26年度実施の保護者アンケート結果から、旧来石部地区に在住する人々と新たに居住するようになった人々では、共に支え合い理解し合える関係の構築が難しく、孤立しがちな家庭も多いことが分かった。このような状況から、子供が生まれ育った環境に左右されないことがないように、地域の人材による学習の支援体制を充実させ、子供と地域の人々との結びつきを強くする中で、「未来の石部を考えることのできる力」を持つ子供の育成に取り組んでいる。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域の人材による学習支援として、教育課程外では、長期休業中に宿題教室・郷土資料学習を、土曜日に科学実験・ロボット教室を実施。教育課程内の支援として、ミシン学習・そろばん学習・スキー指導・情報教育・環境教育・「石部学」遠足・読み聞かせ・米作りや栽培活動等で学習支援を受けている。コミュニティ・スクールとして指定を受けた平成27年度は、学校運営協議会の学習支援委員会が中心になり、多くの地域の人材が、長期休業中や土曜日の学習支援の充実を図り、子供たちとのつながりを深め、子供たちの学力保障・学力向上に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会の学習支援委員会委員が石部まちづくり協議会の「育てよう いしべっ子部会」に参画。地域の多くの方に、子供たちの学習支援を依頼。当初「どうして先生が教えないのか？」という疑問の声が出されたものの、「地域住民が地域の子供に学習を教えることの意義」を粘り強く熱意を持って説くことにより多くの地域の方々の賛同を得て、夏休みの学習教室開催を実現。「郷土資料学習」では、実施に先駆け、市内他地域で学習支援の実績のある地域の人材を講師として招へい。「郷土資料学習の進め方」について学習支援の担当者に事前研修会を実施。

事業を実施して

「地域の人材による学習教室」は、予想以上の反響を呼び、夏休みの宿題教室に62名(全校児童の17%)が応募。学校の教室では見せないようなおらかな笑顔と、達成感と満足感に満ちあふれた子供の姿が見られた。地域の方々は、「子供たちがこんなにも前向きに勉強するんだ。」と大きな気づきや発見をされ、改めて地域の子供と、地域の人材が共に学習することの意義を感得。「郷土資料学習」は、昨年度から継続しての実施。学習を支援する大人が見通しをもって実施することで充実を図っている。

その他

土曜日の教育活動においては、NPO法人「こなんネットしが」の支援により、冬にロボット教室を開催。学校支援地域本部による企業連携は、地元の(株)ゴーシュー、(株)甲賀高分子の地元企業の支援を得て、校区を流れる宮川の生物の観察や水質の検査、清掃活動の継続的な実施。ICTの活用は、地域住民で元NTT社員の方が、特別支援学級の児童を対象にPCの活用の指導を推進中。



まちづくりセンターでの夏休み宿題教室



郷土資料学習「郷土資料博士になろう」

地域に作られた学校応援団 【地域ぐるみで学校を支援する体制づくり】

滋賀県長浜市

活動名

小谷小学校学校運営協議会

関係する学校

小谷小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の実績）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	123人	20年度	無	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
コミュニティ・スクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	指定日				委員数	児童生徒数	学級数
	平成 21 年 12 月 1 日				8人	111人	8学級

活動の概要・経緯

平成20年度より旧湖北町教育委員会（平成21年度より市町村合併により長浜市教育委員会）が文部科学省より学校支援地域本部事業を受け、地域ぐるみで学校を支援する体制づくりを実践する。また、平成21年度からは文部科学省より指定を受け学校運営協議会の実践研究を行う。

その中で、ふるさと学習の副読本「浅井三代と小谷城」、道徳の地域教材副読本「地域の誇りが息づく道徳」を刊行し、授業の教材として活用している。また、「小谷ふるさと自慢カルタ」を作成し、校区内の全家庭に配布して、ふるさと小谷を知る一助となっているところである。さらに、学校運営協議会の取組の中から学校支援ボランティアが組織されたり、人材バンクが整備されたりして学校運営を支援する体制が整ってきた。その中で学校教育目標を具現化するために参画・連携した取組が進んでいる。特に「小谷城まつり」の地域学習や小谷教育の日の取組など、ふるさと学習の推進とともに、日常的な教育活動の支援が継続して行われている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ▼ふるさと学習の推進 ・ふるさと学習の教材作りや指導 ・副読本やカルタ等の作成 ・「子ども観光ガイド」の育成
- ▼学習活動の支援 ・低学年クラスへの朝自習の支援 ・朝の読み聞かせ ・理科、社会科、生活科、総合的な学習のゲストティーチャー
- ▼環境整備・安全を守る支援 ・学校花壇の植付け ・和リンゴの世話 ・登下校時の見守り ・プール清掃の補助 など

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会を定期的に開催し、意見交換の場を設けることで、学校教育目標の具現化に向けた参画や連携を行い、学校の課題解決や活性化に向けた提言ができるようにしている。また、学校評価に学校関係者として学校運営協議会が関わり、学校運営や教育活動の改善に向けた提言を行っている。

「できるときにできることをできるだけする」という、緩やかなコンセプトをもとに、気軽に学校に入って息の長い活動ができるように心がけている。

事業を実施して

- ・子供たちのがんばる姿を学運協だより等の広報誌で広く知らせるとともに、「子ども観光ガイド隊」や「小谷ふるさとまつり」など、子供たちが地域で活躍できる機会を設けることで地域の関心や支援が学校に向けられ、活性化の一助となっている。
- ・地域・家庭・学校の連携が進み、学校に対する地域の関心がますます高まりつつある。
- ・今後も副読本の活用や学校支援の様子を広報するとともに、新しい人材育成により一層力をそそぎたい。
- ・平成27年度は、創立140周年に当たり、周年事業についても様々なアイデアを出して企画・運営していきたいと考えている。

その他

ふるさと学習や学習活動の支援では、ゲストティーチャーとして様々な学習場面で学習支援活動を行っているが、今後は歴史・文化のみならず、地域の豊かな自然環境に目を向けた活動を展開できないか模索中である。



小谷城子ども観光ガイド隊



コミュニティだより

“ほんまもんの体験”を通し、 子供と大人が共に輝き育ちあうことを目指して

京都府京都市

活動名

中京もえぎ幼稚園学校運営協議会

関係する学校

中京もえぎ幼稚園

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室		コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティ・スクール		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
		平成 18 年 2 月 25 日			9 人	151 人	6 学級	

活動の概要・経緯

子供たちの豊かな育ちを目指す保育の実現に向け、保護者・地域の方々に幼稚園の運営を力強くサポートしていただくことを目指し、平成18年2月に「もえぎティンクル」（中京もえぎ幼稚園学校運営協議会）が発足した。「幼児期にはできるだけ“ほんまもんの体験”を重ねたい」という思いのもと、心を揺らし、様々な感情体験を積み重ねることで、優しくたくましい心や体を育て、子供・保護者・地域・教職員が共に学び、育ちあうことを目指して活動を行っている。

「親子の育ちプロジェクト」は、公立幼稚園教育の柱である「親も子も共に育つ」という理念のもとで実践を重ねている。保護者に直接、教育活動に参画してもらうことで、幼稚園教育や幼児の発達への理解推進を図っている。

「伝統文化プロジェクト」では、本園近隣の様々な伝統文化にあふれた地域環境を生かし、園児に“ほんまもんの体験”をさせるということが大きな活動の趣旨である。祇園祭の体験は、園児に代々受け継がれている祇園祭ごっこ遊びの原点でもある。また、お茶会体験では、園児自らが実体験を重ねることで「おもてなしの心」を学び、卒園前には保護者にお茶をたてておもてなしをする親子お茶会を行っている。

「教育研究プロジェクト」では、学校運営協議会委員（理事）である学識経験者を交え、隣接する幼・小・中3校1園の交流を生かしながら幼児教育に関する研究や学校評価項目の検討を行い、更なる保育の充実に努めている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 親子の育ちプロジェクト…「親も子もともに育ちあう」ことを目的に、保護者に“パバママティーチャー”や“絵本ボランティア”“託児ボランティア”を通して直接教育活動に参画してもらうことや、夏祭りの企画・運営などで教員と交流する中で、幼児の実態に触れ、幼稚園教育の理解を推進するなどして、保護者自身の自己有用感を高めることにもつなげている。
- 伝統文化プロジェクト…地域の方々にゲストティーチャーとしてお世話になり、祇園祭お話し会、山鉾見学、お茶会体験、餅つきなど日本古来の伝統文化である“ほんまもんの体験”を積み重ね、子供たちの遊びや経験・生活の幅を広げ、心が揺れたり、遊びが深まったりすることで、豊かな心を育てている。
- 教育研究プロジェクト…喫緊の教育課題に対する研究や学校評価項目の検討及び結果の検証をすることで、教育活動の充実に努めている。

【実施に当たっての工夫】

- 日頃の教育活動との兼ね合いを考え教員との連携を取りながら、支援活動等を計画的に行う。
- 「地域の学校の出発点」としての連携を軸に、学校評価を活用しながら子供たちにつけたい力や活動の意図・目的などを明確にして、子供たちへの支援活動に参画している方々に共通理解を図る。
- 継続的な取組となるようゲストティーチャーの方々とのコミュニケーションを大切に、また、活動が形骸化しないよう相談を重ねながら体験活動等に取り組む。

事業を実施して

- 活動に参加された保護者からは、幅広く子供の世界を見ることで、我が子の見方も変わることができたという声がある。教員の見方や幼稚園の考え方にも触れてもらうことで、強力な幼稚園教育の理解者となってもらえる。教員も保護者や地域の方々に納得してもらえるだけの幼稚園教育の発信を行う力量を高めることにもつながる。
- 園児にとっては、園や家庭だけでは得られないような体験を重ねることができること、遊びの中に再現されることなど教育効果があると考えられる。
- ゲストティーチャーの方々には、お茶会などの活動を通して、子供たちの変化や成長に気づいてくださり、幼稚園教育への理解を進めてくださっている。子供たちが一生懸命保護者をもてなそうとする姿から、心の育ちの大事さを感じてもらっており、親子のほほえましい実態にも触れ、毎年の活動を楽しみにしていただいている。

その他

もえぎティンクルの活動も10年を迎え、教育活動の中に定着してきている。今後は更にそれぞれのプロジェクトが充実・発展していくよう、委員（理事）・企画推進委員・ボランティアの連携を密にし、取組を進めていきたい。また、もえぎティンクルの活動を広め、より多くの方々に理解・協力してもらえるように広報誌を作成していきたいと考える。



親子お茶会の様子



祇園祭お話し会

地域の力でまなびを支援 ～自学自習の習慣や基本的な学力の定着を図る～

京都府京都市

活動名

竹の里小学校放課後まなび教室による活動

関係する学校

竹の里小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	36人	175日	有	有	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		放課後まなび教室			19年度	一体型		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- 放課後における児童の自学自習を中心とした学習習慣の定着と安心安全な居場所の充実を図るため、平成19年度に開設。
- 平成19年度の開設当初から、授業実施期間中は週5日（月曜日～金曜日）実施しており、平成26年度は一年間で175日実施している。
- 全校児童の約4割が登録しており、多いときには50名近くの児童が出席し活気のある活動が行われている。
- スタッフは、地域の自治連合会長を中心に学校運営協議会のメンバーや元保護者、元小学校教員などの地域の方々約20名で構成されており、ローテーションを組んで日々の運営に参画している。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 教室に来た児童は、まず宿題や音読などの自学自習に取り組んでおり、個々の児童の状況に応じてスタッフが児童に寄り添い、丁寧に支援している。学習が終わると読書をしたり、折り紙、ゲーム、パズル、ビーズ手芸、編み物をしたりと様々な取組を楽しんでいる。
- 例年、夏休み期間中に実施している陶芸教室などスタッフの特技を活かした体験活動などの取組も実施されている。
- 放課後まなび教室に隣接した部屋でゆうゆうクラブ（放課後児童健全育成事業）を実施している。放課後まなび教室登録児童のうち約4割がゆうゆうクラブにも登録しており、多くの児童が放課後まなび教室での活動を終えた後、引き続き、隣室のゆうゆうクラブに移動して活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- スタッフは、「温かい雰囲気」の放課後まなび教室をつくろうと共通理解した上で、個々の児童の実態を把握し丁寧に児童に対応している。
- スタッフの会議には校長・教頭等も参加し、放課後まなび教室の運営や児童の状況についても話し合い、スタッフと学校の連携・協力が図られている。学校の教員が放課後まなび教室での児童の活動の様子を見に来ることも増えており、スタッフと学校の共通理解が進んでいる。
- ゆうゆうクラブと場所が隣接していることもあり、放課後まなび教室とゆうゆうクラブのスタッフ同士が日常的に情報交換等を行うとともに、放課後まなび教室の催しにゆうゆうクラブの児童が参加するなど連携を図っている。

事業を実施して

- スタッフが見守る中で児童がリラックスして活動に取り組める場となっている。
- 児童は教室に来ると宿題などの自学自習に向かう姿勢が身につけており、スタッフの丁寧な支援により「わかる喜び」「達成感」を感じることができている。
- 地域の参画で「放課後まなび教室」を実施することにより、学校と地域の連携がより一層促進されている。

その他

- 「地域の子どもたちのために」の思いを胸にスタッフが連携・協力して、できる限り実施日数を確保しており、児童の放課後の「自主的な学びの場」、「安心・安全な居場所」として定着している。



学習に取り組む児童に寄り添うスタッフ



日常の放課後まなび教室の様子



こんな活動です

学生による「西ノ岡放課後塾」と図書ボランティアによる「おはなしコンサート」

京都府向日市

活動名

向日市学校支援地域本部事業
西ノ岡中学校実行委員会による活動

関係する学校

西ノ岡中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	54人	25年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- ・西ノ岡中学校では、大学生による学習支援「西ノ岡放課後塾」とPTA等の図書ボランティアによる読書活動支援「おはなしコンサート」の2つの活動に取り組んでいる。
- ・「西ノ岡放課後塾」では、高校進学への意識を高めるため、部活動を引退した中学校3年生の希望者を対象に放課後の学習支援を実施している。
- ・「おはなしコンサート」では、児童・生徒の図書に対する関心を高めるため、朗読・人形劇・ピアノやフルートの演奏・映像などを取り入れたコンサートを、西ノ岡中学校及びその校区内の小学校で実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

○西ノ岡放課後塾

- ・支援するボランティアには、生徒が親近感を持てるよう、年齢の近い大学生を募集している。
- ・実施内容については、コーディネーターと学校が協議するほか、学生ボランティアを交えた反省会を実施し、大学生のアイデアを活動に取り入れている。
- ・学習面だけでなく、高校や大学生活のことを大学生に聞く機会にもなっている。

○おはなしコンサート

- ・西ノ岡中学校が学校支援地域本部事業に取り組む以前の平成20年度から、PTAや地域住民による図書ボランティアで活動を開始した。
- ・台本作りや演奏する曲目選び、人形の制作なども全てボランティアが行っている。
- ・近年は、市内の一般向け講座や他市の中学校でもコンサートを実施しており、活動の広がりが見られる。

【実施に当たっての工夫】

○西ノ岡放課後塾

- ・なるべく地域在住で西ノ岡中学校出身の大学生を募集するため、コーディネーターが地域で声かけをしながらボランティア募集チラシを配布している。
- ・大学生と生徒との関係性を重視し、学生ボランティアによる運営を目指している。

○おはなしコンサート

- ・中学校で実施することから、演目は教科書に載っている文学作品や古典作品の他、地域を題材としたオリジナルの作品などを実施している。
- ・現在の中学校の様子を地域に伝えるため、コンサートには保護者や地域住民も招き、演目前にボランティアが制作した西ノ岡中学校の紹介映像を披露している。



おはなしコンサート 活動の様子



事業を実施して

- ・卒業生による学習支援や地域住民による読書活動支援など、身近な方々による支援が子供と地域とのつながりを深める要因となっている。
- ・卒業生とその保護者が、中学校卒業後も地域の一員として活動に取り組む流れができ、学校が幅広い世代の地域住民が集う場となっている。



西ノ岡放課後塾 活動の様子とボランティア募集案内



その他

向日市学校支援地域本部は、西ノ岡中学校以外の小学校や中学校でも事業に取り組んでおり、地域住民による体験活動や環境整備支援など、それぞれの学校・地域に応じた活動を行っている。

”子どもは惇明の宝” ～地域のふれあいの中でのびのび大きく育ててほしい～

京都府福知山市

活動名

惇明わんぱく村による活動

関係する学校

惇明小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	1人	93人	14年度	無	無	無	有	
基本データ	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール		指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯
「惇明わんぱく村」は平成14年に、惇明小学校PTAとそのOB、教職員、婦人会、公民館で実行委員会を組織し運営され、平成24年度からは惇明地区公民館（青少年部）が主体となって小学校と協力しながら事業を実施している。「土曜日は子供達が地域の中で学ぶ時間」ととらえて、学校を会場に子供たちが地域の人たちとふれあう場として、各学期に1回年3回、土曜日の午前中に開催され、家庭・地域・学校の連携の先駆的な取組になっている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

惇明わんぱく村の活動の特徴は内容が多様なことである。今までに取り組んだ活動は、マンガ、料理、音楽、陶芸、お花、どこいせ福知山踊り、バルーンアート、跳び箱、リズム、ギネスに挑戦長靴とばし、おもちゃ作り、車いすバスケットボール、空手、折り紙切り紙、福知山よさこい連の踊り教室、ギター、ドッチボール、バスケットボール、数字の工作教室、プールなど子供達は多様な体験をしている。

【実施に当たっての工夫】

「子どもは惇明の宝」というスローガンを掲げ、「地域のふれあいの中でのびのび育ててほしい」という願いを持って、地域一体となって運営している。各体験活動の講師は惇明地区内で募集し、ボランティアとして運営に携わっていただいている。常に「惇明地区公民館だより」で地域人材のボランティア講師発掘を行うことで、地域住民の理解を得る工夫された取組を継続して実施している。活動は、年2回発行の「公民館だより」に予定と実施風景等を掲載し、マスコミの取材も多く、活動の周知が十分に図れている。

事業を実施して

地域の関係者が小学校に集まり、世代間・所属を越えて交流することによって、地域のきずなが深まる場となっている。また、学校も「地域に開かれた学校」を推進する上での中心的事業と位置づけ、教職員の参加、学校だより等での紹介等積極的な関わりがある。子供たちは自分が地域の一人として地域のみなさんに見守られ成長していることを実感できている。（児童の感想等より）

その他

開始当初は、外部講師を招いたり回数を増やしたりして実施していたが、現在は学校と家庭・地域社会が「ゆるやかに」つながり「いつまでも」継続できる方法である「システム結（ゆい）」（京都府が推進している学校支援体制イメージの呼称）のイメージどおり、地域や学校の担当者等が変わっても継続して開催できるよう開催回数を適正化し、惇明地区内で講師募集やボランティア支援の体制を整えることで、学期1回の開催としている。本年度で14年目の継続開催となった。今後も、目的を共有し、学校・家庭・地域が連携して子供の居場所づくりを推進していく。



「鉄道のまち ぶくちやま」ならではの取組「ミニS.L体験教室」



本格的なサッカー教室 グンゼサッカー部のみなさんと

大阪府大阪市

活動名

鶴見小学校・みどり小学校・
焼野小学校「いきいき」活動

関係する学校

鶴見小学校・みどり小学校・焼野小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	3人	154人	284日	有	無	無	有	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
余裕教室、運動場、体育館					9年度	連携なし		
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

大阪市鶴見区では、自立した地域活動が大変活発に行われ、中でも地域活性化の柱として「子育て支援策」を重点課題としてきた。学校と地域そして保護者との関係が希薄となり全国的にも校内環境の悪化には目に余る状態が続く中で、いち早く地域住民と町会(自治会)が学校・教師との協議や保護者ニーズを確認の上、「学校問題調査チーム」を立ちあげ広範囲の意見集約に努めた。その結果が「児童いきいき放課後事業」の受託である。この事業には「地域に有る有形無形の資源」を活用し各々一体となり子育て環境の整備、育成を図り、他方では学校を核とした地域コミュニティを形成する事にした。その結果多様化した問題にも共有して対処できるようになり、世代を超えた交流と見守り活動ができるようになった。

特徴

【特徴的な活動内容】

この事業実施に当たっては、当初の目的どおり地域ボランティア(有償を含む)や老人会そして女性会も含めて従来の枠を超えた「育み環境」の整備と子供の個性を尊重した「生活の場」作りに努めてきた。①他校児童との学習やイベント交流により新たな出会いの創設、②日頃は過密気味の教室から緑地公園などの広い空間での競技や散歩を通じて本来のきずなや信頼の醸成、③お年寄りのボランティアなどによる植物探索や昔の家庭生活と現代との対比を通じて社会を考える、④他の団体とのコラボレーションにより、「宇宙の誕生と地球そして未来を考える」・「食育、世界の食料問題」などの講演等を定期的に実施した。いずれも、広範囲な場所を利用するため移動や子供の安全確保には、多くの地域住民やボランティアが応援をしてくれた。

【実施に当たっての工夫】

①企画前には、できるだけ子供たちの希望をとりいれて楽しみながら体験や学習ができるよう工夫した。②ボランティアや保護者には、事前に初期研修を行い生徒との接し方や支援児童への対応などを実施した。③外部とのコラボに対しては、実績と信頼のできる団体を厳選した。④終了後には、アンケートや聞き取り等により、意見を集約して次回に反映させる。⑤子供達が、自分たちでルールを決め上級生が下級生のサポートをしながらゲームや競技を楽しめるよう側面からの支援を行った。

事業を実施して

- ①自校以外の児童との交流に対する関心が非常に強く、特に学校対抗競技や個人対抗競技では、勝負にこだわりながら真剣に取り組んでいた。
- ②まもりごとや約束・取決めについても、学校単位で優劣を競いあい、こうした活動が大変有意義であることが実感できた。
- ③参加した保護者やボランティア、指導者そして子供たちが共に交流できる場は、いきいき活動の運営や管理に対して理解度が高まり、広く認知された。

その他

NPO等との連携活動では、放課後NPOセンターとの連携で実施した「宇宙と地球その未来」のテーマで東京大学の高梨教授が「このとり」に関連して宇宙そのものを分かりやすく児童に講義を行い子供たちから大きな関心が寄せられた、また、不二製油株式会社の社員ボランティアによる「大豆を通じて食・その未来を考える」でも豆腐作りなどの実演を通して食そのものの大切さを教わった。

「特定非営利活動法人緑・ふれあいの家」は、緑地域内の各種団体・自治会・PTA・社会福祉協議会などが法人格を取得した会社である。積極的に地域の自立と地域コミュニティ作りを目指し「行政と連携」のもとに地域内のいるいるな問題に対処してきた。地域の子供達は地域が育てるをコンセプトにして地域資源を活用し一層の事業内容の向上を図ることとする。



宇宙の誕生



鶴見緑地公園 合同お花見会

大阪府大阪市

活動名

依羅小学校「いきいき」活動

関係する学校

依羅小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア毎人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	70人	287日	有	無	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	余裕教室、運動場、体育館				8年度	一体型	
	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

- 活動の概要・経緯**
- 地域等との連携及びいきいきパートナーによる活動・将棋の指導（パートナー 月2回）・種々の遊び指導（大阪市立大サークル「コノユビトマレ」 月2回）・ハーモニカ指導・絵本読み聞かせ
 - 日常及び季節・学期に応じた活動・壁面飾り（毎月）・節分、おひな様、こいのぼり、七夕、クリスマス（音楽と工作）等の季節行事・めだかの飼育
 - 新たに取り入れた活動・英語で遊ぼう・アフリカの太鼓（ジェンバ）演奏
 - 長期休業中（特に夏休み中）の活動・虫取り・（秋に実施の）作品展の作品作り

特徴

【特徴的な活動内容】

- 「コノユビトマレと遊ぼう」 校区に隣接する大阪市立大学のボランティアサークル「コノユビトマレ」の学生と土曜日に月2回交流。
- 避難訓練 年4回実施。1回目火事、2回目地震・津波、3回目、4回目は歩行困難な児童をおぶつての避難。

【実施に当たっての工夫】

- 「コノユビトマレと遊ぼう」 学生たちには、児童との交流は「いきいき活動」の一環であり、①安全、②「抱っこ」「おんぶ」は禁止、③雨天以外は外遊び、④支援を必要とする児童への配慮等を申し入れた。指導員は、大学生のサークル活動を受入れながら、安全に気配りし、支援を必要とする児童と一緒に活動できるように助け、見守りながら付き添うようにした。
- 避難訓練 避難時間は15分から5分に短縮された。また、3回目、4回目は歩行困難な児童を背負う危険回避のため、おんぶ帯を作り、活動室（2階）から4階まで背負って登ってみた。曜日を変えたり、不審者対策の避難も取り入れたりする予定である。

事業を実施して

放課後や長期休業中、安全な場所での楽しい遊びの体験を通し、その中から友達付き合い・助け合い・集団生活での規律・基本的生活習慣等を育成することを目標としている。そのために、指導員が幾度も話し合うことにより多くのルールを決め、児童に繰り返し丁寧に指導し続けてきた。活動の反省や問題提起、研修会の伝達研修、支援に関する問題点、保護者からの連絡事項、前日のトラブル等は毎日のミーティングで周知徹底している。また、その補助として、活動全体の「いきいきノート」、〇ちゃんノート（要支援児童）、「服・傘貸出しノート」等を活用し、情報の共有を図っている。

その他

より魅力ある活動とするために、日頃から一人一人の指導員がアンテナを高く張って意欲的に活動のヒントを吸収し、得意分野をより発揮し、研さんを積み重ねてきた。季節の行事に合わせた特別活動は指導員が1か月前から分担準備し、科学実験や作って遊ぶ工作等、多くの児童が楽しんでいる。



コノユビトマレと遊ぼう



避難訓練の様子

団塊の世代が今、小・中学校へ。育てます、子供らの学ぶ意欲を！

大阪府島本町

活動名

島本町学校支援「ゆめ本部」による活動

関係する学校

第一小学校・第二小学校・第三小学校・第四小学校・第一中学校・第二中学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
土曜日の 教育活動							
学校支援 地域本部	コーディネーター数	ボランティア 登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	12人	96人	23年度	無	有	有	無
放課後 子供教室	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティー スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- ・島本町学校支援「ゆめ本部」は、平成20年度よりスタートした国の学校支援地域本部事業を3年間活用した後、平成23年度に町ぐるみの学校支援「ゆめ本部」事業に発展させ、設置当初から町内の小・中学校6校全てで実施している。当初50名ほどの学習支援ボランティアでスタートしたが、現在約100名となり、ローテーションを組んで、小学校4校、中学校2校の放課後学習会などで学習支援を行っている。…放課後学習会（全小学校・中学校）、テスト前自主学習会（全中学校）・土曜スクール（中学校）、木工の実習授業サポート（中学校）、ミシンの実習授業サポート（小中学校）、サマースペシャル学習会（中学校）等実施。
- ・学習支援活動のほかにも学校長の要請に応じて、「緑のカーテンづくり」「図書室整備や絵本の読み聞かせ」「地域の歴史」等の学校支援の活動を進めてきた。さらに、登下校時における子供の安全見守り活動等のボランティアと連携し、多くの地域人材が学校に通うことで、子供たちの安心・安全につながっている。
- ・ボランティアは教員免許がなくても良いとしたところ、多種多様な職業、豊かな社会的経験を持つ人材が集まり、子供たちの学びを支援している。年間延べ344日にわたり、延べ1896名もの地域ボランティアが参加している。
- ・こうした学校支援活動を担うボランティアを対象とした「ボランティア研修会」を年1回実施し、指導主事や現場の教諭からアドバイスを受けてスキルアップを図り、日頃の学習支援活動を振り返っている。また、先の全体レベルの研修会に加え、学校単位でも「子供たちの学びの充実」に向け、学期ごとに現場の教員を交えて学習会の改善策を考え合っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・【町ぐるみの取組】…平成23年度に町ぐるみの学校支援「ゆめ本部」事業に発展させ、町内の小・中学校6校全てで実施している。ボランティアの延べ人数は1896人にのぼる。
- ・【多種多様な職業から参加】…学習支援サポーターには、元教員は少数で、各種産業のエンジニアであった方が多いのが特徴。加えて、元看護師、裁判官、音楽家などの様々な分野から参加いただいている。
- ・【様々な学習支援活動】…放課後学習以外にも、学校の要請に応じて、「木工」「ミシン・調理実習」「図書館整備・読み聞かせ」「昔の島本地域学習」等で、多くの地域人材が学校と「協働」して活動している。
- ・【意欲的な人材育成】…コーディネーターは、会議、学習アドバイザー研修・交流会及びフォーラムを開催するとともに、毎年度末アンケート活動を実施することによって、活動を振り返り、活動の活性化とボランティアの意欲向上を図っている。
- ・【コーディネーターのチーム力】…小・中学校の10数名のコーディネーターが、日常的に連絡を取り合い、情報の交換を行い、よりよい学校支援ができるよう連携している。中でも、中学校のコーディネーターは、コーディネーターのまとめ役を務めるとともに、地域の諸団体とをつなぐ要の役割をも果たしている。

【実施に当たっての工夫】

- ・年度末には、児童生徒・保護者・アドバイザーにアンケートを配り、事業の評価を行っている。毎年保護者からの評価は高く、PDCAサイクルをきちんと実践することで課題に向き合い、マンネリを排し、学校と連携したより意義ある活動を目指している。
- ・活動推進のため、中学校内に事務局を置いている。約10人のコーディネーターが月1回夜7時からの事務局会議を行っている。
- ・インターネットを有効に活用したり、年度末には活動報告とアドバイザー募集の広報チラシを全戸配布したりなど、きめ細やかな情報発信に努めている。
- ・京都産業大学の西川信廣教授のコーディネートで「『地域とともにある学校づくり』フォーラム」を実施したり、著名人を講師とした講演会を開催したりと、地域の教育力向上を図っている。講演会はPTA連絡協議会等と共催し、教育コミュニティの充実を図っている。

事業を実施して

- ・親が共働きの家庭では、家でゆっくり勉強を見てあげられないことが多い。「学習会のある日は、宿題を終わらせているので、『宿題をしたのか』と言う必要もなく、親子でストレスが減少した。」という声は多い。放課後学習への保護者の評価や支持は高い。また、父子家庭で「土曜スクール、サマースクール、テスト前学習会へ参加することで学力も上がり、進学も果たした。」と感謝の声を届けてこられた方もいる。いろいろな意味で困難な毎日を送っている家庭の支援になるよう、取組の充実を図っている。
- ・学習アドバイザーへのアンケートでは、具体的な子供の成長の姿がアドバイザーのやりがいにつながっている。「町で子供らに声をかけられうれしかった。」「定年後の人生、生きがいにつながっている。」と答える人もいる。当初50名であった学習アドバイザーは年々増えており、現在は約100名が登録、支援活動を行っている。



小学校放課後学習会の光景

その他

【ICT環境の活用】

- ・ホームページ上に会員専用サイトを設け、事務局会議の関係資料や会議録を閲覧できることから、特にコーディネーター間での情報共有ツールとして活用している。
- ・ボランティアの募集に当たっては、ホームページ上に、ボランティア希望者が仮登録できるシステムを構築し、その増員・拡充に努めている。

【その他】

- ・事務局会議では、この先のコーディネーターの世代交代も鑑み、その人員の確保のため、PTA役員のOBや、学習アドバイザーの中から運営側となってもらえそうな人に、積極的に声をかけ、本組織に持続性と更なる広がりを見い出す動きも行っている。



学習アドバイザー研修会

遊び・学び・体験の場で、 子供も大人も笑顔あふれるコミュニティ！

大阪府吹田市

活動名

東佐井寺小学校区 太陽の広場による活動

関係する学校

東佐井寺小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		3人	101人	191日	有	無	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		東佐井寺小学校運動場・低学年図書室・地域交流室			17年度	一体型		
		コミュニティスクール			指定期日	委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・吹田市の「こどもプラザ事業」は、地域が一体となって子供たちを見守り育てるため、地域ボランティアの協力のもと、各小学校区において実施されている事業。平日の放課後、学校の施設を活用して、子供たちが安心して安全に過ごせる居場所を提供する「太陽の広場」と、土曜日等に体験活動の機会を提供する「地域の学校」からなる。
- ・「太陽の広場」の主な活動内容は、ボール遊び、鬼ごっこ、サッカー、野球、一輪車など、運動場で自由遊びをしたり、余裕教室を活用して自学自習や宿題をしたり、読書を行うことが中心。子供たちの自主的、創造的な活動を支援する。
- ・ブロックアドバイザー（市の非常勤職員・元校長、教頭、園長）が市内各校を巡回し、学校・留守家庭児童育成室などとの連携・調整や、フレンド（安全管理員）の育成と広場の運営を支援した。
- ・東佐井寺小学校区では、「こどもプラザ事業」として、平成17年度より水曜日の放課後に実施する「ひがさいっ子ステーション」を開始。平成18年度より、「太陽の広場」を開始する。
- ・「ひがさいっ子ステーション」は、年8回、全学年4時間授業になる水曜日の放課後に実施しており、「おもちゃ作り教室」「クラフト教室・ザ・エコ」「楽しい手芸」「絵本とあそび！わくわくタイム」「Enjoy English」など、多彩な講座を開設している。保護者からサポーターを募集することで、保護者と地域ボランティアとの交流の機会となっている。
- ・吹田市では週3回以上開催の小学校は登録制にしており、東佐井寺小もほとんどの児童が登録している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・平日の放課後はほぼ毎日開催しており、年間実施日数が191日と大変充実している。1日当たりの参加人数も平均101人と非常に多い。
- ・「太陽の広場」の主な活動内容は、ボール遊び、鬼ごっこ、サッカー、野球、一輪車など、運動場で自由遊びをしたり、余裕教室を活用して自学自習や宿題をしたり、読書を行うことが中心。子供たちの自主的、創造的な活動を支援する。
- ・「ひがさいっ子ステーション」では、「おもちゃ作り教室」「クラフト教室・ザ・エコ」「楽しい手芸」「絵本とあそび！わくわくタイム」「Enjoy English」など、多彩な講座を開設しており、子供たちからも人気が高く参加人数も多い。
- ・放課後児童クラブの児童が、日常的に「太陽の広場」に参加するとともに、放課後児童クラブ主催の「たんぼぼまつり」に「太陽の広場」の児童が多数参加している。学生ボランティア（関西大学）がスタッフとして参加している。
- ・コーディネーター、放課後児童クラブ指導員、学校関係者、教育委員会事務局で、両事業の取組や子供たちの様子、合同研修等について、月1回の情報交換会を開催している。それとは別に、フレンドと担当のブロックアドバイザーで月1回フレンド会議を開き、情報の共有化を図っている。
- ・子供たちの活動を見守るフレンド（安全管理員）には19名の登録があり、基本的に1日3名で運営している。活動者の意欲は非常に高く、創設時より継続されている。

【実施に当たっての工夫】

- ・「ひがさいっ子ステーション」での活動に際しては、スタッフが準備や研究を十分行っている。また、保護者からサポーターを募集することで、保護者と地域ボランティアとの交流の機会とするなどの工夫をしている。
- ・フレンド同士で、会議での確認を綿密にし、周知徹底をしっかりと行っている。（欠席者にも情報が確実に伝わるようにしている。）



絵本とあそび！わくわくタイム

事業を実施して

- ・太陽の広場を毎日開催していることにより、学年に関係なく子供同士の交流が進んでいると感じる。
- ・子供たちと顔なじみになって、校外で会ってもあいさつ、会話ができる関係ができることが地域の方々の喜びと、続ける気力になっている。
- ・子供たちの「居場所作り」のために関わってきた大人たちにとって、この活動が実は地域の大人たちの「居場所作り」にもなっている。

その他

- ・様々な地域の団体に属する方がスタッフとして入っている。そのため、太陽の広場の活動に対する地域の理解度がとても高い。
- ・新たな人々がスタッフとして入りたいという希望を受け入れる、地域の方々の温かい雰囲気が感じられる。



外遊びで異学年交流！

「みんなつながる えがおのわ～障がいのある子もない子もつながりあえる仲間になろう～」

大阪府阪南市

活動名

阪南市立飯の峯中学校区地域教育協議会
「りんくる桃の木台」

関係する学校

飯の峯中学校・桃の木台小学校・桃の木台幼稚園・まい幼稚園・桃の木の森保育園

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の権利参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の権利参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- ・関西国際空港建設に関連した宅地造成に伴い新しい街ができ、様々な地域から移り住んできた住民が集まり、街づくりに際して、『この街に育ってよかった』と言える子供を地域ぐるみで育てようと、平成13年度に阪南市立飯の峯中学校区地域教育協議会、通称「りんくる桃の木台」を立ち上げた。
- ・「福祉感覚豊かな子どもの育成」を目指して、地域の各団体、小学校、中学校と連携して、主に地域住民が参加する行事を通して活動を行っている。
- ・主な活動には、夏まつりや冬のイベントへの参加や、地域をあげて、障がいについての理解を広げる「サンサンパーティー」、子育てをテーマにした講演会、土曜日等に「科学教室」を開催するなど、現在まで継続して活動を続けている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・障がい理解をテーマとする地域のフェスタ「サンサンパーティー」の取組が大きな特徴。
- ・自閉症の子供の保護者の方の「子どものことを知ってもらいたい」という思いと、地域の方の「知りたい」という思いが結びついて、平成18年に始まったフェスタ。学校と地域の連携により毎年1回、継続して実施されている。
- ・「りんくる」のメンバーと学校が、取り組む内容を相談して実施。中学校を会場として、様々な障がいをテーマとする10以上の体験ブースを中学生が担当し、小学3、4年生が中学生の案内によりブースを回って体験をする。このような、テーマ性が高く、小中学校が連携して関わるフェスタは府内でも余り例をみない。
- ・その他、土曜日等に「科学教室」を開催し、学校の授業では味わえない学びを子供や保護者に提供。
- ・また、子育てをテーマ（インターネット、金銭教育等）とした講演会を毎年実施し、地域で子育てを支援する環境づくりの醸成を図っている。
- ・コーディネーターは、障がいのある子どもの保護者と地域の人々のニーズをマッチさせるなど、保護者や地域のニーズを的確に受け止めた企画運営を行っている。

【実施に当たっての工夫】

「障がい理解」をテーマとした小・中学生中心のグループ体験学習であり、10程度のブースを中学生が運営するが、遊びの部分と学習の部分をはっきりと区別できるよう、その運営スタッフの指導を地域の人々や小中学生の保護者をお願いしている。サンサンパーティー以外の取組においても、常に地域の方と子供たちのコミュニケーションの場としてとらえ、関西空港開港とともにできた新しい街を「おらがふるさと」と思えるまち作りの一助となるよう、意識して運営している。

事業を実施して

- ・学校と地域が連携協力して子供を育てるといった機運が高まった。
- ・地域の子供は地域で育てるといった環境醸成につながっている。
- ・行事に参加した地域住民から、「飯の峯中学校生のおかげでたくさんお客さんに来てもらうことができたし、小さい子供の扱いもうまく、手際が良い。」と感想が出るなど、中学生の成長がうかがえる。地域を背負う柱としていろいろなか機会活躍を期待している。

その他

地域では、実際に障がいのある子供もたくさん入学し、充実した学校生活を送り、卒業していつている。障がい教育はもちろんであるが、以前嚙唾（ろうあ）の友達があったことがあり、そのときからずっと小学校では入学当初から手話を学習し、全校児童並びに教職員が手話で会話することができる。校歌も普段から手話を交え、斉唱している。



車椅子体験



授産施設の作業体験（入所者と）

「たからづか学校応援団」 ～できることを、できるときに、できることから～

兵庫県宝塚市

活動名

宝塚市学校支援地域本部

関係する学校

市内小・中学校 33校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	10人	1062人	20年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯
 地域の子供を犯罪から守るという思い、自分たちが昔行っていて今は行うことが難しくなっている活動を子供たちにも経験させたいという思い、地域の人に学校に入って子供たちを見守ってほしいという学校・家庭・地域の思いから、平成20年度より宝塚市学校支援地域本部事業が開始された。「できることを、できるときに、できることから少しずつ」をテーマに、緩やかなボランティア活動が行われている。現在では、「草引き集会」、「育成会下校児童見守り」、「卒業式前花壇整備」等の環境整備や、「黒豆収穫祭」、「アコーディオン指導補助」、「ミシン指導補助」等の教科等指導補助、特別支援児童の校外学習引率、行事への協力等多種多様な活動が、年間を通して安定的に行われている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・学校コーディネーターを中心に、自治会、まちづくり協議会、PTAなどの団体と学校支援地域本部事業との連携が図れている。また、学校コーディネーターの活動を調整する総括コーディネーターを配置しており、全市的な活動が活発に行われている。
- ・ボランティア活動にとどまらず、子供の安全を守る会議等に出席するなど、学校コーディネーターが話し合いの場に積極的に参加し協議している。
- ・母語指導に当たる外国籍の方、学校支援ボランティアの卒業生、各種免許保持者がボランティアとして参加しており、子供たちが多様な経験を積むことができる環境が整えられている。

【実施に当たっての工夫】

- ・各コーディネーターによる広報活動（案内活動チラシのポスティング等）のみならず、全市民を対象とした年2回のボランティア研修会や自治会回覧の実施を行うことにより、人材の確保に努めている。また、学校への制度周知のため、全市的に活動を行う総括コーディネーターによる新任校長訪問を行っている。
- ・学校コーディネーター及び総括コーディネーターによる会議を学期ごとに開催（年3回）しており、効果的な支援活動の方法や共通課題の認識などの情報交換を定期的に行っている。

事業を実施して

- ・学校側からは、「人材探しや活動の連絡をする必要がなくなってきた。」「地域との関係が深まってきた。」「子供たちの挨拶や言葉遣いに変化してきた。」などの声がある。
- ・ボランティアからは、「学校が身近なものに感じられた。」「子供たちや先生から声をかけられることが増え、元気がもらえている。」「自分の生きがいになっている。」「保護者やボランティアからも声をかけられ地域のきずなが深まった。」などの声がある。

その他

- ・学習支援活動として、たからづか寺子屋事業を実施している。
- ・子供たちからのお礼として、手作りのおまもりをもらったり、ボランティア感謝の集いが行われたりしている。
- ・全学校にコーディネーターを設置し、地域と学校の連携が促進することを目標としている。



ミシン指導補助



昔遊び

兵庫県加西市

活動名

北条小学校学校支援地域本部

関係する学校

北条小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	206人	17年度	有	無	無	有
放課後子供教室	コーディネーター	子供の笑顔参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

【発足の経緯】

北条小学校では、長年にわたり地域のボランティアとの連携・協力により学校運営や学校教育を行ってきた。その取組が更に充実するようにと、学校支援本部事業が設置され、社会科や総合的な学習、学校行事等、全学年にわたり、幅広く、かつ計画的に支援活動を行うようになった。中でも成果を上げているのが6年生の「歴史ガイド隊」である。総合的な学習の時間に加西市歴史街道ボランティアガイドの指導を受けて歴史学習をしていた。そんな中、熱心に耳を傾ける児童の姿を見て、ボランティアガイドの方から学校に対して、「子供たちが自分でガイドをすることを通して、ふるさとへの愛着と豊かな心を育てることができたら」という提案があった。そんな呼びかけに6年生の児童6人が応じ、発足の流れとなった。

【概要】

子供たちが地域に愛着をもつような取り組みをし、総合的な学習の時間等で地域学習をする際にお手伝いをしている。2年生では、生活科の学習で、地域の方が町探検における町案内ガイドを行っている。3年生では、社会科の学習で、地域の方が昔の道具の体験の支援や説明を行っている。4年生では、社会科の学習で、地元消防団が防災施設の説明を行っている。5年生では、総合的な学習の時間で、羅漢絵はがきの作成を支援している。6年生では、総合的な学習の時間で、歴史ガイドに必要な知識や方法を指導し、歴史ガイド隊として観光客にガイドをする活動を支援している。また、読み聞かせボランティアとして、全校生に関わっている。さらには、校区内の登下校時の見守りや校内巡視を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

歴史ガイド隊は土日、祝日や長期休業日中に五百羅漢、酒見寺、住吉神社の3か所をガイドする組織である。まず、年度はじめの4月に5、6年生に向けて歴史ガイド隊を募集する。有志により集まった歴史ガイド隊は、家庭訪問期間中や土日に、加西市歴史街道ボランティアガイドの方々より指導を受ける。5月下旬に「歴史ガイド隊プレデビュー」と称してガイド隊の保護者や家族などに五百羅漢をガイドする。その後、加西市歴史街道ボランティアガイドを通して歴史ガイド隊を観光客に紹介し、観光客のガイド要請を受けて、当日にガイドをするといった活動内容である。

大人のガイドから小学生の歴史ガイド隊にバトンタッチされた途端に観光客の表情がゆるむ。そのけなげさ、子供らしい優しい言葉遣い、時には説明内容を忘れ、友達と助け合って案内する様子は、ほほえましく、観光客に好評を博している。指導役のボランティアガイドからも「どんな修練を積んだガイドも、小学生の歴史ガイド隊にはかなわない。」と、お褒めの言葉を頂いている。子供たちのふるさとを思う純粋な心から発するガイドは、大人顔負けである。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターが、事前に学校からの要望を聞き、集約しておき、学校支援ボランティアに依頼・調整するといった活動を継続的にしている。6年生の「歴史ガイド隊」では、子供たちに、ふるさとの歴史を学び発信する活動を通して、北条小学校の代表であるという自覚と責任感やおもてなしの心でガイドをするという心構えを身に付けてほしいという学校側の要望を受け、学校支援ボランティアが指導に当たっている。また、強調してガイドしたい内容の表現方法や、途中にクイズを出してガイドの流れに変化をつけるといったガイドの構成等、国語科の学習に関係する内容については、コーディネーターがもつ幅広い情報・知識を生かし、学校応援ボランティアの指導にも当たっている。



ボランティアガイドの指導を受ける歴史ガイド隊

事業を実施して

子供たちは、加西市歴史街道ボランティアガイドの方々や羅漢寺の住職による温かい指導に接することや、観光客の方の優しい言葉がけを肌身で感じることを通して、人と人とのつながりのすばらしさを感じている。また、自分の好きな場所を案内して観光客にもそこを好きになってもらえるといった、一つ一つの活動の積み重ねが、子供たちの中で地域への愛着や自分自身への自信になっており、「子供たちふるさとへの愛着と豊かな心を育てる」という当初の目的は、十分に達成されている。



観光客に酒見寺の山門を案内する歴史ガイド隊

その他

「NPO法人まちづくり北条」「加西市歴史街道ボランティアガイド」による支援活動

子供たちが地域に愛着をもつような取り組みをされており、総合的な学習の時間等で地域学習をする際にお手伝いをしていただいている。

- 【例】 2年生…町たんけん、3年生…商業施設での校外学習・昔の道具の学習、
4年生…地域の防災学習、福祉体験、5年生…らん絵はがきの作成・販売
6年生…歴史ガイド隊のガイド指導やガイドブックの作成

世代を超え、ふるさと鮎原の絆をつなぐ伝統芸能「だんじり唄」

兵庫県洲本市

活動名

鮎原小学校学校支援地域本部

関係する学校

鮎原小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

3年生の「総合的な学習の時間」において、地元で歌い継がれている「だんじり唄」について実体験を通して学び、各世代間の交流の中から生きる力を育むことを趣旨としてスタートした。4月に、4年生が河上神社春季大祭及びだんじり唄コンクールへ向けての練習をしている様子を見学する所から始まり、だんじり唄の継承者である木下勝也氏を中心とした地域ボランティアの方々に講師をお願いし、2学期から週2時間本格的な練習に取り組む。3学期に行われる学習発表参観での全校生や保護者に向けての発表を初舞台とし、次年度にあるだんじり唄コンクールや河上神社春季大祭への出場を目標としている。また、3年生の授業の中で学んだことを発展・継続し、だんじり唄に興味のある児童が集まり、クラブ活動として放課後に練習を行っている活動グループとして「若鮎会」がある。毎年春に募集をかけ、今年は1年生から6年生までの計24名の児童が活動している。講師は、3年生と同様に、木下勝也氏をお願いしている。毎年、春に行われるだんじり唄コンクール及び河上神社春季大祭の出場を目標としている。また、鮎原地域や島内各地の要望や各種団体からの要請に学校も協力し、児童が出演可能なものについて、年間を通して出演している。活動を通じて、児童はだんじり唄だけでなく地域のシンボルでもある河上神社や白楽城を誇りに思い、文化についても学んでいる。実際、現地に足を運んだり保護者で市教育委員会の文化財担当者から話を聞いたりして、歴史的な背景や地形・自然についても学習を深めている。地域を大切に、後世へつないでいこうとする姿勢は、地域の方々の清掃活動等、日々の取組が児童の手本となっている面が大きい。ふるさと鮎原を愛し、守っていく気持ちが世代を超え継続的に育まれていくことを地域をあげて願っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

3年生では、週2時間、「総合的な学習の時間」の中で、だんじり唄に取り組んでいる。最初に、4年生から直接教えてもらい全体練習を行った後、個別にパート練習を行っている。唄の歌詞だけを読んで覚えるといった練習ではなく、節や歌詞を耳で聞きながら実際に唄い込むことで、呼吸法やだんじり唄そのものを習得している。太鼓についても、単独で練習することはなく、必ずだんじり唄とともに練習し習得している。「若鮎会」は、毎週水曜日・金曜日の放課後、うめばち会館（地域の旧公民館）で一時間程度練習している。高学年になると、歌詞の意味も学び、感情を込めて歌えるようになる。また、通常の練習に加えて、春祭りや、だんじり唄コンクール前には、回数を増やして、集中的に活動している。

【実施に当たっての工夫】

だんじり唄には、一人で歌う「ソロ」の部分と全員で歌う「ツレ」の部分があり、全体練習やパート練習を行う。これまでの先輩が歌った見本のカセットテープもあるが、微妙な部分はほとんどが口伝であるので繰り返しの練習が必要である。さらに、5・6年生がソロで歌う部分は、3・4年が唄うものと比べると内容が高度になるので長時間の練習が必要になっている。練習や指導に当たっては、木下勝也氏が中心に地域ボランティアで行っている。時間的制約・指導内容の難しさや多さを考えると、少人数での指導では困難な部分がある。そこで、学校支援コーディネータにより、かつての本活動体験者である地域のボランティアの方に補助していただいている。また、指導者の後継者育成のために学校と地域をつなぐ取組を今後推進していきたいと考えている。また、コーディネーターと学校が連携し、児童に指導者に頼るだけでなく、自ら進んで練習に取り組んだり、上級生が下級生に教えたりすることが、伝統として受け継がれていくような活動となるよう取組を進めている。

事業を実施して

活動を通して、だんじり唄やふるさとに興味をもつきっかけとなり、伝統を守る気持ちを養うことを期待している。また、各役割の中、個々の主体性と協調性を育てることもつながっている。子供たちからは、「声がどんどん出るようになり、語り終わるとすごく気持ちがいい」「いろんなことを積極的にできるようになった」と、自らの成長を実感する声が上がっている。伝統芸能を楽しむ心から生まれた自信や誇りを栄養に、健やかに育ってきている。

その他

地域の祭りや福祉施設、伝統文化発表会への出演依頼が多く、地域の活性化や地域の誇りにつながっている。本活動が小学校卒業とともに終わるのではなく、中学生、更には成人になっても活動が続けられており、生涯学習の場にもなっている。



「だんじり唄」練習風景



平成26年度 淡路だんじり唄コンクール

「幼小中連携教育を地域とともに、そして街づくり」 ～交流～

奈良県奈良市

活動名

富雄第三中学校区地域教育協議会

関係する学校

富雄第三小中学校・富雄第三幼稚園

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の参加参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の参加参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

本校区の地域教育協議会は、小中一貫校として開校した平成23年に組織し、本年が5年目となる。初年度は、協議会発足の知らせを「奈良東塚山だより」（自治連合会発行）に掲載し、活動目的・活動内容及び予算などの報告とともに、ボランティア登録や地域コーディネーターの募集を実施。この広報活動は以降も継続。校舎増改築に伴う物品の移動作業に地域の多くの方々が協力をしていく中で、地域教育協議会の活動が始まった。平成24年度には、様々な特技、資格を持った方々が学校支援ボランティアに登録し、会計担当者等役割分担ができるようになったことで事業の円滑化が進む。また、校区内の特別支援学校の支援にも参加、地域の教育力向上に取り組むようになる。平成25年度には、オーストラリア・キャンベラ市のハリソン校との交流支援がスタート。ハリソン校の職員が来校するに当たり、歓迎事業の企画、準備、運営において学校と地域の連携・協働が充実。平成26年度には、ハリソン校の生徒が来校。ホームステイ実施、歓迎事業実施など、交流事業を継続するために学校と地域が一体となって取り組んだ。その他、幼稚園では、文化鑑賞会として、地域住民による文楽（人形劇）公演、小学校ではボランティアによる家庭科の実技補助や登下校の見守り、中学校では部活動の見回り巡回を行うなど、子供たち一人一人に目が行き届く学校支援を行っている。また、組織の運営面においては、コーディネーターの発掘・育成のため大学生対象にコーディネーター体験ができるイベントの企画、学校支援情報紙や支援活動カレンダーの地域での掲示等を行い、本事業への理解と協力を今まで以上に広範囲に広げ、地域ぐるみで子育て、街づくりを推進している。

特徴

【特徴的な活動内容】

次の3つを柱として取り組んだ。①「夏休み子どもプロジェクト」②「連続講座」③「交流校歓迎事業」①は、「交流」をテーマに❖海外からの留学生等による文化交流「世界の国からコンニチハ!」、❖地域の方とともに製作する「木工工作にチャレンジ」、❖子供たちが植えたゴーヤを使った調理実習と沖縄出身教員による沖縄文化学習「ゴーヤ料理にチャレンジ」、②は、地域の役割や地域の大人と子供をテーマにグループワークと意見交換、③は海外交流校の教員・生徒の歓迎ミーティング、市内観光、ホストファミリーとの交流等。その他、長期休暇中の中学生への学習支援をボランティアにより行う自習教室や、校区内にある特別支援学校高等部の就労訓練の手伝いや環境整備、特別支援学校を会場とした文化交流会への出展による自己資金づくり等の活動を行った。

【実施に当たっての工夫】

「連続講座」では、奈良女子大学教授による地域の課題解決に向けた連続研修を開催。幼稚園では、千里金蘭大学教授の指導の下、園児が親しみやすい「文楽」の公演。小中学校では、読書活動推進のため貸出し補助や本の補修、手作り本立て作り。環境整備では、幼小中、特別支援学校が地域にある「みんなの里山」に花を植えるなど。学校支援は、学校からの依頼以外に地域からの提案として支援依頼書と提案書で計画実行。ボランティア募集は地域全体とPTA保護者向けのチラシを作成し配布、募集。会計事務はコーディネーターが担当し、効率化のため作成した会計ソフトを本中学校区以外に提供し奈良市地域全体に貢献している。

事業を実施して

学校と地域の話し合いの場も定例化することで結びつきを強くし、役割分担することで細かな動き、活発な活動ができています。そして地域と学校が「めざす子ども像」を共有し、地域の教育力を生かしながら課題の整理、事業の改善、次年度の計画に反映していくこともできている。また、次のような交流を強く意識した活動を行ってきた。○「夏休み子どもプロジェクト」において外国文化を知り、体験する異文化交流 ○奈良市の姉妹都市キャンベラの小中学校の生徒や先生を迎え、学校と地域の協働による歓迎・交流 ○中学生が地域の大人と一緒に進める防災訓練の企画・運営など、これらの取組の中で地域の方々が生徒たちの成長を見守り、子供の生きる力を育ててきた。また、ボランティアと子供たちがふれあう場も多くなり、子供たちから積極的に挨拶が交わされるようになってきている。防災訓練では、中学生が自分たちができることや役割を自覚した行動ができるようになってきている。小学生に対し、目指すべきモデルとしての姿を示すことができ、地域からは、中学生に対する期待が高まったと思う。

その他

地域と学校が「めざす子ども像」を共有し、多様な知識・経験をもつ地域の大人と子供たちをつなげることで、地域の教育力の向上、地域のきずなづくり、地域の活性化が進むよう努力を継続してきた。「幼小中連携教育を地域とともに、そして街づくり～交流～」を活動のテーマとし、これらの活動に取り組む一人一人が自己有用感をもち、互いの学びにつながるよう、新しいことにチャレンジしていきたい。「地域の中で子供は育つ」ことを地域の大人たちが心にとどめ、地域を大切にしながら強く生きることでできる力が子供たちに備わるよう今後も地域、学校等が協力して活動を進めたい。



文楽公演



連続講座

～咲かせよう！人権の花～ 地域と協働－「育もう思いやりの心」

奈良県大和高田市

活動名

高田西中コミュニティによる活動

関係する学校

高田西中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の権利参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の権利参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

高田西中学校は、市内の中学校のマンモス化に伴い、「新設校を是非この地域に作ってほしい。」という地域の人々の要望や願いにより、昭和60年に開校され、地域に根ざした学校であるという特徴を有する。平成3年に、地域のスポーツ、文化、レクリエーション、地域のボランティア等の活動を行う地域住民で構成されるボランティア団体「青葉会」が発足。学校に対する「青葉会」の協力が、学校と地域が協働する契となった。今までに、学校見学会や環境整備などを行ってきた。そして、平成22年度から、学校支援地域本部事業に取り組んだ。その活動は、教職員、コーディネーター、地域ボランティア（青葉会含）、退職教職員、生徒、そしてPTAをも巻き込んだものへと発展している。人権が尊重される学校づくりや個性的な学校づくりを行い、学校教育力と地域教育力双方の発展を目指し、次のような取組を展開している。

- ☆環境整備……ペンキ塗り・除草作業、校内宮繕等
- ☆校区内巡視活動……安全確保・非行防止のための巡回活動
- ☆美化・栽培活動……花壇の整備、栽培活動、通学路のゴミ拾い（校区にある陵西小学校・磐園小学校と合同）
- ☆学習支援活動……放課後学習・部活動支援・ゲストティーチャー・特別支援学級の学習支援・わくわく人権学習活動

特徴

【特徴的な活動内容】

- 学校力と地域力の合力による教育活動を推進している。（環境整備、学習支援、職場体験、清掃活動）
- 学校支援体制の組織力の強さがある。（地域の人々の希望により、創設された学校であるため、組織力がある）
- 教職員・OB・地域ボランティア・コーディネーター・PTAによる協働活動が活発である。
- 小学校・中学校の連携活動が活発である。
- 教育資源である地域人材（特別支援学級生支援・人権学習活動・ゲストティーチャー・職場体験等）の発掘・蓄積がうまく進み、教育活動に効果的にフィードバックできている。

【実施にあたっての工夫】

- 環境整備では、コーディネーターを中心に、PTA・青葉会・PTAのOB団体・生徒・教職員が協働し、美化活動（校内のペンキ塗り・草刈り・大型ゴミ搬出・伐採等）を実施している。この活動により、参加者同士のコミュニケーションが増え、活動参加の意欲が高まるとともに、学校を中心とした地域コミュニティのネットワークの構築につながっている。
- わくわく人権講座は、生徒や保護者の人権意識を高めることを目的とし、講師（ボランティア）を招いて、学習会を実施している（牛革を活用したストラップ作りや韓国の家庭料理の調理と試食会の異文化交流等）。このことにより、人権意識が高まり、異文化に興味、関心を持つ生徒が増え、ちがいを認め合える仲間作りにつながっている。
- ゲストティーチャー・職場体験では、1年生の総合学習（キャリア教育）として、6～8業種の熟練者（ボランティア）の方を招き、「仕事・労働とは？」を生徒に考えさせ、2年生の職業体験学習につなげている。生徒たちは、この体験を通じて、職業観や労働観が身につく、学校生活における規範意識や自主性の向上にもつながっている。
- 合同通学路清掃では、コーディネーターを中心に、生徒会・PTA・地域ボランティア・教職員が協働して、日頃通学している道路の美化活動を行った。（小学校も協働に加わる）学校と地域が共に活動することにより、双方のコミュニケーションが活発になり、学校の教育活動に対する賛同者が増えた。
- 特別支援教育では、コーディネーターが中心となり、車椅子で学校生活をおくっている本校特別支援学級生徒の支援をはじめとして、特別支援学級生の学習支援をしている。このことは、地域の人々に本校の特別支援教育について関心を持っていただくきっかけとなっている。



車いすバスケット選手との交流



花壇の整備・栽培活動

事業を実施して

- 開校から31年目を迎え、校舎内外の環境は大変美しく保たれ、生徒の日々の清掃活動も充実した。
- 地域の方々とのつながりが広がり、ゲストティーチャーや職業体験では、快く引き受けていただいている。また、地域人材の入れ替わりもスムーズである。
- 登校中、生徒がよく挨拶をすると地域の方から賞賛されるようになった。
- 学校前の道路横断時、走行中の車は必ず一旦停止するなど、地域の方々の交通安全に対する意識が向上した。

その他

- 放課後学習として、漢字検定対策を行っている。

地域での中学生が活躍する場づくりや校内での地域コミュニティサークル

奈良県香芝市

活動名

香芝東中コミュニティ協議会

関係する学校

香芝東中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

学校コミュニティ協議会において、様々な角度から生徒と地域をつなぐことを話し合っている。学校、生徒と地域を結びつける活動は、校内での地域住民のボランティア活動として始まったが、生徒が地域に生きる住民として育つためには、それだけでは不十分であり、地域住民とともに行う学校外、地域内における活動が不可欠である。また、地域内の他校種と連携し、生徒の意識に地域内で子供から大人へと成長するのだという意識を植え付けることも大切なことである。さらに、地域住民による学校支援を充実させるには、地域住民同士の結びつきや学校、教育への理解が不可欠である。これらのことから、子育て世代を中心に地域住民が気軽に集うことができるコミュニティサークル「ばれっと」を立ち上げ、地域住民、保護者、教職員が自由に話し合える場を作った。そこでは、各種研修を行うとともに、教育関係の有識者も加え、子育てや教育、学校についての相談活動や交流も行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・地域や保護者、学校の代表者が集まる学校コミュニティ協議会において、学校、生徒と地域、地域住民を結びつけることについて多方面から話し合っている。
- ・地域の清掃活動や祭り、防災訓練に生徒が参加している。祭りでは、スタッフとして地域の方とともに活動している。各自治会において、中学生ができる仕事を設定し、担当スタッフを置いて対応している。
- ・地域の学校（幼小中高）間の連携を深めている。他校の行事への参加、それぞれの学校間の出前授業、あいさつ活動や募金活動を一緒に行っている。
- ・地域住民、保護者、教職員、有識者の参加するコミュニティサークル「ばれっと」における研修や子育て、教育についての話し合い、交流を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校卒業後は地域で社会人になるという思いを生徒に持たせるため、校内だけでなく、校外で地域の方や他校種の人とともに活動する機会を増やしている。このことにより、生徒が、自分の住む地域住民との関わりを意識することにつながっている。
- ・教育や思春期の子供について話をする場として、保護者や地域住民とのコミュニティが必要と考え、コミュニティサークル「ばれっと」を作った。ここで様々な話をする事により、草の根的に学校理解が進んだり、学校支援の基盤が作られたりしている。

事業を実施して

地域住民、保護者、教職員、学校支援コーディネーターからなる学校コミュニティ協議会を持つことで、地域と生徒・学校を結びつける様々なアイデアが生まれ、実施することができた。生徒の学校外での活動や異校種の子供達とふれあうことで、自分の成長や将来、地域で社会人として生きることを意識する生徒が増えてきている。また、コミュニティサークル「ばれっと」において、学校、教育、子育てを話題の中心とする地域コミュニティの萌芽が見られた。

その他

夏休みに数学と英語について、地域ボランティア2名による学習会を行っている。平成26年度は10日間、27年度は13日間。生徒は1、2年生の希望者で、数学は方程式等、基礎内容の充実、英語は会話や基礎内容を中心の学習である。26年度は28名の参加があった。



生徒の参加する地域の防災訓練



コミュニティサークル「ばれっと」

学校支援活動を核とした地域と学校の連携強化による教育力向上

和歌山県由良町

活動名

由良町共育コミュニティ推進本部

関係する学校

由良中学校・由良小学校・衣奈小学校・白崎小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の学習参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の学習参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

由良町では、平成21年度に町内全域の5小中学校（平成24年度から4小中学校）を推進地域として、地域共育コーディネーターを複数配置した上で学校、家庭、地域が一体となった取組を進めてきた。具体的には、平成21年度から「校内の環境美化作業」、「登下校の子どもの見守り活動による防犯運動」や「地域住民による読み聞かせ」等を実施してきた。その後、地域の地場産業と連携した「ワカメの養殖体験」や「定置網漁の漁業体験」、また、由良町発祥と言われる伝統楽器の「尺八」を使った「伝統音楽の学習」等、地域に根ざした学校支援活動を展開してきた。さらに、地域の人材を活用した「家庭の授業（調理実習やミシンの実習）」や「音楽の授業」などを実施している。由良町社会福祉協議会と連携した「高齢者・障害者体験活動」を行うなど学校支援活動の幅を広げている。また、デイサービスへの訪問を通して、学習内容の発表など行い、地域に学校が出向く活動にも取り組んでいる。

特徴

【特徴的な活動内容】

デイサービスへの訪問では、小学生が近くの会館へ出向き、町の課題である高齢化問題について関心を高めるために高齢者との触れ合いをとおして学んでいる。現在は、児童の学習成果の発表をしたり、地域住民の生涯学習の成果発表会を児童と一緒に見たりと、内容を充実させている。その結果、地域との連携強化にも結びついている。児童から「地域のおじいちゃん・おばあちゃんを運動会に招待しよう。」と声が出るなど、地域の住民と学校の距離が近くなってきた。

各校では、「学校通信」を地域住民に配布し、日頃の学校の様子を紹介している。その通信に学校支援活動の様子を紹介し、学校支援活動のお礼と地域住民へ活動内容の周知を行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校支援活動において、学校と地域共育コーディネーターの連携は非常に重要である。地域共育コーディネーターの中には、元校長もおり、学校の実情に詳しく、地域共育コーディネーター全員が教員との意思疎通をスムーズに行えている。また、地域共育コーディネーターは、様々な分野で活躍されている方々で、地域との関わりも深く、学校の学習目的に合った地域のボランティアを結びつけることができ、地域との連携を支えてくれている。

由良町共育コミュニティ推進本部会議では、校長から学校の年間計画の説明と学校支援についての要望が提案される。その中で、地域ボランティアの協力者を集める時間的余裕が生まれ、学校と地域共育コーディネーターが事前協議を重ねることで内容が充実する。

事業を実施して

学校支援活動を中心に事業を展開することで、各学校は様々な体験活動を行えるようになり、地域住民と密接な関係になった。また、各学校が発行している学校通信により、地域住民の学校教育に関する理解が深まった。その結果、学校を中心に地域の教育力も向上し、学校が地域の核としての存在感を示している地域も現れている。また、学校支援活動をとおして、「教育」と「福祉」、「教育」と「地場産業」と新たなつながりができた。

その他

学校、地域、保護者の連携を強化するために、県教育委員会の提案により、「共育ミニ集会」を各学校で実施している。このように3者が同じテーマで話し合うことで、今後起こり得る東海・東南海・南海地震の備えとして、地域のつながり作りに寄与していくと考える。

また、学校が地域の教育のランドマークになっていない地域もあるので、学校支援活動を続けていくことで、学校が地域の核になることを期待したい。



デイサービス訪問



中学校尺八指導の様子

「宇久井の子どもは、宇久井で育てよう！ 宇久井の子どもの安全は、宇久井で守ろう！」

和歌山県那智勝浦町

活動名

宇子支会
(宇久井地域の子どもを支援する会) による活動

関係する学校

宇久井小学校・宇久井中学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	0人	20人	23年度	無	無	無	無
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティスクール	指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
宇久井地域では、平成20年度より町の地域共育コミュニティ推進事業を受け、共育コミュニティづくりが進められてきた。平成23年度より「宇子支会」を結成し、地域の様々な団体との協議・協働を重ねる中で、「運動場の芝生化」「登下校の見守り活動」「自然体験活動」「絵本の読み聞かせ」など、継続する活動に加え、「通学合宿」という新たな活動へも取り組んでいる。

特 徴

【特徴的な活動内容】

多種多様な団体の参画

青年会や婦人会、区長、公民館サークル、宇久井神社、スポーツ少年団、ボランティア団体と地域にある様々な団体からの参加があり、地域にある企業や商店の方々とも密に連絡を取りながら「宇久井地域の子どもは、宇久井で育てよう」を合い言葉に協働の体制が整っている。

継続と進化

登下校時の子供の見守りや地域文化の継承等、子供たちや地域のための活動を継続しつつ、小学校運動場の芝生化や通学合宿の開催など、常に子供たちのことを考えて新しい事業を展開していこうとしている。

【実施にあたっての工夫】

学校・家庭・地域の共通理解を深めるため、話し合いの場を大切に、時には宇久井地域だけではなく、教育委員会や行政と協力し、地域課題の解決を図っている。一つの課題に対して、宇子支会を中心に地域の各種団体が一体となって取り組めることで早期の課題解決を可能にしていく。

事業を実施して

子供たちが、地域の人々の支援や古くから伝わる文化・産業など宇久井地域というすばらしい環境の下で現在の生活があることに気付いた。地域の方々の声かけや関わりが増え、子供たちの中でいじめや仲間外れ等がなく、全員が仲よく学習できる環境が整ってきた。将来、またこの地域に戻ってきたいと思う子供が増えており、地域にとっても、昔からの住民と、新興住宅地の住民とが、「子供たちのために」を合い言葉に、互いの願いや課題を共有する中で交流が深まっている。

その他

1学年1クラスの1小・中学校であるが、スポーツ少年団活動が非常に熱心で、各種大会でも好成績を収めている。また、近隣地域では人口減少が進んでいるが、宇久井地域では住民が年々増加している。

宇久井地域は、半島を有しており、東海・東南海・南海のどの地での地震発生に関しても津波被災を免れない地域である。宇子支会の取組を通して地域共育コミュニティが高まり広まっていくことで、地域防災・減災につながっていくと考える。



学校芝生化の取組



通学合宿の様子 (地元文化学習)

校内研究と運営協議会の組織を連動させ、豊かな学びと育ちを実現！

鳥取県南部町

活動名

南部中学校地域協働学校運営協議会

関係する学校

南部中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
基本データ	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
基本データ	コミュニティ・スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
		平成 21 年 9 月 1 日			11 人	105 人	7 学級	

活動の概要・経緯

平成21年9月に中学校では県下初のコミュニティ・スクール指定校となり、地域の教育力を生かした学校づくりに取り組んできた。平成24年度から地域住民や保護者と目指す生徒像を「自律」と「共生」というキーワードで共有し、学校と学校運営協議会が一丸となった学校支援活動を展開している。その活動は、校内研究組織と連動した3つの部会(学習支援部・地域交流部・環境整備部)を基盤とし、PTAや生徒会、地域振興協議会(地域自治組織)とも連携を深めながら、地域に開かれた、信頼され、期待される学校づくりを目指すものとなっている。また、小中一貫教育の視点を取り入れた小中合同のコミュニティ・スクールの取組を進め、より一層の充実を図っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・「ふれあいデー」…学期に1回地域に出かけて行う貢献活動。地域交流部担当。当初は地域の清掃などのボランティア活動が中心であったが、現在は生徒の願いや主体性を重視するとともに、地域住民とのゲートボールや苔玉づくり、小学校での紙芝居発表、保育園児との交流など、ふれあいを通して学ぶことを大切にしている。
- ・「先輩に学ぶ」講座…町内在住又はゆかりのある方を招いて職業に関する講話を開き、自分の生き方を考える学習を行っている。この講師の人選や依頼を、学校の考えをもとに、学習支援部が行っている。

【実施に当たっての工夫】

『私たちは学校の応援団』を基本姿勢とし、学校教育の理解を深めるとともに、生徒・学校・家庭・地域のつながりを重視し、PTAや住民自治組織である地域振興協議会との連携・協力体制の基盤づくりに取り組みながら、学校の教育活動を支援することを貫いている。運営協議会が活動内容を決めて準備し、それに学校が参加するような形は全くとっていない。委員と教職員が、学期に1回開催する交流会が、①学校が実践しようとする活動を深く理解できる、②何をどう支援するか・支援できるかがわかり十分な準備ができる、③活動のふり返りで成果と課題が明確になり次の活動に生かすことができるなどの成果を生み、充実した活動の基盤となっている。

事業を実施して

- ・生徒の活動が学校だけでなく地域に広がり、地域住民との協力・協働が進み、生徒の「自律」と「共生」に向け、町ぐるみで支援する環境ができつつある。また、委員や地域住民が様々な学校の教育活動を支援する中で、生徒の成長を多くの場面で見ることができている。「中学生が変わったね。」という言葉が聞かれるなど、地域住民は生徒の「心の成長」を感じることで、やりがいや役立ち感をもっている。
- ・コミュニティ・スクールの活動を地域に広く知らせるために、コミュニティ・スクールだよりを発行し、校区内の8事業所に置いたり、校区内全戸に回覧したりしている。・3つの部会での活動を校内研究体制と連動させることで、学校評価マネジメントとの関わりも生みだしている。それは、委員が学校運営に参画しているという自覚と責任を持つことにつながっている。

その他

- ・環境整備部は地域や学校の環境をより良くしようとする態度、母校や郷土を愛する心を育てる活動に取り組み、除草作業や花壇づくりなどを行っている。
- ・小中連携については、課題を共有し共通の目標を持つことを基本として、積極的に校区内小学校の関連組織との連携・協働体制の構築を図るなど、リーダーシップを発揮し、成果をあげている。
- ・コミュニティ・スクールマネジメントに基づき、活動計画や学校評価、次の改善策等の協議をシステム化し、PDCAサイクルを機能させた取組が展開されている。



ふれあいデー（苔玉づくり）



先輩に学ぶ（看護師さん）

境港の小中学生が地元の高校で学び、楽しみ、学力を高め、地元を見直す活動

鳥取県境港市

活動名

境港地区小学生対象スクールプロジェクト・中高連携学力向上プロジェクト

関係する学校

境高等学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	0人	77人	18年度	無	有	無	無	
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	指 定 日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

鳥取県立境高等学校で平成18年度から始まったスクールプロジェクトは、地元の小学校2校の児童を対象とした高校生による学習の支援及びスポーツなどの指導を通じた交流である。毎年プログラムを検討し充実を図りながら継続している。また、平成26年度には、中学1年生土曜日学習会、中学3年生夏季学習会を開始した。これらを「中高連携学力向上プロジェクト」と称する。境港地区の中学・高校の教員が授業研究会等を通してつながり、学習課題を共有するなど連携して中学生の学習指導に当たるとともに、中学生の潜在能力と中学・高校の教員の指導力を高め、中学生ひいては高校生の学習意欲の喚起と学力向上を図っている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・スクールプロジェクトは、高校生を中心に大学生もボランティアで参加し、小学生に対して学習の支援及びスポーツ・創作活動・外国語・集団遊びなどの指導を年間を通じて9回開催している活動である。
- ・学力向上プロジェクトの中学1年生学習会では、中学校教員の連携のもと授業進度に合わせた英語・数学の課題の作成と解説をする学習支援を行っている。また、自学自習を集団で行うことも重視し、学習習慣定着もねらう。中学3年生学習会は過去の鳥取県高校入試問題を高校教員が解説・指導する。高校入試を半年後に控えた時期の開催は、あこがれの地元に対する高校への理解につながっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・境港市のほぼ中央に位置する県立高校を主会場とし、小中学生が参加しやすい環境を整えている。
- ・内容は、高校生が小学生に指導でき、かつ関心を引くプログラムで構成している。学習活動は教授型の学習会にとどまることなく、自学自習の時間や自力で問題を解く時間、質問の時間などを十分に保障し、参加する小中学生の主体性を育成するように工夫している。
- ・小中学校と高校で連絡を密にし、共通した教育課題（学力向上、学習意欲向上、家庭学習時間確保）の解決促進に向けた取組となるように工夫している。

事業を実施して

- ・境港地域内での小学校・中学校・高校間の連携によって、課題の共有とその解決に向けた取組を効果的に進めることができた。
- ・高校は中学校段階での子供たちの学習面のつまづきを早期に把握することができ、迅速な対応につながっている。
- ・小中学生の学力向上とともに興味・関心が広がり、教える高校生も自身の新たな資質を見だし自己肯定感を高め、新たな姿勢で高校生活に取り組むなど、双方にとって効果が大きい。
- ・継続してきたことで、域外の大学に進学しながらも地元を大切に思い、卒業後は地元に戻り、地元に貢献したいという思いをもつ人間育成につながった。

その他

- ・近隣の島根大学にも協力を依頼し、境高校出身の島根大学生たちが学生ボランティアとしてプロジェクトに参加している。大学生が、小中学生に学習指導等を重ねる中で、故郷で教員になることを目指し鳥取県教員採用試験を受験した学生も多数あり、地元貢献したいという意欲も向上している。



スクールプロジェクト「早く走れるようになるう」



「開講式」

進化していく学校支援と放課後支援

島根県浜田市

活動名

浜田第一中校区学校支援地域本部

関係する学校

石見小学校・松原小学校・三階小学校・浜田第一中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	4人	221人	20年度	有	無	無	有
	放課後子供教室	1人	5人	14日	有	無	無	無
	コミュニティスクール							
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		浜田市立石見公民館			27年度	連携なし		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

浜田一中校区学校支援地域本部事業は平成20年度からスタートし、校区内にある石見公民館を拠点として活動を実施している。小学校3校、中学校1校には、それぞれ学校支援コーディネーターを配置し、更に公民館職員も学校支援コーディネーター業務を担っている。

本部事業開始当初から定期的な会議の仕組みを整え、学校との連携を密に行っている。また、活動後の振り返りを行い、反省点や意見を来年度の事業に反映している。当該本部事業の拠点である石見公民館では、今年度から校区内の民間の放課後子供教室と連携をとりながら子供教室を開催している。また、校区内の放課後児童クラブとも密接に連携し、児童クラブの子供達に対しても支援を行っている。コーディネーターを含めた関係者のより良い学校支援にしていこうとする姿勢は、他の地域本部事業のモデルである。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・学校支援推進のための定期的な会議の仕組みづくりがきちんとなされている。
- ・毎回学校支援を行った後は、担当教諭とコーディネーターとボランティアとで必ず振り返りを行っている。
- ・浜田一中2年生の総合的な学習の時間「赤ちゃんに触れ合おう」では、コーディネーター（地域）から学校へ授業実施の提案を行い、今日まで継続的な取組が行われている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校支援に対する理解を得るために、年度初めに学校の職員会での説明やPTA総会等での説明などをコーディネーターが行っている。
- ・定期的に会議を開催し校区内の学校支援の状況や子供達の様子について情報交換を行っている。

事業を実施して

- ・学校支援の活動のみならず、定期的な会議を通して、学校とのつながりが強固なものとなった。
- ・小中学生の顔と名前が分かり、地域でも子供たちに積極的に声をかけやすくなった。
- ・地域ボランティアが子供たちと関わることで、生きがいを感じているという声が寄せられている。

その他

- ・浜田一中2年生の総合的な学習の時間「赤ちゃんに触れ合おう」では、NPO法人浜田おやこ劇場と連携して取り組んでいる。



学校支援「赤ちゃんに触れ合おう」



ネットワーク会議

子供を中心に誰もが「ほっ」とできる心豊かなふるさとづくり！

島根県益田市

活動名

豊川地区つろうて子育て推進協議会

関係する学校

益田東中学校・豊川小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 15人	開始年度 26年度	国庫補助 無	学習支援 有	ICT活用 有	企業・NPOとの連携 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 2人	ボランティア登録数 72人	開始年度 23年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 20人	年間開催日数 5日	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
		実施場所 ①体育館、②公民館内集會室					開始年度 25年度	放課後児童クラブとの連携 連携型
コミュニティ・スクール	指定日 平成27年4月1日					委員数 7人	児童生徒数 41人	学級数 5学級

活動の概要・経緯

益田市では、平成23年度から学校支援地域本部事業を中核とした「益田市教育協働化推進事業」を全小・中学校で実施している。平成26年度からは「益田市つろうて子育てプロジェクト」と銘打って、地域ぐるみで子供の育ちを支える体制づくり、活動づくりを更に進めている。

当地区では、平成25年度に地域の子供に関わる団体の代表者を集めた「豊川地区つろうて子育て推進協議会」を立ち上げた。協議会では、子供を取り巻く状況や課題を共有しながら、既存の活動の充実を図ったり、新たな活動を生み出したりしている。平成27年度からは、本協議会が母体となって学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールの指定を受けた。学校支援活動、地域活動などを行い、地域全体で子供たちをよりよく育ていこうとする意識を共有している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 公民館で行う講座「シニア楽校」と協働した学校支援活動
- 中高生による地域活動の場作り
 - ・中高生による地域活動グループ「とよかわっしょい!!」の結成、活動を支える大人の組織「わっしょいサポーター」の結成
- 学校外のつながりと体験の場作り
 - ・長期休業、放課後、土曜日を活用した「とよかわ寺子屋」の開催
- NPO法人 e b o a r d と協働した学びの場作り
 - ・インターネット教材を活用した中学生向け自学支援教室の開催（中山間地のため塾がない、塾が遠い家庭への支援）

【実施に当たっての工夫】

- 小規模校の課題であるコミュニケーション能力を向上させるため、学校や地域で多様な大人と出会うような交流活動を意図的に仕組んでいる。
- 学校支援活動のコーディネーター以外に、協議会にもコーディネーターを配置し、学校、公民館、各団体との連絡調整が円滑に行える体制を整えている。
- 子供を中心に据えた取組であるが、それにかかわる大人も元気ができるように、学びとつながりを意識しながら実施している。
- 画一的な体験ではなく、地域の良さを生かした体験や発達段階に応じた体験をプログラム化し、実施している。

事業を実施して

「とよかわっしょい!!」をはじめとする様々な活動を通して、小中高生の意識や行動の変化が見られた。地域のイベントで中学生が活躍することにより、中学生の活動を見ていた小学生は憧れを抱き、高校生は自分たちの経験を中学生に伝えようとする様子が見られた。中学生は、自分たちで考えて実践した小さな成功体験、周りから認められたという体験の積み重ねが大きな自信になり、その自信が次の行動への意欲につながっていた。また、大人は子供たちのがんばりを見て、更に地域を盛り上げなければならないという使命感を新たに持っていた。このように、協議会が中心になって活動を行っていくことで、学校の中だけではなく、地域全体で子供の育ちを支えていこうとする機運の醸成が図られていた。

その他

○土曜の教育活動について

平成27年度より「NPO法人 e b o a r d」と協働し、中学生の自学支援教室を実施している。（月2回土曜日17:00～19:00、豊川小学校パソコンルーム）数学・英語を中心にインターネット教材を活用した学習を行っている。本教材の特徴としては、①ヒント、動画を見ながら自学ができる、②系統的に学習を進められる、③IDを取得すれば家庭でも学習できる、④学習記録の蓄積ができる、⑤付箋機能を利用して学習の振り返りができる、といったことが挙げられる。



「とよかわっしょい!!」豊川保育園夕涼み会への参加



「とよかわ寺子屋中学生自学支援」 e b o a r d 教室

地域ぐるみの i (愛) が 「学ぶ」「つなぐ」「拡げる」 子供たちの未来

岡山県赤磐市

活動名

山陽子ども i ランドによる活動

関係する学校

山陽西小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	活動区分	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	土曜日の教育活動	1人	20人	26年度	有	無	無	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	53人	26年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
		指定日				委員数	児童生徒数	学級数
	コミュニティスクール							

活動の概要・経緯

赤磐市では次代を担う青少年が夢と希望を抱き、心身ともに健やかでたくましく成長することを願い、放課後子供教室事業を推進している。

山陽子ども i ランドは、住民との交流を通し、児童が健全に育つ居場所を模索する山陽西小学校と、利用者層を広げ、地域住民の憩いの場としての役割を持ちたい山陽公民館の双方の考えが一致し、平成25年から公民館を拠点とした放課後子供教室を開始した。

平成26年度からは、放課後子供教室から土曜日の教育支援事業へと展開し、地域住民の参画による子供の多様な体験学習の場として実施している。

同年に山陽西小学校に学校支援地域本部が立ち上がり、山陽子ども i ランドの地域ボランティアが公民館を拠点に土曜日の子供の体験活動と学習支援に携わり活動に広がりを見せている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 山陽子ども i ランドでは、自然や人材などの地域資源を活用した体験型プログラムを通して子供にふるさとのすばらしさを伝えたいと考え、キャンプやしみ掘り、夏の昆虫観察や登山など自然と触れ合う体験や子供の創造性を豊かにするものづくり体験、座禅体験や公民館まつりへの参加、消防署・地元企業への社会見学など様々な活動に取り組んでいる。
- 岡山市から高校生がボランティアとして参加し、山陽子ども i ランドと連携して地域ボランティアのサポートを行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 毎年の開始式には、ボランティア説明会として、子供との接し方などボランティアの心得について学んでいる。毎回の活動では、下見・事前準備・打合せ・当日の活動・振り返り・次回への対応とPDCAサイクルを大切にしている。
- 各プログラムの終了後には便りを発行し、市ホームページ等に掲載して地域へ活動の周知と参画を促し、ネットワークの広がりを図っている。
- 土曜活動推進員はコーディネーター等研修会等に積極的に参加して、資質向上を図るとともに先進的なプログラムの事例等について、ボランティアと情報共有するなど効果的な活動になるよう意欲的に取り組んでいる。

事業を実施して

- 子供たちは多様な体験活動の中で、豊かな知識と経験を持つ大人やお兄さん、お姉さんのような存在の高校生ボランティアと交流することにより、他人を思いやる気持ちや感謝の気持ちを学び、精神的にも成長している。また、高校生ボランティアも、多くの人たちとの関わりの中で自己有用感を培い、あいさつや声かけなど積極的な行動ができるようになってきている。毎回のプログラムに多くの地域ボランティアが参画し、子供との人間関係を形成する場であるだけでなく大人同士がコミュニケーションを深める場としての役割も担い始めている。

その他

土曜日の教育活動：サッポロワイン岡山ワイナリーや大和ハウス工業（株）、赤磐市消防本部と連携し社会見学として子供の受入れを行っている。
 学習支援地域本部：低・中・高学年の3クラスで放課後チャレンジ教室と夏休みチャレンジ教室、冬・春休みには公民館主催「子ども寺子屋in公民館」等の学習支援を行っている。



「夏の昆虫観察」昆虫や野鳥の草花の生態について説明をうける



「地震にそなえ、防災グッズをつくらう」高校生ボランティアとズボンリユクサック作り

外遊びで育む！ 「子供の生きる力」と「地域の子育てコミュニティ」

岡山県勝央町

活動名

勝央町土曜日教育支援事業～英語で遊ぼう！
しょうおうキッズ・冒険遊び場づくり～による活動

関係する学校

勝間田小学校・勝央北小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	5人	15人	25年度	有	無	無	有	
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
コミュニティスクール		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

乳幼児・小学生を子育て中の保護者から子供に「生きる力」をつけたいという要望があり、平成25年度から実施している。「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」は、英語が必修授業となる前の学年である町内全ての小学1～4年生を対象とし、保護者同伴での参加を原則としている。親子で楽しみながら外国文化を学ぶことで日本の文化を知る。また、英語への抵抗感をなくし、家庭での親子のコミュニケーションにもつながっている。「冒険遊び場づくり」も、町内全ての小学生を対象として保護者同伴での参加を原則としている。外遊びを通じて、子供が創意工夫をし、挑戦し、失敗を経験することができる「冒険遊び場」づくりを目指して実施している。また、子育て中の保護者と地域の支援者が協力し合える「地域コミュニティ」づくりにも一役を担っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」
- ALTや町内の英語講師、保護者スタッフが計画から実施まで関わっていくことで、それぞれの立場と経験から、子供に最善の方法で体験を与えることができている。
- 毎回、親子でできる宿題を出し、その宿題を使って講座を進めている。そうすることで、親子の会話が増え、講座への関心と学習意欲を高めることにつながっている。
- 「冒険遊び場づくり」
- 森林ボランティアきのこの森のメンバーやプレーリーダー等幅広い世代が自分の特技を生かして参加している。
- 保護者の参加を原則としているが、妹弟の参加も受け入れているため、父親を含む一家での参加も多い。

【実施に当たっての工夫】

- 「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」
- 単に外国文化を知るだけでなく、外国にはない日本のすばらしさを伝える工夫をしている。このことで、自国への興味も持つことができ、身近な発見を家族で話し合う機会となっている。
- 毎回、「名前」「出身地」「好きな動物」が言えるなど1つずつ学習内容を増やし、最終的に自己紹介ができるように展開の工夫をしている。このことで、5回連続シリーズ開催の強みを生かしている。
- 「冒険遊び場づくり」
- どの講座でも比較的母親の参加が多いが、父親の参加を増やすため、「ものづくり」や「デイキャンプ」等父親の活躍の場を設ける工夫をしている。実際に、父親を含む家族での参加が増えている。
- 森林ボランティアきのこの森や保護者など地域住民の協力を得ているが、世代間で考え方や伝えたいことが違うため、事前打合せや振り返りの場を設けて互いの役割を確認している。このことが、スムーズな事業運営につながっている。

事業を実施して

- 保護者同士の交流や、地域住民とのコミュニケーションやネットワーク形成の場となっている。
- 保護者に参加していただくことで、危険だからと禁じるのではなく、子供自身の責任で遊ばせるための「親の見守りの範囲」を知る学びの機会になっている。
- 子供は、挑戦や冒険を経験する中で、失敗し、工夫し、乗り越えていく力を身に付けていき、親は身近で子供の成長を実感することができている。
- 幅広い世代の地域住民が参加し、それぞれの特技を生かすことで事業が活性化している。

その他

「冒険遊び場づくり」において、NPO法人備前プレーパークの会と連携し、備前プレーパークの視察を企画・実施した。視察には、講座申込みの親子と、森林ボランティアきのこの森のメンバー、事務局などが参加し、様々な工夫や外遊びの重要性などを学び、それぞれの立場で勝央町が目指すプレーパークについて意見交換した。



「英語で遊ぼう！しょうおうキッズ」ハロウィン



「冒険遊び場づくり」外遊びから生まれるネットワーク

『子供は大島の宝』『大島てご会』を中心に 地域全体で子供を育てる！

岡山県笠岡市

活動名

大島地区学校支援地域本部

関係する学校

大島小学校・大島東小学校・大島中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	6人	30人	21年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
大島地区の既存組織「おやじの会」と地域住民が、小中学校と直接やり取りをしながら学校支援を実施していた。その後、より充実した地域の連帯を求める機運が生まれ、「地域と学校が連携して子供を育てよう」と、平成21年度から学校支援地域本部をスタートさせた。この活動では、事務局を学校ではなく、地域全体を把握しやすい大島公民館に設置することで、より多くの地域の人々が参加し、きめ細かい支援ができています。平成27年度からは各学校に2名ずつ地域コーディネーターを置き、学習支援、環境整備、登下校時の安全指導等の幅広い支援を実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・児童、生徒が岡山県指定の重要無形文化財である「大島の傘踊り」を保存会の方々や公民館長から習い、「納涼の夕べ」等の公民館行事で発表をする。また、児童、生徒はその他の公民館行事へも積極的に参加している。
- ・中学3年生の希望者を対象に、10月から2月までの放課後に、毎週2回数学と英語の学力補充支援「寺子屋おおしま」を実施している。指導者には、現役の塾講師、元大学教授などの専門知識のある方をお願いをし、受験対策として充実した学習支援を実施している。
- ・その他、小中学校では環境整備、登下校の安全指導、小学校では絵本の読み聞かせ、中学校ではソフトテニスの部活動指導等の支援をしている。

【実施に当たっての工夫】

大島地区学校支援地域本部は大島中学校区全ての学校（2小学校、1中学校）から組織されていることから、より充実した組織化をするため「大島てご会」を結成し、毎月第2金曜日に会議を開いている。「大島てご会」は地域コーディネーター、PTA役員、公民館関係者、自治会関係者、小中学校で組織され、各学校と地域の意思疎通、方向性の共有を行う場となっている。

また、地域コーディネーターは、地域住民に近い公民館関係者や学校にとって身近な存在であるPTA経験者（OB）が務めている。公民館関係者やPTA経験者が地域コーディネーターを務めることで、地域の人材をより的確に把握することができ、地域住民としての意見や学校の意見を取り入れやすくしている。学校側からも「これをてご会に頼んでみたらどうですか？」などのちょっとした声掛けも出るようになってきている。

事業を実施して

【地域】 児童、生徒と触れ合うことで喜びややりがいを見つけ、地域に活力が生まれている。地域住民同士のつながりもより強くなり、地域全体の「地域力」が上がった。また、以前より学校へ関わりやすい環境になっている。

【学校】 学習を以前より効率的に進めることができるようになり、学校だけでは支援の届きにくい場面でボランティア活用が進み、より充実した教育環境を作ることができるようになってきている。また、地域状況や地区の伝統文化等を知ることができるようになった。

【子供】 多くの活動を通じて地域の方々と触れ合うようになり、地域の方の顔をだんだん覚えられるようになった。また、地域への関心が生まれ、地域の活動へ積極的に参加するようになってきている。そして、今度は「手伝ってもらっただけでなく、自分たちも地域のためにお手伝いがしたい」という思いを持つようになってきている。

その他

【寺子屋おおしま】

- ・週2回で、約1時間の学習を2グループに分かれて実施しており、数学と英語は教室を分けて実施している。
- ・指導内容は、数学と英語の2教科で、各2名の指導者がいる。
- ・毎年9月に中学3年生全員に募集チラシを配布し、ほとんどの生徒が参加している。



「寺子屋おおしま」様子



「大島の傘踊り」練習様子

広がる支援活動！平良っ子応援団！

広島県廿日市市

活動名

平良小学校区学校支援地域本部

関係する学校

平良小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	10人	88人	24年度	無	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

平良小学校区学校支援地域本部では、地域に根ざした教育環境づくりを「学校教育の場」での「支援」といった形で具現化し、教員や地域の大人が子供と向き合う時間の拡充と地域の子供たちは地域で育てる態勢づくりの強化を目指すものとして平成25年1月に設置された。体制については、地域教育協議会委員、地域コーディネーター、学校支援ボランティアによって構成されており、地域全体で支援活動を進めていく体制が整っている。支援内容は国語科（書写）や家庭科、図画工作科、体育科、生活科、クラブ活動、読み聞かせなど多岐にわたっており、内容の充実した質の高い支援活動が行われている。学校支援ボランティアとの触れ合いが子供たちの自己存在感を高め、「自主的」「自発的」に活動し、「達成感」「役立ち感」「充実感」を実感することができる事業を計画的に行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

○学習支援

国語科（書写）や家庭科、図画工作科、読み聞かせ、校外学習の引率支援、クラブ活動など幅広い支援に取り組んでいる。学校支援ボランティアは教職員の指導の徹底をサポートしつつ、児童を「褒める」ことを大切にしており、自己肯定感の高まりや、学習意欲の向上にもつながる支援活動が実施できている。連絡体制についても、支援教科ごとに地域コーディネーターを配置し、学校からの依頼内容が円滑に伝わる仕組みが定着している。

○見守り活動

地域の方々によって、子供たちの安心、安全を確保する登下校の見守りなどの活動が献身的に実施されている。この活動は、地域本部設立以前からの長い歴史があり、組織も充実している。

【実施に当たっての工夫】

○支援調整会議を毎月1回開催…学校と地域コーディネーターが支援活動の調整をするために毎月会議を開いており、翌月の支援依頼の内容や段取りを確認している。このことに基づいて、地域コーディネーターは学校支援ボランティアに連絡し、支援実施に向けて調整をしている。また会議では、支援活動で良かった点や悪かった点などの意見も出し合い、改善に向けて取り組む場にもなっている。

○ボランティア確認事項…本部内でボランティア活動を円滑に行うための約束事を徹底しており、信頼関係を築いている。

○教職員とボランティアの交流会…交流会では教職員、学校支援ボランティアの思いを率直に話し合い、課題解消に向けて積極的に取り組んでいる。

事業を実施して

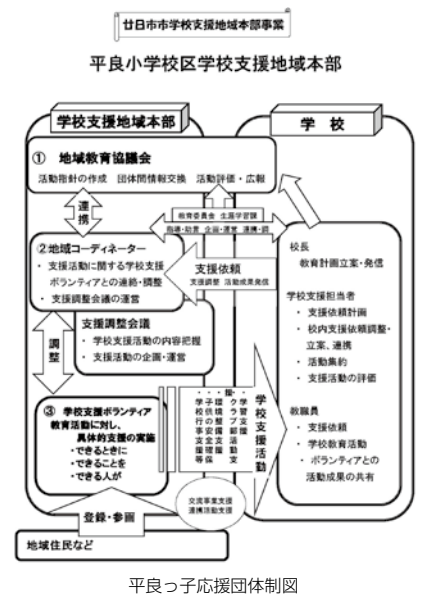
事業評価アンケートでは、学校、地域ともに当活動に対して肯定的な意見が多数を占めており、効果的な活動が実施できていることが伺えた。児童からは学校支援ボランティアからの支援を通して、褒めてもらったことや、励ましてもらったことへの感謝の気持ちが多く書かれていた。また大人になったら、学校支援ボランティアになりたいという憧れの気持ちを抱いている児童も少なからずいる。学校支援ボランティアからは「子供たちから元気をもらった」「子供たちと接するのが楽しみ」など、やりがいや充実感があるとの意見が多数出ており、双方向の取組が実現できている。今後も、双方向の関係を大切にしながら推進していきたい。

その他

発足以来、国語科（書写）、図画工作科、家庭科、体育科、生活科、読み聞かせ、クラブ活動、校外学習引率など多岐にわたって様々な学習支援を行っている。その中でも体育科の支援については、市内の他の本部に先駆けて取り組んだ実績があり、安全確保などを目的に倒立や跳び箱などの授業で補助やアドバイスをを行い、児童のチャレンジする気持ちの向上や事故防止の面において、効果的な支援が実施できている。



支援活動（体育科）の様子



”全員参加”の放課後子ども教室！

広島県尾道市

活動名

長江放課後子ども教室

関係する学校

長江小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	40人	207日	有	有	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	余裕教室				19年度	連携なし	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

当教室は、平成16年に地域子ども教室としてスタートし、地域の大人や保護者が参画して様々な体験活動などに取り組み、地域の教育力向上と子供たちの創造性・社会性を育成することを目的に活動している。

毎月、活動計画を立て、ものづくり、スポーツ、文化活動、季節の行事など、民生児童委員等の地域の方の支援も受け多種多様な体験活動を積極的に行っている。この教室のセールスポイントは、何と言っても、コミュニケーション能力の高さである。保護者が指導員に入る体制ができており、児童、指導員、地域の方、学校関係者と常に連携を密にし、大変良好な関係を保ちながら、全員参加の活動を実践している。

また、放課後子供教室推進事業の趣旨を十分理解し、事務局である尾道市教育委員会に、非常に協力的であり、市主催の研修会へも積極的に参加している。

特徴

【特徴的な活動内容】

クッキング、読み聞かせ、ものづくり、卓球、折り紙、昔あそび、お茶などの通常の活動に加え、ハロウィン、クリスマスパーティー、鏡開きなどの季節の行事に、積極的に取り組んでいる。また、校区内にある中学生との交流も行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ①子供たちに満足感・達成感を味わわせるなど、意欲を喚起させる工夫をしている。例えば、教室オリジナルのカードを作成し、目標を達成したら、スタンプを押したり、シールを貼ったりしている。
- ②心を落ち着かせて活動に入れるよう、活動開始前に、読み聞かせを15分程度行う。
- ③指導員同士で、計画的に活動プログラムを考えるなど、子供の様子等について、毎日、話し合いの場を設けている。
- ④年2回実行委員会を開催し、教室運営や活動内容を検討し、指導者、PTA、学校、社会福祉協議会等の地域の方との意識統一を図っている。
- ⑤児童・保護者対象のアンケートを実施し、教室運営に反映させている。

事業を実施して

指導員の子供たちに寄り添った温かい対応で、安全・安心な居場所になっている。

また、様々な体験・活動、異学年交流を通して、自分の思いが素直に表現できる子供たち、思いやりの心が育まれている子供たちを多く見かける。社会性、自主性、創造性、相手を思いやる心などが身についている。

その他

【学習支援】

参加児童が多いため、各児童が体験活動（お茶など）の順番が回ってくるまで、指導員が宿題のサポートをしている。



ハロウィンパーティー

地域ぐるみの支援で育つ幼保・小・中の子供たち ～由宇地域協育ネット～

山口県岩国市

活動名

由宇地域協育ネット

関係する学校

由宇中学校・由宇小学校・由西小学校・神東小学校・ここにこちどり園・由宇保育園・清華保育園

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	289人	24年度	有	有	無	有
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	13人	5日	有	無	無	無
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	校庭・体育館・校区内施設			20年度	連携型		
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 22 年 4 月 1 日			10人	200人	9学級	

活動の概要・経緯

平成23年度に設立し、中学校の学校運営協議会を核に「由宇地域学校支援地域本部」（3小学校、1中学校で構成）を統合した組織体制である。「子供たちの15年間の育ちや学びを見守り支援するとともに、地域・学校の相互活性化」を目指し、自治会、商工会、文化協会等の代表者や幼稚園・保育所の園長が運営に参加し、「由宇地域協育ネット」としてまちぐるみの教育活動を展開している。

平成24年度からは、学校支援ボランティアの募集を開始し、地域住民・各種地域団体・企業等で組織する「由宇地域協育応援団」を設置した。学校・園の学習支援のニーズに応えることのできる仕組みをつくり、地域から選任されたコーディネーターが、各学校・園への講師、ボランティアの調整を行っている。昨年度は、のべ5,493名（由宇町内 成人人口の約7割に相当）の方々が参画し、今年度の登録人数は289名である。

○協育応援団が実施する主な支援は次のとおりである。

- 1 学習支援活動
- 2 部活動支援
- 3 環境整備
- 4 登下校時の安全指導
- 5 伝統文化を継承する学習支援活動
- 6 キャリア教育支援
- 7 ボランティア活動・地域貢献活動

特徴

【特徴的な活動内容】

1 コーディネート・センターの役割

- コーディネーターと補佐役2名で推進している。
- 幼保・小・中の教職員からの依頼に応じ、コーディネーターが応援団メンバーと調整を実施。学校側に負担がないようにしている。
- 登録メンバー、各学校からの要望をまとめた資料、年間の実績資料等のデータを一括管理している。

2 持続的・発展的な運営体制の確立

- 次期コーディネーター候補者としての「補佐役」は、学校支援活動をサポートする中で、コーディネーターとしての資質を高めている。
- 「協育応援団の集い」を実施。団員同士のネットワークの拡大と、子供と一緒に育つ地域づくりを目指している。

3 WIN-WINの関係作り

- 学校は、地域に貢献する活動として、各種地域団体が実施する事業（花の植え替え、幼稚園・保育所の祭り、草刈など）へ、積極的に参加しており、子供たちと地域住民とが双方向で関わりを持っている。

【実施に当たっての工夫】

- 事務局を中学校内の「地域室」に設置。「コーディネート・センター」「協育応援団の拠点」としての機能と、地域住民同士の交流の場としての機能を備えている。
- 「協育応援団の集い」では、出番が少ないと感じている方と懇談の場を設けて、登録内容以外の教育支援の機会づくりに努めている。
- 兵庫教育大学大学院と連携し、アンケートの実施とその結果分析を通して、PDCAサイクルに基づく計画的な事業の推進を行っている。
- 地域の各団体からのボランティア要請を、中学校の生徒会役員が窓口となって全校生徒へ周知し、参加を募っている。
- 地域の方に生徒の特性をより深く知っていただくために、自習の監督をお願いしている。

事業を実施して

【成果】

- 1 コーディネーターの活動拠点ができ、学校と地域が連携した活動がより活性化された。
- 2 コーディネーターが、学習支援の調整、配置を行うことで、教員が子供と向き合う時間を確保できるようになった。
- 3 保護者や地域住民から「教員・保護者・住民との関係が豊かになってきた。」「協働する大人の姿に接し、子供たちの気持ちが安定してきた。」との声が聞かれる。

その他

- 「NPO法人 由宇スポーツクラブ」との連携
 - ・「銭壺山グリーンハイキング」では、中学生と一般住民が協力し、コースの先導・警備・誘導・活動の補助を行っている。
 - ・「YOU・ゆうスポーツフェスタ」では、中学生と一般住民が会場の準備・片付け・ジュース販売・屋台村での手伝いを行っている。
- 学習支援の様子
 - ・協育応援団と小・中学校の教諭が、中学校の補充学習会の指導に当たっている。
 - ・中学校の教諭が小学校へ出向いて、出前授業（英語・数学等）を実施している。
 - ・協育応援団は、定期テストや研究授業の際に自習監督として携っており、校内研修等の充実に一役買っている。



由宇地域協育ネットのイメージ図



ふれあい活動（わら細工）

地域と学校が連携し、ウィン・ウィンからトータル・ウィンへ

山口県山口市

活動名

興進教育会による活動

関係する学校

興進小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日		委員数	児童生徒数	学級数			
	平成 24 年 4 月 1 日		10 人	133 人	8 学級			

活動の概要・経緯

興進教育会は、「興進地区全世帯の協力で小学校教育を支えていこう」という理念を掲げて、大正3年に発足し、平成26年度に100周年を迎えた学校支援活動を行う会である。具体的には、「ウィン・ウィンからトータル・ウィンへ」という目標のもと、学校や地域の課題を共に考え、学習支援部、安全支援部、環境支援部の3部会を中心に活動を行いながら、地域と学校が支え合っている。

また、興進教育会では、興進小学校の学習活動、安心・安全の確保、環境整備等において、随時ボランティアを募集し、学校支援活動を継続している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 学校の教育活動を様々な面からサポートしているが、その主な活動は次のとおりである。
- 学習支援：家庭科のミシン等の指導、米づくり、地域の歴史学習、長期休業中の学習支援、キャリア教育、絵本の読み聞かせ、栽培指導など。
- 安全支援：下校時の見守り、避難訓練の補助、朝の挨拶運動、校内外の巡回など。
- 環境支援：グリーン広場の芝生の手入れ、花壇の整備・除草の支援、遊具などの修繕、庭木・小枝のせん定など。
- 教職員や地域住民を講師とした地域住民を対象とした生涯学習講座の開講。

【実施に当たっての工夫】

学校から要望や課題などが提出されると、3部会ですぐに相談し、迅速に対応する体制を整えている。それぞれの部会には、学校の行事予定を示し、年間を通じて協力してもらえる内容や支援活動について検討してもらっている。

また、年4回の学校運営協議会、年2回の興進教育会の会議で活動方針等について検討するのに加え、ボランティアが休み時間や放課後を利用して頻りに学校を訪問し、連絡を密にすることで、学校や地域の要望が十分に伝わり、連携が円滑に図られている。

事業を実施して

地域と学校双方にとってトータル・ウィンが実現されている。児童は、地域に育てられているという実感があり、地域住民からも、将来はこの子供たちが地域の子供を見守り、育てていく存在に成長していくのではないかと期待されている。また、学校支援活動や地域貢献活動を通じて、地域と学校との信頼関係がより一層深まっている。

その他

興進教育会は、「興進地区全世帯の協力で小学校教育を支えていこう」という理念を掲げて、大正3年に発足し、平成26年度に100周年を迎えた。そして、平成26年10月11日には、「100周年記念式典」が挙行され、山口市教育委員会教育長、歴代校長先生方をはじめ、来賓、保護者、地域住民などが参加した。この式典で、興進小学校の3つの柱である「なかよしグリーン広場」「いぶきの木」「青い目の人形」をテーマに、100年間の歩みを振り返った催しが行われた。



「命をいただく」米づくりの学習



なかよしグリーン広場の木々の伐採

「地域の子供は地域で育てる」 ～協働を通じた未来志向の地域づくり

山口県田布施町

活動名

東田布施小学校 PTCA プロジェクト

関係する学校

東田布施小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	24人	42日	有	無	無	無
		実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		図工室、家庭科室、グラウンド、体育館			17年度	一体型		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	
コミュニティスクール								

【概要】

○組織

PTCA：PTAにC（コミュニティ：地域住民）が加わった保護者と学校と地域住民の会

○主な活動

- ①水曜日の放課後に行う課外授業
囲碁、手品、書道、手芸、グラウンドゴルフ
- ②休日に開催する事業
田植体験・田んぼの生き物調査、大波野ホテル観察会ほか
- ③学校との連携（授業でのゲストティーチャー等）
ホテルの幼虫放流（総合的な学習の時間）、大波野神舞鑑賞会（社会科）ほか
- ④公民館との連携
タケノコ掘り、コスモス祭り、公民館まつりほか

【経緯】

- 平成14年 おやじの会（ヤローズ）立ち上げ
- 平成17年 東田布施小学校PTCAプロジェクト立ち上げ
- 平成23年 子どもホタルレンジャー奨励賞受賞（環境省主催）
- 平成23年 全国学校ビオトップコンクール奨励賞受賞

活動の概要・経緯

特 徴

【特徴的な活動内容】

「地域の子供は地域で育てる」という明確な目的に裏打ちされた理念が、地域住民の献身的な活動意欲を引き出す源となっている。コーディネーターを核に、行事や事業内容ごとに運営組織を位置付け、他機関とも連携をとりながら機能的に運営している。一コマの内容それぞれが子供の興味関心を誘い、個々の技量を高め感性を豊かにすることに一役買っている。

【実施に当たっての工夫】

地域に伝わる古きよき郷土芸能や地域文化の伝承と、現有の運営組織や活動形態に固執しない進取の風を併せ持ち、不易と流行（はやり）の両面から地域の未来を担う子供たちの育成に努めている。

事業を実施して

「地域の子供は地域で育てる」という地域住民の熱い思いを背景に、コーディネーターを中心に一枚岩となった活動が行われており、人や地域が育つ住みよい環境づくりが着々と進んでいる。

また、これらの活動が起点となり、学校・家庭・地域が密接に連携した住民総がかりによる地域づくりへの気運を高めている。



【地域の教育支援員による放課後課外授業】手芸教室



【休日に開催する授業】川の生き物調査（大波野環境保全隊との連携）

伝統文化や近代文化に接し、地域住民とふれあう活動

徳島県北島町

活動名

北島わくわくキッズスクールによる活動

関係する学校

北島北小学校・北島小学校・北島南小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		2人	30人	135日	有	無	無	無
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携			
	3 学習等共用施設及び児童館			21 年度	連携なし			
	指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯
北島町内の4つの児童館を利用して活動している。毎週、月から金までの学校の授業日及び月一回土曜日に実施されている。教室の運営については地元地域のボランティアの方々との協力により、教育活動推進員等として、子供たちとのふれあいを大切にしながら運営している。

特 徴

【特徴的な活動内容】

毎週、月から金までの学校の授業日及び月一回土曜日に実施されて、年間の開催日数が135日開催していること。
地元の地域の方々の指導・体験などを通して、地域の放課後子供教室として運営されていること。
年度当初に、北島わくわくキッズスクール受講者募集用のチラシを配布し、多くの講座の中から本人の希望をとり活動している。

【実施に当たっての工夫】

伝統文化や近代文化に接することにより、次世代を担う児童健全育成を支援し、地域住民とのふれあうことに務めている。
子供たちの興味関心を引くような、多彩な講座を用意している。
活動場所として児童館を使い、放課後子供教室を実施している。

事業を実施して

事業の実施に当たり、たくさんの地域の方々の参画を得ることができ、教室に通う子供たちは学習や地域と幅広く交流体験ができるようになった。また、地域の方々との交流により人の心の温かさを理解し、伝統文化の大切さを意識するようになった。

参加する子供たちの学習や体験活動を通しての健全育成と、指導に当たっている地域の方々の生きがいにもなっている。

その他

参加者のニーズにあわせ、時間や実施回数を増やすことを検討したい。



手話教室の様子



絵本づくりの様子

「学校の灯を消すな！」 地域全体で学校教育を支え、青少年を育成する活動

徳島県美波町

活動名

伊座利校学校運営協議会

関係する学校

伊座利小学校・由岐中学校伊座利分校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
コミュニティ・スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
	平成 19 年 7 月 27 日			10 人	小6人中11人	小3学級中2学級	

○「学校の灯を消すな！」徳島県南東部に位置する美波町。その中の最少集落「伊座利」にも、過疎高齢化の波は容赦なく押し寄せてきた。かつて陸の孤島と称された時代でも400人いた人口が、平成10年頃には、100人程度となり真に伊座利の持続の危機を迎えた。そこに、平成12年、伊座利の未来を拓（ひら）き永遠の持続を願って「伊座利の未来を考える推進協議会」は発足した。この協議会が学校運営協議会の母体となり、現在に至っている。

○本活動は、青少年の健全育成に努め、子供に未来を託して、学校と地域の存続を図ることを目指した活動である。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ①「おいでよ海の学校へ」：漁村留学や漁村に関心のある親子を対象に開催。磯遊びや、クルージング体験、カヌー体験、定置網体験、テナガエビ獲りなど海と周辺環境を最大限に活用して体験学習を提供する。漁村留学の疑似体験ともなっている。
- ②「ヒジキ刈りと日曜日」：ヒジキを収穫して製品化し、日曜日で販売する活動。磯のヒジキを刈り取り、ごみを取り除いて釜ゆでし、天日干し後、更にごみを取り除き、袋詰めにして製品化する。実際に製品を販売することで、生産から販売までを知る社会体験活動となっている。

【実施に当たっての工夫】

- ①「おいでよ海の学校へ」：毎年各地から200人余りの親子連れが訪れるため、伊座利地域の子供から高齢者までが、一人一役を担うこととしている。伊座利校児童、生徒、職員も中心メンバーとして参画することで、積極的に地域と学校をPRしている。
- ②「ヒジキ刈りと日曜日」：生産から販売までを体験する社会体験活動。県都徳島市で開催される日曜日での販売活動をもって終える。漁業が地場産業であることから、学校運営協議会が全行程を指導補助する。

事業を実施して

事業を実施したことで、漁村留学に結びついたかといえ、直接結果に結びついたケースは少ない。しかし、この活動には、全国津々浦々から参加者が訪れており、このことは地域の活動がただ単に地域内の活動で完結するのではなく、大きな広がりを見せていることを示している。また、リピーターとなる参加者も多く、このことから、地域の魅力を十分に発揮した活動となっていることを、うかがい知ることができる。このことが自信となり、地域も学校も活気を取り戻し、様々な活動へと広がりを見せている。稚魚・稚貝の放流、大敷網体験、磯学習、共楽運動会、エビ網体験、スキー交歓学習など、地域の協力を得て多彩な体験学習が実現している。

その他

「伊座利」は大人が面白い。だから子供も面白い。磯学習の学習発表会では大人が子供にやじを飛ばす。子供は動じることなく、言い返すパターンとスルーするパターンを使い分けて、しっかりと発表を終える。それを大人は満足そうに見ている。「伊座利校学校運営協議会」の源流とも言える「伊座利」ならではのエピソード。この「伊座利」での人々の営みと学校の灯よ、いつまでも、いつまでも。



おいでよ海の学校へ



ヒジキ刈りと日曜日

徳島県上勝町

活動名

アララギ学習会による活動

関係する学校

上勝中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
基本データ	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
基本データ	コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

近年小中学生の学力低下が課題となってきた。そこで上勝町の現状を考えると、子供たちの中には学校の授業だけで学習内容の理解が不十分な生徒が少なくない。それを補うのが家庭学習となってくる。しかし、上勝町においては、学習塾も少なく、生徒たちが家庭学習を充実させることが、他の市町に比べて難しいところがある。上勝中学校の生徒が、学校の授業だけでなく集団で補充学習をすることによって、家庭学習でありがちな「できない」・「やらない」という問題の解消を図る。生徒個々により授業内容の理解度に差異がみられるため、再度学習することにより全体的な底上げを行う。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 学習会の実施時間 部活動終了後18:30～20:00 一日1時間30分
- 実施回数 月、水、金の週3回
- 指導形態 学年別に、国語・数学・英語

【実施に当たっての工夫】

- ・開始当初の4月に学習会参加者への説明会（保護者・学校）を実施し、学習会の趣旨、方法を説明し協議を重ねた。
- ・学習形態や生徒や地域の実態を説明し、学習方法について検討会を行った。
- ・学習会終了後スクールバスを臨時に運行している。バスを利用しない生徒は、保護者の協力により帰宅している。
- ・学習会では、宿題は出さないようにしている。学校教育との整合性を考えて、生徒にとって過度な負担にならないようにしている。

事業を実施して

- ・中学生になると、学習への不安や関心が高まり、悩む生徒がある中で学習の方法や「分からない」・「できない」を解決できている。
- ・詰め込み教育ではなく学習に対する取組や方法等、基本的な事も指導しているため、生徒は学習会に対する関心が高く、欠席者は少ない。
- ・学習会への参加生徒は全校生徒の73%であるが、学習会の成果が徐々に現れており、成績も向上してきている。そのため、来年度は、更に参加者は増える見込みである。

その他

- ・上勝町は1中学校、1小学校であるため小学生の放課後の学習指導・生活指導にも広げていきたい。
- ・また、次年度以降は、対象を小学生にも拡大し、小中一体の指導体制の確立を目指している。
- ・次年度以降は土曜日の子供の居場所づくりの為に、小中学生の学習会や遊びの場を提供し、上勝町ならではの教育環境の整備に努めていきたい。



1年生の学習風景



3年生の学習風景

学校常駐のコーディネーターが中心となり運営する、学校支援活動

香川県東かがわ市

活動名

三本松小学校支援地域本部

関係する学校

三本松小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	1人	120人	25年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
 学校支援地域本部が発足する以前に、学校独自の「三小子育てネットワーク会議」という組織が存在し、地域ボランティアによる安全パトロール等の支援活動を行っていた。そのボランティアの基盤を活用し、更に支援の範囲を拡大していくため、学校支援地域本部事業を開始した。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- ・定期的に「学校支援ボランティアだより」を発行し、小学校の児童・地域ボランティアに配布している。
- ・年に2回、「三小子育てネットワーク会議」を開催し、学校関係者と地域ボランティア団体の代表者が意見交換をしている。これにより、学校が抱える課題を地域全体で共有することができる。
- ・児童にアンケートをとり、地域ボランティアとの活動の中で楽しかったことや印象に残ったことをヒアリングしている。

【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターが校内に常駐し、学校と地域ボランティアの間を円滑に結ぶパイプ作りをしている。
- ・ボランティア人材バンク制度を導入している。各ボランティアの活動地域や支援できる分野などをあらかじめ書面で申告してもらい、パソコン上のデータベースに登録することにより、支援が必要な課題が発生した際に迅速にボランティアの人材とマッチングできる環境を構築している。
- ・小学校のPTA総会などで活動を紹介し、随時ボランティア人材の掘り起こしをしている。

事業を実施して

- 成果① 教育活動の充実
 （専門的な知識・技能の活用、準備・運営にかかる教員の負担軽減）
- 成果② 学校環境の充実（特に栽培活動の面で）
- 成果③ 生活指導での充実（子供に関する多様な情報の収集と働きかけ）
- 成果④ 地域の中での子供の居場所の確保

その他

地域ボランティアからの要望で、県教委より講師を招いて学校支援の講義を実施するなど、ボランティア自身が積極的に活動に取り組んでいる。数年後に三本松小学校は別の小学校と統合する予定だが、この活動を継続していきたい。



安全パトロール



環境整備

愛媛県松山市

活動名

味生子どもふれあい教室

関係する学校

味生小学校・味生第二小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の実績）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	15人	185日	有	有	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	公民館小会議室・多目的室・図書室・中会議室・大会議室・調理室・農園・小学校体育館				19年度	連携型		
	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成19年度に開設され、味生公民館の各部活動・学習サークル関係者を中心に、味生小学校・味生第二小学校関係者、同校PTA、地域のスポーツ関係団体等が連携・協力して、味生公民館を主な活動場所として、算数・国語教室や卓球教室、書道教室、囲碁教室、サツマイモの栽培などの学習・体験活動を実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

平日の算数・国語教室では宿題やワークブックを主体に、児童クラブの児童も参加して、進度に合わせた指導を実施。土曜日や長期休業中は、卓球教室で基本技術の習得や体力向上を目指したり、書道教室で上達した作品を展覧会に出品して入賞者を輩出したりしている。また囲碁教室でお年寄りの方々と交流し、思いやりや礼儀を身に付けているほか、地域の農園を借り上げてサツマイモの栽培を行い、収穫したイモを使った料理教室を開催して食育面でも成果を上げている。

【実施に当たっての工夫】

参加児童の募集時に、教育活動推進員のメッセージと顔写真、各教室の活動状況の写真を掲載した公民館ふれあい便りを学校を通じて配布し、周知に努めている。

活動場所である公民館前の横断歩道の誘導や教室開催前後の一声注意など安全管理にも配慮している。

事業を実施して

児童の指導に携わっている地域住民の方々も内部研さんや外部研修会に参加するなどして資質向上を図っており、活動内容の充実と教育力の向上並びに生きがいづくりにもつながっている。

複数の小学校の児童が参加することで校区を超えた交流も生まれ、学校間の連携にもつながっている。

その他

毎週水曜日の放課後に開催している算数・国語教室では、中・低学年を対象に参加を募り、児童クラブの児童も交じって宿題やワークブックを中心に勉強し、基礎学力や学習習慣が身に付くよう指導している。



卓球教室



算数・国語教室

地域とともにある学校づくり ～愛され信頼される学校づくり～

愛媛県鬼北町

活動名

日吉小・中学校区学校支援地域本部

関係する学校

日吉中学校・日吉小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	1人	196人	25年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
			平成 25 年 4 月 1 日		12 人	88 人	11 学級	

活動の概要・経緯

【活動の経緯】

日吉小・中学校では、地域とともにある小中一貫教育を目指し、その中で「教育課程特例校」と「コミュニティ・スクール」の指定を受けるとともに「学校支援地域本部」を導入し、三つの制度が一体となって学校を支え、地域ぐるみで子供を育てる体制を整え、教育の質の保証と向上を図っている。

【活動の概要】

- 学習支援…国語科における読み聞かせ会、郷土学における講師、公民館と連携した技術科の授業等
- 部活動支援…スポーツ少年団及び部活動等での講師
- 環境整備…樹木のせん定、除草、清掃、図書室整備、空き缶回収・運搬等
- 子供の安全確保…登下校見守り
- 学校行事等の支援…研修会における駐車場案内、マラソン大会での交通整理等

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、小・中学校 9 年間を通して地域を学ぶことで、豊かな人間性を育み、郷土を愛し、誇りを持つことを目指した「郷土学」という教科を独自に設置し、地域住民を講師として招へいし、授業を行っている。
- コミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会委員の意見を活動に反映させている。

【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターが地域住民、地域団体等と密に連絡を取ることで、地域住民や保護者の意向や、学校運営協議会で出された意見を、ダイレクトに学校運営や教育活動に反映させるよう努めている。
- 地域住民へ活動内容を周知するため、毎月地域全戸に、ボランティア活動の様子等を掲載した通信紙を配布している。

事業を実施して

- 地域の方の指導により充実した教育活動を行うことができ、子供たちが地域の一員としての自覚を深め、地域行事等に積極的に参加するようになった。
- 地域住民にとって、学校がより身近な存在となり、地域全体として子供たちを守り育てていこうとする共通意識が高まった。
- 過疎高齢化が深刻なこの地域の活性化につながる学校支援地域本部の在り方を今後検討したい。

その他

- 小学校において、毎週朝読書の時間に、ボランティアによる読み聞かせ会を行っている。毎週趣向を凝らした内容で、子供たちは、この時間を非常に楽しみにしている。また、学期に 1 回、1 時間の授業枠を使った、全校児童対象の読み聞かせ会も開催している。ボランティアの工夫により、子供たちは、国語科にとどまらず、社会科や理科、音楽科等とも関連した、横断的な学習を行うことができる。



郷土学における講師



老人クラブによるせん定・校内整備

愛媛県今治市

活動名

大西放課後子ども教室

関係する学校

大西小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	29人	60日	有	有	無	無
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携		
	教室、校庭				24年度	連携型		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

【活動の経緯】

園児の減少により廃園となった旧大西幼稚園を、子育て支援・子供の健全育成に有効活用するため、地域住民が自ら事業主体となるNPO法人「輪い和い」を立ち上げ、平成24年度に市から放課後子供教室の委託を受けて事業を開始した。充実したスタッフや地域のボランティアに支えられて、様々な遊びや活動・交流ができる楽しい居場所スペースとして、地域で支え合った子育て支援、きずな作りに取り組んでいる。

【活動の概要】

○にこにこ教室（体験活動）

手作りおもちゃ教室（わら細工、紙飛行機、ミニ門松など）、手芸（ミサンガ、クリスマスリースなど）、木版画教室、華道・茶道教室、英語遊び（ゲーム、ALTや交換留学生との交流）、囲碁教室、天体望遠鏡での星空観察教室、夏休み学習教室

○伝統文化や体験を大切に活動

相撲大会、お月見団子作り、ミニ文化祭、史跡巡り、しめ縄作りなど季節に合わせたイベント
米作り（田植、草取り、稲刈り、脱穀、飯ごう炊さん）プロジェクト

○異年齢・住民交流活動

「輪い和い親子広場」に来ている0～3歳児とのふれあい交流

「輪い和い子ども夏祭り」で、お化け屋敷、射的などの出店を開き、親子でフラダンスなどのパフォーマンスを披露して、住民交流を図っている。

○子供の力が発揮できる自由遊び

廃材利用の物作りや大工ごっこ、スポーツ、外遊び、室内遊び

活動の概要・経緯

特 徴

【特徴的な活動内容】

○米作りでは、昔ながらの手作業や機械、道具を使って作業し、田植から飯ごう炊さんまで、一連した活動を行っている。子供たちは、収穫の喜びを味わうとともに、昔の人の米作りの工夫や苦労を身をもって体験している。

○にこにこ教室では、地域の経験豊かなその道にたけた方に指導を仰ぎ、充実した活動や作品作りを行っている。活動の発表の場としてミニ文化祭を開き、教室間の交流を図るようにしている。

【実施に当たっての工夫】

○小学校を通じて、チラシを配布したり、毎月、「輪い和い子ども広場通信」を作成して配布したりしており、地域への周知に努めている。

○参加費や材料費が要する時は、その都度徴収している。

事業を実施して

○年齢・学年を超えて、子供たちに自然な輪ができ温かい交流が深まるとともに、地域の豊かな人材を活用して、実のある活動ができています。

○毎月の予定やイベントの周知を図るため、毎月の通信を登録している児童全員に行き渡るようにしたい。

○外遊びで、夢中で遊んでいる子供同士がぶつかりそうになる場面があるため、特に出席者が多いときのルールを検討する。

その他

○夏休み学習教室では、一学期勉強した内容の復習を兼ねて、夏休み用ドリルを使って国語、算数を指導している。



昔の道具で脱穀をしました（米作りプロジェクト）



ミニ門松作り（手作りおもちゃ教室）

愛媛県久万高原町

活動名

面河小学校支援地域本部

関係する学校

面河小学校・おもご幼稚園

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

【活動の経緯】

以前から学校と地域の方との結びつきが強く、地域ぐるみで子供を守り育てる環境が整っている。この事業を通じて、学校を始め子供を取り巻く全ての大人たちに「面河の子供は地域で育てる」意識を醸成し、さらなる地域づくりを進めたく取り組むこととした。

【活動の概要】

年間を通じて面河の自然や四季あるいは文化など、「面河」を教材とした体験活動を中心に協議し実践している。

- 学習支援活動…書き初め指導、水生生物観察、ふるさと学習、読書講座、読み聞かせボランティア、面河食文化普及講座、面河万才・石鎚天狗太鼓練習、茶摘み・茶もみ、川遊び、林業教室、山岳博物館見学
- 環境整備…茶畑整備、学校周辺の草刈り、プール清掃、窓ふき、PTA奉仕作業協力
- 子供の安全確保…登下校時の見守り・声掛け、通学路安全点検
- 学校行事等の支援…スキー教室、校内マラソン大会、運動会、わくわく交流会（面河支援ハウス）、面河ふるさとまつり、木工教室、いのちの森づくり（どんぐり拾い）、マス釣り交流会

活動の概要・経緯

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 年間を通じて、地域の方による面河の昔の様子や昔話を聞かせるお話会や、読み聞かせボランティアによる本の読み聞かせを実施している。
- 四季を感じる活動が開催され、地域住民と児童との交流が図られている。（お茶摘み・マス釣り・スキー教室等）
- 面河万才や石鎚天狗太鼓を地域の指導者から学び、地域の伝統芸能を継承している。

【実施に当たっての工夫】

- 行事予定は必ず地域住民に周知し、大勢の方が学校へ足を運んでもらえるよう取り組んでいる。
- 行事（運動会・学芸会等）は、準備から開催、片付けまで地域の方、保護者、児童、教職員が一緒に取り組むこととしており、地域の連携を強めている。

事業を実施して

- 地域の方々が積極的に参画し、地域資源を生かすことで、地域の歴史や伝統を子供たちに継承できている。
- 学校支援地域本部だよりを発行し、学校の様子を地域の方に詳しく知らせることができるようになった。
- 大勢の方が学校へ来校し、子供たちの様子を見てもらえるようになった。

その他

- 地域による学校への協力・支援は、事業のみならず日常的に行われており、地域全体で子供たちを守り育てているといえる。
- 書き初め大会や水生生物調査、林業教室等の様々な面での学習支援がなされ、児童の深みのある学びにつながっている。



地域の方の指導によるスキー教室



地域の方の茶畑でお茶摘み

高知県土佐市

活動名

高岡第二小学校支援地域本部

関係する学校

高岡第二小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	3人	124人	20年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	2人	19人	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール			実施場所		開始年度		放課後児童クラブとの連携
				図書室		20年度		連携なし
				指定日		委員数		児童生徒数
								学級数

活動の概要・経緯

学校教育活動を支援する取組が行われていたが、十数年前より宅地造成が始まり、新興住宅地を有する学校となった。また核家族化が進んだこともあり、地域内の人々の結びつきや地域の教育力、コミュニティ力が課題となった。そこで「地域全体が一つとなり、学校と地域との連携体制の構築を図り、地域ぐるみで子供を育てる」をねらいとして本事業に取り組んだ。

- ①地域教育協議会を年3回、開催する。
- ②地域内学校への学校支援地域本部事業に係る普及啓発、広報活動を行う。「山の手子ども便り」を通じて広報活動をする。(月1回)
- ③人材バンクの充実（学校支援ボランティア募集に係る広報活動）
- ④学校支援事業活動（4月～3月）
 - ・本の読み聞かせ・安全パトロール・学校等環境整備・「地域を活用した学校丸ごと子どもの体力向上」事業実施・「山の手ふれあいフェスタ」の実施
- ⑤事業成果報告会を1月に実施。(成果報告書を作成)

特徴

【特徴的な活動内容】

- 子供の見守り活動。青色回転灯を装着した車から、児童が作成したテープを流し巡回。交差点等での安全指導。マラソン大会のみならずコースに出た練習から安全指導。通学路の点検と関係機関への危険箇所改修の依頼。
- 「山の手ふれあいフェスタ」の実施。地域の連携強化。地域の歴史文化の継承として、本校出身の世界的写真家「石元泰博の世界展」や「35番札所 清滝寺のすがた」を取材展示。3世代交流餅つきの実施。地域特産物販売。地域の特産土佐和紙を使った紙飛行機とぼし大会。保育・小学校・中学校（吹奏楽）児童生徒・地域の伝統「えじま」（土佐市の民謡）や地域の各クラブのステージ発表。
- 地域をあげてのあいさつ運動

【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターが地域の諸団体に本事業についての説明と情報発信を行うことで、学校への支援体制が整う。
- 地域資源の活用で地域教育力を向上させる。自発的意志による活動、ボランティア自身の経験や専門力を生かす活動となるようにする。
- 活動後の会（お茶を飲みながらの情報交換の場・交流の場）を設定し、楽しみながら無理なく継続できるようにする。この会は、ボランティアに大好評。
- 豊かな学習活動のために学校支援ボランティア登録名簿を活用する。
- マラソン練習や地域での活動における安全確保のための協力を依頼する。
- 節目で、児童の感謝の気持ちを伝える場の設定や方法を工夫する。
- 学校支援地域本部だよりの配布や廊下壁面にボランティアの方々の写真を掲示する。

事業を実施して

- ・地域の方が学校の教育活動に関わることで、多様な体験、経験の機会が増え、規範意識やコミュニケーション能力の向上につながっている。そのことは、生涯学習の成果を生かす場となっており、生きがいづくりにもつながっている。
- ・多くの大人が子供たちを見守ることで、よりきめ細かな教育ができる。
- ・地域住民の力を得ることで、教員が教育活動に、より一層力を注ぐことができる。
- ・地域の活性化や、学校を核とした地域づくりにつながる。

その他

生活科では、昔遊びの指導、総合的な学習の時間では、3年生の文旦学習、4年生は民話、5年生は田植と稲刈り、6年生は地質学習の指導補助、家庭科ではミシン縫いや調理実習の技術指導補助、体育科では陸上、水泳、ダンスの学習支援、読書指導、マラソン安全指導等



山の手子ども見守り隊



山の手ふれあいフェスタ

高知県室戸市

活動名

吉良川放課後子ども教室

関係する学校

吉良川小学校

※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）

活動区分	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	31人	102日	有	有	無	有
コミュニティスクール	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	1F実習室				22年度	連携なし	
	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

- 【経緯】**・吉良川地区では以前より公民館等をはじめとし、地域住民が子供達の育ちを支援する活動が盛んに取り組まれていた。
 ・こうした活動のひとつとして、平成22年度より吉良川小学校近くの公民館を拠点として吉良川放課後子ども教室が活動を開始する。
- 【概要】**・平成26年度は年間102日開催。（平日：82日15：00～17：00、日曜・長期休業日等：20日9：00～12：00）
 ・平日スケジュール 下校－宿題－自由遊び－帰宅
 ・体験交流イベント例 かしわ餅作り、紙すき体験、親子マイ箸づくり、土佐凧づくり体験、吉良川子ども花台参加、地区お祭り出店

特徴

【特徴的な活動内容】

- ◎地域との連携による伝統（文化・産業）を学ぶイベント
 - ・地域の人との交流イベント～盆踊り練習から地域の人を知る～ ・土佐備長炭の風鈴作り～土佐備長炭から伝統産業を知る～
 - ・御田八幡宮秋の神まつり～「子ども花台」から伝統芸能を知る～ ・土佐凧作り・たこ上げ～伝統文化を知り、次代へつなぐ～
- ◎地域とつながるイベント
 - ・季節の飾りを作る～地域の施設を飾り交流する～ ・地域のお祭りにお店を出そう～みんなのアイデアで素敵なお店を～

【実施に当たっての工夫】

吉良川地区では「地域を愛する子どもが育ち、将来、吉良川を支える大人になってくれること」を願い、公民館を中心に地域活動を行う組織と協働した取組が盛んであったため、子ども教室の活動をそれらと組み合わせることで実施することにより、御田八幡宮古式行事保存会や地域活性化を目的に活動している「吉援隊」など、既存のさまざまな地域団体との連携がスムーズに進み、子供達と地域をつなぐ充実した活動を継続して展開することができている。

事業を実施して

- ・新しく子ども教室に通い始めた子供たちも、上級生の様子を見ながらルールやスケジュールを覚えたり、自由遊びで上級生がまとめ役となり、子供たちだけで遊びを進めたりする等、異年齢集団の中で子供たち同士が学び合い、活動に取り組む様子が増えてきた。
- ・地域の行事に継続して参加することにより、地域における放課後子ども教室の認知度も上がり、お祭りへの出店をはじめ子供たちの活動を楽しむに地域住民も増えてきた。また様々な団体から行事への参加を依頼されることもあり、行事を一緒になって作り上げる役割も担いながら、地域活性化にも貢献することができている。

その他

NPO等とのかかわりでは、「NPO法人まちなみ保存会」と連携することにより、重要伝統的建造物群保存地区である吉良川地区で開催される様々なイベントに参加したり、教室で作成したものをひなまつりや七夕のイベントのときに飾り付けたりしている。

また、学習支援では毎日の宿題の取組をととして、正しい姿勢や鉛筆の持ち方など学習態度の定着も含め、自分で宿題に取り組む自主学習への支援を行っている。



毎日の学習支援と自由遊び



御田八幡宮秋の神祭の子ども花台



地域の自然・文化にふれ合い、ふるさと浮島を誇りに思う心を育む田圃学習

福岡県久留米市

活動名

浮島小学校支援地域本部

関係する学校

浮島小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 22人	開始年度 13年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
	学校支援地域本部	コーディネーター数 4人	ボランティア登録数 37人	開始年度 15年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 有
基本データ	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

- 地域が主体となって活動する土曜学習（土曜塾）については、平成13年の福岡県青少年アンビシャス運動の一環として始まった。現在、土曜塾を運営する浮島校区青少年育成協議会が、城島地域青少年育成協議会を経て平成25年に設立されている。土曜塾の活動として、農業体験学習の他に、左義長などの稲作に関わる伝統行事、地域の祭り、伝承遊びである独楽回し大会が行われている。また、平成25年からは、田植や田んぼに生息する稲の益虫の観察、農業俳句づくりなどの農業体験学習の一部を、土曜授業として浮島小学校の教育課程内で実施している。
- 田圃学習を支援する組織は、平成15年に地域・保護者の協力により設立され、平成18年からは農業組合法人うきしま（当時は農事組合「うきしま」）の農業指導員の協力を得るなどして、学社融合の田圃学習推進委員会として構成されている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 五感を通じた農業体験活動を通して、子供たちは地域の豊かな自然環境や農作物に関心を持ち、農家の方の知恵や努力について学ぶことで、ふるさと浮島への愛着を深めていくことをねらっている。
- 農業体験活動の主な内容としては、ペア学年や保幼小の連携として保育園児と一緒に取り組む田植や稲刈り、直接、田んぼの泥と親しむドロリンピックなどがある。特に、5年生に関しては、農業指導員の方の指導を受けながら、田おこしや苗作り、草取りなどの活動を、自分たちで計画・実践するとともに、その内容は学習発表会で全校児童や保護者、地域の方に紹介されている。また、低・中・高学年別に栽培したい作物を選んで畑作を行い、収穫したものを生かした食育にも取り組んでいる。
- 農作物を自分たちの手で育てたという喜びや充実感、すばらしい浮島の自然とふれ合った思い出を農業俳句に表現し、農業体験学習の場で保護者に向けて発表を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 農業体験学習を実施する前に、高学年から他学年児童に向けて具体的な活動に向けたオリエンテーションを行い、児童が主体的に取り組むことができるようにしている。
- 学校支援地域本部のコーディネーターから、田畑での農業体験学習が行われる際には事前に地域の方や保護者に期日を連絡し、多数の方の協力を得ることができるようにしている。

事業を実施して

- 自分たちが生活している浮島校区に愛着を感じている子供の割合は、ほぼ100%に近い数値に達している。また、年度末に作成する学校文集には、多くの子供たちが田植や稲刈りなどを通して自然とふれ合ったことや、友達・保護者・地域の方との心に残る交流の様子、ふるさと浮島のよさや愛着の思いをつづっている。
- 学社融合の田圃学習推進委員会を中心としながら、その他の様々な学校教育活動を支援する学校地域支援本部が組織されることによって、地域の方の学校教育活動への参加率や学校に対する期待感が高い状態にある。

その他

- 地域住民以外にも、JA福岡大城、農業組合法人うきしま【企業】や、久留米市役所城島支所産業振興課【行政】が田圃学習に深く関わっている。
- 田圃学習を通して、子供一人一人に食の大切さや命の大切さを理解させる食育教育を併せて行っており、平成26年度に浮島小学校は久留米市食育推進団体として表彰されている。



保育園児や保護者と一緒に行う田植



農業指導員の方と行う「虫見」

西中コミュニティ協議会、サポート本部による協働、支援活動の一体的推進

福岡県春日市

活動名

春日西中学校学校運営協議会

関係する学校

春日西中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 0人	子供の平均参加人数 10人	開始年度 20年度	国庫補助 無	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 173人	開始年度 20年度	国庫補助 無	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 23.5人	年間開催日数 155日	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
		実施場所 春日西中学校(体育館・グラウンド・コミュニティルーム)・白水小学校(体育館)			開始年度 19年度	放課後児童クラブとの連携 連携なし		
コミュニティ・スクール	指定日 平成18年4月1日		委員数 17人	児童生徒数 719人	学級数 21学級			

活動の概要・経緯

【西中コミュニティ協議会（学校運営協議会）の経緯・概要】※平成18年度、生徒指導上の課題解決を三者で図っていくために導入。月1回協議会を開催し、教育活動全般の協議・承認（経営方針、学期制変更、予算編成、民泊体験実施に向けた協議等）、学校関係者評価（独自に地域・保護者アンケートを実施し、実効性の高い評価を実施）、意見具申（CS加配教員要望、地域担当教員の留め置き要望等）、行事等日程調整・全体確認等を行っている。

【西中サポート地域本部の経緯・概要】※平成20年度に協議会の方向性を具体化する組織として設置。補助金非交付ながら独自予算を確保し活動を展開している。

- ★西中サポート会議（月1回）：支援活動打合せ、行事調整、中学生ボランティア調整（地域清掃、公民館寺子屋における小学生学習支援、夏祭り等地域行事参画）
- ★安全支援コミュニティ：安全支援コミュニティ会議（月1回）、おやじの会、地域と連携した巡回・夜間パトロール（年26回）
- ★環境支援コミュニティ：地域情報誌ネビュラ作成（年2回各1万部作成）、学校ホームページ作成・更新、花壇整備
- ★学習支援コミュニティ：星雲タイム（総合的な学習の時間）、放課後星雲塾（随時）、土曜星雲塾（月2回）、スマイルルーム支援

特徴

【特徴的な活動内容】

- ★安全支援コミュニティ会議を月1回開催し、学校、家庭、地域、警察、行政による情報共有、対応協議を行っている。また、巡回・夜間パトロールも行っている。
- ★地域情報誌ネビュラを保護者、地域住民が中心となり年2回1万部作成している。小中学校、地域、PTA等の校区内の情報を掲載し、校区内全戸に配布している。
- ★放課後星雲塾（随時）、土曜星雲塾（月2回）において、希望生徒を対象に地域住民、大学生ボランティアが年間を通じて学習支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ★学校と地域との信頼関係を構築し、相互理解の促進によって多くの支援者、協力者を増やしてきた。
 - ◇自治会総会・行事などで頻りにコミュニティ・スクールを啓発し、地域担当教員は地域を巡回し自治会長、役員と随時情報交換を行っている。
 - ◇5自治会合同研修等、自治会が地域住民へコミュニティ・スクールを啓発し、後継者育成を推進している。
 - ◇教職員へ理解促進を図り、校務分掌組織も改編した。
 - ★地域住民の活動拠点、居場所としてコミュニティルームを学校内に設置した。
 - ★生徒の地域行事参画という地域貢献の視点を取り入れた教育活動を協議会でも協議した上で展開し、双方関係の構築を促進してきた。
 - ★地域の方々が学校行事等に積極的に、また、多数参加してもらえるような事業内容を創造してきた。
 - ◇ワールド・カフェ | N春日西中 ◇星雲フォーラム（著名人講演） ◇西中星雲祭（文化祭）
- への地域からの出演や作品展示
◇大人参加型授業「星雲タイム」



コミュニティ・スクール 春日西中学校運営構想図

事業を実施して

- ★生徒の学力向上や安全安心の地域づくりが進み、生徒の健全育成に結びついている。（補導件数：平成18年度1046件→平成26年度6件）
- ★地域に対する帰属意識、地域に貢献しようとする地域愛・郷土愛が高まっている。（生徒ボランティア延べ人数平成26年度2627人）
- ★学校と保護者、地域との相互交流が進み、当事者意識が高まっている。（地域・保護者ボランティア延べ人数平成26年度1143人）
- ★地域情報誌ネビュラによる情報発信、協働・支援活動等を通して、学校理解が深まり、学校を支える地域基盤づくりにつながっている。（クレームの減少等）
- ★学校運営協議会設置による協働活動を通じて、まちづくりにつながっている。（自治会活動の活性化、自治意識の向上、地域間交流の促進等）



各支援コミュニティによる様々な支援活動の展開

その他

- ★平成22年度に地域後援会を設立（毎年1回体育祭時に事業報告会を実施）し、財政支援を行っている。（部活動旅費補助、星雲フォーラム著名人講師謝金等）
- ★土曜星雲塾を学校支援地域本部事業、土曜の教育活動、放課後子供教室として一体的に展開している。
- ★春日西中ブロックコミュニティ・スクールを展開している。（ブロック目標に沿った実働部会設置、授業交流、児童生徒交流、家庭学習推進、小中合同防災訓練等）
- ★学校運営協議会導入から10年を迎え、活動内容の見直しやさらなる地域住民参加・参画の促進に向けた方策について、協議会やサポート本部で検討中である。



地域の教育力で、楽しく、安全に成長する子供たち

福岡県宇美町

活動名

いきいきのっこ子ども教室

関係する学校

井野小学校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
土曜日の教育活動	コーディネーター数 2人	子供の平均参加人数 28人	開始年度 16年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯
文部科学省「地域子ども教室推進事業」にて平成16年度から3年間、福岡県「学びあい・支えあい地域活性化推進事業」にて平成19年度から2年間、宇美町「宇美町地域子ども教室推進事業」にて平成21年度から6年間、地域のボランティアによる実行委員会へ委託事業や補助金の交付を受けて行われ、平成27年度からは、福岡県「ふくおか学力向上推進事業等補助金」にて町の事業として実施している。

町の行事や学校行事がない土曜日の午前中、年間28回実施している。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・スポーツ、伝統活動、地域活動、学習活動、食育、親子交流など、地域住民や保護者との交流を通して様々な体験を行う。
- ・宇美町教育委員会社会教育課、学校、ボランティア（地域住民、保護者）による定期的な運営会議（年6回）を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- ・学校から各地域での集合までの行程をボランティアが同行しているので、安心して保護者も子供を送り出すことができる。
- ・工作の内容や料理のメニュー、見学先の場所など、活動の内容を毎年少しずつ変えることで、連続での参加でも子供たちが見通しをもちながら楽しむことができるように計画している。
- ・異学年グループで活動させることにより、自然に上級生が下級生のお世話をすることができるようにしている。
- ・平成27年度からは、宇美町総合型地域スポーツクラブとも連携し、より専門的な内容も導入している。

事業を実施して

事業を実施して10年が経過し、小学校6年間を「いのっこ」で過ごした子供もいる。授業がない時間帯での子供の過ごし方は、いろいろな意見、課題があるが、地域のボランティアにより、様々な体験活動を行うことで、子供からだけではなく、保護者からも大変好評を得ている。終了後の子供と保護者のアンケートから、子供の生活態度の変化や、地域で子育てをすることの大切さを感じ取るなどの事業成果も確認できている。ボランティアの多くの方は、いのっこの取組以外でも朝の交通誘導や地域の役員をされており、子供たちと顔なじみとなり、地域ぐるみで子育て支援ができています。参加児童の保護者へのアンケートによると、「いきいきのっこ子ども教室」に参加することで、子供たちは異学年との交流や地域の方への挨拶、ルールやきまりを守ることができるなどの成果を上げることができている。また、保護者も、ボランティアとしてできる活動に参加することにより、地域ボランティアとのつながりも生まれている。

その他

- ・地域回覧板によるボランティア募集の継続
- ・井野小学校コミュニティスクールとの連携
- ・ボランティアが代わっても無理なく継続できる内容の実施（アンケートによる活動内容の見直し）

地域ボランティアが中心となって進める活動の実際



味噌づくり



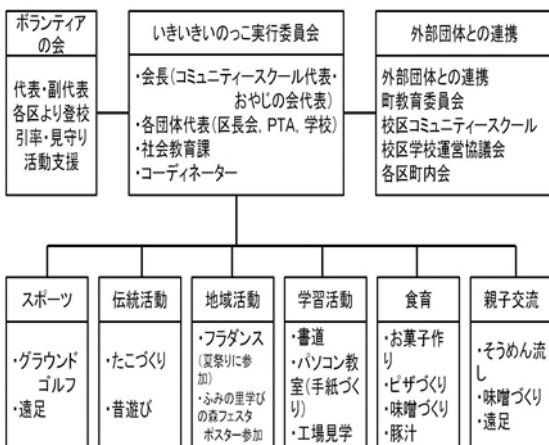
グラウンドゴルフ



フラダンス（夏祭り参加）



そうめん流し



3者連携による地域の子育て

地域みんなが馬場っ子応援団！ ～学習支援・環境整備・見守り活動を通して～

福岡県苅田町

活動名

馬場小学校応援協議会

関係する学校

馬場小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

本協議会は、「学習支援」「環境整備」「見守り活動」の3つの活動から構成されている。学校の要望に合わせ、教育活動推進員5名が学校支援を実施している。

- 学習支援…総合的な学習の時間における地域の歴史・文化調べ（6年）、ホタル・ガザミの飼育及び放流（4・5年）、商業体験「キッズマーケット」（5年）、福祉体験（4年）等の指導、理科・生活科における夏野菜の苗植えや植え（1～3年）、昔遊びの指導、読書ボランティアサークルによる読み聞かせ会（全学年）や習字指導（3・6年）、子供俳句教室、ダンス・バスケットボールクラブの指導等
- 環境整備…校内環境美化（敷地内花壇の整備）、クリーン大作戦（全校）
- 見守り活動…登下校時の横断歩道等の交通安全指導及び校区内パトロール

特徴

【特徴的な活動内容】

6年生の総合的な学習の時間「発見 苅田の歴史」では、教育活動推進員が苅田ガイドの会の方々连接到り、調べ学習の計画や発表の計画を立てている。また、4年生の総合的な学習の時間「ホタルを育てよう」においても、教育活動推進員が苅田町ホタルの会の方々连接到り、ホタルの飼育の仕方や放流についての指導をしている。読書ボランティアによる読み聞かせ会は、地域の読書ボランティアサークルによる読み聞かせを10年以上続けており、その内容についてはサークルの方々計画・実施している。また、校内環境整備については、PTAの「親父の会」や老人福祉施設の方々の協力を得て、敷地内の花壇等の整備や校区のクリーン大作戦等、学校の計画に沿った整備をしている。

【実施に当たっての工夫】

地域にある人・もの・ことを最大限活用し、学校の教育活動への効果を上げるために、教育活動推進員と綿密に打合せを行った後、教育活動推進員の方のコーディネートでそれぞれの実践を行っている。

事業を実施して

- ・学校は、地域の人・もの・ことに詳しい教育活動推進員に相談することによって、専門的な知識を持った方や特技をもった方に様々な学習支援や環境整備等を受けている。教育活動に大きな効果をもたらしている。
- ・地域の方々には学校を支援することで、子供たちが地域に興味を持ったり、地域の人に進んで関わってくれたりすることがうれしいと話している。もっと積極的に学校を支援していきたいという声も多数聞かれる。

その他

引き続き、学校と教育活動推進員や読書ボランティアサークル、PTA等との連携を深め、教育活動の充実や環境整備、安全確保に努めたい。そのためにも、毎年活動の評価・改善を図りながら、課題であるボランティアの確保に向けた取組を推進したい。



【学習支援】6年生の総合的な学習の時間「発見 苅田の歴史」古墳調査



【見守り活動】登下校時の交通安全指導

地域のよさにふれて、遊んで、交わり、みんなで共育する体験教室！

長崎県佐世保市

活動名

柚木小放課後子ども教室

関係する学校

柚木小学校

活動区分	※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
土曜日の教育活動							
学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	2人	10人	19年度	無	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	1人	40人	21日	有	無	無	無
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携
柚木小学校及び柚木地区施設 等					19年度	連携なし	
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯
平成19年度から放課後子供教室を開催している。最初は、見守り型の内容だったが徐々に体験型の活動になり、現在では年間21回を各種団体が特性を生かした体験型活動で実施している。運営には、PTA（5回）、民児協（3回）、育成会（4回）、自治会<公民館>（3回）、自治会婦人部（3回）、読み語りボランティア（2回）、民児協・自治会婦人部共同（1回）と、年4回の運営企画会を開催して計画・確認・実施につなげている。地域の各種団体の協力のおかげで、多様な内容の活動が実施できている。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域の各種団体の協力・支援を頂きながら、地域に根ざした特色ある活動内容も多くあり、低・中学年児童を中心に活発な体験型活動ができている。

例として、「ゆずの里訪問」、「たこづくり教室」、「しめ縄づくり」「たこ揚げ大会」等

【実施に当たっての工夫】

- ・年4回の運営企画会を開催して、各種団体の代表が集まり、実施回数や実施内容、実施日時等を検討・確認を行って、実施している。
- ・自治会（公民館）主催の事業とも共催の形で実施して、地域に根ざした活動につながっている。
- ・子供たちが教室を楽しみにするよう、遊びの要素を大切に企画構成を工夫している。
- ・土日開催の企画には、場合により、中学生や地域の人と一緒に活動する場も取り入れている〔例・たこ作り・たこ揚げ大会〕。

事業を実施して

- ・地域の各種団体の協力・支援が大変大きく、地域の人々と交わりながら、遊んだり、作ったりする体験型活動が行われている。
- ・低・中学年の児童の参加が多く、活発な活動になっている。
- ・活動内容に、地域のよさ〔自然や伝統〕を生かした内容が多く含まれており、地域あげての活動の中で地域への愛着が深められている。
- ・児童たちは、遊び心いっぱいの放課後子供教室の開催を楽しみにし、多くの参加者を集めている。

その他

- ・社会科の授業での地域学習において、地域の方がゲストティーチャーとして講話を行っている。（地域の歴史・蛸の里づくりの取組講話、稲作講話、林業講話 など）
- ・家庭科・総合的な学習の時間において、地域の方が地域の伝統食（押し寿司づくり）の指導を行っている。



特別養護老人ホーム訪問



たこづくり

庵浦っ子七つの笑顔を支える「庵浦っ子共育委員会」

長崎県佐世保市

活動名

庵浦っ子共育委員会
(学校支援会議)による活動

関係する学校

庵浦小学校

活動区分		※ H26 年度の実績 (補助の有無については H27 年度の状況)						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指 定 日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯
平成16年に発足し、組織の構成員は公民館長（自治会長）、町役員、児童民生委員、学校評議員、保護司、駐在所巡査、保護者、教職員である。本会のメンバーが核となり、他の地域住民の協力・参加を得ながら、「体験活動や学校行事の支援」「土曜日や放課後などの学校外活動」「学校の環境整備」「子どもの安全確保」などの様々な取組を日常的・継続的に行っている。児童数7名の小規模校ではあるが、地域住民の関わりにより、充実した教育活動が展開されている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 学校と町の連合運動会を開催。企画・運営、グラウンド整備、係分担など協力して実施している。
- 放課後子供教室による「お泊まり会」「もちつき大会」など体験活動を実施している。
- 日常的に登下校の見守り、安全に関する情報交換を行っている。
- 児童や教職員が町の行事に参加している。

【実施に当たっての工夫】

- 行事のタイアップを図り、できるだけ参加しやすい状況をつくるようにした。
- 組織のメンバーに教育活動に関するアンケートを実施し、様々な角度から意見を頂くようにして、学校運営の改善に努めている。

事業を実施して

- 子供たちと地域の方々のつながりが深まり、子供たちの感謝の気持ちやふるさとを愛する気持ちが高まった。
- 学校だけではできないような体験活動が実施でき、豊かな心やたくましさの育成につながった。
- 関係者の相互理解が深まり、対話の機会が増えた。

その他

- 運動会のグラウンドづくり・踊りの指導などを通して、地域の人のバックアップのすばらしさを感じる。



庵浦っ子共育委員会議の様子



連合運動会での玉入れの様子

チャレンジ&レベルアップで子供の可能性を拓く「あたごきっず」

長崎県佐世保市

活動名

あたごきっず

関係する学校

相浦西小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 13人	開始年度 17年度	国庫補助 有	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 3人	ボランティア登録数 57人	開始年度 20年度	国庫補助 無	学習支援 無	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

平成17年度から、子供の健全育成を目指して、「子供は地域の宝」を合い言葉に、地域の特性やマンパワーを生かしながら様々な体験活動に取り組んでいる。「地域」の力を「学校」の力に生かすことで、子供も大人も安心して暮らせるコミュニティづくりへとつながっている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

- 地域活動の中心となって活躍している方が運営委員となることにより、様々な情報を集約し、よりよい体験活動へと還元することができている。
- おみこしやシーカヤック、登山、各種工作、皿回しなど様々な活動を取り入れ、身体と心全体を使いながら感動ある体験活動を実施している。
- 活動の開催場所は学校内にとどまることなく、地域の港や神社、公園など活動の特性に応じて展開している。
- 地域の大学と連携し、大学生の案内のもと大学構内を見学したり、講義を体験したりする活動を通して、キャリア教育推進にも役立っている。

【実施に当たっての工夫】

- アンケートや対話を通して、地域の方々の思いをくみ取ることにより、住民が一体となって「地域で子供を育てる」との意識を高めている。
- 人材を含めた地域の素材発掘に努め、子供のみならず、地域の方々も参加しやすい体制や雰囲気作りにも努めている。

事業を実施して

- 毎回、子供たちが目を輝かせながら活動する中で、子供のみならず、保護者と地域との信頼関係も深まってきている。更にそのことは、地域での「見守り活動」や「あいさつ運動」へと発展し、多くの方々が、子供たちの登下校の安全教育にもかかわっている。
- 子供たちは、地域の方々や地域そのもののすばらしさに出会うことにより、郷土を愛する心を育み、よりよい地域人・社会人として成長している。また、大学生との交流は、自分の将来について考えるきっかけとなっている。



おみこし わっしょい！



おじいちゃんの手は、魔法の手

「我ら学校応援隊」を基本コンセプトに 地域で創る学校教育支援活動

熊本県産山村

活動名

産山村学校運営協議会

関係する学校

産山小学校・産山中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		2人	110人	14年度	有	有	有	有
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	60人	21年度	有	有	有	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	37人	32日	有	無	無	無
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
産山小・中学校メディアセンター					19年度	連携なし		
コミュニティ・スクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
	平成22年4月1日					15人	113人	11学級

「産山で教育を受けて良かった」という実感を子供たちが持ち、将来村の豊かな発展に寄与し、あるいは広く国際社会で活躍する有為な人材に育ててほしいという願いのもと、平成19年度から産山村教育改革を始めた。平成19年度、20年度には小中一貫教育特区の認定を受け、平成21年度には教育課程特例校の指定を受ける。また、同年、これまで取り組んできた学社融合事業を学校支援地域本部事業として学校支援組織を再編すると同時に、平成22年度には学校運営協議会を立ち上げた。さらに、平成23年度からは本村の特色ある教育を推進するために必要な授業時数を確保するため土曜授業を開始するに至った。

特徴

【特徴的な活動内容】

学校支援地域本部事業の「広げ隊」（交流コミュニティ）「暮らし隊」（体験コミュニティ）「伝え隊」（文化・安全コミュニティ）「学び隊」（学習支援コミュニティ）は学校と地域が連携して子供たちに「生きる力」を育てていくことを目指すものである。とりわけ「広げ隊」のヒゴタイ交流は、産山中学校とタイ国カセサート大学附属中学校との交換留学生のホームステイや交流に積極的に支援を行ってきており、本年度で28年目に当たる。これは国際社会の一員としての自覚を促す大切な事業であり、地域の支援無くしては成り立たないプログラムと言っても過言ではない。また「暮らし隊」の「子どもヘルパー活動」の支援は、小中学生が独居老人宅を訪れ、話し相手になったり怒ふき等の手伝いをしたりする活動で、本年度で16年目になる。高齢化が進む産山村にとって大切な福祉体験活動となっている。

【実施に当たっての工夫】

産山村教育改革を推進するために様々な特色ある取組を行ってきたが、更に学校と家庭・地域との連携協力による学校行事や授業を行い、産山ならではの特色ある教育を推進するために土曜授業を平成23年度から行っている。土曜授業により、校外学習や体験活動が行いやすくなるとともに、保護者や地域の方の学習活動への参加や支援が積極的にできるようになった。

事業を実施して

産山村教育改革は小中一貫教育と地域と連携した教育による「産山で教育を受けて良かった」とする教育実践である。とりわけ地域が積極的に学校教育に参画することで、村民も子供たちも産山を愛し産山を誇りに思える教育に取り組んできた。この間、「暮らし隊」の「子どもヘルパー活動」が博報賞と学生ボランティア賞、ヒゴタイ交流で西日本国際財団アジア Kids 大賞、小中一貫教育で日教弘論文の全国最優秀賞を、また「学び隊」の読み聞かせボランティアが文部科学大臣賞を受賞した。人口1600人ほどの小さな村ではあるが、産山村の教育改革は着実な歩みが続いている。今後も、産山を愛し産山を誇りに思える教育を目指し、地域に根ざし、地域とともに歩む学校を実現していきたい。

その他

- ・企業・NPOとの連携・・・小学1・2・3年生を対象にHONDA技研と連携し「環境学習プログラム」を開催。
- ・学習支援・・・尚絅大学と下関市立大学の学生による学習支援（教職ボランティア実習）を実施。
- ・ICT活用・・・ICT支援員にICT機器環境整備、メンテナンス、問合せやトラブル対応を委託。



ヒゴタイ交流（交流生とホストファミリー）



子どもヘルパー活動

地域体験活動「地域の人、自然、ものとふれあおう」

熊本県阿蘇市

活動名

内牧小学校学校支援地域本部

関係する学校

内牧小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
			285人	25年度	無	無	無	無
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	63人	22年度	有	有	無	無
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
		1人	40人	49日	有	無	無	無
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	多目的室、運動場					20年度	連携なし	
	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
	平成27年3月17日					10人	289人	14学級

活動の概要・経緯

- 地域住民とのふれあいを通して、地域の歴史や伝統文化、自然を学ぶために、14地区あるそれぞれの地域に出かけ、地域の良さを体感し、ふるさとを誇りに思う児童を育てる。
- 阿蘇市が土曜授業の試行として平成25年度より実施されている。土曜授業を活用して平成25年9月から毎年地域住民による運営で行われている。

特徴

【特徴的な活動内容】

○14地区に別れて主に次のような活動が行われている。成川の虎舞、野焼きに使う火消し棒づくり、わら草履づくり、地域の史跡めぐり、竹馬や竹とんぼ、水鉄砲などの昔遊び、菅原神社の音隊練習、田子山登山、グランドゴルフ、河川の生物調査など、地域の特色を生かして実践が行われている。

【実施に当たっての工夫】

○実施に当たっては、分館長、区長代表、PTA代表等による地域体験活動推進委員会において本活動で育てたい子ども像や地域づくりを明確にし、14地区ごとに実行委員会（区長、地区長、PTA地域体験推進委員等）で活動の内容、場所、役割等を話し合い、地域の歴史や伝統文化、自然等を児童に伝えるなど、児童の意見等も取り入れながら実践している。運営はすべて地域住民や保護者である。

事業を実施して

○地域体験活動への満足度は児童よりも保護者、保護者よりも地域住民であった。特に、地域住民は100%の満足度であった。地域住民からは、地域のすばらしさを伝えたいという思いが伝わり、子供たちとふれあうことで元気をもらった、地域の子供を身近に感じられたという感想が出された。また、保護者においては身近な地域に歴史や伝統文化などを発見することができ、地域のすばらしさを体験できたことに満足している。

○成川の虎舞は11年ぶりに行われ、保存会を中心に復活していく動きがあるなど、地域の活性化になり、地域づくりに灯がついた。

○地域住民と保護者、子供たちとの距離が近くなったという感想もあり、地域の子供は地域で育てようという雰囲気醸成されてきた。

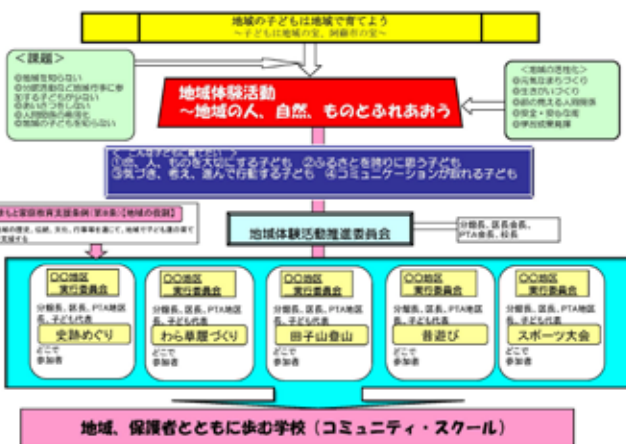
その他

○域内の学校で、内牧小学校での取組を参考に、学校や地域の実態に応じた地域体験活動が行われるなど広がりが見られる。

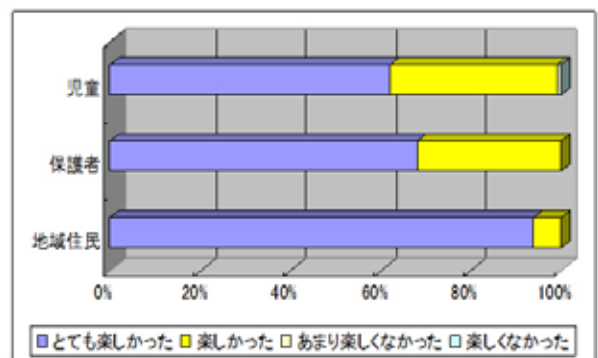
○今後近隣の学校との統合が予想されており、統合された後での地域体験活動を実践することで地域とのつながりの継続性が期待される。

○平成25年、26年の実践集を別冊にまとめ、関係者へ配布して、実践を広げたり、ネットワークの構築を図ったりしている。

○学習支援としては、1・2・3年生の基礎学力向上のための丸付け支援やミシンの学習支援、習字の学習支援等がある。



地域体験活動体系図



地域体験活動に参加して

子供たちが地域の一員として成長していく教室

熊本県八代市

活動名

郡築小学校放課後子ども教室

関係する学校

郡築小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア参加数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	29人	59日	有	有	有	無
コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携			
	余裕教室、校庭、体育館、音楽室			20年度	連携なし			
	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯

郡築小学校放課後子ども教室は、八代市で初めて設置されたパイオニア的存在である。平成20年度に開設し、今年で8年目である。毎週火曜日と木曜日に開設されており、パワフルなコーディネーターのリーダーシップのもと、みんなで楽しく活動している。バリエーション豊かな活動は、教育活動推進員を始め、たくさんの地域ボランティアの方々、寺子屋プランナーとの協働作業のたまものであり、学校とも情報交換を図り連携を密に行い、放課後の空き教室や体育館等を使用して、安全に十分に配慮しながら活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

地域全体で子供たちに関わっており、婦人会や青年団、町内会等の地域団体と連携して活動することで深まる地域の中の様々な人々とつながっている。また、そのつながりの中から、子供たちは地域の一員としての自覚を身につけ、地域と共に成長。地域団体や地域行事とのコラボレーションにも積極的である。例えば、七夕飾りを地元JA（農協）で展示発表したり、地元最大のイベントである「郡築汐止祭」にセラミックキーホルダーの作品（ボランティアチーム派遣事業を活用した活動で製作したもの）を展示発表したりしている。

【実施に当たっての工夫】

コーディネーターのリーダーシップのもと、教育活動推進員やボランティアの方々が連携・協力を密にして、安全確保に十分配慮しながら充実した活動ができるような体制作りができています。学校との連携・協力も図られており、放課後子ども教室活動時には学校の先生も参加するなど様々な情報交換も万全である。また、県の寺子屋プランナー事業も積極的に活用したり、担当プランナーを活動の講師として招へいたりするなど、子供たちに多様な学びが提供できるように工夫している。

事業を実施して

郡築小学校放課後子ども教室の子供たちは、教室の中で町内会を始め、婦人会や青年団など地域の中のたくさんの人たちと触れ合っており、そのことによって、地域の人たちと顔見知りになり、教室外の場面でも挨拶をしたりコミュニケーションを取ったりするように成長している。放課後子ども教室という学びの場での活動で地域住民とつながることで、子供たちに多様な人たちとともに生きていくことのすばらしさを学ばせることができていることも成果の一つである。一方、地域にとっても学校が地域のコミュニティとして機能することによって、生涯学習の基盤を強化するという点においても、本放課後子ども教室は意義ある活動である。

その他

放課後子ども教室に参加する子供たちがみんなそろそろまでの空白の時間を「宿題サポート」として活用している。子供に時間を有効に使うことを教えるとともに、家に帰ってからゆっくり家族の時間を過ごすように宿題を進めるための学習支援として実施している。また、マンネリ化を防ぎ、子供たちの学ぶ意欲を高めるために、月に一度、八代市内のパソコン教室の指導者を講師に迎えてパソコン操作の授業も実施しており、子供たちの勉強を行うリズムを作るとともに、知的好奇心を刺激する取組として、放課後子ども教室の取組と併せて実施している。



コーディネーターを中心に教育活動推進員や地域のボランティアの方々と一緒に活動。



地元青年団の若者と活動。幅広い年齢層の地域住民と触れ合うことで、自分も地域の一員であることを自覚する。

大分県玖珠町

活動名

玖珠中学校目標協働達成会議による活動

関係する学校

玖珠中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）					
土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
学校支援 地域本部	コーディネーター	ボランティア 登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
	1人	139人	23年度	有	有	無	無
放課後 子供教室	コーディネーター	子供の笑顔 参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPO との連携
実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
指 定 日					委員数	児童生徒数	学級数
平成 23 年 10 月 12 日					14 人	170 人	7 学級

活動の概要・経緯

玖珠中学校は平成23年10月にコミュニティ・スクールの指定を受け、地域貢献・学校支援を通じた地域の核としての学校づくりに取り組んできた。地域貢献では、伝統芸能の盆踊りの継承活動、地域の各種祭りへの参加、老人施設の慰問、地域住民との意見交換、中学生議会などを行い、地域からの学校支援活動は、あいさつ運動、環境整備、緑のカーテン設置、学校行事への支援、放課後塾での講師などの支援活動を行ってきた。

平成26年度から、学校運営協議会の内部組織として「目標協働達成会議」を設置し、学校と地域、家庭がより連携し、協働して生徒を育成する取組を進めている。会議内に「家庭教育力向上部会」「学校教育力向上部会」「地域教育力向上部会」を設置し、「携帯電話等通信機器の取扱い」「家庭学習の確保」「あいさつの励行・はき物揃え」の目標を設定し、協働した取組を実施することで生徒のよりよい育ちを目指している。

特 徴

【特徴的な活動内容】

<地域貢献・学校支援活動>

- ・伝統芸能である地域の盆踊りを継承するため、平成24年から本校の体育祭において全生徒、地域住民、保護者が参加しての盆踊りをプログラムに取り入れた。それに向けて、保存会の方が全校生徒への事前指導を実施している。また、生徒が地域の盆踊り大会に玖珠中チームとして参加するなど交流を継続している。
- ・学習支援では、放課後のドリルタイムの時間に「夢かけはし塾」と称して、外部講師の支援を頂いている。
- ・地域住民との懇談会や中学生議会を開催し、中学生の意見を地域づくりや町行政に反映するなど、地域の核としての学校づくりを行っている。
- ・避難訓練や校内マラソン大会に炊き出しを頂くなど、多くの地域住民の方々からの学校行事への支援がなされている。
- ・生徒は老人施設の訪問など多くの地域住民との交流により、豊かな心の育成につながっている。

<目標協働の取組>

- ・学校運営協議会の内部組織として、保護者、警察関係者、校区内小学校などから16名を学校運営協議会の委員14名に加え、30名で「目標協働達成会議」を設置した。生徒の健全育成に向け、この会議を部会制とし、部会毎に目標を設定することで、地域・家庭・学校が協働して取り組んでいる。
- ・部会員からの提案を受けた熟議や、保護者に対するアンケート調査や取組の進捗状況を協議することで、3者が一体となり、保護者や地域住民に学校運営に対する当事者意識がより高くなった。
- ・地域教育力向上部会では「あいさつのできる地域・はきものがきちんと揃う地域」を目指し、中学校の運営協議会（目標協働達成会議）が発信源となり、自治会館（公民館）と連携しながら取組を推進している。

【実施に当たっての工夫】

- 運営協議会（目標協働達成会議）での決定事項を地域組織やPTA組織で広く取組を推進するため、以下の連携を図った。
 - ・地域組織 …… 自治会館（公民館）の委員を本校運営協議会委員に職指定。
 - ・PTA連携 …… PTA役員10名を目標協働達成会議の委員として委任。
- 目標協働の取組を展開するに当たり、保護者と地域住民を対象とした研修会（コミュニティ・スクールとは）を、自治会館（公民館）と連携し開催した。
- 生徒に地域貢献を考えさせるため、全校生徒を対象とした研修会を実施した。

事業を実施して

- コミュニティ・スクールの取組がもたらす社会性の向上などが、本校教育活動の中心であるキャリア教育に利点として作用し、郷土を愛する心の醸成や将来への意欲関心を高め、中学校生活に意義を見いだしている。
- その結果、生活面は落ち着き、学力も向上している。
- 自治会館（公民館）が地域行事を開催する際、中学校との連携を必ず視野に入れるようになった。
- 地域住民は行事支援や学習支援を行うことにより自らの生きがいとなっている。
- 生徒の健全育成に向けて、教職員と保護者、地域住民が直接協議し目標設定や協働した取組を実施することで、地域住民や保護者には学校運営への当事者意識が高まった。また、地域の教育力や家庭の教育力の高まりに期待できる。



目標協働達成会議の様子



盆踊りの指導風景

その他

- 学校地域支援本部との連携をスムーズに行うため、コーディネーターを本校の運営協議会委員として委嘱している。

大分県国東市

活動名

国見中学校区放課後チャレンジ教室

関係する学校

竹田津小学校・伊美小学校・熊毛小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 10人	開始年度 26年度	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	学校支援地域本部	コーディネーター数 1人	ボランティア登録数 46人	開始年度 23年度	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
	放課後子供教室	コーディネーター数 1人	子供の平均参加人数 18人	年間開催日数 30日	国庫補助 有	学習支援 有	ICT活用 無	企業・NPOとの連携 無
		実施場所 各小学校の余裕教室・公民館					開始年度 23年度	連携型 連携型
コミュニティスクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯
 平成23年度より市内全小中学校を対象に地域「協育力」向上支援事業の委託を受け、学校・家庭・地域での協働・協育の強化推進のため国見中学校区放課後チャレンジ教室（以下「教室」（学習指導・体験））を展開している。国見中学校区（以下「当校区」）は市内で最も児童数が少なく、高齢化率は市内で最高位に達している。このような状況の中、地域の強みを発揮できる協働・協育の達成を目指してコーディネーターを中心に人材発掘を進めてきた。当校区では昔から「芸術」に対する関心が高く、また手つかずの自然環境に囲まれていることから、陶芸や絵画を始め多くの芸術家が移住しており、結果として、多くの芸術家たちがボランティアとして協力してくれている。

特徴

【特徴的な活動内容】

当校区では芸術に携わるボランティアの方が多く、陶芸家、画家、イラストレーター、表具師、彫師（木・石像）、創作建具師など市内でも特徴的な指導者構成になっている。平均月3回の放課後学習指導では、教員退職者、行政退職者、地域の有志の方が中心となり自身の経験や知識を生かしながら指導することにより、幅広い視野で物事を考えることに一役かっている。また、月1回の体験学習では芸術家としての本職の技術を披露するとともに、子供では思いがけない視点や切り口で助言・体験させることで感性を磨くこともできている。また、当校区では学校の協力が大きく、子供たちの学習の進捗状況にあった教材選択や日頃の子供の様子などを指導者、コーディネーターと連絡を密にし、よりよい運営に努めている。

【実施に当たっての工夫】

教室では、学習・体験の二つの教育機会を柱として、学習面では登録制にし、意欲的に学習に励む児童を対象としているので、質問や意見などを引き出す指導を心がけることにより児童の発言能力の向上も期待している。また、体験面では子供の頃に多くの、そして色々な体験をすることは子供の将来の可能性を引き出す上でとても有効という視点から、登録制ではなく希望者全員を対象にしている。そうすることにより多く児童に自分の特技を発見させ、探究心を芽生えさせる工夫をしている。また、体験の成果（物【作品】）を持ち帰らせることで、家庭での会話が増え、保護者にも教室の理解度が増すように努めている。

事業を実施して

年間40回以上の教室を開催（学習・体験）し、3校児童総数約150名に対し児童参加者延べ数は2,000名を超える。放課後の子供の「居場所」の拠点としての存在感は拡大している。学校に子供が集まり、子供が集まれば大人が集まる好循環の環境整備が進んできている。また、地域の方、保護者の方が学校に集まることにより学校・家庭・地域の相互理解が深まっている。当校区は以前から放課後児童クラブとの連携ができており、より多くの児童たちに、一つでも多く自分の可能性発見の機会を提供できるように計画している。

その他

「学校支援」・・・総合学習の時間に専門的な知識・技術・道具を必要とする授業でゲストティーチャーとして地域人材を活用。

「土曜教室」・・・土曜日の有効な使い方、学習の習慣づけのため年間10回以上開催。

「放課後子ども教室」・・・地域人材を積極的に登用し、地域色のある学習・体験を実施中。



陶芸体験 陶芸家の話に聞き入る子供たち



絵画体験 地元の美しい海を巨大な紙に表現しました

「子どもが元気！ 学校が元気！ 地域が元気！」 をスローガンに活動

大分県豊後高田市

活動名

田染小学校学校運営協議会

関係する学校

田染小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティ・スクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	
		平成 24 年 4 月 1 日			21 人	20 人	4 学級	

活動の概要・経緯
平成22年度に研究指定を受け、「田染小生き生きコミュニティ」という名称は平成24年度から「田染小学校学校運営協議会」となった。「体力・安全・環境コミュニティ」はPTA保体・生活部と連携し、健康体力づくり、子供見守り、地域の環境整備、学校施設整備、花いっぱい運動等に取り組んでいる。「学び・体験コミュニティ」は読み聞かせ、伝統文化の継承、勤労生産活動、学習サポート、学力向上等に取り組んでいる。委員のメンバーは田染地区連合自治会長、総合振興会長、老人クラブ会長、健康推進協議会会長、健全育成協議会会長、公民館長、民生委員、スクールガード、PTA役員、田染中学校校長、市教委指導主事、校長、教頭、教務、担当の21名である。

特徴

【特徴的な活動内容】

平成27度から活動の部を2つに絞り、「体力・安全・環境コミュニティ」と「学び・体験コミュニティ」とした。「体力・安全・環境コミュニティ」は三ノ宮清掃、ふれあいボートの世話、小中合同空き缶・空き瓶回収、救急救命講習、三世代七夕集会、小中合同避難訓練、小中合同運動会、スクールガード研修会、除草作業等がある。「学び・体験コミュニティ」は月1回の読み聞かせ、放課後学習サポート、毛筆指導、裁縫・調理指導、生け花、餅つき、田染音頭・田染民謡の練習、そば打ち体験、米づくり、サツマイモづくりなどを行っている。学校が極小規模であるため、保護者、地域が学校運営に積極的にに関わり、学校も地域の行事に参加することで、学校・保護者・地域が一体となって協力して活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

- 多くの地域の方に学校運営に参画してもらえるような工夫をしている。
- 年度当初に地域支援本部のコーディネーターと連携し、保護者や地域の方に学習サポーター募集のお知らせをして、それぞれの学年の体験活動、学習等サポートしてもらう。
- 地域の自治会、老人クラブ、公民館などそれぞれの会の長がメンバーに入り、学校と地域の組織が連携して各活動に積極的に参加する。
- 年に5回の会議を持ち、学校教育や地域教育力の課題や改善策を検討し、実践する。
- 隣接する中学校との合同研修会を行い、小中連携や一貫性ある教育の改善策を検討する。

事業を実施して

- 児童会が中心になってあいさつ運動を行っているが、学校運営協議会で地域の方から子供たちに進んで声をかけてもらい、毎日校門で児童の安全を見守ってくださる地域の方や保護者の暖かさが児童の心に響いている。
- 公民館祭の一輪車競技や芸能大会の参加、田染荘御田植祭への参加等を通して、学校・家庭・地域が一体となった交流ができた。
- 田染民謡（田染地区の踊り）の復活のため、田染地区伝統文化保存会と連携し、地域の方の指導を受けながら小中合同で練習し、ふるさとの伝統文化の継承に努めている。

その他

田染地区では自治会を中心に子育て世代の定住促進により、地域の活性化と児童数増を目指している。今後は学校運営協議会を中心により特色ある学校づくりを目指す。



田染荘御田植祭



小中合同田染民謡練習

学校と地域がともに元気！ 笑顔とやる気があふれたコミュニティ・スクール

宮崎県都城市

活動名

西岳小学校運営協議会

関係する学校

西岳小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティ・スクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		
	平成 25 年 4 月 1 日			6 人	27 人	4 学級		

活動の概要・経緯
 (概要)・西岳地区まちづくり協議会と連携した取組（あいさつ運動・ふれあい標語の募集・ふるさと探訪・親子料理教室等）・フラワーボランティアによる環境整備及び教育活動支援・読み聞かせボランティアによる毎週月曜日の絵本の読み聞かせ・書写ボランティアによる書写の学習指導・家庭科ボランティアによる5・6年生の手縫い、ミシンの授業での学習支援（経緯）・平成25年4月に都城市の全小・中学校で「学校の応援団」として学校運営協議会制度が導入された。西岳小学校は、平成25年度から2年間、都城市の学校運営協議会モデル校として、地域と連携した様々な取組を行ってきた。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ・まちづくり協議会という既存の組織と連携した活動を行うことで、学校と地域が共に元気になる取組となっている。
- ・地域の老人クラブを中心としたフラワーボランティア（現在16名）が、花の苗植えや花壇の整備、校庭の除草等協力してくれている。卒業式、入学式の会場を飾る校草の花はフラワーボランティアが種から育ててくれたものである。また、田植や芋の苗植え、田の草取り、稲刈り等の教育活動では、児童の活動を支援してもらっている。

【実施に当たっての工夫】

- ・まちづくり協議会青少年部会の構成員に、学校長、PTA会長、学校運営協議会委員が含まれているため、学校と地域の連携が取りやすい。また、まちづくり協議会が予算面のバックアップをしてくれるので、活動を充実させることができる。
- ・「西岳小フラワーボランティア」というロゴ入りのおそろいのエプロンを作ってフラワーボランティアに配付し、自分たちは西岳小学校の応援団だという気持ちに応えた。管理職と一緒に活動しながら会話したり、児童との活動の後に、給食を準備して食べてもらったりして、日頃から良好な関係づくりに努めている。

事業を実施して

- ・様々な学習支援ボランティアを活用することで、児童の学習活動が充実し、学力向上につながっている。
- ・書写ボランティアによる学習指導等は、教師の多忙感解消につながっただけでなく、教師の指導力向上のための研修の場となっている。
- ・ボランティアとの関わりを通して、児童に感謝の気持ちや奉仕の心を培うことができる。（フラワーボランティアの人たちと一緒におしゃべりをしたのがたのしかったです。1年児童の感想より）
- ・ボランティアに参加する喜びを味わうことで、やりがい・生きがいづくりになっている。（孫もいないのに学校に来ることができるようになってうれしい。フラワーボランティアの感想より）

その他

- ・地域に伝承されている奴踊りと棒踊りの伝承活動に取り組んでいる。地域の指導者を招き、総合的な学習等に練習し、地域の祭りや地域の文化祭で披露することで地域を元気にする活動となっている。
- ・書写ボランティアによる夏休み期間中の書写の指導を、放課後子供教室の行事として取り入れた。



フラワーボランティアと児童と一緒に田んぼの除草をする様子



書写ボランティアによる書写の授業の様子

地域からのボランティア参加で 学校も、子供も、地域も元気になる学校支援

宮崎県国富町

活動名

木脇中学校区学校支援地域本部

関係する学校

木脇小学校・木脇中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	1人	48人	20年度	有	無	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所				開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	コミュニティスクール	指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
平成20年度の事業開始に当たり、地域から小中学校への学習・行事支援活動を行うという本事業の主旨を説明するため、国富町内の全企業・商店の巡回して説明するとともに、地区内13の公民館で説明会を開催した。その後地域のボランティアを募集し、保護者、木脇小中学校を卒業した事業主やJA宮崎中央、国富町商工会からボランティア協力を得て、総合的な学習の時間、学校行事、登校時間の交通安全指導などについて学校を支援する活動を行っている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

小学3年生のサツマイモ植えと収穫体験では、ただ植えて収穫するだけでなく、いも畑の除草作業も児童の手で行うことで、ボランティアの方々と一緒に農作業の苦労も含めて体験し、収穫時の達成感を実感できるようにした。

地域の専門家を招いた地域学習や農業体験活動、職業に関する授業等を通して、児童・生徒が学ぶ楽しさを味わうことができるとともに、自分の将来の進路を考えるきっかけとなるなど、キャリア教育の観点からも参考となる活動を実施している。

【実施に当たっての工夫】

毎年度当初に、木脇地区13区の区長の方々と木脇小・中学校校長・教頭との話し合いの場を設け、事業内容について周知と検討を行い、地域ボランティアの募集など、地域住民からの協力を得られるよう工夫をしている。

事業を実施して

学校支援ボランティア活動を通じて地域と小中学校のきずな・連携が深まり、また、ボランティアとして参加された地域住民の生きがい作りにも成果が上がった。

児童の保護者が、ボランティアとして参加するとき、地域コーディネーターから「子供たちのそばでただ見守ってくださるだけでもいい」ということを聞き、心強く安心感をもって参加することができたということであった。

その他

ただ農作業の植付け、収穫を体験するだけでなく、除草作業も体験させることで、喜びの裏には苦労もあることを、校内の授業とはまた違った体験により児童に実感してもらうことを心がけている。



木脇中学校 1年生木工実習 ステッピーラック作り



木脇小学校 3年生 サツマイモ掘り体験

宮崎県延岡市

活動名

北方学園学校支援地域本部

関係する学校

北方学園小学校・北方学園中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日				委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

平成20年度より、国・県の委託事業として開始。従前より、花づくりや読み聞かせなど個別に行われていた取組を、本事業のもとに集約するかたちでスタートした。以降、自転車点検、環境美化、面接練習、寄り添いなど、学校のニーズに合わせて新しい取組が漸次増加し、現在11種類のボランティア活動がある。ボランティア活動の実施に当たっては、必要に応じて調整会議（学校を含める場合もある）を開催している。

特徴

【特徴的な活動内容】

（面接練習） 中学3年生が対象。学校と連携し、高校入試で実施される面接試験の対策として、地域ボランティアが面接官役をつとめて練習を行う。生徒が普段接している教職員や保護者でない者が面接官となることで、緊張感のある練習をすることができている。

（自転車点検） 自転車通学の中学生が対象。地域の二輪車店と交通安全指導員が、自転車の安全点検と交通ルールの指導を行っている。

（花づくり） 学校花壇の花づくりを地域ボランティアが実施。植物の生育にあわせて、ボランティアが自主的に計画を立てて活動している。

【実施に当たっての工夫】

（面接練習） 面接官役の人数が多いことを生かし、一人の生徒が異なる面接官を相手に複数回練習を行い、様々なパターンに対応できるようにしている。

（自転車点検） 中学3年生が高校進学後に市街地を自転車走行することを視野に入れ、2月に実施している。

（花づくり） 学校統合（平成26年度）により学校が無くなった地域の方でも新しい学校づくりに参画できるよう、自宅で苗を育て、一定程度生育したものを学校へ運ぶ「苗づくりボランティア」が新たに始まった。

事業を実施して

○学校運営上必要となる様々な活動は、ややもすると教職員の負担となることがあり得るが、地域ボランティアの活動により教職員が本来の業務に取り組む時間を確保する一助となっている。

○地域の方々が高齢の質を上げる目的で自己学習の機会をつくるようになるなど、生涯学習を進める上でも効果があがっている。

その他

「寄り添いボランティア」として、新小学1年生を対象に実施。授業に慣れていない新入児童に寄り添い、授業の進みにあわせて教科書や筆記具の取り出しなどを補助する。



新小学一年生に対する寄り添いボランティア



学校再編前から長年続けられている花づくりボランティア

鹿児島県鹿児島市

活動名

学校支援ボランティア事業による活動

関係する学校

谷山小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携
コミュニティスクール	指定日			委員数	児童生徒数	学級数		

活動の概要・経緯

- 平成24年度から本事業を実施しているが、実施以前からボランティア団体（「よみきかせたい」、「子ども守りたい」など）が組織され、活動実績もあったことから、地域ぐるみで学校を支援するという意識が高く、本事業に対する理解も高かった。
- 教科などの学習支援を行うことで、これまで以上に学校と地域との関わりが増え、連携も強化された。
- 住民が地域における子供の活動にも関心を持つようになり、子供を見守る環境が整ってきた。
- コーディネーターが地域住民と密接に関わりながら活動しやすい雰囲気づくりに努め、本事業の広報・啓発を行ってきた。

特徴

【特徴的な活動内容】

- 朝の読み聞かせを行う「よみきかせたい」は、保護者を中心に組織されているが、新たに地域のボランティアを受け入れて組織拡大を図っている。
- 登下校の見守りを行う「子ども守りたい」は、町内会が中心となり組織されており、定期的に学校と活動時間の確認や活動状況の意見交換を行い、また、子供と触れ合う場も設定されている。
- 学校行事等を支援する「谷小応援団」は、おやじの会が中心となり、もちつき大会や運動会の準備などの支援活動を実施している。
- 学校支援を通して、地域住民と保護者との世代を超えた交流が行われ、地域全体の教育力の向上に寄与しており、また、活動された方の口コミによりボランティア登録数も増えてきている。

【実施に当たっての工夫】

- コーディネーターは、毎年、年度初めに教職員に対して本事業の目的やねらい、実施方法などについて説明会を実施している。
- 学校支援ボランティア活動を教育課程に位置付けており、また、教科主任や学年主任などの担当者には、前年度からの引継ぎをお願いしている。
- 職員室やコーディネーター執務室にボランティア活動予定表を掲示し、活動の周知を図っている。

事業を実施して

- ボランティアの支援により、教師が子供と向き合うゆとりが生まれるとともに、地域の方に学校の様子を知ってもらうよい機会となっている。
- 教職員と地域住民とが共に活動する機会が増えたことにより、学校と地域のつながりが一層深まっている。
- ボランティア同士の交流の機会となるなど、ボランティアの生きがいづくりにも寄与している。
- 校区公民館運営審議委員会から地域コミュニティ協議会へ移行したことを受けて、これまで同様に「地域教育協議会」の位置付けを依頼し、設置することで地域と一体となった取組になるよう努めている。

その他

- 家庭科（5年：初めてのミシン 6年：エプロン制作、三色野菜の油炒め）や図画工作科（4年：切って切って木の世界）、生活科（1年：昔の遊びをしてみよう）など、特に安全面に配慮する必要がある学習においては、教師の補助役として道具の安全な扱い方などの支援を行っている。



よみきかせたい



子ども守りたい

鹿児島県曾於市

活動名

財部北校区学校応援団地域本部

関係する学校

財部北小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の年間参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の年間参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指定日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯

曾於市は、人口の減少、高齢化率の上昇により、集落によっては子供会が組織できなかつたり、自治会自体が存続できない状況になってきたりしている。

このような中で、様々な家庭や地域の環境の変化に対応して、これまで以上に学校、家庭、地域が教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、地域の活性化を図ることを目的に、平成23年度にモデル校区（3校区）を指定して、学校応援団活動に取り組み始めた。

平成24年度には市内全小学校区に地域本部を設置し、延べ315人の応援団員が登録し、278回の学校応援団活動が実施された。

平成26年度は、学校応援団登録者数451人、2,308回の応援団活動が実施され、支援内容も「学習活動」「体験活動」「読書活動」「部活動」「環境整備」「安全活動」など、様々な内容であった。

また、学校行事やPTA行事の際、未就学児を対象とした託児支援活動も実施され、家庭教育支援に関する活動も展開されるようになった。

財部北小学校区では、小規模校の実態に応じて様々な応援活動を行っている。特に「学校応援団員が児童と一緒に授業を受ける」という特色ある学習支援活動を行っている。

特徴

【特徴的な活動内容】

財部北小学校は、児童数15人（完全複式の3学級）の極小規模校である。

平成26年度は、159回の学校応援団活動が実施され、そのうち学習支援活動は14回実施した。その中で、1・2年生の生活科、3・4年生の国語科、5・6年生の社会科などの授業に述べ49人の学校応援団員（地域の方）が授業と一緒に受けた。

このような学習支援活動では、児童数が1学年数人という状況の中で、地域の方々ゲストティーチャーや補助指導だけでなく、児童と一緒に児童の立場で授業を受ける応援団活動が大きな教育効果をもたらしている。

【実施に当たっての工夫】

財部北小学校では、1学年が1～4人という極小規模の中で、子供たちのコミュニケーション能力の育成、発表力や表現力の育成が課題である。そこで、学校応援団員にはなるべく小学生時代に戻って、子供たちの同級生の立場になって授業を受けるようお願いしている。

また、単発的な参加ではなく、できるだけ継続した授業参加になるように依頼している。（例えば、国語科では1単元3～5回とか、音楽では一つの曲を完成するまでなど）

学校応援団員には、前もって教科書・教材のコピーや資料を渡して、打合せを行い、予習をお願いすることもある。



読書感想の意見交換

事業を実施して

授業を受ける同級生が増えることにより、子供たちが刺激を受け、授業に深まりがみられるようになった。また、人数が増えたことにより、コミュニケーション能力や思考力、発表力、表現力等の育成など、教師にとっては指導法改善の一助となった。さらに、授業に参加した学校応援団員の感想には「児童の皆さんとお友達になり、会話をしながらたくさんパワーを頂いた。」「時には本を借りて帰り、予習もしながら明日の授業に臨むという、小さな幸せ、生きがいを感じながら授業を受けました。」などがあった。

その他

平成25～26年度鹿児島県教育委員会指定「読書指導」研究協力校として研究を行い、多様な意見を交流させるために学校応援団員の授業参加を実践している。授業研究では「人生経験豊かな地域の方々には、子供と違った視点で発表されるので、様々な考え方を共有できた。」という意見等も聞かれ、成果が現れている。



児童と同じように感想発表！

子供たちの安心と夢づくり！ ～子供たちの可能性を広げる子ども教室～

沖縄県浦添市

活動名

みやぎっ子教室

関係する学校

宮城小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
		1人	15人	80日	有	有	有	有
放課後子供教室	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
	ワークスペース:コンピュータ室・みやぎっ子児童センター図書室					19年度	一体型	
コミュニティスクール	指定日					委員数	児童生徒数	学級数

活動の概要・経緯

年間を通して数多くのプログラムを実施しており、それぞれのプログラムで子供たちの興味関心を引き出している。学校施設を利用してのパソコン教室や化学実験及び工作は、約30名が参加し、学校での授業とは違った角度から子供たちが楽しみながら学ぶことができ、またそれを学校での学習につなげている。

そのほかにも、約100名が参加する特別教室は、ハロウィンや星空観察、餅つき大会などを学校・放課後児童クラブ（学童）・児童センターと連携しながら実施しており、体験学習としても充実した活動となっている。また、毎週土曜日開催のバンド教室は、少人数（3～5名）ながら、参加する児童にとって、なくてはならない居場所となっており、卒業した先輩たちがボランティアとして協力、支援する環境がある。

安全面においては、「救急マニュアル」を作成し緊急時に適切な対応をとれるよう備えている。また、教室が始まる際の保護者への教室説明会で当該教室の活動内容や保険についての説明を毎年丁寧に行っているため、保護者も安心して子供たちを参加させられる場となっている。

特徴

【特徴的な活動内容】

- ★豊富なプログラム！ コンピューター、国際交流、工作、化学実験、星空観察、バンド 等
- ★様々な種類の活動を経験することにより子供たちの可能性を広げている。
- ★珍しいプログラムであるバンド教室では、まなびフェスタでの発表に向けて、目標を持ちながら真剣に練習に励んでいる。
- ★「あいさつはしっかり」「人のお話を聞きましょう」など、教室のルールがあり、それを守りながら活動している。
- 【実施に当たっての工夫】 ～体制づくり～ PTA（現役やOB）が中心となって、放課後子ども教室を運営している。
- ★定期的にミーティングを行うことにより、計画的に年間の活動を行うことができ、毎月末には次月の予定表「このゆびと～まれ」を児童全員と、放課後児童クラブ（学童）、児童センターに配布している。
- ★ミーティングの場で全員がアイデアを出し合えるから豊富な内容のプログラム計画が可能となっている。
- ★毎年、学校や保護者に向けた説明会をきちんと行うことにより、理解と協力を得るようにしている。
- ★各プログラムの学習アドバイザー（教育活動推進員）には卒業生や、現役高校教師、大学のサークル等できるだけ広い人材を活用し、そのサポートとして参加児童の保護者にボランティアとして関わってもらうことで、多くの協力者を得ることができている。

事業を実施して

～教室立ち上げからこれまで～

元気な子はもちろんだが、学校になじめない子、人との関わりが苦手な子のためにも居場所を作りたいという思いと、放課後に安心して過ごせる場を作りたいという思いから地域子ども教室として、当時のPTAが中心になり教室は立ち上げられた。その思いは放課後子ども教室へも継続され、教室では「ここに来たら自分は認められる」そう感じる子もいる。参加するそれぞれの子供のニーズに合わせたプログラムをつくるうちに、豊富なプログラムができあがっていった。

～参加者の声～

- 子供たちが、親や教師以外のいろんな大人と関わっていくことで、人との関わり方やマナーが身についていくのを実感した。
- 来年はこんなものいいのでは？とアイデアや企画を提案でき、取り入れてくれるので、ボランティアのやりがいがある。
- 興味ややる気のある子は誰でも、いつからでも参加できる方針で行っているの、子供たちにとってはなくてはならない居場所となっているように感じる。
- 子供たちを純粋に楽しませるプログラムから、発表会に向けて真剣に継続して努力をさせるプログラムまで、様々な角度から子供たちの可能性を広げる場となっている。

その他

【学習支援・パソコン教室】

元IT指導員が指導者となり、学年別・教科別にそろえられている学習ソフトを利用して、パソコン教室で学習支援を行っている。

【学習支援】

H26年度学校支援地域本部事業で立ち上げた宿題センターをH27年度からは宿題教室として、放課後子ども教室へ移行し実施している。それぞれの宿題プリントやノートを持ち寄りながら、わからないところを指導者に聞いている。また、宿題教室の出欠状況やプリント・ノートの実施状況を各クラス担任へも報告し、教室と学校との連携も図っている。

【企業・NPOとの連携】

H27年度は、製麺協同組合の出前講座を利用し、夏休みの体験活動として実施している。また、毎年実施している放課後子ども教室・児童センター・放課後児童クラブ（学童）との合同プログラム「餅つき大会」では、子育てNPO団体「きぼうの森ネットワーク」とも連携している。



理科室を利用した学習支援



学校のパソコン教室で勉強もさくさく

地域の子供は地域で育てる、学び育てる「地域の力」

沖縄県南城市

活動名

南城市玉城地区学校支援地域本部（ミントウンの会）

関係する学校

船越小学校・玉城小学校・百名小学校・玉城中学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター	子供の平和参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	2人	169人	20年度	有	有	無	無
	放課後子供教室	コーディネーター	子供の平和参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	コミュニティスクール	実施場所			開始年度	放課後児童クラブとの連携		
		指 定 日			委員数	児童生徒数	学級数	

活動の概要・経緯
 学校からの要請を受け、学習支援・平和学習・地域学習・自然学習の他、登下校の見守りや学校の環境整備(花壇、学校農園)等の支援をコーディネーター(事務局)が学校との連携を図り、地域が学校を支援する。
 退職教員を中心に10年以上の学校支援ボランティア活動の歴史があり、年々学校支援ボランティアの数も増え、保護者や元大学教授、他市町村からのボランティア等、多方面からの支援もあり、充実した支援体制となっている。

特 徴

【特徴的な活動内容】

小学校での読み聞かせ、採点補助、クラブ活動支援のほか、6月の慰霊の日にむけた平和学習支援(戦争体験者の講話)や、学校の環境整備(花壇や学校農園)から、児童の登下校の見守りなど、学校からの要望に合わせ、多様な学校支援を行っている。また、地域の様々な団体と連携・協力し、児童に地域の伝統行事の発祥を伝え、伝統と文化の体験活動も行う。

中学校では、高校受験を控える3年生を対象に、担任の先生方も連携をとりながら、放課後の学習支援を行っている。

平成27年度からの試みでは、夏休みに5日間のサマースクールを開催し、習熟度に分けて中学1年生全員を対象に学習支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

教員、児童・生徒、保護者からの意見を基に、学習支援後にボランティア同士の反省会等を行い、支援内容をより充実させる工夫に取り組んでいる。その結果、児童・生徒の学力の向上が見られた。また、学校支援に参加したボランティアが、無理なく、できることを、できるときに、できることから始められるようアンケート調査を行い、地域で学校を支援できるよう取り組んでいる。

事業を実施して

本事業を実施して、学校からの学校支援の依頼は年々増えており、学習支援活動のみならず、地域学習、キャリア教育、平和学習や学校農園の整備等、多岐にわたっている。

学習支援では、少人数でゆとりをもった支援を行い、児童・生徒からの「もっとやりたい」「できるようになった」などの声があり、できる喜びや自信を与えることができるとともに、学校支援を行うボランティアは、児童・生徒と接することで元気をもらい、喜びを感じるようになった。また、児童・生徒への声かけがしやすくなり、あいさつが増え、地域と学校の信頼関係が更に強くなった。

その他

その他、学校の要望に合わせた支援活動を行っている。



中学校での学習支援の様子 夏休みサマースクール



小学校での放課後学習支援の様子

沖縄県うるま市

活動名

平敷屋小学校地域本部

関係する学校

平敷屋小学校

活動区分		※ H26 年度の実績（補助の有無については H27 年度の状況）						
基本データ	土曜日の教育活動	コーディネーター数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
	学校支援地域本部	コーディネーター数	ボランティア登録数	開始年度	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携
放課後子供教室	コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	国庫補助	学習支援	ICT活用	企業・NPOとの連携	
	実施場所					開始年度	放課後児童クラブとの連携	
コミュニティスクール	指 定 日					委員数	児童生徒数	学級数

平成24年度より事業をスタートし、平成25年度には学校支援地域本部事業地域連携会「あけぼの会」が発足、以来様々な分野で地域人材の活用を行っている。

地域人材活用

- ・うるま市指定無形文化財である「平敷屋エイサー」のエイサー保存会メンバーによるエイサーの歴史と踊りの指導
 - ・地域の戦争体験者数名を招へいしての平和学習
 - ・「平敷屋朝敏をしのぶ会」による地域の偉人、平敷屋朝敏についての講話
 - ・漁業組合と連携してのタマン稚魚放流、モズク漁
 - ・ちようちよう愛好会の指導によるオオゴマダラの育成
 - ・企業や地域が協力した地域探検学習
 - ・地域ボランティアと協力しての稲作体験
 - ・駐在所警察官による駐在所の仕事についての授業
- その他総合学習講師や交通安全指導、学習支援、環境整備など多岐にわたる。

活動の概要・経緯

特 徴

【特徴的な活動内容】

一区一校である平敷屋小学校。体験活動、学習支援、講話など、年間を通して多くの地域人材が学校支援を行っている。全ての人材活用はその地域の方であり、喜んでボランティアとして参加する。

特に地域伝統である平敷屋エイサーを地域のエイサー保存会が指導しており、地域伝統芸能の保存・継承にもつながっている。

【実施に当たっての工夫】

実施に当たっては事前に地域コーディネーター、学校地域人材担当、両方が地域人材と綿密に打合せを行う。

地域連携会「あけぼの会」が組織されており、教職員の他、地域団体の長やPTA、民生員、児童センター、保育園、幼稚園関係者等で構成している。年3回程度の会合がもたれ、学校が支援を求めるなど、学校と地域の情報交換の場となっている。また希望する保護者は自由に参加することができる。

事業を実施して

児童が全ての教育活動に意欲的に取り組むようになったことと、地域行事に積極的に参加し、地域の人たちとも関わるようになった。一区一校であるため、地域の人々は、我が学校として学校教育に積極的に関わっている。また、地域コーディネーターの支えも大きい。

その他

◆企業・NPOとの連携詳細

・総合学習におけるキャリア教育指導（一般社団法人ジョブリッジ研究所）

◆学習支援の詳細

- ・国語：理解が遅い児童への声かけや丸つけ及び学習規律の支援【4名】
- ・算数：理解が遅い児童への声かけや丸つけ及び学習規律の支援【4名】
- ・社会：地域探検や地域産業、地域行事説明【5名】
- ・理科：オオゴマダラ、食草の提供及び助言【2名】
- ・総合：平和学習の講師【1名】
- ・体育：表現・リズムエイサー指導【8名】
- ・クラブ：しまくとぅばクラブ、三線クラブ指導【2名】



エイサー指導講師



平敷屋朝敏についての講話

参

考

资

料

優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰要項

平成23年3月2日
文部科学大臣決定
平成26年7月3日一部改正

1 趣 旨

この要項は、未来を担う子供たちを健やかに育むために、学校、家庭、地域が連携協力し、社会全体の教育力の向上に向けた取組の一層の推進を図ることを目的に、地域全体で学校や子供たちの教育活動を支援する活動（以下「地域による学校支援活動」という。）のうち、その内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣が行う表彰に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 表彰の対象

表彰は、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校で行われる「土曜日の教育活動」、「学校支援地域本部」及び「放課後子供教室」、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」での教育方針に基づいた「地域による学校支援活動」等のうち、その内容が他の活動と比べて特に優れ、他の模範と認められるものに対して行うものとする。

なお、PTA活動として行われる学校支援活動については、別に定めるところにより表彰を行うものとし、本要項の対象とはしない。

〔表彰対象の基準〕

組織、運営及び活動について、概ね以下に掲げる内容の活動であること。

(1) 組織、運営

- ア 地域の実情に応じた組織により、幅広い関係者の参画を得て、効果的な運営が行われていること。
- イ 連携する学校側の意見を十分に反映して運営が行われており、学校関係者との連携協力が円滑に行われていること。

(2) 活動

- ア 地域のコーディネーターの調整のもと、学習支援、土曜日や放課後等の活動を含む学校外活動、学校環境整備、子供の安全確保など、「地域による学校支援活動」が活発に、かつ継続的に行われていること。
- イ 多くの地域住民等がボランティアとして参加し、地域の実情に応じた創意工夫のある活動を展開するなどにより、当該地域の教育環境の改善・充実に効果を上げていること。
- ウ 学校以外の地域の各種機関・団体とも幅広く連携協力し、活動が行われていること。

3 推薦の方法

(1) 推薦依頼

文部科学省は、都道府県、指定都市、中核市（以下「都道府県等」という。）に対し、上記2を満たす活動のうち、表彰するにふさわしいと判断するものについての推薦依頼を行うものとする。

(2) 都道府県等における推薦方法

都道府県等は次に定めるところにより、被表彰対象候補として、上記2に該当する「地域による学校支援活動」を、文部科学大臣に推薦することができる。

なお、推薦に当たっては、〈別紙〉優れた「地域による学校支援活動」推薦書に推薦の理由等を記載し、文部科学大臣に提出するものとする。

〔都道府県等による推薦数〕

都道府県等においては、選考の上、上記2の表彰対象の基準を満たす域内に存在する「地域による学校支援活動」のうち、都道府県については3件以内（ただし、特別区を含む東京都に当たっては2件以内の推薦分をこれに加えることができる。）、指定都市については2件以内、中核市については1件を、それぞれの被表彰対象候補として推薦することができる。

なお、選考に当たっては、都道府県等に関係者からなる選考委員会を設け、その議を経るとともに、複数推薦する場合は、推薦順位を決定し、推薦書に明記した上で提出するものとする。

(3) 文部科学省における推薦

上記(2)による都道府県等からの推薦のほか、文部科学省は、表彰するにふさわしいと判断する「地域による学校支援活動」を、被表彰対象候補として審査の対象に加えることができる。

4 被表彰対象活動の審査及び決定

文部科学大臣は、上記3により推薦された「地域による学校支援活動」について、学識経験者等の意見を聞いて審査を行い、被表彰対象活動を決定する。

5 受賞歴について

当該表彰の受賞は1回限りとする。ただし、他の表彰等の受賞歴は問わない。

6 表彰の期日等

文部科学省において別に定める。

7 表彰の取り消し

次に該当する場合は、表彰を取り消すことができる。

- (1) 被表彰対象活動に関する推薦書に不実な記載があると判明したとき。
- (2) 被表彰対象活動において、本表彰の趣旨を損なう行為があったとき。

8 本表彰にかかる事務

本表彰にかかる事務については、文部科学省初等中等教育局参事官付（学校運営支援担当）の協力を得て、文部科学省生涯学習政策局社会教育課において処理する。

附 則

- 1 この決定は、平成23年3月2日から実施し、平成23年度の表彰から適用する。
- 2 放課後子ども教室推進表彰要項（平成20年11月11日生涯学習政策局長決定）は、本要項の決定をもって廃止する。

参考資料

中央教育審議会への諮問

「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について」

教育再生実行会議第6次提言 (H27.3)

- コミュニティ・スクールの未導入地域における取組の拡充や、学校支援地域本部等との一体的な推進（制度面の改善、財政面の措置）
- 地域と相互に連携・協働した活動を展開するための抜本的な方策
- コミュニティ・スクールの仕組みの必置についての検討推進
- 学校と地域をつなぐコーディネーターの配置
- 学校を核とした地域づくり(スクール・コミュニティ)への発展 など

コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議 (H26.6より開催 H27.3最終報告)

- コミュニティ・スクールと学校支援地域本部や学校関係者評価との一体的推進
- 学校評議員制度をはじめ、類似の仕組みからコミュニティ・スクールへの移行の促進
- 中学校区内の小・中学校における一体的な学校運営協議会の取組の促進
- 全国展開を図るための普及・啓発 など

中央教育審議会に諮問して審議 (H27. 4)

- 新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方について審議
- 初等中等教育分科会に置く作業部会(新設)及び生涯学習分科会に置く部会(新設)において審議
- <検討事項>
 - 新しい時代の教育や地方創生を実現するために求められる今後のコミュニティ・スクールの在り方や、それを踏まえた総合的な推進方策等について
 - ・今後のコミュニティ・スクールの在り方の検討
 - 校長のリーダーシップの観点、学校支援地域本部や学校評価等の関連の仕組みとの一体的な推進の観点、小中一貫教育等の学校間連携を推進する観点 など
 - ・全ての学校のコミュニティ・スクール化に係る総合的な方策の検討(コミュニティ・スクールの仕組みの必置の検討)
 - 学校や地域の状況、市町村や学校の規模との関係、幼稚園、高等学校、特別支援学校におけるコミュニティ・スクールの在り方、小規模自治体における教育委員会と学校運営協議会との関係の取扱い など
 - 学校と地域がパートナーとなり、連携・協働体制を築くための地域人材の養成と環境整備について
 - ・新たな学校支援の役割、地域の教育資源を効果的に結びつける学校支援地域本部等の仕組みの在り方
 - ・学校と地域をつなぐコーディネーター等の人材の配置の在り方や、養成・研修・確保方策等
 - ・学校と地域の連携・協働による教育活動を通じた人的ネットワークの構築や、地域住民の学びの機会の充実方策、それらを主体とした地域の振興・再生方策 など

新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方や今後の推進方策について(中教審答申)の概要

(H27.12.21)

背景

- 地域の教育力の低下や家庭教育の充実の必要性が指摘されており、**地域の教育力の充実**が必要
- 学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教職員のみならず**社会総掛かりで対応**する必要
- これからの厳しい時代を生き抜く力の育成、地域から信頼される学校づくり、社会的な教育基盤構築等の観点から、**学校と地域がパートナーとして連携・協働**するための組織的・継続的な仕組みが必要

主な課題

【コミュニティ・スクール】

- 現在2,389校(約6%)にとどまっており、**更なる推進の加速**が必要
- 元々、学校のガバナンス強化を目的に導入された制度であるが、**学校を応援する存在**とする必要
- 学校運営の責任者である**校長のリーダーシップ**をより一層発揮させる必要
- 教職員の任用に関する意見によって、人事が混乱するのではとの**懸念を払拭**する必要

【地域における学校との協働体制】

- 子供を育て、地域を創るため**地域の教育力を向上し、持続可能な地域社会**を創ることが必要
- 地域と学校が連携・協働して、地域全体で子供たちの成長を支える活動の**全国的な推進**が必要
- 従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動を**総合化・ネットワーク化**することが必要
- 地域住民や学校との連絡調整等を担う**コーディネート機能の強化**が必要

【両者の一体的推進】

- 両者の体制が、相互に補完し高め合う存在として、**両輪となって相乗効果を発揮**していくことが必要
- 学校や地域の実情、両者の有機的な接続の観点等を踏まえた体制の構築が重要

今後のコミュニティ・スクールの在り方について(中教審答申のポイント)

教育再生実行会議第6次提言(平成27年3月)

コミュニティ・スクールの仕組みの必置の検討

中央教育審議会答申(平成27年12月)

以下の制度面・運用面の改善とあわせ、教育委員会に学校運営協議会の**設置の努力義務**を課すといった総合的な方策により、コミュニティ・スクールを推進することを提言。

制度面の改善	現状	提言内容(見直しの方向性)
① 学校を応援する役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に関して協議し、意見を述べる役割のみ規定。 委員は、地域住民や保護者一般が規定されているのみ。 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会の役割として、学校運営に加えて学校支援の企画・立案を行える仕組みに。 学校支援活動に携わる者(地域コーディネーター等)の委員としての参画を促進。
② 校長のリーダーシップ発揮	<ul style="list-style-type: none"> 委員は教育委員会の任命とされ、校長の関与は特段規定なし。 	<ul style="list-style-type: none"> 委員の任命に当たり、校長が意見申出を行えることとし、校長がリーダーシップを発揮できる仕組みに。
③ 任用に関する意見の柔軟化	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の任用に関する意見を任命権者に申し出ることができる他、特段の規律なし。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクール導入の積極的な検討を促す観点から、柔軟な運用(※)を確保。 (※)柔軟な運用例：個人を特定しない形で意見に限定(「部活動経験が豊富な教員を配置して欲しい」等)
④ 複数校設置を可能に	<ul style="list-style-type: none"> 学校ごとに協議会を設置することとされ、複数校の協議会の委員の併任等で対応。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育等の学校間の円滑な接続を図る観点から、複数校について一の協議会設置を可能とする仕組みに。

(※) この他、コミュニティ・スクールの導入に伴う体制面・財政面での負担を軽減するための方策等について提言。

今後の地域における学校との協働体制の在り方について(中教審答申のポイント)

教育再生実行会議第6次提言(平成27年3月)

地域と相互に連携・協働した活動を展開するための抜本的な方策の推進が必要

中央教育審議会答申(平成27年12月)

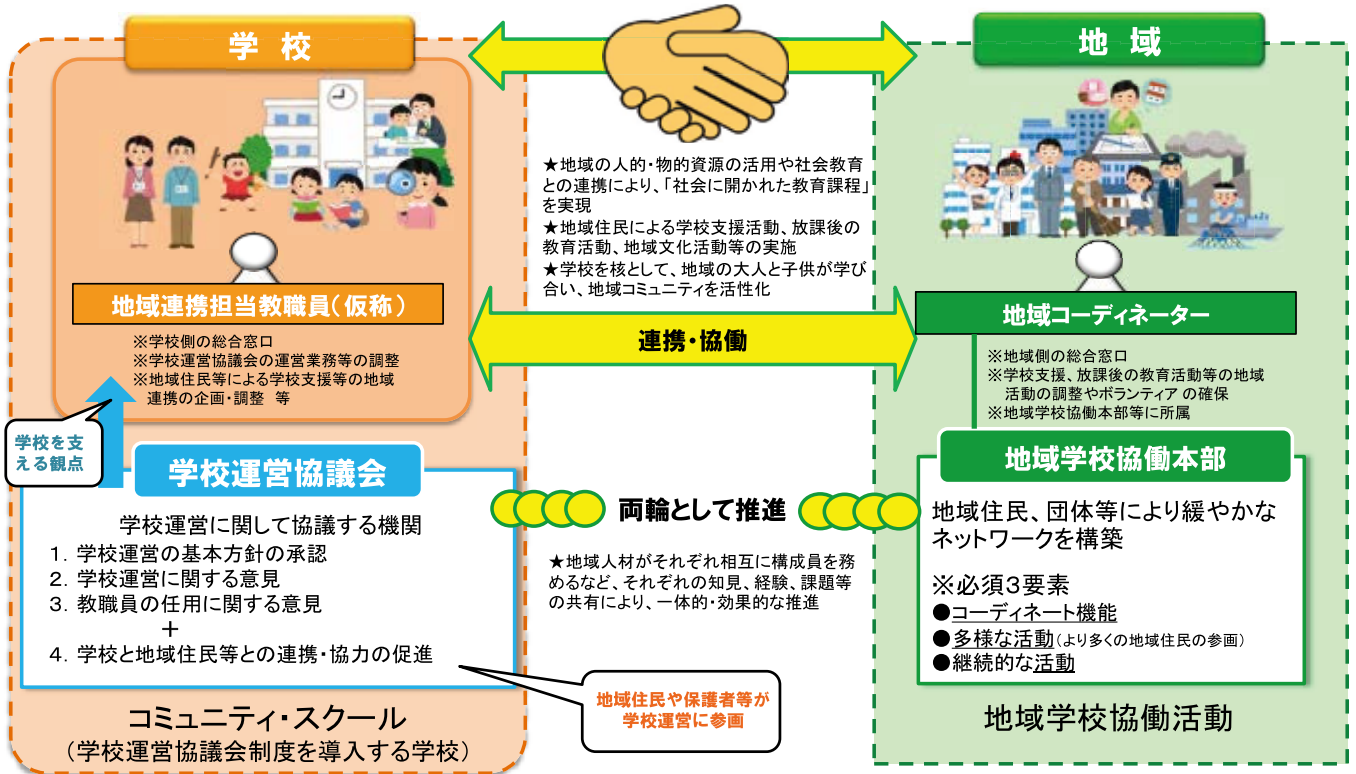
従来の学校支援地域本部、放課後子供教室等の活動を基盤に、「**地域学校協働本部**」を全ての地域に整備し、地域全体で学び合い未来を担う子供たちの成長を支える活動(**地域学校協働活動**)を推進する。

体制の改善	現状・課題	提言内容
① 「地域学校協働活動」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 少子高齢化、地域の教育力の低下、学校が抱える課題は複雑化・困難化に対応し、社会総掛かりでの教育の実現を図る必要がある。 これまでの学校支援地域本部や放課後子供教室等の取組を通じ、学校と地域との関係構築につながるなど、一定の成果は評価。 一方、学校支援活動や放課後子供教室、土曜日の教育活動等の活動間の連携が十分でない等の課題あり。 地域住民が学校のパートナーとしてより主体的に参画し、地域と学校との関係を新たな関係(連携・協働)に発展させることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動を「地域学校協働活動」として積極的に推進。 「支援」から「連携・協働」、個別の活動から「総合化・ネットワーク化」を目指す新たな体制としての「地域学校協働本部」を全国的に整備 教育委員会による地域学校協働活動推進のための体制整備について法令上明確化
② コーディネート機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域のコーディネーターの下で、特定の個人に依存するなど持続可能な体制ではない等の課題あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域コーディネーター」(地域住民や学校との連絡調整を実施)及び「統括的なコーディネーター」(複数のコーディネーターとの連携調整等を実施)の配置や機能強化(持続可能な体制の整備、人材の育成・確保、質の向上等)を推進。

(※) この他、地域学校協働活動の推進に向けた財政支援、普及啓発、事例集作成等の方策について提言。

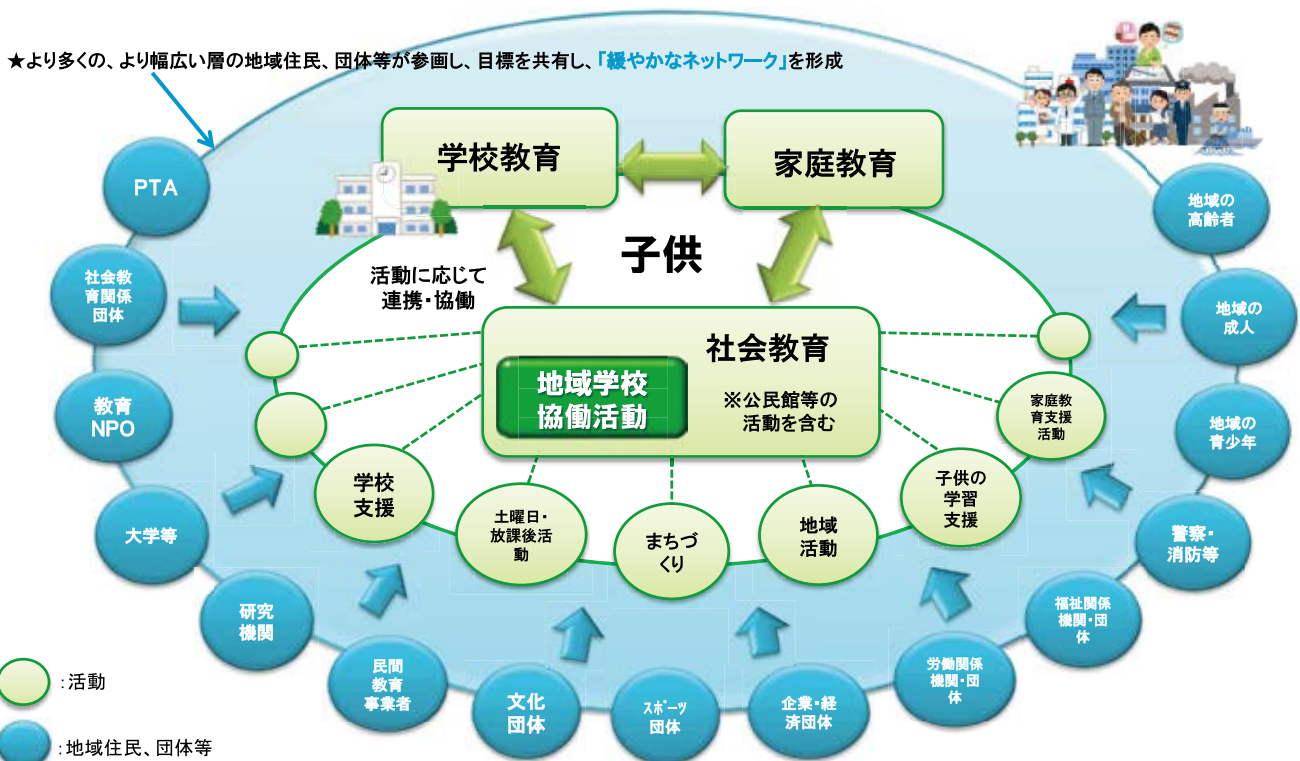
学校と地域の効果的な連携・協働と推進体制（イメージ）

ーパートナーシップの構築による新しい時代の教育、地方創生の実現ー



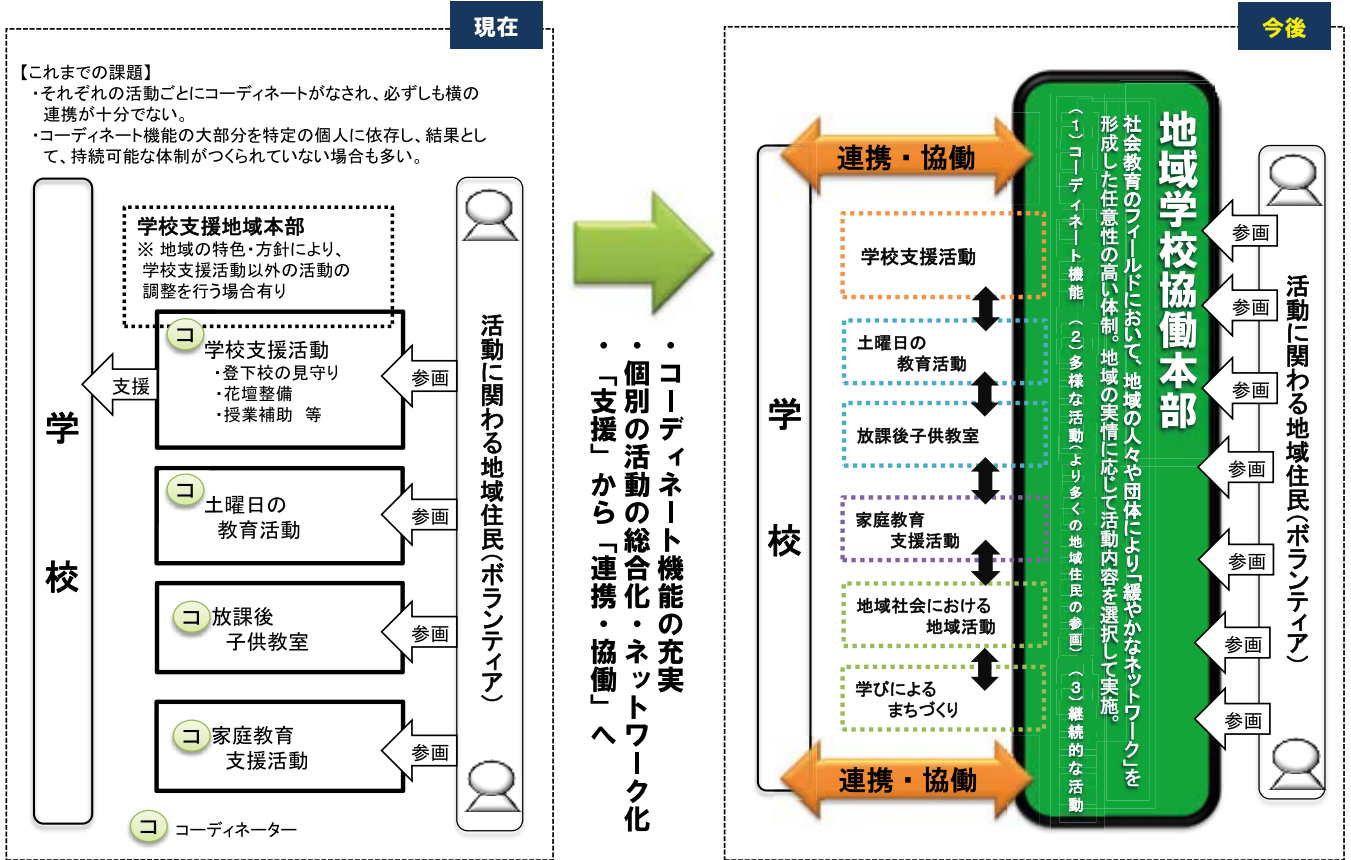
地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実は、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。



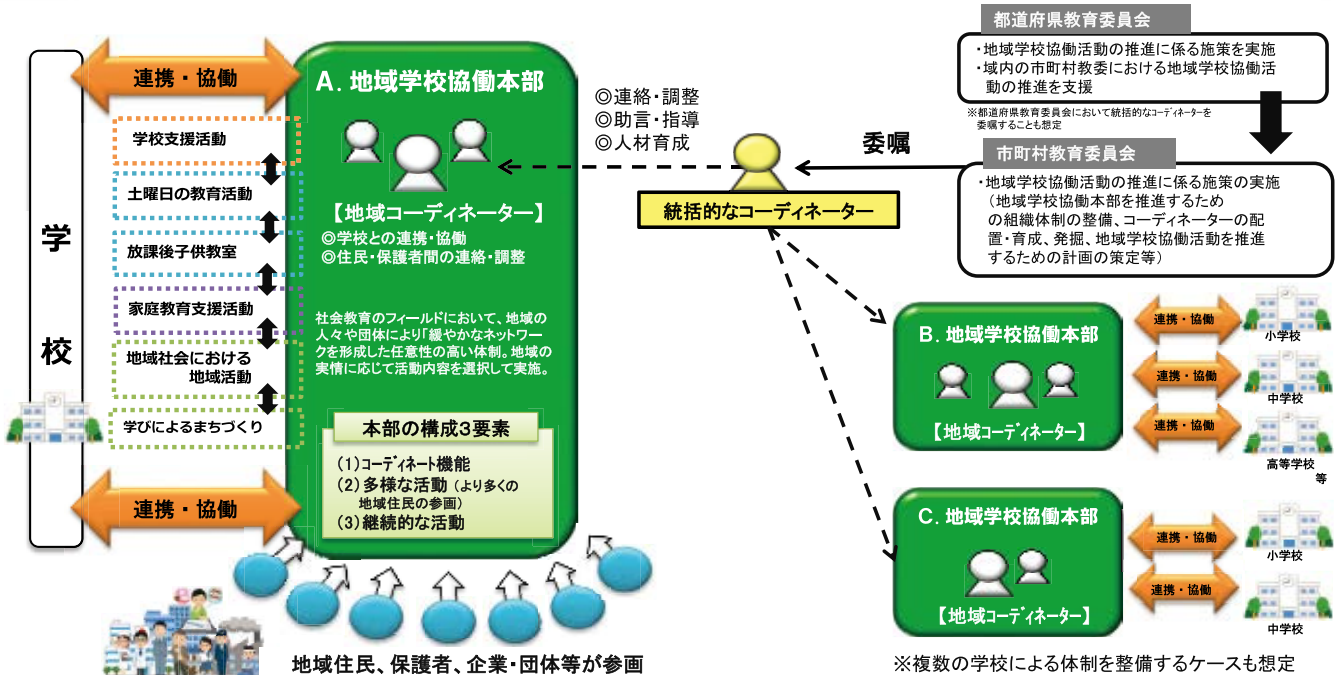
参考資料

今後の地域における学校との協働体制（地域学校協働本部）の在り方 ～目指すべきイメージ～



地域学校協働活動を推進するための体制（イメージ）

- 地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく活動＝「地域学校協働活動」を積極的に推進
 - 従来の個別の活動の充実、総合化・ネットワーク化を図り、「支援」から「連携・協働」を目指す新たな体制として「**地域学校協働本部**」を整備
- 基本的な方向性**
- 学校支援地域本部、放課後子供教室等の機能をベースとして、①コーディネート機能を強化し、②より多くの幅広い層の活動する地域住民の参画を得て活動を多様化し、③継続的な地域学校協働活動を実施する「地域学校協働本部」へと発展
 - それぞれの地域や学校の特色、実情やそれまでの経緯を踏まえ、地域学校協働活動の推進に係る施策を実施
 - 地域学校協働活動の核となるコーディネート機能を強化



参考資料

1. 「次世代の学校・地域」創生プランの目指す方向 一億総活躍社会の実現！ 地方創生の推進！

我が国が抱える主な課題

高齢者人口は増大する一方で生産年齢人口は減少	グローバル化の進展に伴い激しく国際環境は変化
学校の抱える課題は著しく複雑化・多様化	地域社会の支え合いの希薄化、家庭の孤立化

「次世代の学校・地域」の創生を車の両輪として課題を克服！

「次世代の学校・地域」の創生

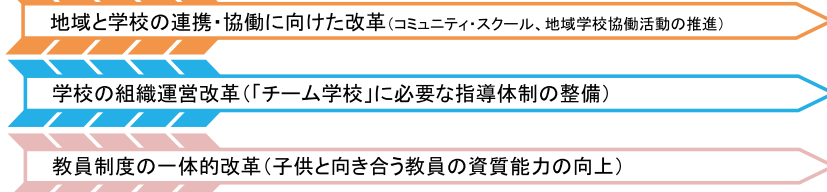
学校	地域
<ul style="list-style-type: none"> □ 「社会に開かれた教育課程」の実現 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 知識・技能とそれを活用する力、他者と協働する力の育成 ➢ アクティブ・ラーニングの視点に立った学びの推進 □ 「次世代の学校」創生に必要な不可欠な指導体制の質・量両面での充実 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教員が生涯を通じて研鑽できる環境づくり ➢ いじめや不登校、発達障害等に教員と心理・福祉等の専門スタッフが連携・分担して対応 □ 「地域とともにある学校」への転換 	<ul style="list-style-type: none"> □ 次代の郷土をつくる人材の育成 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域の資源を学校教育、社会教育に活かす □ 学校を核としたまちづくり <ul style="list-style-type: none"> ➢ 生徒と地域住民が主体的に課題を発見・解決し、地域課題に向き合う □ 地域で家庭を支援し、子育てできる環境づくり <ul style="list-style-type: none"> ➢ 放課後・早朝の子供の居場所、学習・部活動支援 □ 学び合いを通じた社会的包摂 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 若者・大人も子供・地域のためにできることを考え、自己実現

馳プランを策定！

中央教育審議会3答申(平成27年12月21日)の内容の具体化を強力に推進
 ➢ 「次世代の学校・地域」が両輪となった体系的な施策を展開！
 ➢ 文部科学省として今後取り組むべき具体的施策と改革工程表を明示！

2. 「次世代の学校・地域」創生プランの具体的施策

「次世代の学校・地域」の創生に向け
 一体改革として
 <3本の矢>を放つ！



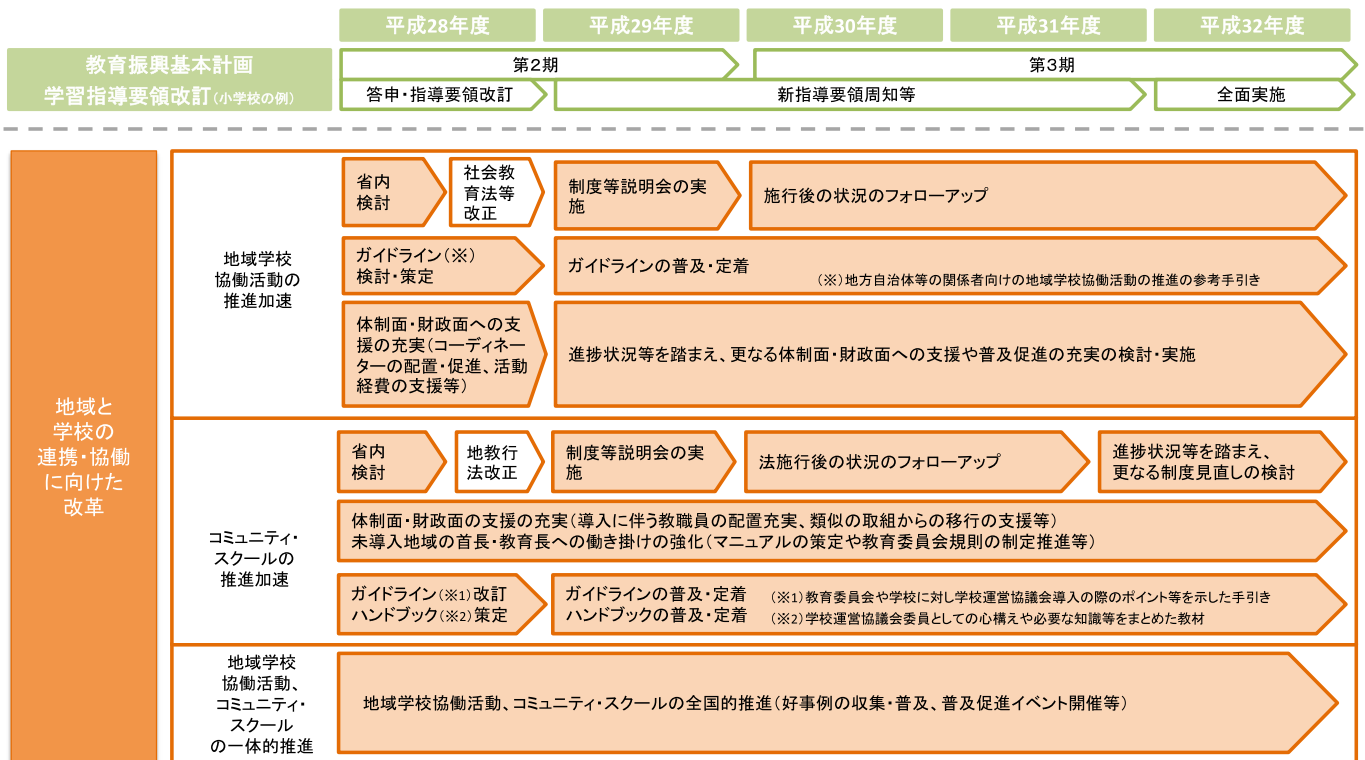
「次世代の学校・地域」の創生に向けた具体的施策

地域と学校の連携・協働に向けた改革	<ul style="list-style-type: none"> □ コミュニティ・スクール(CS)を推進・加速する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 学校運営協議会の設置の努力義務化、教職員の任用に関する意見の柔軟化等(法改正) ➢ CS導入に伴う学校の体制強化、類似の取組からの移行支援等(予算等) ➢ 首長や教育長への働き掛け強化等(マニュアルの策定や教育委員会規則の制定推進等) 	<ul style="list-style-type: none"> □ 地域学校協働活動を地域創生の基盤に！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教委による地域学校協働活動推進のための体制整備(法改正) ➢ 若者から高齢者までが活躍し地域を創生する場として、地域学校協働本部を全小中学校区をカバーして整備 ➢ 郷土学習、地域行事等の地域学校協働活動を支援 ➢ 放課後子供教室・家庭教育支援の充実による子育て環境の整備 ➢ 先進事例の収集・発信、全国フォーラム等の開催(以上、予算等)
学校の組織運営改革	<ul style="list-style-type: none"> □ 教職員の指導体制を充実する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 平成32年度からの指導要領の全面実施を踏まえた指導体制の充実(法改正・予算等) □ 専門性に基づくチーム体制を構築する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ SCやSSW等専門職員の職務の明確化・配置促進(法令改正・予算等) □ 学校のマネジメント機能を強化する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 主幹教諭の配置充実(予算等)、事務体制の強化(法改正・予算等)等 	<ul style="list-style-type: none"> □ 地域が学校のパートナーとして子供の教育に関わる！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域コーディネーターと地域連携担当教職員(仮称)の配置の促進(法令改正・予算等) ➢ 教員が子供と向き合う時間の確保 ➢ 学校施設の有効利用、管理の工夫による地域への学校開放の促進
教員制度の一体的改革	<ul style="list-style-type: none"> □ 大学での養成を充実する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教職科目の大括り化(法改正)、学校インターンシップ制度化(省令改正)等 □ 教員研修を充実する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教員研修計画の整備(法改正)、メンター方式実施(予算等)等 □ キャリアシステムを構築する！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 教員育成協議会の構築、教員育成指標の整備(法改正)等 	<ul style="list-style-type: none"> □ 地域と連携・協働する教員の養成・研修！ <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域との連携・協働を円滑に行うための養成・研修の充実 ➢ 教員を目指す学生の放課後子供教室、土曜学習等への参加の拡大 ➢ 地域課題を題材にしたアクティブ・ラーニングの視点に立った学びやICTを活用した学びの推進

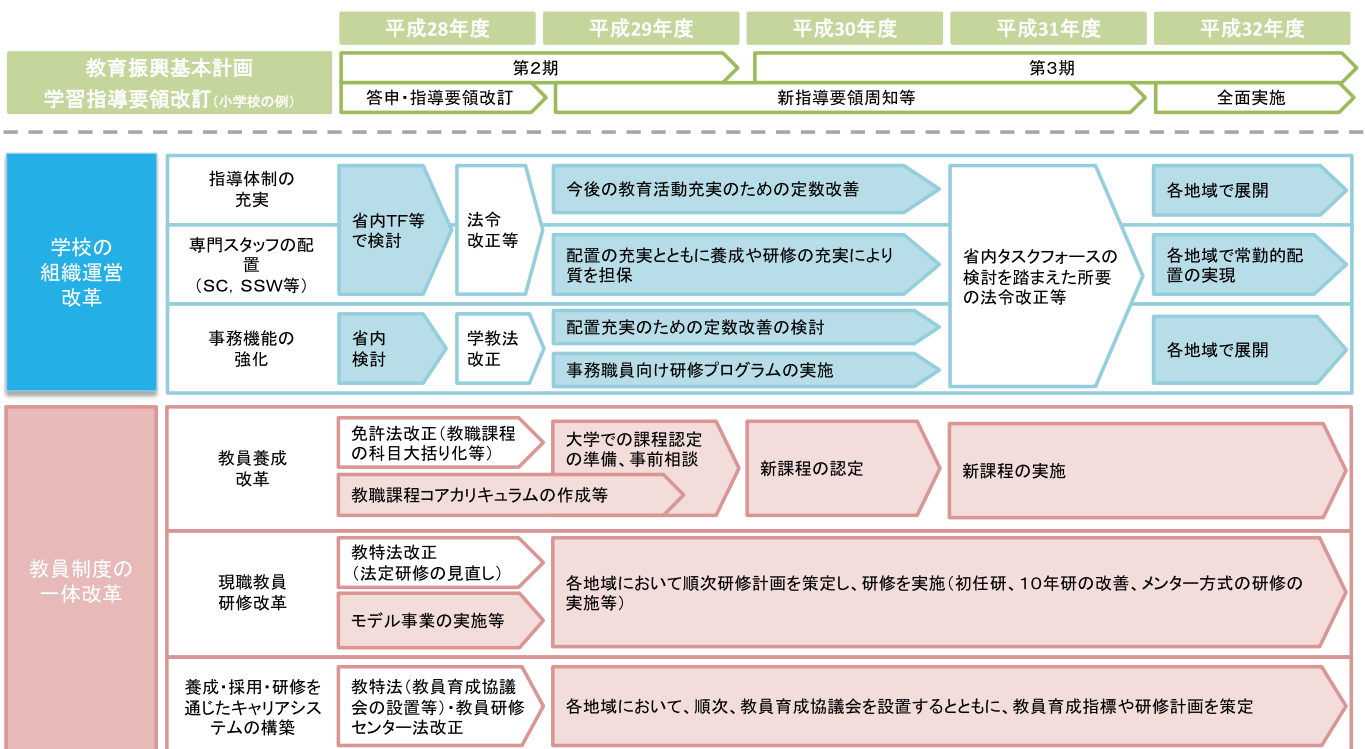
改革工程表に基づき施策を計画的に展開し、「次世代の学校・地域」の創生を着実に実現！

参考資料

3. 「次世代の学校・地域」創生プラン一体改革工程表①



3. 「次世代の学校・地域」創生プラン一体改革工程表②



参考資料

学校を核とした地域力強化プラン

(前年度予算額 6,684百万円)
28年度予算額 6,832百万円

◇地方創生には、地域を生かした豊かな学びの創出により、子供たちの地域への愛着を育み、地域の将来を担う子供たちを育成することが重要。

学校を核として地域住民等の参画や地域の特色を生かした事業を展開することで、まち全体で地域の将来を担う子供たちを育成するとともに、地方創生の実現を図る。



地域力強化プラン

- ◆地域の実情に応じて、柔軟に事業を実施することができるよう、関連施策によるプランを推進。
- ◆学校を核とした地域力強化のための仕組みづくりや地域の活性化に直結する様々な施策等を有機的に組み合わせて推進。

【コミュニティ・スクール導入等促進事業】(160百万円)
未導入地域への支援の拡充や学校支援等の取組との一体的な推進等により、将来の地域を担う人材の育成、学校を核とした地域づくりを推進する。

【学校・家庭・地域の連携協力推進事業】(5,246百万円)
学校と地域を繋ぐ地域コーディネーターが中心となり、学校・家庭・地域が協働で教育に取り組む仕組みづくりを推進し、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える様々な活動を行うことで地域の活性化を図る。

【地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業】(1,221百万円)
地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力により、土曜日ならではの教育活動を行う体制を構築し、学校と地域が連携した取組を支援することなどを通じて、地域の活性化を図る。

【健全育成のための体験活動推進事業】(99百万円)
農山漁村等における体験活動において、地域人材や地域資源を活用することにより、異世代間交流や都市農村交流を図り、地域の活性化につなげる。

【地域を担う人材育成のためのキャリアプランニング推進事業】(12百万円)
地元就職につなげるキャリアプランニングを推進する「キャリアプランニングスーパーバイザー」を配置し、地域を担う人材育成・就労支援を促進することにより、地域の活性化につなげる。

【地域提案型の学校を核とした地域魅力化事業】(11百万円)
学校を核とした地域の魅力を創造する取組として、地域が提案する創意工夫のある独自で多様な取組を支援することにより、独自の地域の活性化を図る。

学校を核とした地域力強化・将来を担う子供たちの育成を通じて、地方創生を実現

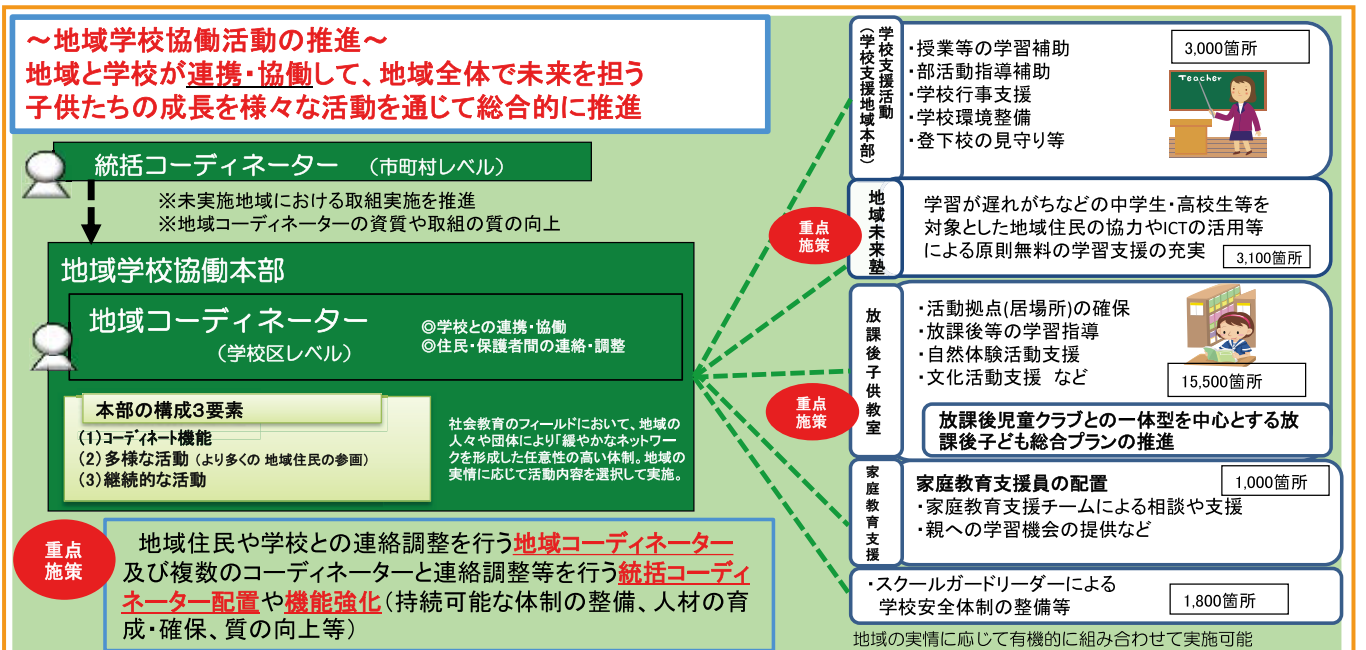
学校・家庭・地域の連携協力推進事業

(平成27年度予算額 5,079百万円)
平成28年度予算額 5,246百万円

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

近年、子供を取り巻く環境が大きく変化しており、未来を担う子供たちを健やかに育むためには、学校、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で教育に取り組む体制づくりを進める必要がある。

そのため、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていく様々な活動を推進するため、地域と学校をつなぐコーディネーターが中心となり、地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得て、学校支援活動(学校支援地域本部)、地域未来塾、放課後子供教室、家庭教育支援、地域ぐるみの学校安全体制の整備、スクールヘルスリーダー派遣などの取組を通じて社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。特に、中学生・高校生等を対象に大学生や教員OBなど地域住民の協力やICTの活用等による原則無料の学習支援(地域未来塾)を充実させる。また、放課後子ども総合プランに基づき、放課後児童クラブと一体型の放課後子供教室を計画的に整備し、厚生労働省と連携した総合的な放課後対策をより一層充実させる。



学校支援活動の実施

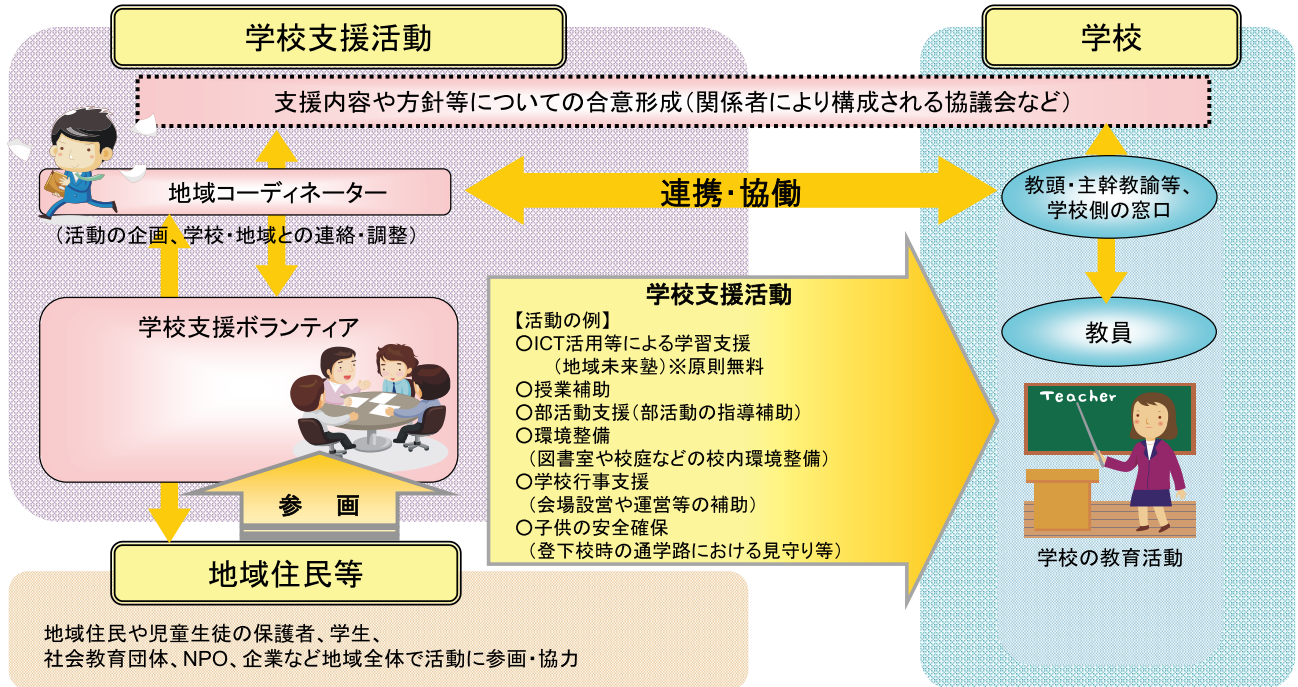
～学校支援地域本部～

(前年度予算額:5,079百万円の内数)
平成28年度予算額:5,246百万円の内数

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

* 学校・家庭・地域の連携協力推進事業の一部で実施

地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働しながら様々な学校支援活動を実施



地域で学校を支援する仕組みづくりを促進し、子供たちの学びを支援するだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながり・絆を強化し、地域の教育力の向上を図る

学習支援が必要な中学生・高校生等を対象とした学習支援 ～地域住民の協力を得た地域未来塾の充実～

(28年度予算額:269百万円)
(前年度予算額207百万円)
※学校・家庭・地域の連携協力推進事業の内数

地域未来塾について

中学生・高校生等を対象に、大学生や教員OBなど地域住民の協力やICTの活用等による学習支援を実施

- ◆ 経済的な理由や家庭の事情により、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない中学生・高校生等への地域と学校の連携・協働による学習支援を実施
- ◆ 教員を志望する大学生などの地域住民、学習塾などの民間教育事業者、NPO等の協力により、多様な視点からの支援が可能



- * 学習支援が必要な中学生・高校生等に対して学習習慣の確立と基礎学力の定着
- * 高等学校等進学率の改善や学力向上



学習機会の提供によって、貧困の負の連鎖を断ち切る

全生徒を対象とした学習支援の事例

【東京都内のある中学校の取組】

<放課後学習支援>

- ・対象は中1～3の希望者
- ・年間約80回(学期中の週2回(2時間程度))
 - * 学校の空き教室を利用、無料
- ・指導員による個別指導と自習
 - * 指導員: 教員志望の講師や大学生など



平成31年度末までの目標数



ICTの活用等により、学習支援を一層促進し、可能な限り早期に目標達成

参考資料

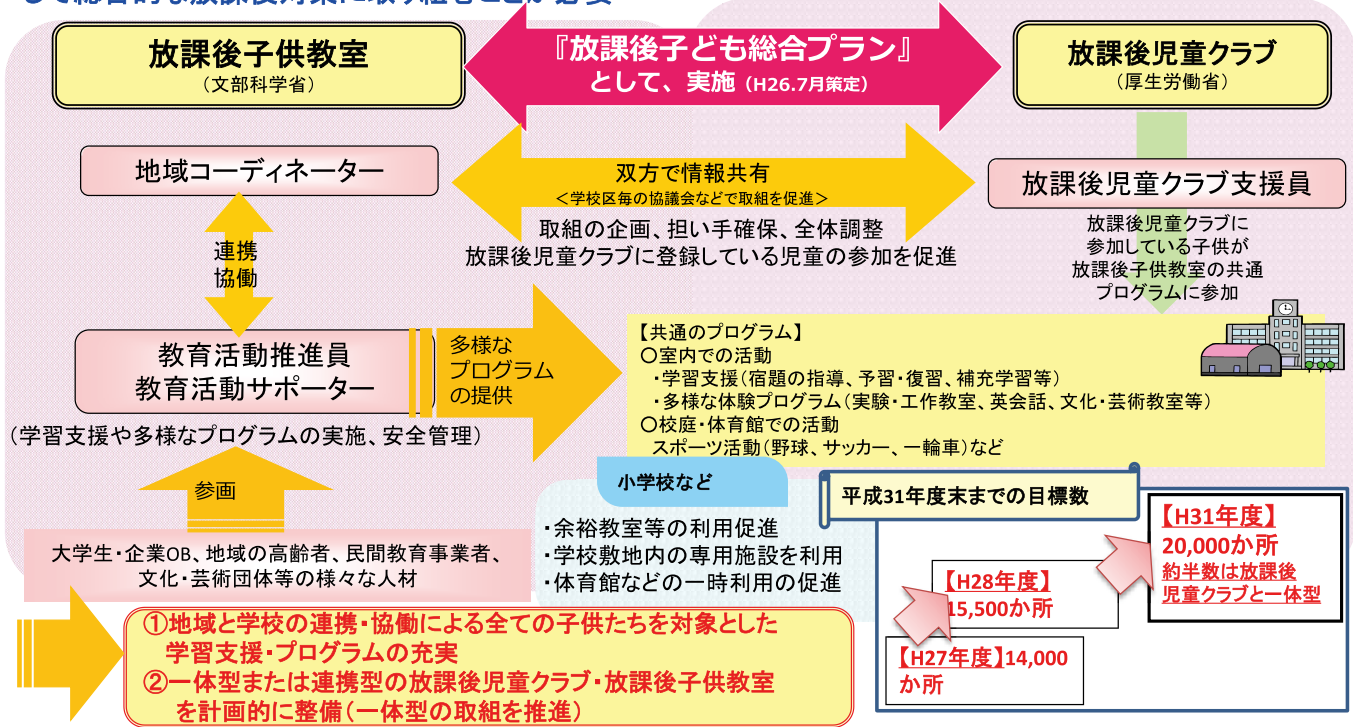
放課後子供教室

～放課後子ども総合プランの推進～

(前年度予算額 5,079百万円の内数)
平成28年度予算額 :5,246百万円の内数
学校・家庭・地域の連携協力推進事業の一部で実施

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

女性の活躍推進のためには、共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後を安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、厚生労働省と連携して総合的な放課後対策に取り組むことが必要



地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業

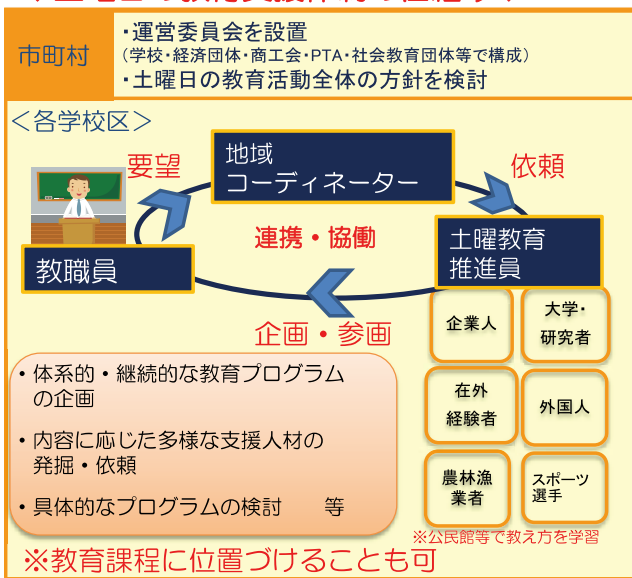
(前年度予算額 1,261百万円)
平成28年度予算額 1,221百万円

全ての子どもたちの土曜日の教育活動を充実するため、地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の協力を得て、土曜日に体系的・継続的な教育プログラムを企画・実施する学校・市町村等の取組を支援することにより、地域と学校の連携・協働による教育支援体制を構築し、地域の活性化を図る(12,000か所)(小学校・中学校・高校など)

【補助率】	
国	1/3
都道府県	1/3
市町村	1/3

◆地域の多様な経験や技能を持つ人材をコーディネートし、土曜日ならではの生きたプログラムを実現！

◆土曜日の教育支援体制の仕組み◆



社会を生き抜く力を培う 土曜日ならではのプログラムの実践

～実践例～

★算数・数学
エンジニアによる
使える算数・数学講座



★理科:
研究者による科学実験教室

★外国語:
在外経験者による英会話



★総合学習
企業等との協働による
キャリア教育・商品開発等

★文化・芸術
文化・芸術活動団体による茶道の作法など伝統文化の良さを理解してもらうための講座

すべての子どもたちの土曜日の教育支援体制等の構築

参考資料

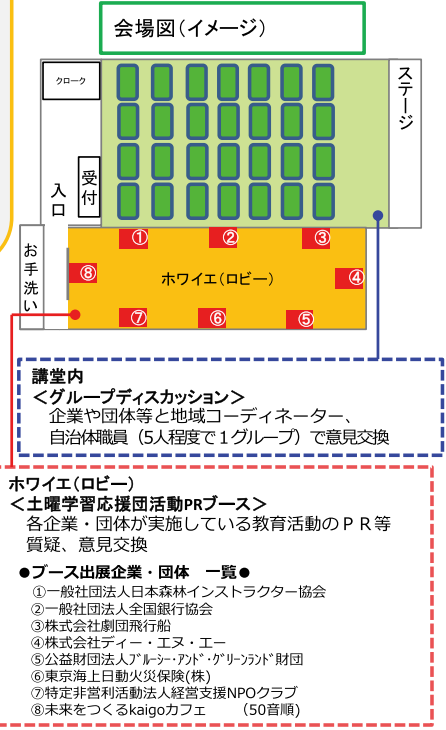
～全国の地域コーディネーター等と「土曜学習応援団」が一堂に会して研修を行った事例～

地域コーディネーター・自治体職員等と「土曜学習応援団」との意見交換会

平成27年12月3日（木）文部科学省講堂にて

概要

地域と企業・団体等との連携を進め、より豊かな土曜日の教育環境を実現していくために、全国の自治体や地域コーディネーター等と「土曜学習応援団」が一堂に会した意見交換会を実施しました。当日は、事例発表の後にグループワークを行い、企業や団体、地域コーディネーター等がそれぞれの立場でこれまでの取組や、実施の上での課題について意見交換しました。またホワイエ（ロビー）では、土曜学習応援団から8つの企業・団体がそれぞれの提供しているプログラムについて説明するブースを設け、地域コーディネーター等に活動のアピールを行いました。文部科学省としては、今回のような出会いをきっかけに地域と企業や団体の連携・協働が一層進むことを期待しており、今後各自治体においても同様な学校やコーディネーター等と企業や団体等の出会いの場が設けられ、より多くの大人の参画による子供たちの豊かな学びの場が生まれるよう働きかけを行ってまいります。



(1) 事例発表



団体及び土曜学習応援団の代表が、それぞれ実施している教育活動事例を発表しました。土曜学習応援団からは、日本証券業協会が学校への出前授業の実施状況や今後の取り組みについて発表しました。

(2) 土曜学習応援団の活動PR・グループディスカッション



活動PRブースでは、土曜学習応援団のうち、活動分野の異なる8つの企業・団体が地域コーディネーター等に向けて、出前授業の事例紹介や実施方法などについて情報提供を行いました。



グループディスカッションでは、「よりよい土曜学習のために」をテーマに、学校や地域、企業等との連携プロセスや情報共有の仕方、メニューを組む上での工夫など、それぞれの立場の意見を共有しました。

（平成27年8月現在）

「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」及び「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」実施状況

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
国庫補助金額	5,166百万円	4,649百万円	4,870百万円	5,071百万円	6,340百万円
学校支援地域本部設置数	2,659本部	3,036本部	3,527本部 〔小学校:5,939校 中学校:2,715校〕	3,746本部 〔小学校:6,244校 中学校:2,814校〕	4,146本部 〔小学校:6,568校 中学校:3,039校〕
放課後子供教室実施数	9,733教室	10,098教室	10,376教室	11,991教室	14,392教室
土曜日の教育活動実施数	—	—	—	4,845校	10,412校
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度／CS）指定校数	789校	1,183校	1,570校	1,919校	2,389校
実施市町村数	本部 570市町村 放課後 1,075市町村 土曜 —市町村 C S 99市町村	本部 576市町村 放課後 1,076市町村 土曜 —市町村 C S 122市町村	本部 619市町村 放課後 1,090市町村 土曜 —市町村 C S 153市町村	本部 628市町村 放課後 1,135市町村 土曜 388市町村 C S 187市町村	本部 642市町村 放課後 1,077市町村 土曜 953市町村 C S 235市町村

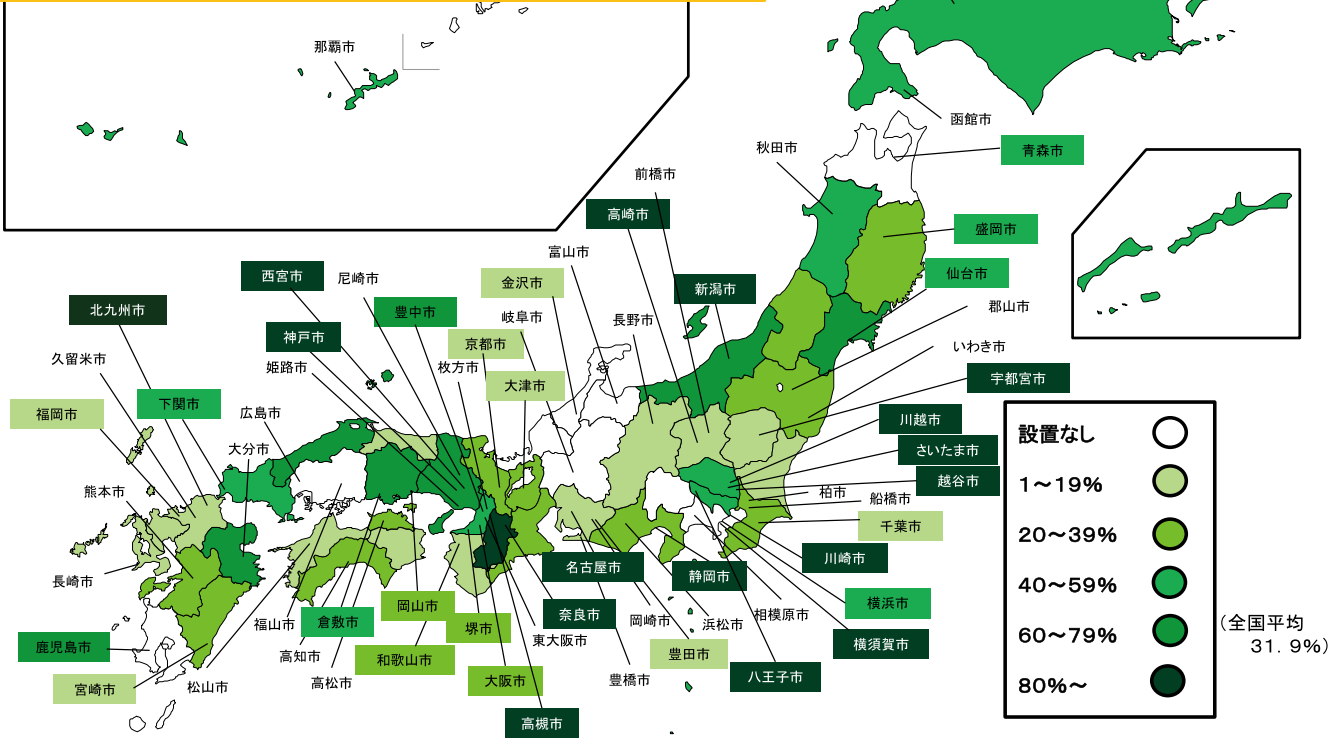
※ 平成24～27年度は、岩手県、宮城県、福島県等の被災自治体は委託事業「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」で実施

参考資料

平成27年度

『学校支援地域本部』の実施状況

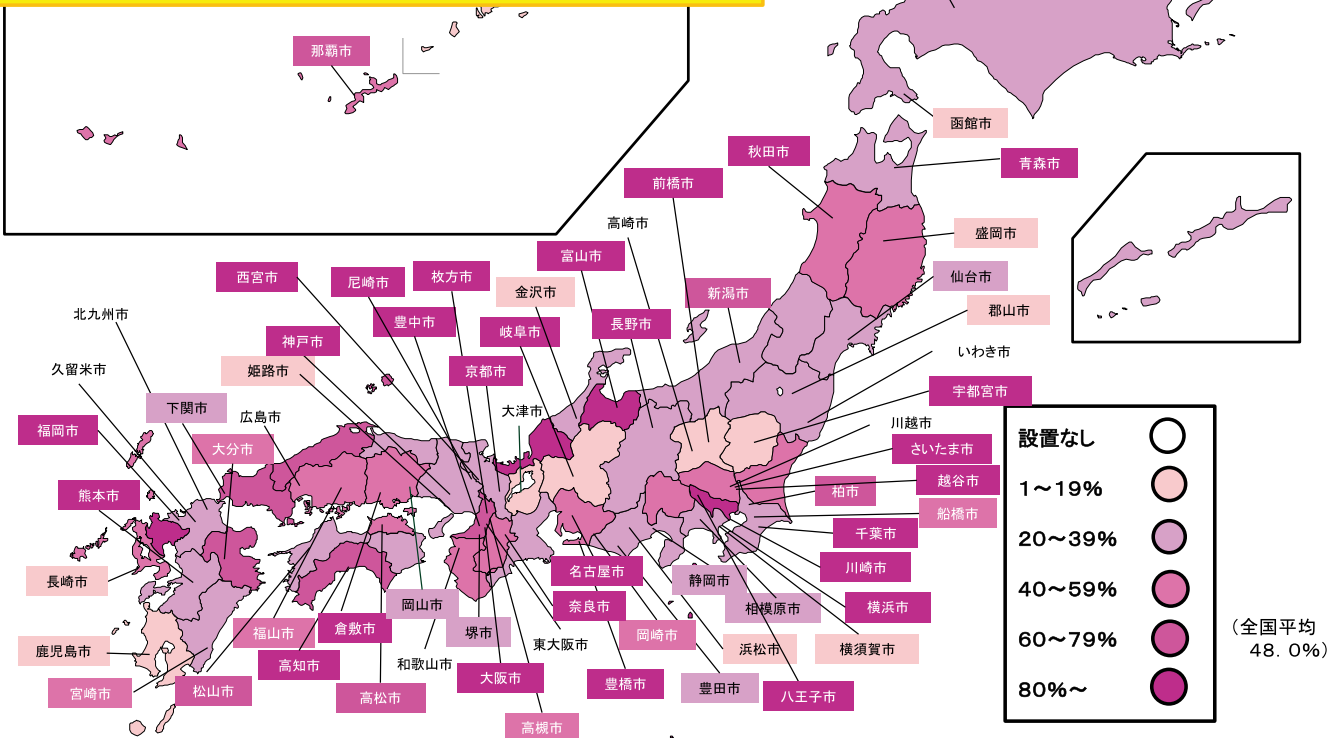
- ※ 公立小中学校における実施
- ※ 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を活用
- ※ 被災3県は「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用



平成27年度

「放課後子供教室」の実施状況

- ※ 公立小学校における実施
- ※ 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を活用
- ※ 被災3県は「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用

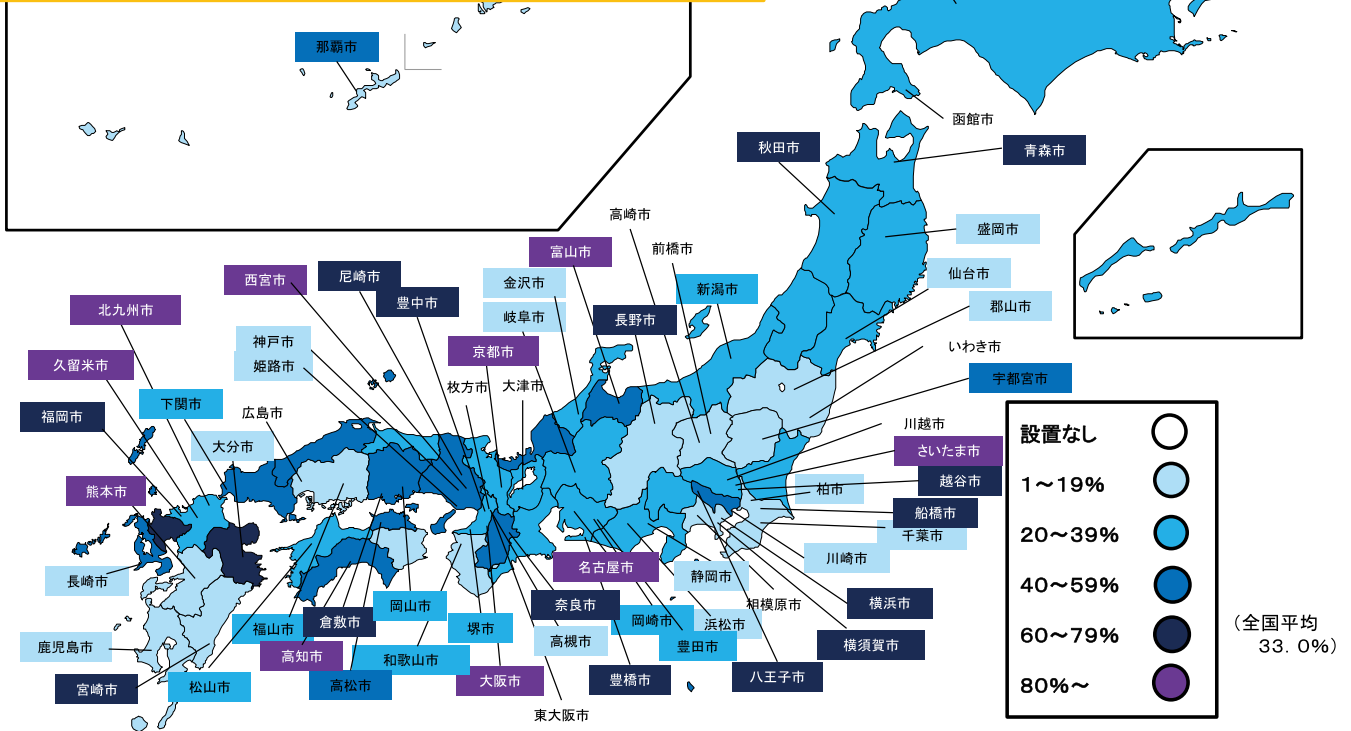


参考資料

平成27年度

『土曜日の教育活動』の実施状況

- ※ 公立小中学校における実施
- ※ 「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」及び「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」を活用



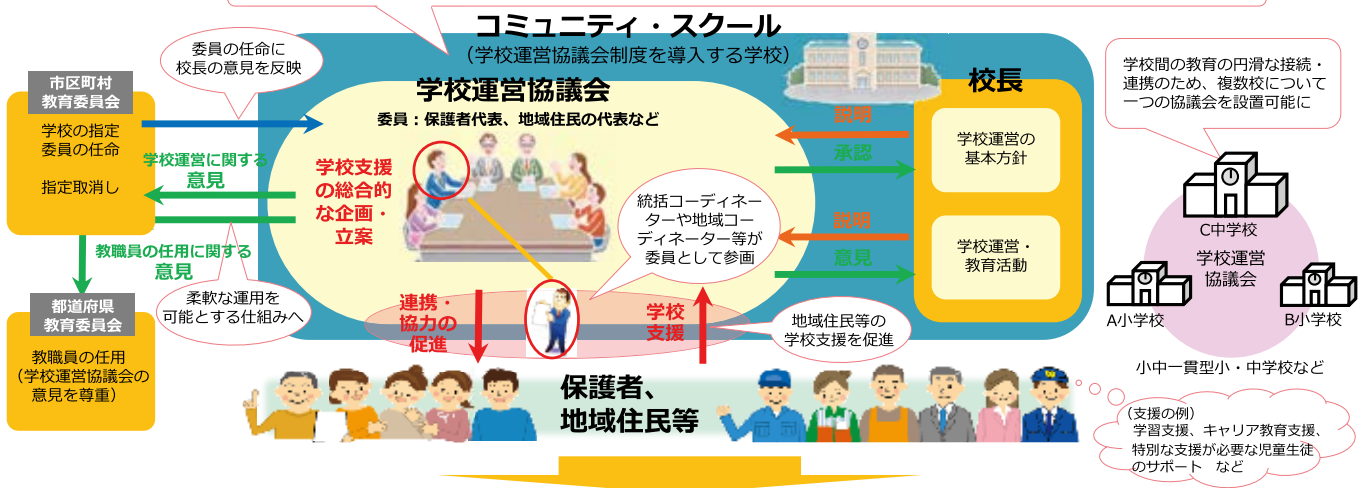
これからのコミュニティ・スクールの仕組みの在り方(イメージ)

- 学校が抱える複雑化・困難化した課題を解決し、子供たちの生きる力を育むためには、地域住民等の参画・協力が必要。
- このため、地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む『**地域とともにある学校**』へと転換。
- **学校における地域との連携・協働体制を組織的・継続的に確立する**観点から、コミュニティ・スクールを一層推進。

基本的な方向性

- 学校運営協議会の目的として、学校を応援し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく役割を明確化
- 現行の機能は引き続き備えることとした上で、教職員の任用に関する意見に関しては、柔軟な運用を確保する仕組みを検討
- 学校運営協議会において、学校支援に関する総合的な企画・立案を行い、学校と地域住民等との連携・協力を促進していく仕組みに
- 校長のリーダーシップ発揮の観点から、学校運営協議会の委員の任命において、校長の意見を反映する仕組みに
- 小中一貫教育など学校間の教育の円滑な接続に資するため、複数校について一つの学校運営協議会を設置できる仕組みに

＜見直しのイメージ＞ 学校運営への地域住民等の参画を促進するとともに、学校を応援し、地域の実情を踏まえた特色ある学校づくりを進めていく役割を明確化

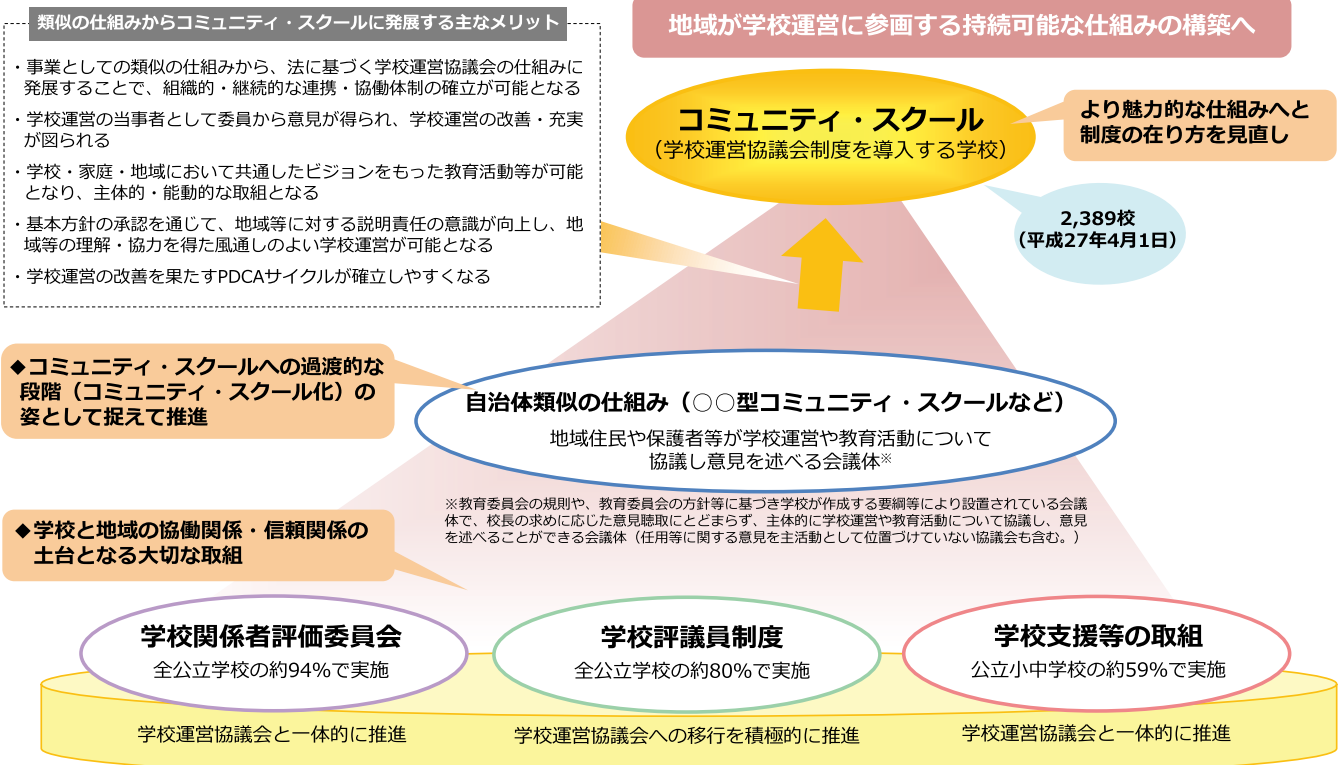


制度的位置付け

■ 全ての公立学校においてコミュニティ・スクールを目指すべきであり、現在任意設置となっている学校運営協議会の制度的位置付けの見直しも含めた方針が必要。その際、基本的には学校又は教育委員会の自発的な意志による設置が望ましいこと等を勘案しつつ、**教育委員会が、積極的にコミュニティ・スクールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討。**

参考資料

コミュニティ・スクールの拡大・充実の姿(イメージ)



学校・教育委員会が主体的に取り組んでいる地域との連携に関する実践を効果的に生かしていく視点が必要
学校・教育委員会が自らコミュニティ・スクールの意義や成果等を理解し、その道を選ぶことが大切

コミュニティ・スクールの推進について

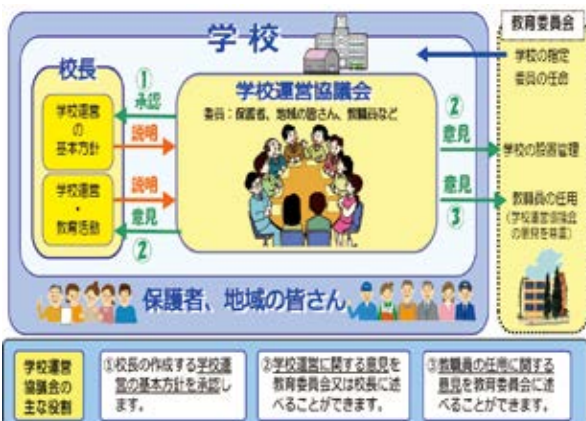
子供や学校の抱える課題の解決、子供たちの豊かな成長のためには、**学校のみで対応するのではなく、学校・家庭・地域が連携・協働し、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠。**

- ⇒多くの地域の人々が学校に関わることで、より豊かな子どもの学びが生まれ「生きる力」が育まれる。
- ⇒教職員、保護者、地域住民等がともに成長し「地域が良くなれば学校が良くなる」という好循環を生み出す。

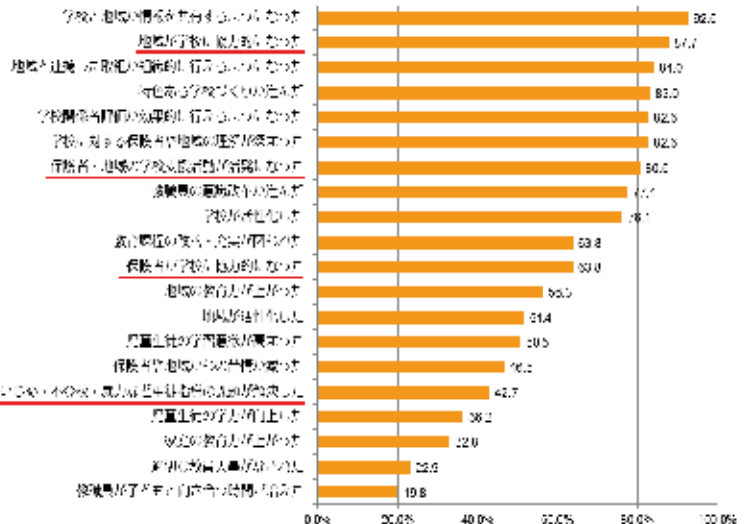
全ての学校が、地域の人々と目標を共有し、地域一体となって子どもたちを育む「**地域とともにある学校**」へ

コミュニティ・スクール

教育委員会の指定により「学校運営協議会」が設置された学校。
教育委員会から任命された保護者や地域住民などが、一定の権限と責任をもって学校運営に参画。

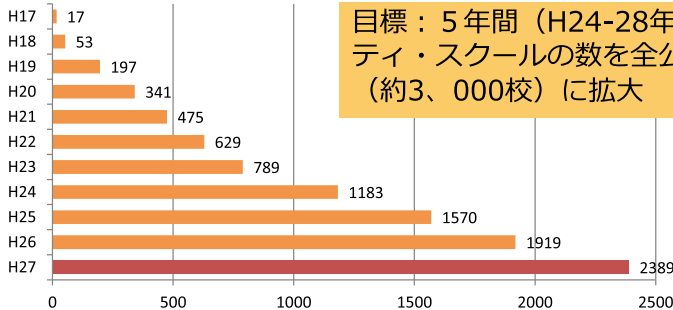


<コミュニティ・スクールに対する成果認識>



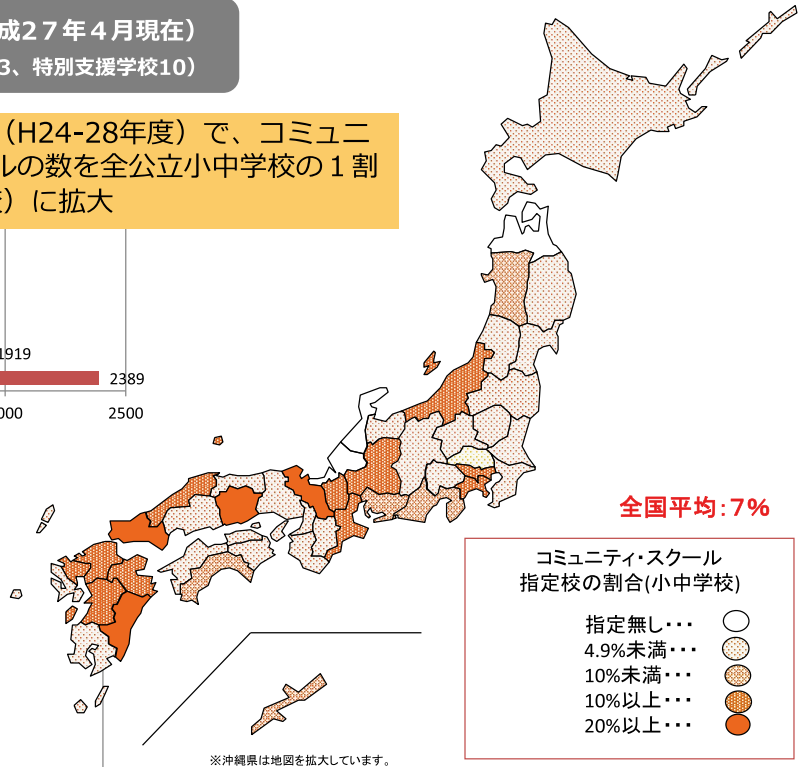
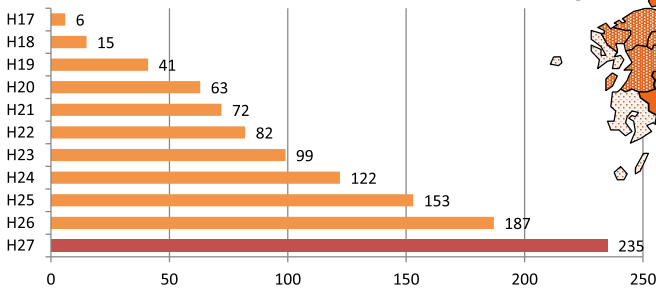
コミュニティ・スクールの指定状況

44都道府県内 2,389校 (平成27年4月現在)
(幼稚園95、小学校1564、中学校707、高等学校13、特別支援学校10)



目標：5年間（H24-28年度）で、コミュニティ・スクールの数を全公立小中学校の1割（約3,000校）に拡大

コミュニティ・スクールの学校設置者数：
5道県235市区町村



※ここでいうコミュニティ・スクールは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5に規定された学校運営協議会が置かれた学校を指す。

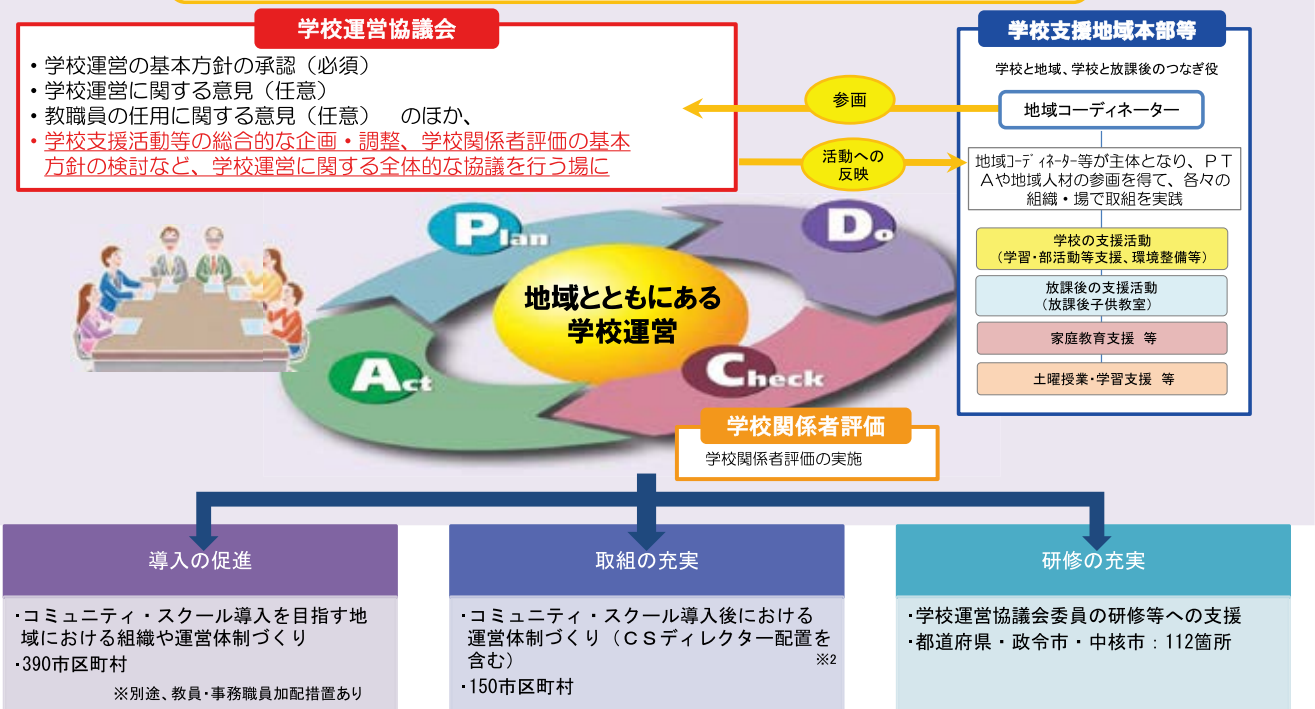
コミュニティ・スクール導入等促進事業

平成28年度予算額 160百万円
平成27年度予算額 157百万円

※学校を核とした地域力強化プランの1メニュー。

補助率: 国 1/3

学校運営協議会の機能と、学校支援や学校関係者評価等の機能を一体的に推進することで、学校運営の改善を果たすPDCAサイクルを確立



※1 補助については、都道府県の判断により、間接補助とすることも可能。その場合、都道府県、市区町村が1/3ずつ負担。

※2 CSディレクター：学校運営協議会の会議運営や、学校運営協議会委員との連絡・調整など、学校運営協議会に関わる業務を行う地域人材。

※3 小中一貫型小・中学校においても、本事業への申請が可能。

土曜学習応援団 特設サイト

お住まいの地域や学習テーマ、企業や団体等の業種などからワンクリックで連携可能な企業・団体の情報や、実施可能な学習プログラムに関する情報にアクセスできます！

HP: <http://doyo2.mext.go.jp/>



文部科学省のHP 学校と地域でつくる学びの未来

HP: <http://manabi-mirai.mext.go.jp>

